

星美学園短期大学

Seibi Gakuen College



Student Handbook

学生要覧・講義要項

2024

Respice Stellam

レスピチェ ステルラム

— 星を仰げ —

星は聖母マリアのシンボルです。

本学では、偉大な教会博士、聖ベルナルドのことば、

「レスピチェ ステルラム」すなわち、聖母マリアを仰ぎ、

その諸徳を模範とすることをモットーとしています。

聡明

善と悪を正しく識別できる聡明さをもつ人に

誠実

言葉や行いがいつも誠実である心の清らかな人に

温和

謙虚で優しく心の温かな人に

星美学園短期大学歌

金子賢之介 作詞
山本直忠 作曲

1.わ かか きき こい こー ろ は えい いち を た ず ね
2.わ かか きき こい こー ろ は えい いち を た ず ね
3.わ かか きき こい こー ろ は えい マ ずり ア の の そ と の の

つよ ぼろ さの のび ごの 一と く た かろ く と びこ う
か お お り を き そ 一と を ば ひ ち け さ の き あ く な

ぎう わく の く も の そ ら か く す と も
し れ い の の あ ちら 一ば し ふ き す あ さ ぶ と と

いい さざ みち し る一 べ わ す れ じ な
い ざ わ が ほ り一 う わ す れ じ な

しゅ んじゅ うの {日そ 一 日ら } かーがーや くーは

ほ しの ひ か りーぞ Res - pi ce stel - lam
レス ピ チェ ステル - ラム

星美学園短期大学歌

- 一、若き心はえいちをたずね
翼の如く高く飛び交う
疑惑の雲の 空隠すとも
いざ道しるべ忘れじな
春秋の日々輝くは 星の光ぞ
レスピチェ ステルラム
- 二、若き命は泉の如く
喜びの環をば拵げ吹きあぐ
憂いの朽葉 ふる日あるとも
いざ我が母校忘れじな
春秋の空輝くは 星の光ぞ
レスピチェ ステルラム
- 三、若きひとみはマリアの園の
香りを競うか八千草の花
試練の嵐 吹きすさぶとも
いざ母マリア忘れじな
春秋のよる輝くは 星の光ぞ
レスピチェ ステルラム

第1章 星美学園短期大学の概要

- 1 沿革 ● 2
- 2 建学の精神・教育理念 ● 3
- 3 国内外のサレジアン・シスターズの姉妹校・児童養護施設 ● 3
- 4 星美学園短期大学学則（2024年度）（抄） ● 4

第2章 履修に関すること

- 1 2024年度 学事暦 ● 24
- 2 履修の手引き ● 25
 - 1 授業科目の構成 ● 25
 - 2 学習のしくみと卒業までの計画 ● 25
 - 3 授業の実施 ● 25
 - 4 科目と単位数 ● 26
 - 5 必修科目と選択必修・選択科目 ● 27
 - 6 単位の修得 ● 27
 - (1) 履修登録 ● 28
 - (2) 授業への参加 ● 32
 - (3) 試験 ● 35
 - 7 学籍 ● 39
 - 8 研究倫理 ● 40
- 3 教育課程と開講科目一覧 ● 41
 - 2024・2023年度入学生用「カリキュラム・マップ」「カリキュラム・ツリー」「科目ナンバリングコード一覧」 ● 42
 - 2022年度入学生用「カリキュラム・マップ」「カリキュラム・ツリー」「科目ナンバリングコード一覧」 ● 48
 - 1 幼児保育学科 ● 60
 - 幼児保育学科1年（2024年度入学生）「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「学習成果」 ● 54
 - 幼児保育学科2年（2023年度入学生）「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「学習成果」 ● 54
 - ・履修パターン ● 56
 - ・履修モデル ● 58
 - ・開講科目一覧 ● 63
 - 2 専攻科幼児保育専攻 ● 69
 - 2024年度専攻科入学生「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「学習成果」 ● 69
 - 2025年度以降専攻科入学生「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「学習成果」 ● 71
 - ・教育課程 ● 72
 - ・開講科目一覧 ● 73

- 4 免許・資格取得のための教育課程 ● 74
 - 1 幼稚園教諭二種免許状の取得 ● 75
 - 2 特別支援学校教諭(知・肢・病)二種免許状の取得 ● 77
 - 3 保育士となる資格の取得 ● 79
 - 4 社会福祉主事任用資格の取得 ● 87
 - 5 ピアヘルパー資格の取得 ● 88
 - 6 准学校心理士資格の取得 ● 89
 - 7 認定ベビーシッター資格の取得 ● 90
 - 8 発達障がい児保育ベーシックプログラムの修了認定資格の取得 ● 91
- 5 長期履修学生制度 ● 92
- 6 科目等履修生・聴講生制度 ● 93

第3章 大学生生活に関すること

- 1 学生生活 ● 96
 - 1 窓口 ● 96
 - 2 大学からの連絡方法 ● 96
 - 3 各種証明書、申請書、届出 ● 97
 - 4 施設・設備の利用 ● 97
 - 5 学生相談 ● 99
 - 6 クラス運営 ● 99
 - 7 サークル活動 ● 99
 - 8 アッセンブリーと大学行事 ● 100
 - 9 学生生活の心得とマナー ● 100
 - 10 健康に関すること ● 101
 - 11 海外渡航に関すること ● 102
 - 12 奨学金 ● 103
 - 13 災害傷害保険 ● 104
- 2 就職／進路 ● 105
- 3 図書館 ● 107
- 4 賞 ● 109
- 5 同窓会 ● 110
- 6 年間行事予定 ● 111
- 7 キャンパスマップ・校舎案内図 ● 117

第4章 講義要項

- 2024年度 講義要項 ● 121

Contents



第1章 星美学園短期大学の概要

1 沿革

星美学園短期大学は、学校法人星美学園により1960(昭和35)年4月1日に設立されました。設立母体は通称サレジアン・シスターズと呼ばれる、カトリック扶助者聖母会です。イタリアのローマに本部があり、1872年にヨハネ・ボスコを創立者、初代総長マリア・ドメニカ・マザレロを共創立者として創立され、世界90余カ国に支部を有する国際的な女子修道会です。海外における学校、社会福祉等の事業は、およそ1,400カ所余に及びます。日本では本学園の他、都内や、静岡、大阪、九州等各地に姉妹校を有し、教育事業や社会福祉事業を通して社会の幸福に寄与しています。

年 譜

1929年 (昭和4年)	イタリアからシスター・レティツィア・ベリアッティら6名の宣教女来日 宮崎市で明星幼稚園を開設
1939年 (昭和14年)	東京三河島に支部を移し、星美学園を創設
1945年 (昭和20年)	太平洋戦争中、東京大空襲によって、星美学園校舎全焼
1946年 (昭和21年)	山梨県山中湖村東大寮の疎開地で星美学園開校
1947年 (昭和22年)	東京赤羽台の旧陸軍赤羽工兵隊跡地を求め、東京星美学園幼稚園、小学校、 中学校、高等学校を設立
1960年 (昭和35年)	星美学園短期大学家政科設立 初代学長 シスター・レティツィア・ベリアッティ 初代副学長 藤井武夫教授
1962年 (昭和37年)	星美学園短期大学 新校舎落成
1963年 (昭和38年)	星美学園短期大学保育科を設立 第二代学長 シスター平手シヅ就任
1967年 (昭和42年)	星美学園短期大学国文科を設立
1969年 (昭和44年)	各科の名称を家政学科、幼児教育学科、国文学科と改称
1980年 (昭和55年)	第二代副学長 シスター平手シゲ就任
1986年 (昭和61年)	星美総合計画により、校舎移転新築 星美学園短期大学創設25周年を記念して、図書館・大講義室を新築
1989年 (平成元年)	第三代学長 シスター牧田トミ就任
1993年 (平成5年)	家政学科を生活文化学科と改称
1993年 (平成5年)	学長代行 島崎通夫就任
1994年 (平成6年)	第四代学長 島崎通夫就任
1997年 (平成9年)	第五代学長 久山宗彦就任
2000年 (平成12年)	国文学科と生活文化学科を統合して人間文化学科を設置 第三代副学長 シスター古川千恵子就任
2001年 (平成13年)	第六代学長 シスター武石聰子就任
2003年 (平成15年)	専攻科幼児教育専攻設置
2004年 (平成16年)	第四代副学長 シスター小島順子就任
2005年 (平成17年)	幼児教育学科を幼児保育学科、専攻科幼児教育専攻を幼児保育専攻と改称
2007年 (平成19年)	第七代学長 阿部健一就任
2009年 (平成21年)	専攻科イタリア語イタリア文化専攻を設置
2010年 (平成22年)	星美学園短期大学創設50周年を記念して、校舎内を改修
2014年 (平成26年)	人間文化学科募集停止
2015年 (平成27年)	人間文化学科および専攻科イタリア語イタリア文化専攻廃止
2016年 (平成28年)	学校法人星美学園および学校法人目黒星美学園が合併し、学校法人星美学園となる
2019年 (平成31年)	男女共学化
2020年 (令和2年)	第四代副学長 シスター小島順子退任
2023年 (令和5年)	第五代副学長 町田治就任

2 建学の精神・教育理念

(1) 建学の精神

聖ヨハネ・ボスコが実践した「予防教育法による全人間教育」を行うことが本学の建学の精神です。

「予防教育法による全人間教育」とは、理性と宗教と慈愛に基づき、家庭的環境の中で、青少年の全人間的な育成を目指す教育です。

理性：命令や強制ではなく道理に基づいた語りかけと学生の納得による教育を行います。それは、学生に、大切にされているという思いと自律的に善を選び悪を避けさせる力を生み出します。

宗教：時代や周囲の影響に流される価値観ではなく、カトリック的な価値観、特にキリスト教的な愛について気づかせ、生きる指針となるよう導きます。

慈愛：教職員は、学生一人ひとりを、善なる心をもつ存在として大切にします。本学では、「愛情から信頼が生まれ、信頼から教育が生まれる（創立者 聖ヨハネ・ボスコの言葉）」と考えています。愛情の一つの表れは、「アシステンツァ（共にいる）」という教育方法です。本学では、「アシステンテ制度」として実施されています。

(2) 教育理念

本学では、建学の精神に基づいて育成すべき人間像を「聡明、誠実、温和」と定めています。

聡明とは、善と悪を正しく識別できる聡明さです。

誠実とは、言葉や行いがいつも誠実で、心の清らかなことです。

温和とは、謙虚で優しく心の温かなことです。

このような人間像を、カトリックの精神と価値観に基づいて育成することが、本学の教育理念です。

3 国内外のサレジアン・シスターズの姉妹校・児童養護施設

【国内】

学校法人星美学園（東京都）

星美学園短期大学
サレジアン国際学園中学校高等学校
星美学園小学校
星美学園幼稚園
サレジアン国際学園世田谷中学高等学校
サレジアン国際学園目黒星美小学校

学校法人星美学園（静岡県）

静岡サレジオ高等学校
静岡サレジオ中学校
静岡サレジオ小学校
静岡サレジオ幼稚園

学校法人城星学園（大阪府）

ヴェリタス城星学園高等学校
ヴェリタス城星学園中学校
城星学園小学校
城星学園幼稚園

調布星美幼稚園（東京都）

長崎星美幼稚園（長崎県）

児童養護施設 星美ホーム（東京都）

児童養護施設 小百合ホーム（大分県）

4 星美学園短期大学学則（2024年度）（抄）

第1章 総 則

（目的）

第 1 条 本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、カトリックの価値観に基づいて、広く豊かな教育を授け、深い専門的知識と技術を研究、教授し、国際社会において、自由と責任のうちに人間性を高める文化の樹立に貢献できる聡明、誠実、温かな人間を育成することを目的とする。

（名称）

第 2 条 本学は、星美学園短期大学と称する。

（位置）

第 3 条 本学を、東京都北区赤羽台四丁目 2 番 1 4 号に置く。

第2章 学 科

（学科）

第 4 条 本学に、幼児保育学科を置く。

（学科の目的）

第 5 条 幼児保育学科は、保育に関する豊かな専門知識と技術を習得し、社会人としての自覚をもって子どもをいつくしみ、育むことができる人材を養成することを目的とする。

（学生定員）

第 6 条 本学科の学生定員は、次のとおりとする。

学 科	入学定員	収容定員
幼児保育学科	100人	200人

（修業年限及び在学年限）

第 7 条 本学科の修業年限は、2年とする。

2 学生は、4年を超えて在学することができない。ただし、教授会の意見を聴いて学長が所定の年限を超えて在学することを認めた場合は、この限りでない。

3 交換留学等のために本学と協定を結んだ大学等において授業科目を履修する期間は、本学における修業年限に算入する。

第3章 学年、学期及び休業日

（学年）

第 8 条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（学期）

第 9 条 学年を、次の2学期に分ける。

原則として

前期 4月1日から9月15日まで

後期 9月16日から翌年3月31日まで

(休業日)

第10条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日
 - (3) 本学の創立記念日の翌日（5月25日）
 - (4) 春期休業日概ね1か月間
 - (5) 夏期休業日概ね45日間、年間行事予定表で示す。
 - (6) 冬期休業日概ね2週間
- 2 前項の定めにかかわらず、学長は、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することができる。
- 3 休業日であっても、授業・実習等を実施することがある。

第4章 入学、学士入学、短期大学士入学、再入学、転入学、休学、復学、留年、転学、退学及び除籍

(入学の時期)

第11条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学の資格)

第12条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 通常の課程以外の課程によって前号の課程を修了した者と文部科学大臣が認めた者
- (4) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (5) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者

(入学の出願)

第13条 本学に入学を志願する者は、所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。

2 提出の時期、方法及び提出すべき書類については、別に定める。

(入学者の選考)

第14条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第15条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに身元保証書その他の所定の書類を提出するとともに、入学金その他の所定の納入金を納付しなければならない。

2 学長は、教授会の意見を聴いて、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(学士入学、短期大学士入学、再入学及び転入学)

- 第16条 本学に学士入学、短期大学士入学、再入学又は転入学を志願する者は、所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。
- 2 前項の志願者については、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。
 - 3 前項の定めにより入学を許可された者のすでに取得した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。
 - 4 前項の入学を許可された者は、所定の納入金を納付しなければならない。
 - 5 本学退学の年度後3年以内に再入学を希望する場合は、学力試験を免除する。
 - 6 学士入学、短期大学士入学、再入学及び転入学についての納入金は、原則として1年次入学に準ずる。
 - 7 その他必要な事項については、別に定める。

(休学)

- 第17条 疾病その他やむを得ない事由により2月以上修学することのできない者は、学長の許可を得て、休学することができる。
- 2 疾病による休学には、休学願に医師の診断書を添付しなければならない。

(休学の期間)

- 第18条 休学の期間は、1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、学長の許可を得て、引き続き更に1年以内に限り休学することができる。
- 2 休学の期間は、通算して2年を超えることができない。
 - 3 休学の期間は、第7条第2項の在学年限に算入しない。

(復学)

- 第19条 休学期間中にその事由が消滅した場合は、学長の許可を得て、復学することができる。

(留年)

- 第20条 学則第7条第1項及び第42条に定められた修業年限を超えて在籍する者を留年者とする。ただし、長期履修生を除く。

(転学及び退学)

- 第21条 転学又は退学しようとする者は、その事由を記した保護者連署による転学願又は退学願を提出の上、学長の許可を受けなければならない。
- 2 疾病による退学には、退学願に医師の診断書を添付しなければならない。

(除籍)

- 第22条 次の各号の一に該当する者は、教授会の意見を聴いて、学長が除籍する。
- (1) 第7条第2項に定める在学年限を超えた者
 - (2) 第18条第2項に定める休学の期間を超えてなお復学の手続をしない者
 - (3) 納入金の納付を怠り督促しても定められた期日までになお納入しない者
 - (4) 長期にわたり行方不明の者

第5章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

- 第23条 本学の授業科目は、学科の専門教育科目及び資格取得に関する科目とし、授業科目の編成及びそ
-

の単位数は、別表で定める。

(単位の計算方法)

第24条 各授業科目の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容を持って構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(1年間の授業期間)

第25条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(単位の授与)

第26条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 授業における出席不良の者は、試験を受けることができない。
- 3 履修科目として登録できる単位数の上限は、1年間で50単位とする。ただし、以下に該当するときは、この上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。
 - (1) 所定の単位を優れた成績をもって修了したとき。
 - (2) 免許・資格取得を前提に必要な授業科目を履修するとき。
- 4 他大学等において履修した授業科目の単位を、30単位を超えない範囲で本学の単位として認定することができる。ただし、入学前に他大学等で修得した単位は、15単位を超えない範囲での認定とする。
- 5 前項の規定は、海外の大学等において修得した単位の認定について準用する。

(学習の評価)

第27条 学習の評価は、A+、A、B、C、Dをもってあらわし、A+、A、B、Cを合格とする。

(授業の不開講)

第28条 授業科目の履修登録者が5名以下の場合には、当該授業科目を開講しない。ただし、必修科目、卒業要件科目及び資格取得科目については、この限りでない。

- 2 前項本文の定めにかかわらず、学長が必要と認めたときは、履修登録者が5名以下の場合でも、当該授業科目を開講することがある。

第6章 卒業等

(卒業の要件)

第29条 学科の教育課程において所定の単位を修得し、下記の学習成果を身につけた者に対し、卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) カトリックの価値観に基づき、幅広い視野に立って、社会人としての教養と、豊かな人間性を身につけている。
- (2) 保育の基本的な知識・技術を習得するとともに、多様性を受け入れて一人ひとりの子どもに応じた保育を考えることができる。
- (3) 子どもをいとおしむ心とまなざしをもち、子どもの立場に立って考えたり、共感することができる。

- (4) 保育において必要とされる表現力と伝達力を身につけている。
- (5) 社会の一員として貢献し、他者と連携・協働できる能力を身につけている。

(卒業)

- 第30条 前条の卒業の要件を満たした者については、学年の途中においても、学期の区分に従い、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。
- 2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

(学位)

- 第31条 前条により卒業を認定した者に対して、本学学位規程の定めるところにより、教授会の意見を聴いて、学長が短期大学士を授与する。
- 2 学位規程については、別に定める。

(教育職員免許状の取得)

- 第32条 本学において取得することができる教育職員免許状の種類は、幼稚園教諭2種免許状及び特別支援学校教諭(知的障害・肢体不自由・病弱)2種免許状である。
- 2 幼稚園教諭2種免許状を取得しようとする者は、第29条の規定によるほか、教育職員免許法及び同施行規則に基づく所定の授業科目及び単位を、別表2「幼稚園教諭2種免許状取得に必要な授業科目」に規定するとおり修得しなければならない。
 - 3 特別支援学校教諭2種免許状を取得しようとする者は、基礎資格となる教育職員免許状を取得している者及び取得見込みの者で、教育職員免許法及び同施行規則に基づく所定の授業科目及び単位を、別表2「特別支援学校教諭(知的障害・肢体不自由・病弱)2種免許状取得に必要な授業科目」に規定するとおり修得しなければならない。

第7章 入学検定料、入学金、授業料その他の納入金

(納入金)

- 第33条 入学検定料、入学金、授業料その他の納入金(以下「納入金」という。)は、別表5のとおりとする。

(納入金の納入期)

- 第34条 授業料、設備充実費及び教育充実費は、原則として次の2回の分納とする。
- 前期 4月10日
 - 後期 9月30日

(転学、退学及び停学の場合の授業料その他の納入金)

- 第35条 学期の途中で転学若しくは退学し又は除籍された者は、当該期分の授業料その他の納入金を納付しなければならない。
- 2 停学期間中の授業料その他の納入金は、納付しなければならない。

(休学者の納入金)

- 第36条 休学者の納入金は、休学が1学期にわたる場合、当該学期の授業料の半額とする。

(留年者の納入金)

- 第37条 学則第33条及び第53条の規定にかかわらず、留年者の納入金は、次のとおりとする。
- (1) 納入金の算出は、学期毎に行う。

- (2) 納入金は、基本料及び単位料とする。
- (3) 基本料は、1学期の授業料と1学期の教育充実費の合計の半額とする。
- (4) 単位料は、20,000円×履修単位数とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、1学期の履修単位が13単位以上になる場合は、学則別表5に基づいて算出された納入金の額を納入する。
- 3 専攻科の留年者で、1学期の履修単位が12単位以上になる場合は、学則別表6に基づいて算出された納入金の額を納入する。

(納入金の不返還)

第38条 納付した納入金は、原則として返還しない。ただし、入学辞退者については、次のとおりとする。

- (1) 受験時に納入した入学検定料及び入学手続き時に納入した入学金は、返還しない。
- (2) 3月31日までに辞退届を提出した者に対しては、授業料及びその他の入学手続き後の納入金を返還する。

第8章 専攻科

(専攻科)

第39条 本学に、専攻科を置く。

- 2 専攻科に、次の専攻を置く。
幼児保育専攻

(目的)

第40条 専攻科は、短期大学における一般的及び専門的教養の基礎の上に、さらにその専攻分野についての学識を深め、その研究能力を培うことを目的とする。

(学生定員)

第41条 専攻科の学生定員は、次のとおりとする。

	入学定員	収容定員
幼児保育専攻	100人	100人

(修業年限及び在学年限)

第42条 専攻科の修業年限は、1年とする。

- 2 専攻科生は、2年を超えて在学することができない。ただし、教授会の意見を聴いて、学長が所定の年限を超えて在学することを認めた場合は、この限りではない。

(入学の時期)

第43条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学の資格)

第44条 専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

- (1) 本学の幼児保育学科を卒業した者
- (2) 前号と同等以上の学力があると認められた者

(入学の出願)

第45条 専攻科に入学を志願する者は、所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。

- 2 提出の時期、方法及び提出すべき書類については、別に定める。

(入学者の選考)

第46条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第47条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに身元保証書その他の所定の書類を提出するとともに、入学金その他の所定の納入金を納付しなければならない。

2 学長は、教授会の意見を聴いて、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(授業科目)

第48条 専攻科の教育課程は、別表3のとおりとする。

(修了に必要な単位数)

第49条 専攻科の学生は、前条に定めたそれぞれの専攻の授業科目のうちから22単位以上を履修しなければならない。

2 本学幼児保育学科の授業科目を新たに履修した者は、その授業科目を修了単位に加えることができる。

(修了の要件)

第50条 専攻科の教育課程において所定の単位を修得し、下記の学習成果を身につけた者に対し、修了を認定する。

- (1) カトリックの価値観と教養に基づき、広い視野に立って物事を熟考し、自律的に学びを深めていく素養を身につけている。
- (2) 基本的な保育の知識・技術に基づきながら自らの専門性を磨き、実践力を習得するとともに、向上心をもって専門性を探求することができる。
- (3) 子ども、そして子どもを取り巻く環境の多様性について理解し、多角的に考察するための知識および態度を習得している。
- (4) 保育および子どもに関わる諸問題について関心をもち、客観的に課題を整理し説明するための基本的な技術を習得している。
- (5) 保育者に求められるコミュニケーション力および他者と協働して取り組む姿勢を習得している。

(修了)

第51条 前条の修了の要件を満たした者については、学年の途中においても、学期の区分に従い、教授会の意見を聴いて、学長が修了を認定する。

2 学長は、修了を認定した者に対して、修了証書を授与する。

(発達障がい児保育ベーシックプログラム)

第52条 幼児保育学科及び専攻科幼児保育専攻を通して、本学独自の「発達障がい児保育ベーシックプログラム」(以下、この条において「本プログラム」という。)を行う。

2 学長は、本プログラムの履修を終了し、修了試験に合格し、幼稚園教諭2種免許と保育士資格を取得し、かつ専攻科を修了した者に、本プログラムの修了証書を授与する。

3 本プログラムの修了に関する事項の詳細は、別に定める。

(納入金)

第53条 入学検定料、入学金、授業料その他の納入金(以下「納入金」という。)は、別表6のとおりとする。

(準用規定)

第54条 本章に定める以外は、本学学則を準用する。

第9章 指定保育士養成施設

(設置・目的)

第55条 本学に、指定保育士養成施設を置く。本施設は、保育士となる資格の取得を目的とする。

2 本施設は、本学幼児保育学科の2年の教育課程及び専攻科幼児保育専攻の1年の教育課程を加えた3年間の教育課程を持つ施設である。

(名称)

第56条 本施設は、「星美学園短期大学幼児保育学科専攻科幼児保育専攻」と称する。

(修業年限及び在学年限)

第57条 本施設の修業年限は、本学幼児保育学科の2年の教育課程及び専攻科幼児保育専攻の1年の教育課程を加えた3年とする。

2 学生は、学則第7条2項及び第42条に定める範囲で在学することができる。

(学生定員)

第58条 本施設の学生定員は、次のとおりとする。

入学定員	収容定員
100人	300人

(授業の実施)

第59条 本施設で行われる、別表4にある「必修科目」及び「選択必修科目」のうち、実習及び演習科目は、50人以下で実施する。

(他の指定保育士養成施設において履修した単位の認定)

第60条 本施設に入所前及び入所後に他の指定保育士養成施設において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で本施設の単位として認定することができる。

(保育士となる資格の取得)

第61条 保育士となる資格を取得しようとする者は、本学幼児保育学科を卒業し、かつ専攻科幼児保育専攻を修了するほか、児童福祉法施行規則第6条の2第1項第3号に基づく所定の授業科目及び単位を、別表4「保育士となる資格取得に必要な授業科目」に規定するとおり修得しなければならない。

(準用規定)

第62条 本章に定める以外は、本学学則を準用する。

第10章 職員組織

(職員組織)

第63条 本学に、学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他必要な職員を置く。

2 職員の職務は、学校教育法の定めるところにより次のとおりとする。

- (1) 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。
 - (2) 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。
 - (3) 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、研究に従事するとともに、学生を教授し、その研究を指導する。
 - (4) 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、研究に従事するとともに、学生を教授し、その研究を指導する。
 - (5) 講師は、教授、准教授に準ずる職務に従事する。
 - (6) 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、研究に従事するとともに、学生を教授し、その研究を指導する。
 - (7) 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。
 - (8) その他の職員は、それぞれ所定の職務を行う。
- 3 本学の、学務運営に必要な、職員の学内組織、その内容等に関する事項は、別に定める。

第11章 教授会

(教授会)

第64条 本学に、教授会を置く。

(教授会の構成)

第65条 教授会は、学長、副学長及び専任の教授をもって構成する。

- 2 前項の定めにかかわらず、学長が必要としたときは、学長は、教授会に准教授その他の職員の出席を認めることができる。

(教授会の招集)

第66条 教授会は、学長が招集し、その議長となる。学長に事故があるときは、副学長又は学長があらかじめ指定した教授が、議長となる。

(審議事項)

第67条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
 - (2) 学位の授与
 - (3) 前2号に掲げるもののほか教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。
- 2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について、学長の求めに応じ、意見を述べることができる。
 - 3 学長は、第1項第3号に掲げる事項の具体的な内容を別途細則において定める。

(その他)

第68条 本章に定めるもののほか、教授会についての必要な事項は、別に定める。

第12章 自己評価等

(自己評価等)

第69条 本学は、建学の理念の実現を目指し、本学に求められる社会的要請に応えるために、本学の教育研究活動及び管理運営等を自ら点検・評価し、将来計画に資するものとする。

- 2 前項の点検・評価についての必要な事項は、別に定める。

第13章 長期履修学生、科目等履修生、外国人留学生及び帰国子女、聴講生

(長期履修学生)

第70条 第7条第1項に定める修業年限を超える一定の期間にわたり授業科目を履修することを目的として、本学に入学することを希望する者がいるときは、学長は選考の上、教授会の意見を聴いて、長期履修学生として、入学を許可する。

- 2 長期履修学生に関して必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第71条 本学の学生以外の者で本学の授業科目の履修を希望する者がいるときは、学長は、本学の教育に支障のない限りにおいて選考の上、教授会の意見を聴いて、科目等履修生として履修を許可することができる。

- 2 科目等履修生には、この学則第26条及び第27条の規定を準用して単位を与えることができる。
3 科目等履修生についての必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生及び帰国子女)

第72条 外国人留学生及び帰国子女で本学に入学を希望する者がいるときは、学長は、選考の上、教授会の意見を聴いて、入学を許可することができる。

- 2 外国人留学生及び帰国子女についての必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第73条 本学の学生以外の者で本学の特定の授業科目の聴講を希望する者がいるときは、学長は、本学の教育に支障のない限りにおいて選考の上、教授会の意見を聴いて、聴講生として授業への参加を許可することができる。

- 2 聴講生についての必要な事項は、別に定める。

第14章 賞 罰

(表彰)

第74条 学生として表彰に値すると認められる者がいるときは、学長は、教授会の意見を聴いて、表彰することができる。

(懲戒)

第75条 本学の教育の方針並びに学則及びその実施細則に違反し、又は学生としての本分に反する行為があったときは、学長は、教授会の意見を聴いて、懲戒することができる。

- 2 前項の懲戒は、退学、停学及び訓戒とする。
3 前項の退学は、次の各号の一に該当する学生に対して行う。
(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
(3) 正当の理由がなく出席常でない者
(4) 本学の秩序を乱した者
(5) 本学の建学の精神に反した者
4 懲戒についての必要な事項は、別に定める。

第15章 公開講座

(公開講座)

第76条 本学は、地域文化の向上及び生涯学習に資するため、その必要があると認めるときは、公開講座を開くことができる。

2 公開講座についての必要な事項は、別に定める。

第16章 高等学校との連携

(高等学校との連携)

第77条 本学は、地域文化や教育水準の向上に資するため、その必要があると認めるときは、特定の高等学校と協定を結んだ上、本学の授業及び公開講座を高校生に受講させることができる。

2 高等学校との提携についての必要な事項は、別に定める。

第17章 厚生施設

(厚生施設)

第78条 学生の生活を円滑にするための施設として、保健室、学生相談室、学生食堂、学生控室、就職指導室及び生活実習室を置く。

2 前項についての必要な事項は、別に定める。

第18章 図書館

(図書館)

第79条 本学に、図書館を置く。

2 図書館についての必要な事項は、別に定める。

第19章 研究所

(研究所)

第80条 本学に、日伊総合研究所を置く。

2 日伊総合研究所についての必要な事項は、別に定める。

第20章 研究生

(研究生)

第81条 本学の教員の指導を受け、特定分野の研究を希望する者がある場合、当該指導教員に支障がない限りにおいて、学長は、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生についての必要な事項は、別に定める。

第 2 1 章 補 則

(学則の改廃)

第 8 2 条 この学則の改廃は、教授会の意見を聴いて、理事会がこれを決定する。

(実施細目)

第 8 3 条 この学則を実施するために必要な細則は、学長が別に定める。

附 則

- 1 この学則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 別表 4 は、令和 8 年度専攻科入学生から適用する。

別表1 幼児保育学科専門教育科目

系 列	授 業 科 目	授業形態	単位数		卒業要件	配当学年		備 考		
			必修	選択						
基礎教養	キリスト教学	演習	2		4	1年		「基礎英語Ⅰ」「基礎英語Ⅱ」又は「イタリア語入門Ⅰ」「イタリア語入門Ⅱ」のいずれかを選択		
	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	演習 演習	1 1			2年	2年			
	基礎英語Ⅰ 基礎英語Ⅱ イタリア語入門Ⅰ イタリア語入門Ⅱ	演習 演習 演習 演習		1 1 1 1	2	1年 1年 1年 1年				
	聖書学特講 ドン・ボスコ研究 心理学 日本国憲法 情報処理 健康科学 体育実技	講義 講義 講義 講義 講義 講義 実技	1	2 2 2 2 2 1		1年 1年 1年 1年	2年			
教育	教育原理 保育者論 教育方法論 保育・教育課程論 保育・教職実践演習（幼稚園） 特別支援教育総論 障害者教育総論（知・肢・病） 重複障害・LD等教育論 知的障害者教育論（指導法を含む） 肢体不自由者教育論（指導法を含む） 病弱者教育論（指導法を含む） 視覚・聴覚言語障害者教育論（指導法を含む）	講義 講義 講義 講義 演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義		2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1	54以上	1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年	2年 2年 2年 2年 2年 2年 2年 2年 2年 2年			
	保育	保育原理 乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 障がい児保育Ⅰ 障がい児保育Ⅱ 保育内容総論	講義 講義 演習 演習 演習 演習			2 2 1 1 1 1	2年 2年 2年 2年 2年 2年			
		心理・人間関係	教育相談基礎論 発達心理学 子どもの理解と援助 子ども家庭支援の心理学 幼児と人間関係 保育内容の指導法「人間関係」 知的障害者の心理・生理・病理 肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理 自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理 自閉スペクトラム症者の支援 視覚障害者の心理・生理・病理 聴覚言語障害者の心理・生理・病理	講義 講義 演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義			2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年	2年 2年 2年 2年 2年 2年 2年 2年 2年 2年 2年 2年 2年 2年	
			言葉	幼児と表現（言葉） 幼児と言葉（国語表現を含む） 保育内容の指導法「言葉」		演習 演習 演習		1 1 1	1年 1年 2年	
				福祉		社会福祉論 子ども家庭福祉 子ども家庭支援論 子育て支援 社会的養護Ⅰ 社会的養護Ⅱ	講義 講義 講義 演習 講義 演習		2 2 2 1 2 1	2年 2年 2年 2年 2年 2年
						環境	保育内容の指導法「環境」	演習		1
	表現（音楽）		音楽基礎演習Ⅰ 音楽基礎演習Ⅱ 幼児と表現（音楽）Ⅰ 幼児と表現（音楽）Ⅱ 幼児と表現（音楽）Ⅲ 保育内容の指導法「表現（音楽）」Ⅰ 保育内容の指導法「表現（音楽）」Ⅱ			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習		1 1 2 1 1 1 1	1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年	2年 2年
		表現（造形）	幼児と表現（造形）Ⅰ 幼児と表現（造形）Ⅱ 保育内容の指導法「表現（造形）」			演習 演習 演習		1 1 1	2年 2年 1年	
			健康			幼児と健康Ⅰ 幼児と健康Ⅱ 保育内容の指導法「健康」 子どもの保健 子どもの健康と安全 子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの食と栄養Ⅱ	演習 演習 演習 講義 演習 演習 演習		1 1 1 2 2 1 1	1年 1年 1年 2年 2年 2年 2年
				情報		教育情報学	講義		1	1年
教育実習		幼稚園教育実習（事前事後の指導を含む） 特別支援学校教育実習（事前事後の指導を含む）		実習 実習		5 3	1年 2年	幼稚園二種免許状取得に必要な授業科目 特別支援学校教諭二種（知的・肢体・病弱者）免許状取得に必要な授業科目		
		保育実習		保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習指導Ⅰ（保育所）	実習 演習		2 1	2年 2年	保育士資格取得に必要な授業科目	
キャリア	幼児保育キャリア演習Ⅰ 幼児保育キャリア演習Ⅱ	演習 演習			2 2	4	1年 2年			
	小 計				9	104	64以上			
合 計				113						

別表2 教職に関する専門教育科目
幼稚園教諭2種免許状取得に必要な授業科目

授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数		資 格 取 得 必 要 単 位 数	
		必 修	選 択 必 修		
施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法 体育実技 健康科学 基礎英語Ⅰ 基礎英語Ⅱ イタリア語入門Ⅰ イタリア語入門Ⅱ 情報処理	講義 実技 講義 演習 演習 演習 演習 講義	2 1 1 2	1 1 1 1 1	8
領域及び保育内容の指導法に関する科目	幼児と健康Ⅰ 幼児と健康Ⅱ 幼児と人間関係 幼児と言葉(国語表現を含む) 幼児と表現(音楽)Ⅰ 幼児と表現(造形)Ⅰ 幼児と表現(造形)Ⅱ	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	1 1 1 1 2 1 1		16
	保育内容総論 保育内容の指導法「健康」 保育内容の指導法「人間関係」 保育内容の指導法「環境」 保育内容の指導法「言葉」 保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」 保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」 保育内容の指導法「表現(造形)」	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	1 1 1 1 1 1 1		
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理 保育者論 発達心理学 特別支援教育総論 保育・教育課程論	講義 講義 講義 講義 講義	2 2 2 2 2		10
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育方法論 教育情報学 教育相談基礎論	講義 講義 講義	2 1 2		5
教育実践に関する科目	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む) 保育・教職実践演習(幼稚園)	実習 演習	5 2		7
	小 計		44	4	46
	合 計		48		

特別支援学校教諭(知的障害・肢体不自由・病弱)2種免許状取得に必要な授業科目

免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数		資 格 取 得 必 要 単 位 数
			必 修	選 択	
特別支援教育の基礎理論に関する科目	特別支援教育総論	講義	2		2
特別支援教育領域に関する科目	知的障害者の心理・生理・病理 肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理	講義 講義 講義	1 1 1		8
	知的障害者教育論(指導法を含む) 肢体不自由者教育論(指導法を含む) 病弱者教育論(指導法を含む)	講義 講義 講義	1 1 1		
	障害者教育総論(知・肢・病)	講義	2		
免許状に定められることとなる特別支援教育以外の領域に関する科目	視覚障害者の心理・生理・病理 聴覚言語障害者の心理・生理・病理 自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理	講義 講義 講義	1 1 1		7
	視覚・聴覚言語障害者教育論(指導法を含む) 自閉スペクトラム症者の支援	講義 講義	1 1		
	重複障害・LD等教育論	講義	2		
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	特別支援学校教育実習(事前事後の指導を含む)	実習	3		3
	小 計		20	0	20
	合 計		20		

別表3 専攻科 幼児保育専攻専門教育科目

区別	授 業 科 目	授業 形態	単位数		修了要件
			必修	選択必修	
教養・ キャリア	人格論	講義	4		6
	幼児保育キャリア演習Ⅲ	演習	2		
幼児教育研究	卒業研究ゼミナール	演習	2		4
	卒業研究	演習	2		
	特別演習A	演習		1	12 以上
	特別演習B	演習		1	
	特別演習C	演習		1	
	特別演習D	演習		1	
	特別演習E	演習		1	
	特別演習F	演習		1	
	特別演習G	演習		1	
	特別演習H	演習		1	
	特別演習I	演習		1	
	特別演習J	演習		1	
	特別演習K	演習		1	
	特別演習L	演習		1	
	特別演習M	演習		1	
	特別演習N	演習		1	
	特別演習O	演習		1	
	特別演習P	演習		1	
	特別演習Q	演習		1	
	特別演習R	演習		1	
特別演習S	演習		1		
特別演習T	演習		1		
特別演習U	演習		1		
特別演習V	演習		1		
特別演習W	演習		1		
特別演習X	演習		1		
保育士必修	子どもの食と栄養Ⅰ	演習		1	
	子どもの食と栄養Ⅱ	演習		1	
	社会的養護Ⅰ	講義		2	
	社会的養護Ⅱ	演習		1	
	子育て支援	演習		1	
	保育実習Ⅰ（施設）	実習		2	
	保育実習指導Ⅰ（施設）	演習		1	
	保育実習Ⅱ（保育所）	実習		2	
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	演習		1	
	保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）	実習		2	
保育実習指導Ⅲ（保育所以外の施設）	演習		1		
資格必修	ベビーシッター論	講義		2	
	発達障がい児指導法演習	演習		2	
小 計			10	43	22 以上
合 計			53		

別表4 保育士となる資格取得に必要な授業科目
必修科目

告示別表第1による教科目		授業科目	授業形態	単位		資格取得必要単位数	時間数	指定保育士養成施設		
系列	教科目			必修	選択			第1学年	第2学年	第3学年
保育の本質・目的に関する科目	保育原理（講義・2単位）	保育原理	講義	2		54	30		2年	
	教育原理（講義・2単位）	教育原理	講義	2			30	1年		
	子ども家庭福祉（講義・2単位）	子ども家庭福祉	講義	2			30		2年	
	社会福祉（講義・2単位）	社会福祉論	講義	2			30		2年	
	子ども家庭支援論（講義・2単位）	子ども家庭支援論	講義	2			30		2年	
	社会的養護Ⅰ（講義・2単位）	社会的養護Ⅰ	講義	2			30		2年	専攻科
	保育者論（講義・2単位）	保育者論	講義	2			30		2年	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学（講義・2単位）	発達心理学	講義	2		30	1年			
	子ども家庭支援の心理学（講義・2単位）	子ども家庭支援の心理学	講義	2		30		2年		
	子どもの理解と援助（演習・1単位）	子どもの理解と援助	演習	1		30	1年			
	子どもの保健（講義・2単位）	子どもの保健	講義	2		30		2年		
	子どもの食と栄養（演習・2単位）	子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの食と栄養Ⅱ	演習 演習	1 1		30 30		2年 2年	専攻科 専攻科	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価（講義・2単位）	保育・教育課程論	講義	2		30	1年			
	保育内容総論（演習・1単位）	保育内容総論	演習	1		30		2年		
	保育内容演習（演習・5単位）	保育内容の指導法「健康」	保育内容の指導法「健康」	演習	1		30	1年	2年	
		保育内容の指導法「人間関係」	保育内容の指導法「人間関係」	演習	1		30			
		保育内容の指導法「環境」	保育内容の指導法「環境」	演習	1		30			
		保育内容の指導法「言葉」	保育内容の指導法「言葉」	演習	1		30			
		保育内容の指導法「表現(造形)」	保育内容の指導法「表現(造形)」	演習	1		30			
		保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」	保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」	演習	1		30			
		保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」	保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」	演習	1		30			
	保育内容の理解と方法（演習・4単位）	幼児と健康Ⅰ	幼児と健康Ⅰ	演習	1		30	1年	2年	
		幼児と言葉(国語表現を含む)	幼児と言葉(国語表現を含む)	演習	1		30			
		幼児と表現（音楽）Ⅰ	幼児と表現（音楽）Ⅰ	演習	2		60			
		幼児と表現（造形）Ⅰ	幼児と表現（造形）Ⅰ	演習	1		30			
	乳児保育Ⅰ（講義・2単位）	乳児保育Ⅰ	講義	2		30		2年		
乳児保育Ⅱ（演習・1単位）	乳児保育Ⅱ	演習	1		30		2年			
子どもの健康と安全（演習・1単位）	子どもの健康と安全	演習	1		30		2年			
障害児保育（演習・2単位）	障がい児保育Ⅰ	障がい児保育Ⅰ	演習	1		30		2年		
	障がい児保育Ⅱ	障がい児保育Ⅱ	演習	1		30		2年		
社会的養護Ⅱ（演習・1単位）	社会的養護Ⅱ	演習	1		30		2年	専攻科		
子育て支援（演習・1単位）	子育て支援	演習	1		30		2年	専攻科		
保育実習	保育実習Ⅰ(実習・4単位：保育所実習2単位・施設実習2単位)	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2		70 (◎)		2年	専攻科	
		保育実習Ⅰ（施設）	実習	2		70 (◎)				
	保育実習指導Ⅰ（演習・2単位）	保育実習指導Ⅰ(保育所) 保育実習指導Ⅰ（施設）	演習 演習	1 1		30 30		2年	専攻科	
総合演習	保育実践演習（演習・2単位）	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2		30		2年		
合 計				54	0	54	1250			

(◎)「保育実習Ⅰ（保育所）」及び「保育実習Ⅰ（施設）」における実習日数（時間数）は10日（70時間）以上

選択必修科目

告示別表第2による教科目		授業科目	授業形態	単位		資格取得必要単位数	時間数	指定保育士養成施設			
系列	教科目			必修	選択			第1学年	第2学年	第3学年	
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定	特別支援教育総論 障害者教育総論(知・肢・病) 重複障害・LD等教育論	講義		2	6 以上	30	1年			
			講義		2		30	1年			
保育の対象の理解に関する科目	15 単位 以上	教育相談基礎論 幼児と人間関係 幼児と健康Ⅱ 知的障害者の心理・生理・病理 肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理 自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理 自閉スペクトラム症者の支援 視覚障害者の心理・生理・病理 聴覚言語障害者の心理・生理・病理	講義	1	2		30			2年	
			演習		1		30			2年	
			演習		1		30			2年	
			講義		1		15			2年	
			講義		1		15			2年	
			講義		1		15	1年		2年	
			講義		1		15	1年		2年	
			講義		1		15			2年	
保育の内容・方法に関する科目		教育方法論 教育情報学 幼児と表現(音楽)Ⅱ 幼児と表現(音楽)Ⅲ 幼児と表現(造形)Ⅱ	講義	2		30	1年				
			講義		1	15	1年				
			演習		1	30			2年		
			演習		1	30			2年		
			演習	1		30			2年		
保育実習	保育実習Ⅱ(実習・2単位:保育所実習)	2	保育実習Ⅱ(保育所)	実習		2	70 (◎)			専攻科	
	保育実習Ⅲ(実習・2単位:保育所以外の施設実習)	2	保育実習Ⅲ(保育所以外の施設)	実習		2	70 (◎)			専攻科	
	保育実習指導Ⅱ又はⅢ(演習・1単位)	1	保育実習指導Ⅱ(保育所) 保育実習指導Ⅲ(保育所以外の施設)	演習 演習		1 1	30 30			専攻科 専攻科	
合 計		18 単位 以上	合 計		4	25	9 以上	620			

(※)「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」のいずれかを選択必修
 (◎)「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」における実習日数(時間数)は10日(70時間)以上

教養科目

告示による教科目		授業科目	授業形態	単位		資格取得必要単位数	時間数	指定保育士養成施設			
系列	教科目			必修	選択			第1学年	第2学年	第3学年	
教養科目	外国語、体育以外の科目	キリスト教学	演習	2		6 以上	60	1年			
		人間学Ⅰ	演習	1			30		2年		
		人間学Ⅱ	演習	1			30		2年		
		聖書学特講	講義		2		30	1年			
		ドン・ボスコ研究	講義		2		30	1年			
		心理学	講義		2		30	1年			
		日本国憲法	講義		2		30		2年		
		情報処理	講義		2		30	1年			
		外国語	基礎英語Ⅰ 基礎英語Ⅱ イタリア語入門Ⅰ イタリア語入門Ⅱ	演習			1		2	30	1年
	演習				1		30	1年			
演習				1		30	1年				
演習				1		30	1年				
体育	健康科学	講義	1			15	1年				
	体育実技	実技	1		2	30	1年				
合 計			6	14	10 以上	435					

本学独自の科目

告示による教科目	授業科目	授業形態	単位		資格取得 必要単位数	時間数	指定保育士養成施設		
			必修	選択			第1学年	第2学年	第3学年
保育士資格取得教科目でないが、 学校独自の科目として開講された いる教科目	人格論	講義	4		14	60	1年	2年	専攻科
	卒業研究ゼミナール	演習	2			60			専攻科
	卒業研究	演習	2			—			専攻科
	幼児保育キャリア演習Ⅰ	演習	2			60			
	幼児保育キャリア演習Ⅱ	演習	2			60			
	幼児保育キャリア演習Ⅲ	演習	2			60			
	特別演習 A	演習		1	6 以上	30			専攻科
	特別演習 B	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 C	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 D	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 E	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 F	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 G	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 H	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 I	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 J	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 K	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 L	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 M	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 N	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 O	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 P	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 Q	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 R	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 S	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 T	演習		1		30		専攻科	
	特別演習 U	演習		1	30		専攻科		
	特別演習 V	演習		1	30		専攻科		
	特別演習 W	演習		1	30		専攻科		
	特別演習 X	演習		1	30		専攻科		
	幼児と表現（言葉）	演習		1	30	1年			
	音楽基礎演習Ⅰ	演習		1	30	1年			
	音楽基礎演習Ⅱ	演習		1	30	1年			
ベビーシッター論	講義		2	30			専攻科		
発達障がい児指導法演習	演習		2	60			専攻科		
小 計			14	31	20	1200			
合 計			45		以上				

別表5 幼児保育学科の入学検定料、入学金、授業料その他の納入金

入学検定料	35,000円	
	日本国外で実施する場合は、別に定める。	
入 学 金	240,000円	入学手続き時納入
授 業 料	720,000円	年額
教育充実費	240,000円	年額
設備充実費	150,000円	年額 *設備充実費は、完納している留年者からは徴収しない。
*その他納入金には次の項目も含まれる。 各種資格取得料、実習費、個別教材費、科目等履修料、聴講料 *長期履修学生の納入金は、「長期履修学生規程」によって定める。		

別表6 専攻科の入学検定料、入学金、授業料その他の納入金

幼児保育専攻

入学検定料	15,000円	*幼児保育学科からの入学者には、入学検定料及び入学金を免除する。
入 学 金	150,000円	入学手続き時納入
授 業 料	660,000円	年額
教育充実費	240,000円	年額
設備充実費	150,000円	年額 *設備充実費は、完納している留年者からは徴収しない。
資格取得料	45,000円	*資格取得料は、保育士資格取得希望者のみ徴収する。

第2章 履修に関すること

1 2024年度 学事暦

－ 前期 －

日	曜	
4 月		
1	月	前期開始 入学式
4	木	前期講義開始
5 月		
24	金	学園創立記念日（通常授業日）
25	土	創立記念日の翌日（休業日）
7 月		
22	月	前期講義終了
23	火	前期補講・定期試験・追試験・再試験開始
8 月		
1	木	前期補講・定期試験・追試験・再試験終了
2	金	夏季休業開始（9月16日まで）
9 月		
15	日	前期終了

－ 後期 －

日	曜	
9 月		
16	月	夏季休業終了 後期開始
17	火	後期講義開始
12 月		
24	火	講義終了
25	水	クリスマス（休業日） 冬季休業開始（1月5日まで）
2025年 1 月		
5	日	冬季休業終了
6	月	講義開始
20	月	後期講義終了
21	火	後期補講・定期試験・追試験・再試験開始
28	火	後期補講・定期試験・追試験・再試験終了
29	水	春季休業開始（3月31日まで）
3 月		
13	木	卒業式・修了式
31	月	後期終了 春季休業終了

2 履修の手引き

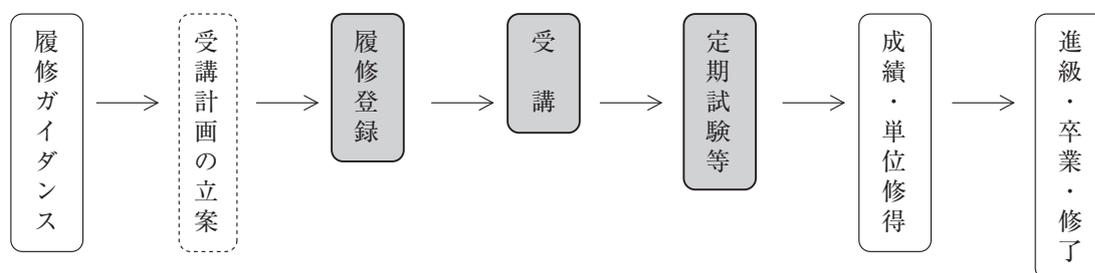
1 授業科目の構成

本学で開設されている授業科目は、次のように分けられる。

- 専門教育科目
 - ・幼児保育学科専門教育科目
 - ・専攻科幼児保育専攻専門教育科目
- 資格取得に関する専門教育科目
 - ・教職課程（幼稚園教諭二種、特別支援学校教諭二種）専門教育科目
 - ・保育士養成課程専門教育科目
 - ・社会福祉主事任用課程専門教育科目
 - ・ピアヘルパー資格課程専門教育科目
 - ・認定ベビーシッター資格課程専門教育科目
 - ・准学校心理士資格課程専門教育科目
 - ・発達障がい児保育ベーシックプログラム専門教育科目
- 他大学で履修し、本学において認定された科目

2 学習のしくみと卒業までの計画

(履修のしくみ)



3 授業の実施

- 授業は前期（15週）・後期（15週）の2学期に分けて実施される。前・後期あわせて30週をもって1学年となる。なお、教育実習・保育実習の期間は、含まれない。
- 授業科目は、前期に開講される〈前期科目〉、後期に開講される〈後期科目〉、および前・後期にわたって開講される〈通年科目〉に分けられる。前期科目および後期科目を、一括して〈半期科目〉と称する場合がある。なお、半期の半分の回数（8週）で開講する科目もある。
- 各期の末には試験等が実施され、成績評価が行われる（通年科目は、後期の末に、前・後期を通じての成績が評価されることになる）。なお、定期試験は、授業回数に含まれない。
- 各期の開講科目は、毎週の時間割のほかに、土曜日または休暇中に集中講義が設定される場合がある。なお、曜日によっては開講科目が、15週に満たない場合、他の曜日に振り替えて開講される場合がある。また、祝日に授業を行う場合がある。
- 履修登録者が5名以下の場合、授業維持困難とみなし、その年度は当該科目を開講しない場合がある。

4 科目と単位数

科目には、それぞれ単位数が定められている。

単位とは、一定の水準の学習をどれだけ行ったか、その量を示す基準である。

具体的には、**45時間の学習が1単位**と定められている。

学習時間は、実際に教室で講義に臨んだ時間（90分）のほか、教室外において、関連する読書を重ねたり、課せられたレポート・論文を書くこと、講義内容について考察を重ねるなどの予習・復習の自主学習の時間が含まれる。

科目は、〈講義〉〈演習〉〈実技、実習等〉の3種類に分けられる。それぞれの特性によって、しかるべき単位数が定められている。

各科目の単位の計算方法は、次の表の通りである。

単位の計算方法

● 1単位の学習時間：45時間

授業形態	単位数	学習時間	授業回数	開講期	教室内	教室外 (自主学習)	実習
講義・演習	4	180時間	30	通年	2時間 (90分)	4時間 (180分)	—
	2	90時間	15	半期			
	1	45(48)時間	8	1/4期			
	2	90時間	30	通年	2時間 (90分)	1時間 (45分)	
	1	45時間	15	半期			
実習・実技	1	45時間	15	半期			
教育実習	5	45時間+ 4週間	15～23	—	2時間 (90分)	—	4週間
	3	45時間+ 2週間					2週間
保育実習	2	88時間	—	—	—	—	11日
		70時間 (2024年度以降 入学生に適用)	—	—	—	—	10日 (2024年度以降 入学生に適用)

学習時間を図で示すと、例えば、次の通りである。

※「講義・演習科目」（2単位・半期）の場合の学習時間

$$2 \text{ 単位} = 90 \text{ 時間の学習} \left[\begin{array}{cc} \text{教室内} & \text{教室外 (自主学習の時間)} \\ \hline 2 \text{ 時間 (90分)} & 4 \text{ 時間 (180分)} \end{array} \right] \times 15 \text{ 回}$$

※「講義・演習・実習・実技科目」（1単位・半期）の場合の学習時間

$$1 \text{ 単位} = 45 \text{ 時間の学習} \left[\begin{array}{cc} \text{教室内} & \text{教室外 (自主学習の時間)} \\ \hline 2 \text{ 時間 (90分)} & 1 \text{ 時間 (45分)} \end{array} \right] \times 15 \text{ 回}$$

5 必修科目と選択必修・選択科目

- 1 〈必修科目〉とは、卒業するためには、その科目の単位を修得することが必須とされている科目をさす。
- 2 〈選択必修科目〉とは、2科目以上の複数科目群の中から、規定の単位数を修得することが必要とされている科目をさす。
- 3 〈選択科目〉とは、開設されている科目（群）の内から自由に選択をして、単位を修得する科目をさす。

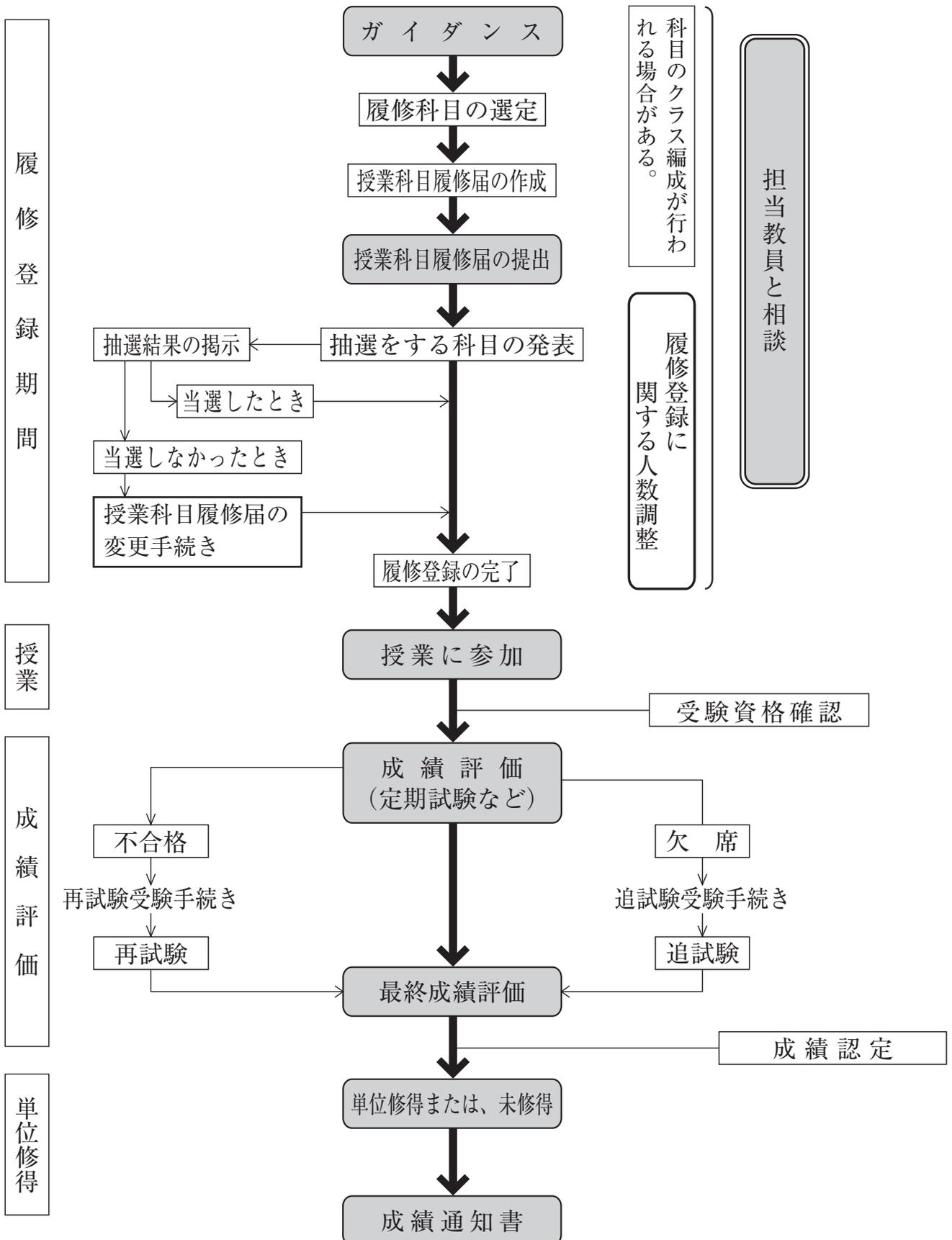
6 単位の修得

科目を履修し、単位を修得するためには、次の各項のいずれも欠けてはならない。

- 1 科目について、定められた方式によって履修登録を行う。
 - 2 履修登録を行った科目の授業に出席する。
 - 3 定期試験の受験、もしくはレポート等の提出を行うなど、定められた方法によって、合格の評価を得る。
 - 4 専攻科幼児保育専攻においては、「卒業研究」を定められた方法によって提出し、合格の評価を得る。
- ※ 履修ガイダンスから単位修得までの概要を、次ページに図示した。

(1) 履修登録

【履修ガイダンスから単位の修得まで】



履修登録について

【履修ガイダンス】

履修に関するガイダンスが開催される。授業科目の履修方法、履修の手続き等について具体的な指示があるので、必ず出席しなければならない。

【履修科目の登録】

「授業科目履修届」に、本年度（前期、後期、通年）履修するすべての科目を登録すること。

1. 諸届の提出窓口は、すべて、教務・学生支援課である。原則として、本人が提出する。
2. 履修届提出期間中は、履修登録の追加を認める。ただし、取り消しをすることはできない。
3. 履修届提出締切以降は、原則として変更を認めない。
4. 後期の講義開始前に、履修登録確認期間が設定される。
5. 後期履修登録確認期間が実習と重なっている場合には、別途日程を提示する。
6. 具体的な日程については、「年間行事予定」を参照すること。また、日程や受付時間については、掲示により変更が発表されることがあるので、注意すること。

履修登録の責任

履修登録は、学生各自の計画のもとに、一人ひとりの責任によって行われる。定められた期間中に履修登録をしなかった科目については、成績・単位は与えられない。

したがって、登録の誤りのために、その年度に卒業ができなくなることもある。各アシスタントおよび担当教員は、履修計画の立案の際に助言を与えるが、登録についての責任は本人が負うものであるため、慎重に手続きを行うことが必要である。

資格の取得を希望する場合

各種の資格取得を希望する学生は、資格取得に関する専門教育科目を履修しなければならない。

CAP制度

本学では、単位制度を実質化し、学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く真に身につけることを目的とし、「CAP制度」を導入している。

「CAP制度」とは、単位の過剰登録を防ぐため、1年間または1学期間に履修登録できる単位の上限を設ける制度をいう。

本学では、履修登録上限単位を、1年間で50単位と定めている。

対象となる科目は、卒業要件に算入できる科目であるが、以下の場合は、上限を超えて履修登録を認めている。

- ①所定の単位を優れた成績をもって修了したとき
- ②免許・資格取得を前提に、必要な授業科目を履修するとき

他学年の科目の履修

他学年向けの科目の受講を希望する場合には、当該科目の担当教員の承諾が必要である。
このときも、履修登録と受講については、前項と同様である。

重複登録の禁止

同一の時限に開講される複数の科目に対して、同時に履修登録を行うことはできない。

人数調整を行う科目

専門教育科目の基礎教養系列科目において、教室の大きさや授業運営の都合などにより、受講人数を制限する必要がある科目がある。

専門教育科目の基礎教養系列科目の選択科目において、登録者が多数にのぼる場合、人数調整が行われる。
最終的には、抽選による調整を行う。

抽選の結果を無視して、履修登録をすることはできない。あえて履修登録を申請したものは、当該科目についての登録は無効となる。

【抽選による人数調整について】

抽選を行う科目の履修登録の手順は、以下のとおりである。

[基礎教養系列の科目]

- 1 人数調整は、教務・学生支援課において行われる。
 - 2 抽選結果の発表（掲示による）
- ※ 当選した場合は、当初の登録のとおり履修が認められる（特に手続きは必要ない）。
 - ※ 当選せず、科目を変更しなければならなくなった場合は、すみやかに登録の変更を行う。
この登録を怠ると、科目の履修は認められないことになる（教務・学生支援課の指示に従う）。

[基礎教養系列以外の科目]

人数調整は、学科において行われる。

登録確認期間

登録期間中、学生は常に『学生要覧・講義要項』、「授業科目履修届」のコピー、成績表を携帯しておくこと。

○登録確認期間に訂正できることは、次のとおりである。

- ①資格等に係わる科目の追加登録
- ②重複登録の場合の訂正
- ③卒業・修了単位が足りない場合の追加登録

○後期登録確認期間には、次の各項の手続きができる。

- ①資格に係わる科目の追加登録
- ②卒業・修了単位が足りない場合の追加登録
- ③条件付科目の取り下げ

他大学等で修得する単位

本学入学前に、他大学において修得した単位は、15単位を限度として、認められる。

他大学等において修得した単位は、「単位修得証明書」を、ガイダンス時に教務・学生支援課に提出する。

なお、他大学で単位を修得する必要がある場合、アシステンテおよび教務・学生支援課に相談の上、手続きを進める。

(2) 授業への参加

出席

- 学生は、履修登録を行った科目の授業に参加することができる。
- 各授業において、各科目の担当教員が出欠を確認する。教務・学生支援課職員が、これを補助する場合がある。
- 履修登録を行った科目について、原則として各科目開講回数の3分の2以上の出席が満たされると、その科目の定期試験の受験資格および単位修得資格を得ることができる。
半期科目……各期における開講回数の3分の2以上の出席を要する。
通年科目……各期、あるいは通年における開講回数の3分の2以上の出席を要する。

欠席

- 欠席は、本人の落ち度ではなく、やむを得ない事情によるものも含む。
※やむを得ない事情：本人の病気・けが、交通機関の障害・不通、気象警報発令の場合、忌引き、就職試験、実習
- 履修登録を行った科目の授業に欠席し、出席回数が開講回数の3分の2に満たない時、学生はその科目の定期試験の受験資格および単位修得資格を失う。例えば、15回授業を5回欠席し、遅刻または早退を1回した場合、定期試験の受験資格および単位修得資格を失う。遅刻・早退の回数が、合わせて3回になった時、1回の欠席回数として計上する。
※ただし、やむを得ない事情での欠席等は、担当教員により、しかるべき処置をとる場合がある。
- 3回欠席すると、科目担当教員から学科のアシスタントへ連絡が入る場合がある。
- 病気等により長期の欠席が見込まれる場合には、すみやかにアシスタント、クラスアドバイザーに相談し、しかるべき処置をとる。
- インフルエンザ等「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に定められている感染症により欠席する場合は、必ず医療機関による診断を受け、本学が指定する「病気治癒証明書」（本学のWebサイトからダウンロード可）または医師の診断書を、登校できるようになった時点で、教務・学生支援課に提出する。

遅刻

- 授業開始に遅れ、授業開始のチャイムから15分までに入室した場合、遅刻とみなされる。
15分を越えた後に入室した場合、その科目は欠席とみなされる。
- 遅刻した際、学生はその授業の終了時までには必ず担当教員に申告をし、確認すること。
- 交通機関の事故等の事情のために遅刻した場合には、登校後、教務・学生支援課窓口で、交通路線及び遅延時間を記入した「遅延証明書」（電子版を含む）を提出あるいは提示し、「遅刻届」に必要事項を記入し、担当教員に提出すれば、30分以内の入室を遅刻扱い、30分を超えて到着の場合は欠席扱いとなる。ただし、恒常的な交通渋滞による遅延はその限りではなく、遅刻とされる。

早退

- 事情により授業終了時より15分前から退室する場合を、早退とする。
- 早退を希望する学生は、事前に早退する科目の担当教員に申し出て、許可を得なければならない。

忌 引

○忌引は、出席扱いにならないが、近親者の死去により、欠席をした場合は、会葬案内・礼状等の葬祭業者等が発行する書類に本人との続柄を明記し、教務・学生支援課に提出すること。

【忌引の範囲】

1 等親 両親・・・・・・・・・・・・・・ 7日間

2 等親 祖父母・兄弟姉妹・・・・・・・・ 3日間

3 等親 伯（叔）父母、曾祖父母・・ 1日間

○日数は死去した日、または葬儀の日から連続して数え、本学の休日（休業日）も忌引日数に含めて数える。ただし、遠距離の場合、移動日数を考慮することもある。

大規模な交通機関にトラブルが発生した場合

大規模な交通機関の事故、あるいは台風・地震等による災害により、首都圏の JR 線および大手私鉄線が広範に運行を停止されることが予想される場合、前日までに、メール連絡ツール「イーパ (e-pa)」あるいは本学 Web サイトにて、授業の有無と実施、形態の連絡を行う。

また、当日早朝、首都圏の JR 線および大手私鉄線の運行が広範に停止された場合、午前 6 時を過ぎても交通機関が復旧されないときは、全日「遠隔授業」とする。

※なお、交通機関の復旧時間については、テレビ・ラジオ等による報道を基準とする。

※遠隔授業の実施については、各授業担当教員の指示に従うこと。

気象警報発令の場合

(通常授業期間内)

「東京都 23 区全域」に、気象警報「大雨（土砂災害、浸水害）」「暴風」「暴風雪」「大雪」、特別警報「大雨（土砂災害、浸水害）特別警報」、「暴風特別警報」「暴風雨特別警報」「大雪特別警報」のいずれかが発表され、翌日も警報が解除される見込みがない場合、前日までに、メール連絡ツール「イーパ (e-pa)」あるいは大学 Web サイトにて、授業の有無と実施、形態の連絡を行う。

※特別警報が発表された場合は、住んでいる地域が数十年に一度の、これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状態にあるため、ただちに地元市町村の避難情報に従うなど、適切な行動をとること。

注 1) 情報の入手方法（必ず各自で確認すること。）

気象庁サイト（ホームページ <http://www.jma.go.jp/>）

気象庁トップページ → 「気象警報・注意報」をクリック → 府県に「東京都」を選択

→ 「発表状況一覧」をクリック → 23 区西部・東部の全域に「警報」または「特別警報」が出ているか確認する。

注 2) 原則として、本学への電話による問い合わせはしない。

遠隔授業

○遠隔授業の形態

①課題提出型

学生が対面式授業で配布された、授業科目の教材・課題のプリントをもとに自宅学習を行い、期日までに、授業担当教員に提出物（レポート製作物等）を提出する方法。

②オンデマンド型

授業担当教員がインターネットツールを利用し、学生に直接、Google Classroom、メール連絡ツール「(イーパ (e-pa))」等により提示した課題、講義録画ビデオを作成した上で配信した授業内容を学生が見て、課題に取り組む方法（Google Classroom、イーパ (e-pa)、YouTube 等）。

③同時双方向型

時間割に基づき、リアルタイムで教員がインターネットツールを用いて配信を行い、各学生もパソコンやスマートフォンでインターネットに接続し、双方向で授業を行う方法。（Google Meet 等）。

※祭日の授業や土曜日の補講は、「課題提出型」または「オンデマンド型」の組み合わせで行われる。

※「同時双方向型」の授業は、個別指導等、必要に応じて行われる。

○注意事項

- ・授業担当者から指示があるまでは、Google Classroom から退室しないこと。
- ・成績評価が確定する前に課題を削除すると「欠席扱い」となる。
- ・遠隔授業の課題には、真摯に取り組むこと。白紙は「欠席扱い」となる。

実習期間中の授業

- 実習期間中（幼稚園教育実習、保育実習等）の授業は基本的には実施せず、授業回数 15 回を確保するために、補講日に授業が実施されるか、あるいは、「土曜日補講授業」が実施される。但し、8 回授業等で授業回数を確保できない場合は、実習期間中に授業相当の課題が課される。
- 実習期間が変更になり、授業を受けられなかった学生のためには、授業相当の課題が課される。その課題を提出することにより「出席扱い」となるが、課題を提出しない場合は「欠席」となる。
- 「特別支援学校教育実習」の「見学実習」は、「実習扱い」となる。

(3) 試験

定期試験

- 1 前期・後期の授業終了時期に行われる試験を、「定期試験」という。
- 2 定期試験では筆記試験のほかに、小論文、レポート、作品の提出、実技・実習等によって成績評価が行われる場合がある。
- 3 試験は、授業期間の中で実施されることがある。
- 4 定期試験の実施日程、時間割は掲示等により発表する。質問等があれば、担当教員または、教務・学生支援課に直接確認すること。
- 5 以下に該当する場合には、定期試験を受験することができない。

【定期試験の受験資格】

- ①当該科目の履修登録がなされていないとき。
- ②欠席回数が規定を越えたなどの理由により、授業に参加したと認定されないとき。
(欠席等についての詳細な規定は、別項「(2) 授業への参加」を参照すること。)
- ③教授会において、受験資格が認められなかったとき。
- ④授業料の納入が完了していないとき。
(受験後、受験資格が認められなかった場合は、その試験は無効となる。)

定期試験を受験する際の注意

【筆記試験についての注意事項】

- 1 試験の実施に関する諸伝達（日程、試験場、時間割、試験時間など）は、担当教員より掲示やメール連絡網などをもって行う。
- 2 定期試験開始後に、試験場を途中で退出することは認められない。やむを得ない事情で退出する場合は、退出後に試験場に戻ることはできない。
- 3 試験中に机の上に置くことができるものは、筆記用具（ペンケースは不可）のみである。その他の物は、かばんの中にしまっておくこと。
- 4 各種携帯端末等の電源を切り、かばんの中にしまっておくこと。携帯端末を時計として使用することはもちろん、机の上に置くことも認められない。
- 5 試験中は、教員、試験監督の指示に従う。
- 6 次の場合には、教員、試験監督より試験場から退場することが命じられ、答案は無効となる。
 - ①不正行為が発見されたとき。
他者の答案、試験の内容に関する事柄を記入した紙片や携帯電話等を見て、自分の答案用紙に書き写したことが認められたとき、また、試験の内容に関する事柄を記入した紙片や携帯電話等が、机上または身辺に発見されたとき、指示された持ち込み物以外のものを持ち込んだときは、不正行為とみなされる。
 - ②私語、不正な態度について、注意を受けても改めないとき。
 - ③教員、試験監督の指示に、ただちに従わないとき。
- 7 試験に際し、不正行為があった場合は、学則第75条により懲戒処分が行われる。あわせて、当該科目の成績は抹消される。
- 8 病気等やむを得ない事情がないにもかかわらず、試験に欠席した場合は、筆記試験は、0点となる。
- 9 試験開始後15分を越えて遅刻した場合、欠席と見なされ、原則としてその試験を受験することはできない。(追試験・再試験の場合も同様とする。)
ただし、交通機関のトラブル等により遅刻した場合は、通常の授業時と同様に「遅延届」を提出す

れば、30分以内の入室を遅刻扱い、30分を超えての到着は欠席扱いとする。

※ただし、受験については許可されることがあるので、教室に行き、教員の指示に従うこと。

※その他のやむを得ない事情での欠席は、p 36【追試験の受験資格】参照

10 追試験・再試験の受験の場合は、受験票を試験監督者に提示しなければならない。

【筆記試験以外のレポート・作品提出についての注意事項】

- 1 レポート・作品などは提出期日・時間を厳守し、指定されたところに提出する。提出期日・時間を過ぎたものは、理由を問わず受理されない。
- 2 担当教員から書式・用紙などが指示された場合は、指示に従うこと。
- 3 レポート提出票を貼付し、記入は黒のボールペンを使用する。
- 4 レポート提出票には、担当教員名をフルネームで記載する。
- 5 公表された著作物、写真等を引用あるいはコピーして使用する場合は、著作権法により出所の明示が義務づけられているので、注意すること。

定期試験の遅刻・欠席の扱い

試験開始	15分	30分
遅刻	欠席	
「遅延届」を提出した場合、遅刻 ※登校不可能の場合のみ教務・学生支援課に電話連絡すること		欠席

※その他のやむを得ない事情での欠席は、p 36【追試験の受験資格】参照

追 試 験

- 1 やむを得ない事情（病気・事故等）によって定期試験が受験できなかった学生に対して、別の日程で試験を実施する場合がある。これを追試験という。
- 2 追試験実施後の成績評価は、A, B, C, D, Xとする。別項「成績評価の方法」を参照。
- 3 追試験の日程・時間割は、所定の日時まで、担当教員から伝達される。

【追試験の受験資格】

- ① 定期試験の受験資格がある学生のみ、追試験を受験することができる。
- ② 本人の落ち度ではなく、下記のやむを得ない事情により欠席した場合のみ、追試験を受験することができる。書類等は、ただちに教務・学生支援課に提出し、必ず受験資格を確認すること。

	事 情	証明する書類	手続き等
1	本人の病気・けが	医療機関発行の書類（※）	原則、事前に（または事後速やかに）教務・学生支援課まで連絡する
2	交通機関の障害・不通	交通機関が発行する証明書	登校ができないことを、教務・学生支援課に電話連絡する
3	気象警報発令の場合		登校できないと判断した時点で、直ちに教務・学生支援課に電話連絡する
4	忌引き ※ p33 参照	会葬礼状など、証明となる葬祭業者等が発行する書類	事前に教務・学生支援課まで連絡する
5	就職試験	試験日時などがわかる証明書類	事前にキャリアセンターに申し出て、所定の証明書を教務・学生支援課に提出する
6	実習		事前に教務・学生支援課に申し出る

（※）医療費領収証・診療明細書・医師の診断書など

- ③ 上記以外に特殊な事由がある場合、追試験を受験するためには、教授会の許可が必要となる。

こうした場合、アシスタント、クラスアドバイザーおよび各科目の担当教員との連絡を密に取る必要がある。

- ④ 追試験で不合格点をとったときには、再試験を行うことがある。

【追試験の受験手続き】

- ① 追試験の受験資格者は、掲示やメール連絡網などにより、その学籍番号が発表される。
- ② 追試験受験者は、「定期試験欠席届」に、理由書または医師の診断書等を添えて、教務・学生支援課に提出する。また、所定の期日内に「追試験申込書」を受付窓口に提出し、手数料を納入して、受験票を受理する。
- ③ 追試験受験の手数料は、1科目につき800円とする。
- ④ 追試験が、筆記試験以外のレポート・作品等の提出であっても同様の手続きが必要である。
- ⑤ 追試験当日または提出時は、「**受験票**」を提示する。

再試験

- 1 成績評価において、合格点が得られなかった学生に対して、重ねて試験を実施する場合がある。これを再試験という。
- 2 再試験実施後の成績評価は、C、D、Xとする。別項「成績評価の方法」を参照。
- 3 再試験の実施の有無、日程・時間割については、所定の日時までに、掲示により発表する。
- 4 再試験にやむを得ない事情（病気・事故等）で欠席した場合は、再試験の追試験を行うことがある。
※【追試験の受験資格】参照
- 5 再試験で不合格をとったときは、その科目の単位は与えられない。必修科目の場合には、再履修が必要となる。

【再試験の受験手続き】

- ① 再試験の受験資格者は、掲示やメール連絡網などによりその学籍番号が発表される。
- ② 再試験受験者は、所定の期日内に「再試験申込書」を受付窓口に提出し、手数料を納入して、受験票を受理する。
- ③ 再試験受験の手数料は、1科目につき1,000円とする。
- ④ 再試験が、筆記試験以外のレポート・作品等の提出でも同様の手続きが必要である。
- ⑤ 再試験当日または提出時は、「**受験票**」を提示する。

※追試験および再試験の受験者が、所定の期日内に、受験手続きをとらなかった場合、受験資格を失う。したがって、その科目の単位は与えられないことになる。

成績評価の方法および GPA 制度

各科目の成績は、担当教員が、以下の素点を総合して評価する。シラバスの各教員が示す、成績評価の方法と配分を確認すること。

- 1 定期試験の成績
試験の成績（素点）、追試験、再試験の成績（素点）、随時行われた試験の成績、課せられた小論文・レポート等の評価を総合したもの
- 2 演習、実技、実習、研究発表等の評価
- 3 基本的な受講態度

成績は、〈A+、A、B、C、D〉の5段階によって評価される。〈D〉は不合格である。また、成績表

には、〈A+、A、B、C、D〉の成績評価が示される。その評価の算定の基準になった得点は、各科目の担当教員により100点満点で教務・学生支援課に報告される。

また、本学では履修登録科目の理解度を示す基準としてGPA制度に基づいた成績評価も行っている。GPA (Grade Point Average) とは、各成績評価に対してそれぞれポイント (GP) を定め、1単位あたりの成績の平均値を示すものであり、学力を証明する指標として用いることがある。したがって、履修科目を多く登録しても、不合格が多いと、GPA の値が小さくなる。選択科目および履修に際しては、各自が責任をもって管理すること。達成基準のGPA (B = 2.0) を下回った学生に対しては、面談等で学修指導を行うことがある。合格最低基準のGPA (C = 1.0) を下回った学生に対しては、面談や保護者に状況を文書で通知するなど、学修指導を行っている。

[成績評価の基準]

成績評価	得点	GP
A+	100点～90点	4.0
A	89点～80点	3.0
B	79点～70点	2.0
C	69点～60点	1.0
D	59点～0点	0
X (失格・放棄による不合格)	0点	

←達成基準
←合格最低基準

[GPA の算出方法]

$$GPA = \frac{\langle \text{履修登録した科目の GP} \times \text{その科目の単位数} \rangle \text{の総和}}{\text{履修登録した全科目の総単位数}}$$

※ GP (Grade Point) : 上記表を参照

- GPA は、成績表に記載され、奨学金審査や編入希望者の選考基準に活用される。順位について知りたい場合は、アシステンテに申し出ること。
- 通年科目の成績は、**前期得点**と**後期得点**を総合的に勘案した、**通年の得点**によって評価する。したがって、通年科目においては、不合格に相当する前期得点を得た場合でも、後期の学習成果によっては挽回をすることが可能である。
- 前期末の定期試験 (本試験および追試験・再試験) が終了した後に、前期の成績表が出される。
- また、年度末に通年の成績表が出される。この成績表には、通年科目および後期科目に加えて、前期科目の成績も記載される。つまり、年度末の成績表には、通算および当該年度の履修科目に関するすべての成績が記録されることになる。
- 年度末に出された通年の成績表は、保護者にも郵送する。
- 成績評価について疑問・質問のある場合は、科目担当教員に申し出ること。

単位を修得できなかった科目について

【必修科目の単位を修得できなかった場合】

必修科目の単位を修得できなかった学生は、次年度において、その科目を再履修するものとする。

【選択科目の単位を修得できなかった場合】

履修登録をした科目 (必修科目をのぞく) のうち、いずれかの科目の単位を修得できなかったために、卒業に必要な単位数が満たない場合には、必要な単位を次年度以降に履修することになる。

7 学 籍

入学、学士入学、短期大学士入学、再入学、転入学、休学、復学、転学、退学および除籍については、学則第4章第11条から22条に規定されている。

病気などにより欠席が長期におよぶ場合、あるいは、在学中に海外に留学し、その後に復学して卒業したいとき、また転学、退学を望むときなどには、アシスタント、クラスアドバイザーと相談の上、しかるべき手続きを取ることになる。

8 研究倫理

「卒業研究」における研究倫理ガイドライン

「卒業研究」をはじめとする研究活動を行う場合、以下に示す**研究倫理**におけるルールを守らなければならない。研究を計画し実施する段階においては、以下の事項を熟読し、担当の指導教員からの助言・指導を受けながら進めることが求められる。

1. 基本原則

保育・教育に関する研究・実践活動等の実施及び公表において、これらの研究活動に参加する人の基本的人権に常に配慮しなければならない。とりわけ、子ども及びその家族の利益と幸福を損なうことがあってはならない。

2. 研究実施のための配慮・説明責任

- (1) 保育・教育に関する研究・実践活動を行う際、研究協力者に対して、あらかじめ研究目的、研究内容等を十分に説明し、同意を得た上で行うこと。
- (2) 研究協力者への研究内容の説明や同意は、できる限り丁寧に行うこと。可能な限り、研究の内容を説明し協力を要請する文書（依頼文）を準備し、口頭での丁寧な説明を加えるものとする。
- (3) インタビューやアンケート等、データの収集・採取するにあたり、研究協力者に対し、何らかの身体的・精神的負担または苦痛を伴うことがないか、担当の指導教員とよく相談し、指導を得ながら進めること。
- (4) 研究の途中であっても、研究協力者が同意を撤回することができることをあらかじめ伝えること。撤回の申し出があった時には、即日に関係する個人情報やデータなどを廃棄すること。

3. 情報管理の厳守

- (1) 本学教員及び学生は、研究・実践活動等によって得られた個人情報については、それを厳重に保管・管理し、研究目的以外に使用してはならない。また、研究のために利用する同意を得た情報以外は利用してはならない。
- (2) 情報管理の方法については、必ず担当の指導教員の指導を受けること。

4. 研究データ・資料の適切な取り扱い

研究雑誌、絵本、書籍などの文献、インターネット記事、作品を取り扱う際、盗用、ねつ造、改ざんなどの不正な手段を用いてはならない。また、これらの不正手段が行われないように、こうしたものの取り扱いについては、担当の指導教員の指導を受けること。

5. 研究成果の公表に伴う責任

- (1) 研究・実践活動等で得られた成果を、学会や書籍などに公表することが生じた場合、公表に際しては、あらかじめ研究協力者の同意を得なければならない。
- (2) 研究論文の執筆にあたっては、差別的表現や不適切な表現に十分に注意を払い、他者に不利益が及ぶことのないよう配慮しなければならない。

6. 研鑽の義務

研究倫理の遵守と、人や社会への誠実性を促進するために、研究倫理についての情報を常に確認し、学ぶ意欲・姿勢をもつこと。

3 教育課程と開講科目一覧

「カリキュラム・マップ」「カリキュラム・ツリー」「科目ナンバリングコード」 (保育者養成課程の概要)

本学では、幼児保育学科および専攻科幼児保育専攻において、「ディプロマポリシー」(DP)を定めている。「ディプロマポリシー」とは、本学の教育理念に基づき、どのような能力を身につけた者に卒業や修了を認定し、学位を授与するのかを定めた方針である。

「カリキュラム・マップ」は授業科目と「ディプロマポリシー」の関連を示した表である。一方、「カリキュラム・ツリー」は、個々の授業科目をどのような順序で学ぶのか、どの授業科目が相互に関連しているのかを図示している。「科目ナンバリングコード」は、授業科目に番号を付し分類することで学習の段階や順序等を示し、教育課程の体系性を明示している。

2023年度・2024年度に幼児保育学科に入学した学生は、「2023年度・2024年度入学生用 カリキュラム・マップ、ツリー」(P42-45)を2022年度に幼児保育学科に入学した学生は、「2022年度入学生用 カリキュラム・マップ、ツリー」(P48-51)を参照されたい。このマップでは、各年次における学修段階を定めた。1年次は「保育の基礎を学ぶ」段階、2年次は「保育の専門性を身につける」段階、専攻科は「保育の専門性を深める」段階である。さらに、授業科目群を資格に応じた形式的分類ではなく、以下のように、学修内容に応じた内容的分類を行っている。

- ・社会人の基礎科目群
- ・保育の目的と基礎科目群
- ・子どもの理解と支援科目群
- ・保育の内容と指導法科目群
- ・保育の実践科目群

カリキュラム・ツリーでは、これら5つの科目群における個々の授業科目の順序性を理解することができる。

本学の教育課程を通じて、「ディプロマポリシー」で定めた目標を達成するために、どのような知識・技能・技術を修得していけばよいのか、いかなる順序で学びが進んでいくのかを展望するために活用してほしい。

2023 (令和5) 年度・2024 (令和6) 年度入学生 星美学園短期大学幼児保育学科 カリキュラムマップ

系 列	授 業 科 目	ディプロマ・ポリシー				
		1	2	3	4	5
基礎教養	キリスト教学	○				
	人間学Ⅰ	○				
	人間学Ⅱ	○				
	基礎英語Ⅰ	○				
	基礎英語Ⅱ	○				
	イタリア語入門Ⅰ	○				
	イタリア語入門Ⅱ	○				
	聖書学特講	○				
	ドン・ボスコ研究	○				
	心理学	○				
	日本国憲法	○	○			
	情報処理	○	○			
	健康科学	○	○			
	体育実技	○	○			
教育	教育原理		○			
	保育者論		○			
	教育方法論		○	○		
	保育・教育課程論		○			
	保育・教職実践演習(幼稚園)		○	○	○	○
	特別支援教育総論		○			
	障害者教育総論(知・肢・病)		○			
	重複障害・LD等教育論		○			
	知的障害者教育論(指導法を含む)		○	○	○	
	肢体不自由者教育論(指導法を含む)		○	○	○	
	病弱者教育論(指導法を含む)		○	○	○	
視覚・聴覚言語障害者教育論(指導法を含む)		○	○	○		
保育	保育原理		○			
	乳児保育Ⅰ		○	○	○	
	乳児保育Ⅱ		○	○	○	
	障がい児保育Ⅰ		○	○	○	
	障がい児保育Ⅱ		○	○	○	
	保育内容総論		○	○	○	
心理・人間関係	教育相談基礎論		○	○		
	発達心理学		○	○		
	子どもの理解と援助		○	○		
	子ども家庭支援の心理学		○	○		
	幼児と人間関係		○	○	○	
	保育内容の指導法「人間関係」		○	○	○	
	知的障害者の心理・生理・病理		○	○		
	肢体不自由者の心理・生理・病理		○	○		
	病弱者の心理・生理・病理		○	○		
	自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理		○	○		
	自閉スペクトラム症者の支援		○	○		
視覚障害者の心理・生理・病理		○	○			
聴覚言語障害者の心理・生理・病理		○	○			
言葉	幼児と表現(言葉)		○	○	○	
	幼児と言葉(国語表現を含む)		○	○	○	
	保育内容の指導法「言葉」		○	○	○	
福祉	社会福祉論		○			
	子ども家庭福祉		○			
	子ども家庭支援論		○			
	子育て支援		○	○	○	
	社会的養護Ⅰ		○			
	社会的養護Ⅱ		○	○	○	
環境	保育内容の指導法「環境」		○	○		
	音楽基礎演習Ⅰ		○	○	○	
表現(音楽)	音楽基礎演習Ⅱ		○	○	○	
	幼児と表現(音楽)Ⅰ		○	○	○	
	幼児と表現(音楽)Ⅱ		○	○	○	
	幼児と表現(音楽)Ⅲ		○	○	○	
	保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ		○	○	○	
	保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ		○	○	○	

表現（造形）	幼児と表現（造形）Ⅰ		○	○	○	
	幼児と表現（造形）Ⅱ		○	○	○	
	保育内容の指導法「表現（造形）」		○	○	○	
健康	幼児と健康Ⅰ		○	○	○	
	幼児と健康Ⅱ		○	○	○	
	保育内容の指導法「健康」		○	○	○	
	子どもの保健		○	○		
	子どもの健康と安全		○	○	○	
	子どもの食と栄養Ⅰ		○	○		
情報	子どもの食と栄養Ⅱ		○	○		
	教育情報学		○	○		
教育実習	幼稚園教育実習（事前事後の指導を含む）		○	○	○	○
	特別支援学校教育実習（事前事後の指導を含む）		○	○	○	○
保育実習	保育実習Ⅰ（保育所）		○	○	○	○
	保育実習指導Ⅰ（保育所）		○	○	○	○
キャリア	幼児保育キャリア演習Ⅰ	○			○	○
	幼児保育キャリア演習Ⅱ	○			○	○

2023（令和5）年度・2024（令和6）年度入学生 星美学園短期大学専攻科幼児保育専攻 カリキュラムマップ

系列	授 業 科 目	ディプロマ・ポリシー				
		1	2	3	4	5
教養・キャリア	人格論	○				
	幼児保育キャリア演習Ⅲ	○			○	○
幼児教育研究	卒業研究ゼミナール	○	○	○	○	○
	卒業研究	○	○	○	○	○
	特別演習A		○	○		
	特別演習B		○	○		
	特別演習C		○	○		
	特別演習D		○	○		
	特別演習E		○	○		
	特別演習F		○	○		
	特別演習G		○	○		
	特別演習H		○	○		
	特別演習I		○	○		
	特別演習J		○	○		
	特別演習K		○	○		
	特別演習L		○	○		
	特別演習M		○	○		
	特別演習N		○	○		
	特別演習O		○	○		
	特別演習P		○	○		
	特別演習Q		○	○		
	特別演習R		○	○		
特別演習S		○	○			
特別演習T		○	○			
特別演習U		○	○			
特別演習V		○	○			
特別演習W		○	○			
特別演習X		○	○			
保育士必修	子どもの食と栄養Ⅰ		○	○		
	子どもの食と栄養Ⅱ		○	○		
	社会的養護Ⅰ		○			
	社会的養護Ⅱ		○	○	○	
	子育て支援		○	○	○	
	保育実習Ⅰ（施設）		○	○	○	○
	保育実習指導Ⅰ（施設）		○	○	○	○
	保育実習Ⅱ（保育所）		○	○	○	○
	保育実習指導Ⅱ（保育所）		○	○	○	○
	保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）		○	○	○	○
保育実習指導Ⅲ（保育所以外の施設）		○	○	○	○	
資格必修	ベビーシッター論		○	○	○	○
	発達障がい児指導法演習		○	○	○	○

2023 年度・2024 年度入学生 星美学園短期大学 幼児

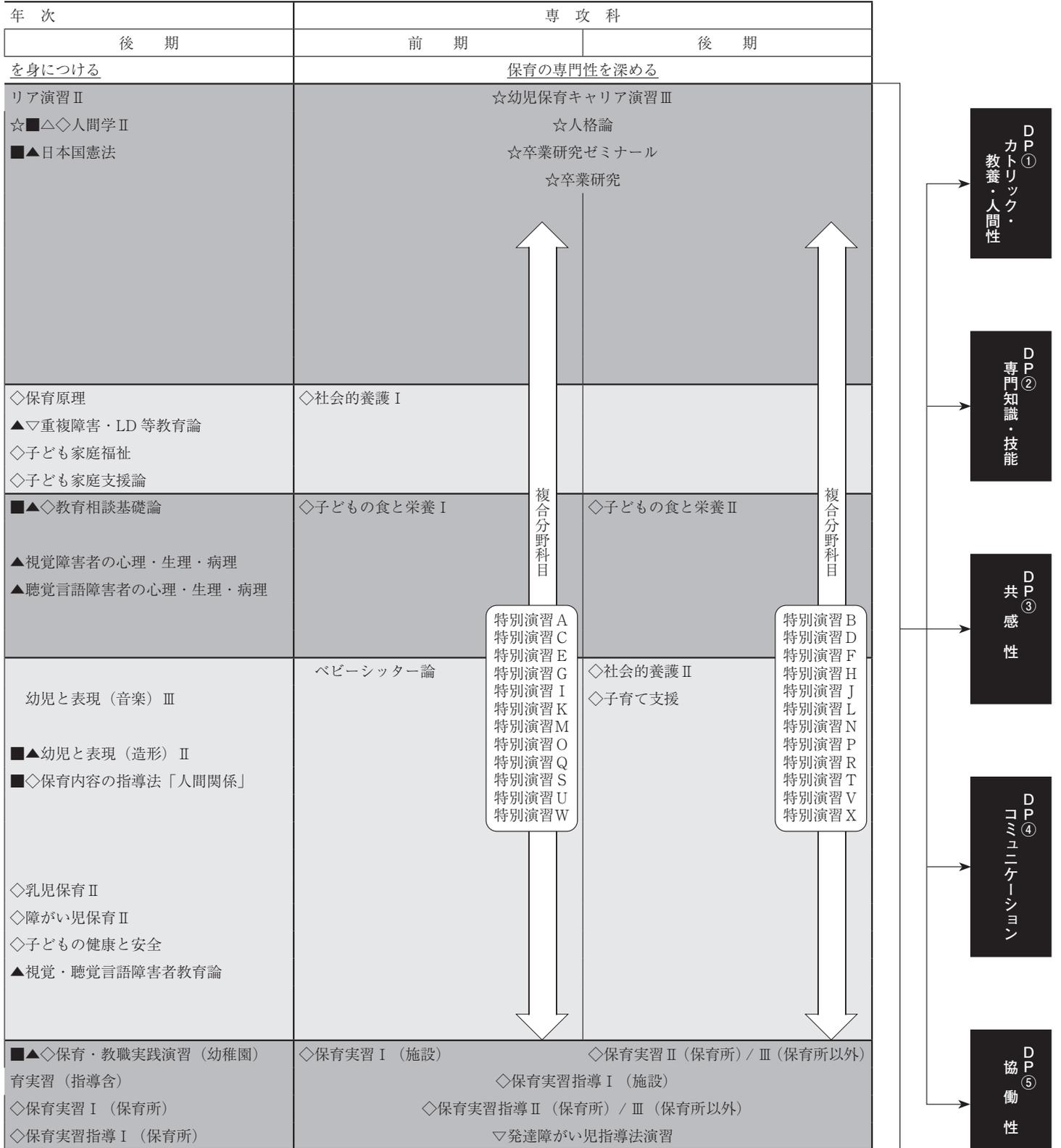
科目群名称 (上：教職課程) (下：保育士養成課程)	1 年 次		2
	前 期	後 期	前 期
	保育の基礎を学ぶ		保育の専門性
社会人の基礎 (施行規則第 66 条の 6 に定める科目) (教養科目)	☆幼児保育キャリア演習 I ☆■△◇キリスト教学 ★■△◇基礎英語 I ★■△◇イタリア語入門 I ■▲情報処理 ■◇健康科学	★■△◇基礎英語 II ★■△◇イタリア語入門 II 聖書学特講 ドン・ボスコ研究 心理学 ■▲◇体育実技	☆◇幼児保育キャ ☆■△◇人間学 I
保育の目的と基礎 (教育の基礎的理解に関する科目) (保育の本質・目的に関する科目)	■▲◇教育原理	■▲◇保育・教育課程論 ■▲▽◇特別支援教育総論 ▲▽障害者教育総論(知・肢・病)	■▲◇保育者論 ◇社会福祉論
子どもの理解と支援 (道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目) (保育の対象の理解に関する科目)	■▲◇発達心理学 ■▲◇教育方法論 ▲▽自閉スペクトラム症者の心・生・病 ▲▽自閉スペクトラム症者の支援	◇子どもの理解と援助 ■▲教育情報学	◇子ども家庭支援の心理学 ◇子どもの保健 ▲▽知的障害者の心理・生理・病理 ▲肢体不自由者の心理・生理・病理 ▲病弱者の心理・生理・病理
保育の内容と指導法 (領域及び保育内容の指導法に関する科目) (保育の内容・方法に関する科目)	■▲◇幼児と健康 I ■◇幼児と表現(音楽) I 幼児と表現(言葉) ■▲◇保育内容の指導法「表現(造形)」 音楽基礎演習 I	■▲◇幼児と言葉(国語表現を含む) ■▲◇保育内容の指導法「環境」 ■▲◇保育内容の指導法「表現(音楽)」I 音楽基礎演習 II	■▲幼児と健康 II 幼児と表現(音楽) II ■▲◇幼児と人間関係 ■▲◇幼児と表現(造形) I ■▲◇保育内容の指導法「健康」 ■▲◇保育内容の指導法「言葉」 ■▲◇保育内容の指導法「表現(音楽)」II ◇保育内容総論 ◇乳児保育 I ◇障がい児保育 I ▲知的障害者教育論 ▲肢体不自由者教育論 ▲病弱者教育論
保育の実践 (教育実践に関する科目) (保育実習、総合演習)	■▲幼稚園教育実習(指導含)【前期】		■▲幼稚園教育実習(指導含)【後期】 ▲特別支援学校教

(注1) 各科目名称の記号について

☆：卒業必修科目 ★：卒業選択必修 ■：幼稚園教諭二種免許状必修科目 ▲：特別支援学校教諭二種免許状必修科目 ▽：発達障が

(注2) 各科目の横に記載された番号①～⑤は、ディプロマポリシー(DP)の番号①～⑤と対応している。

保育学科・専攻科幼児保育専攻 カリキュラム・ツリー



い児保育ベーシックプログラム必修科目 ◇：保育士となる資格必修科目

社会人の基礎科目	保育の目的と基礎科目	子どもの理解と支援科目
Y1-1A001 ☆幼児保育キャリア演習Ⅰ	Y2-1A001 ■▲◇教育原理	Y3-1A001 ■▲◇発達心理
Y1-1A002 ☆■▲◇キリスト教学	Y2-1B002 ■▲◇保育・教育課程論	Y3-1A002 ◇子どもの理解
Y1-1A003 ★■▲◇基礎英語Ⅰ	Y2-1A003 ■▲▽◇特別支援教育総論	Y3-1A003 ■▲◇教育方法
Y1-1A004 ★■▲◇基礎英語Ⅱ	Y2-1A004 ▲▽障害者教育総論(知・肢・病)	Y3-1A004 ■▲教育情報学
Y1-1A005 ★■▲◇イタリア語入門Ⅰ	Y2-2A001 ■▲◇保育者論	Y3-1A005 ▲▽自閉スペクトラム
Y1-1A006 ★■▲◇イタリア語入門Ⅱ	Y2-2A002 ◇保育原理	Y3-1A006 ▲▽自閉スペク
Y1-1A009 聖書学特講	Y2-2B003 ▲▽重複障害・LD等教育論	Y3-2A001 ◇子ども家庭支
Y1-1A010 ドン・ボスコ研究	Y2-2A004 ◇社会福祉論	Y3-2B002 ■▲◇教育相談
Y1-1A011 心理学	Y2-2A005 ◇子ども家庭福祉	Y3-2A003 ◇子どもの保健
Y1-1A012 ■▲情報処理	Y2-2B006 ◇子ども家庭支援論	Y3-2A004 ▲▽知的障害者の
Y1-1A014 ■◇健康科学	Y2-3A001 ◇社会的養護Ⅰ	Y3-2A005 ▲肢体不自由者の
Y1-1A015 ■▲◇体育実技		Y3-2A006 ▲病弱者の心理
Y1-2B001 ☆幼児保育キャリア演習Ⅱ		Y3-2A007 ▲視覚障害者の
Y1-2B002 ☆■▲◇人間学Ⅰ		Y3-2A008 ▲聴覚言語障害者
Y1-2B003 ☆■▲◇人間学Ⅱ		Y3-3A001 ◇子どもの食と
Y1-2A004 ■▲日本国憲法		Y3-3A002 ◇子どもの食と
Y1-3C001 ☆幼児保育キャリア演習Ⅲ		
Y1-3C002 ☆人格論		
Y1-3C003 ☆卒業研究ゼミナール		
Y1-3C004 ☆卒業研究		

(注1) 各科目名称の記号について

☆：卒業必修科目

★：卒業選択必修科目

■：幼稚園教諭二種免許状必修科目

▲：特別支援学校教諭二種免許状必修科目

▽：発達障がい児保育ベーシックプログラム必修科目

◇：保育士となる資格必修科目

(注2) 科目のコードについて

Y1 - 1 A 001

① ② ③ ④

	①学問分野	②学年	③難易度	④通
Y1	社会人の基礎	1 短大1年	A 基礎	001 順
Y2	保育の目的と基礎	2 短大2年	B 発展	
Y3	子どもの理解と支援	3 専攻科	C 応用	
Y4	保育の内容と指導法			
Y5	保育の実践			
Y6	複合分野			

科目ナンバリングコード一覧

	保育の内容と指導法	保育の実践
学	Y4-1A001 ■▲幼児と健康Ⅰ	Y5-1C001 ■▲幼稚園教育実習(指導含)
と援助	Y4-1A002 ■▲◇幼児と言葉(国語表現を含む)	Y5-2C002 ▲特別支援学校教育実習(指導含)
論	Y4-1A003 ■▲◇幼児と表現(音楽)Ⅰ	Y5-2C003 ■▲◇保育・教職実践演習(幼稚園)
	Y4-1A004 幼児と表現(言葉)	Y5-2C004 ◇保育実習Ⅰ(保育所)
症者の心理・生理・病理	Y4-1B005 ■▲◇保育内容の指導法「表現(造形)」	Y5-2C005 ◇保育実習指導Ⅰ(保育所)
トラム症者の支援	Y4-1B006 ■▲◇保育内容の指導法「環境」	Y5-3C001 ◇保育実習Ⅰ(施設)
援の心理学	Y4-1B007 ■▲◇保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ	Y5-3C002 ◇保育実習指導Ⅰ(施設)
基礎論	Y4-1A008 音楽基礎演習Ⅰ	Y5-3C003 ◇保育実習Ⅱ(保育所)
	Y4-1A009 音楽基礎演習Ⅱ	Y5-3C004 ◇保育実習指導Ⅱ(保育所)
心理・生理・病理	Y4-2A001 ■▲幼児と健康Ⅱ	Y5-3C005 ◇保育実習Ⅲ(保育所以外)
心理・生理・病理	Y4-2A002 ■▲◇幼児と人間関係	Y5-3C006 ◇保育実習指導Ⅲ(保育所以外)
・生理・病理	Y4-2A003 ■▲◇幼児と表現(造形)Ⅰ	Y5-3C007 ▽発達障がい児指導法演習
心理・生理・病理	Y4-2A004 ■▲幼児と表現(造形)Ⅱ	
の心理・生理・病理	Y4-2A005 幼児と表現(音楽)Ⅱ	
栄養Ⅰ	Y4-2A006 幼児と表現(音楽)Ⅲ	複合分野
栄養Ⅱ	Y4-2B007 ■▲◇保育内容の指導法「健康」	Y6-3B001 特別演習A
	Y4-2B008 ■▲◇保育内容の指導法「言葉」	Y6-3B002 特別演習B
	Y4-2B009 ■▲◇保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ	Y6-3B003 特別演習C
	Y4-2B010 ■▲◇保育内容の指導法「人間関係」	Y6-3B004 特別演習D
	Y4-2A011 ◇保育内容総論	Y6-3B005 特別演習E
	Y4-2B012 ◇乳児保育Ⅰ	Y6-3B006 特別演習F
	Y4-2B013 ◇乳児保育Ⅱ	Y6-3B007 特別演習G
	Y4-2B014 ◇障がい児保育Ⅰ	Y6-3B008 特別演習H
	Y4-2B015 ◇障がい児保育Ⅱ	Y6-3B009 特別演習I
	Y4-2B016 ◇子どもの健康と安全	Y6-3B010 特別演習J
	Y4-2B017 ▲知的障害者教育論	Y6-3B011 特別演習K
	Y4-2B018 ▲肢体不自由者教育論	Y6-3B012 特別演習L
	Y4-2B019 ▲病弱者教育論	Y6-3B013 特別演習M
	Y4-2B020 ▲視覚・聴覚言語障害者教育論	Y6-3B014 特別演習N
	Y4-3B001 ベビーシッター論	Y6-3B015 特別演習O
	Y4-3B002 ◇社会的養護Ⅱ	Y6-3B016 特別演習P
	Y4-3B003 ◇子育て支援	Y6-3B017 特別演習Q
		Y6-3B018 特別演習R
		Y6-3B019 特別演習S
		Y6-3B020 特別演習T
		Y6-3B021 特別演習U
		Y6-3B022 特別演習V
		Y6-3B023 特別演習W
		Y6-3B024 特別演習X

し番号
次

2022（令和4）年度入学生 星美学園短期大学幼児保育学科 カリキュラムマップ

系 列	授 業 科 目	ディプロマ・ポリシー				
		1	2	3	4	5
基礎教養	キリスト教学	○				
	人間学Ⅰ	○				
	人間学Ⅱ	○				
	基礎英語Ⅰ	○				
	基礎英語Ⅱ	○				
	イタリア語入門Ⅰ	○				
	イタリア語入門Ⅱ	○				
	聖書学特講	○				
	ドン・ボスコ研究	○	○	○		
	心理学	○				
	日本国憲法	○	○			
	情報処理	○	○			
	健康科学	○				
	体育実技	○	○			
教育	教育原理		○			
	保育者論		○	○		
	教育方法論		○	○	○	○
	保育・教育課程論		○	○	○	
	保育・教職実践演習（幼稚園）		○	○	○	○
	特別支援教育総論		○	○		
	障害者教育総論（知・肢・病）		○	○		
	重複障害・LD等教育論		○	○		
	知的障害者教育論（指導法を含む）		○	○	○	○
	肢体不自由者教育論（指導法を含む）		○	○	○	
	病弱者教育論（指導法を含む）		○	○	○	
視覚・聴覚言語障害者教育論（指導法を含む）		○	○	○		
保育	保育原理		○	○		
	乳児保育Ⅰ		○	○		
	乳児保育Ⅱ		○	○		
	障がい児保育Ⅰ		○	○		
	障がい児保育Ⅱ		○	○		
	保育内容総論		○	○	○	
心理・人間関係	教育相談基礎論		○	○		
	発達心理学		○	○		
	子どもの理解と援助		○	○		
	子ども家庭支援の心理学		○	○		
	幼児と人間関係		○	○		
	保育内容の指導法「人間関係」		○	○	○	
	知的障害者の心理・生理・病理		○	○		
	肢体不自由者の心理・生理・病理		○	○		
	病弱者の心理・生理・病理		○	○		
	自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理		○	○		
	自閉スペクトラム症者の支援		○	○		
言葉	幼児と表現（言葉）		○	○	○	
	幼児と言葉（国語表現を含む）		○		○	
	保育内容の指導法「言葉」		○	○	○	
福祉	社会福祉論	○	○			
	子ども家庭福祉	○	○			
	子ども家庭支援論		○	○		
	子育て支援		○	○	○	
	社会的養護Ⅰ		○	○		
	社会的養護Ⅱ		○	○		
環境	保育内容の指導法「環境」		○	○	○	
	音楽基礎演習Ⅰ		○			
表現（音楽）	音楽基礎演習Ⅱ		○	○		
	幼児と表現（音楽）Ⅰ		○	○		
	幼児と表現（音楽）Ⅱ		○	○		
	幼児と表現（音楽）Ⅲ		○	○		
	保育内容の指導法「表現（音楽）」Ⅰ		○	○	○	○
	保育内容の指導法「表現（音楽）」Ⅱ		○	○		

表現（造形）	幼児と表現（造形）Ⅰ		○	○		
	幼児と表現（造形）Ⅱ		○	○		
	保育内容の指導法「表現（造形）」		○	○	○	○
健康	幼児と健康Ⅰ		○	○	○	
	幼児と健康Ⅱ		○	○	○	
	保育内容の指導法「健康」		○	○	○	○
	子どもの保健		○	○		
	子どもの健康と安全		○	○		
	子どもの食と栄養Ⅰ		○	○		
情報	子どもの食と栄養Ⅱ		○	○		
	教育情報学	○	○	○		
教育実習	幼稚園教育実習（事前事後の指導を含む）		○	○	○	○
	特別支援学校教育実習（事前事後の指導を含む）		○	○	○	○
保育実習	保育実習Ⅰ（保育所）		○	○	○	○
	保育実習指導Ⅰ（保育所）		○	○	○	○
キャリア	幼児保育キャリア演習Ⅰ	○	○		○	○
	幼児保育キャリア演習Ⅱ	○	○		○	○

2022（令和4）年度入学生 星美学園短期大学専攻科幼児保育専攻 カリキュラムマップ

系列	授 業 科 目	ディプロマ・ポリシー				
		1	2	3	4	5
教養・キャリア	人格論	○				
	幼児保育キャリア演習Ⅲ	○	○		○	○
幼児教育研究	卒業研究ゼミナール	○	○	○	○	○
	卒業研究		○		○	
	特別演習 A		○	○		○
	特別演習 B		○	○		○
	特別演習 C		○	○		○
	特別演習 D		○	○		○
	特別演習 E		○	○		○
	特別演習 F		○	○		○
	特別演習 G		○	○		○
	特別演習 H		○	○		○
	特別演習 I		○	○		○
	特別演習 J		○	○		○
	特別演習 K		○	○		○
	特別演習 L		○	○		○
	特別演習 M		○	○		○
	特別演習 N		○	○		○
	特別演習 O		○	○		○
	特別演習 P		○	○		○
	特別演習 Q		○	○		○
	特別演習 R		○	○		○
特別演習 S		○	○		○	
特別演習 T		○	○		○	
特別演習 U		○	○		○	
特別演習 V		○	○		○	
特別演習 W		○	○		○	
特別演習 X		○	○		○	
保育士必修	子どもの食と栄養Ⅰ		○	○		
	子どもの食と栄養Ⅱ		○	○		
	社会的養護Ⅰ		○	○		
	社会的養護Ⅱ		○	○		
	子育て支援		○	○	○	
	保育実習Ⅰ（施設）		○	○	○	○
	保育実習指導Ⅰ（施設）		○	○	○	○
	保育実習Ⅱ（保育所）		○	○	○	○
	保育実習指導Ⅱ（保育所）		○	○	○	○
	保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）		○	○	○	○
保育実習指導Ⅲ（保育所以外の施設）		○	○	○	○	
資格必修	ベビーシッター論		○	○		
	発達障がい児指導法演習		○	○	○	○

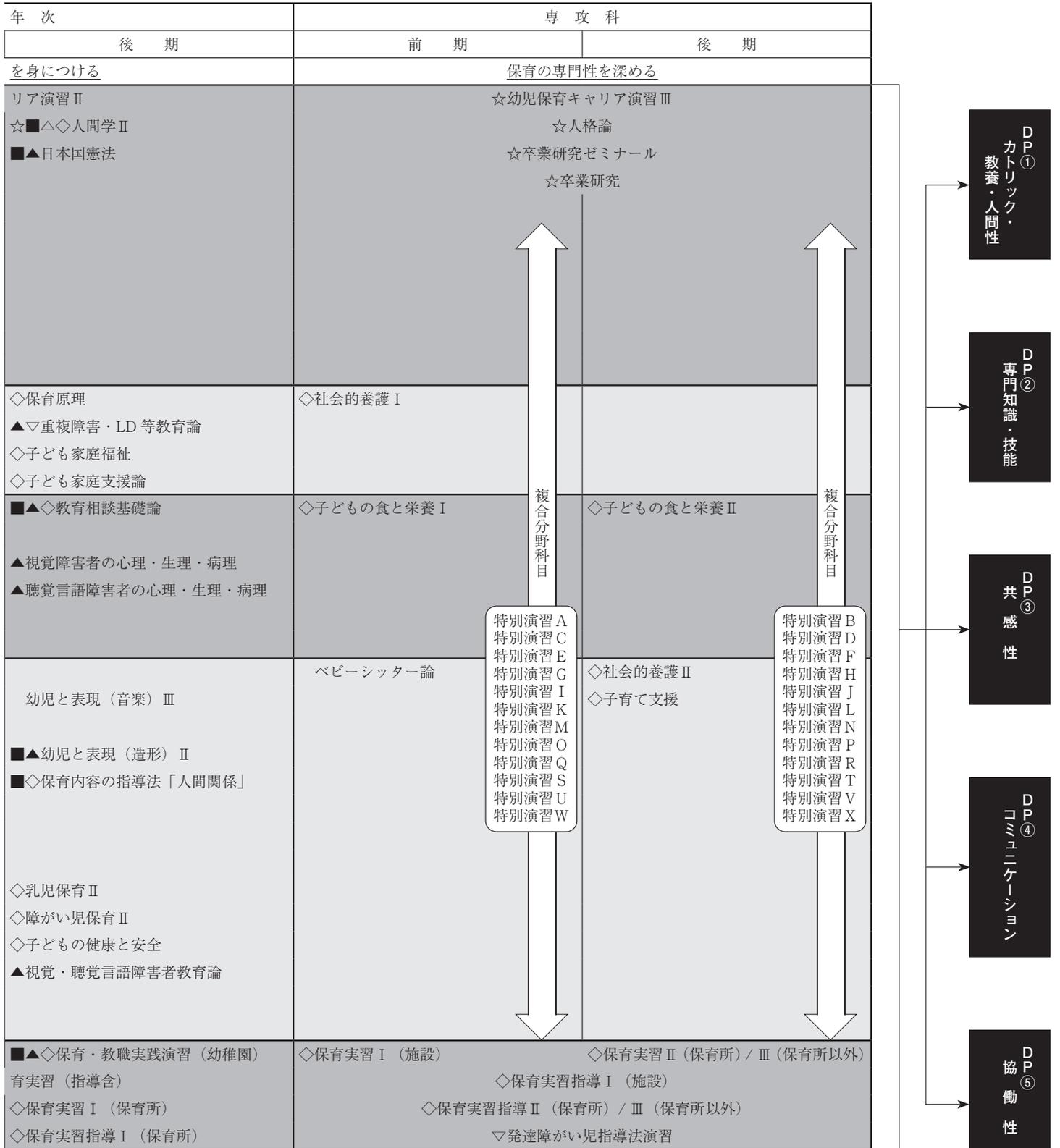
科目群名称 (上：教職課程) (下：保育士養成課程)	1 年 次		2
	前 期	後 期	前 期
	保育の基礎を学ぶ		保育の専門性
"社会人の基礎" (施行規則第 66 条の 6 に定める科目) (教養科目)	☆幼児保育キャリア演習 I ☆■△◇キリスト教学 ★■△◇基礎英語 I ★■△◇イタリア語入門 I ■▲情報処理 ■◇健康科学	★■△◇基礎英語 II ★■△◇イタリア語入門 II 聖書学特講 ドン・ボスコ研究 心理学 ■▲◇体育実技	☆◇幼児保育キャ ☆■△◇人間学 I
保育の目的と基礎 (教育の基礎的理解に関する科目) (保育の本質・目的に関する科目)	■▲◇教育原理	■▲◇保育・教育課程論 ■▲▽◇特別支援教育総論 ▲▽障害者教育総論(知・肢・病)	■▲◇保育者論 ◇社会福祉論
子どもの理解と支援 (道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目) (保育の対象の理解に関する科目)	■▲◇発達心理学 ■▲◇教育方法論 ▽自閉スペクトラム症者の心・生・病 ▽自閉スペクトラム症者の支援	◇子どもの理解と援助 ■▲教育情報学	◇子ども家庭支援の心理学 ◇子どもの保健 ▲▽知的障害者の心理・生理・病理 ▲肢体不自由者の心理・生理・病理 ▲病弱者の心理・生理・病理
保育の内容と指導法 (領域及び保育内容の指導法に関する科目) (保育の内容・方法に関する科目)	■▲◇幼児と健康 I ■◇幼児と表現(音楽) I 幼児と表現(言葉) ■▲◇保育内容の指導法「表現(造形)」 音楽基礎演習 I	■▲◇幼児と言葉(国語表現を含む) ■▲◇保育内容の指導法「環境」 ■▲◇保育内容の指導法「表現(音楽)」I 音楽基礎演習 II	■▲幼児と健康 II 幼児と表現(音楽) II ■▲◇幼児と人間関係 ■▲◇幼児と表現(造形) I ■▲◇保育内容の指導法「健康」 ■▲◇保育内容の指導法「言葉」 ■▲◇保育内容の指導法「表現(音楽)」II ◇保育内容総論 ◇乳児保育 I ◇障がい児保育 I ▲知的障害者教育論 ▲肢体不自由者教育論 ▲病弱者教育論
保育の実践 (教育実践に関する科目) (保育実習、総合演習)	■▲幼稚園教育実習(指導含)【前期】		■▲幼稚園教育実習(指導含)【後期】 ▲特別支援学校教

(注 1) 各科目名称の記号について

☆：卒業必修科目 ★：卒業選択必修 ■：幼稚園教諭二種免許状必修科目 ▲：特別支援学校教諭二種免許状必修科目 ▽：発達障が

幼児保育 学科 DP	①カトリックの価値観に基づき、幅広い視野に立って、社会人としての教養と、豊かな人間性を身につけている。 ②保育をする上で必要な基本的な知識・技術を身につけ、説明したり、実践したりすることができる。 ③子どもをいとおしむ心とまなざしをもち、子どもの立場に立って考えたり、共感することができる。 ④保育をする上で、適切な言葉を用いて話す力、書く力を身につけている。 ⑤他者と協働しながら計画・実施・振り返り・改善する体験を通して、社会性を身につけている。
----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学科・専攻科幼児保育専攻 カリキュラム・ツリー



い児保育ベーシックプログラム必修科目 ◇：保育士となる資格必修科目

- | | |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専攻科
幼児保育
専攻
DP | ①カトリックの価値観に基づき、幅広い視野に立って人間や社会について理解し、また理解を深めていく素養を身につけている。
②さまざまな保育技術のうち、自ら選んだ分野に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力することができる。
③さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけている。
④保育や子どもにかかわる事象・諸問題を、文献や実践・現場調査から客観的な判断に基づいて説明することができる。
⑤保育のチームティーチングを行うために、チームの一員として協議や企画に積極的に参画することができる。 |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

社会人の基礎科目	保育の目的と基礎科目	子どもの理解と支援科目
Y1-1A001 ☆幼児保育キャリア演習Ⅰ	Y2-1A001 ■▲◇教育原理	Y3-1A001 ■▲◇発達心理
Y1-1A002 ☆■▲◇キリスト教学	Y2-1B002 ■▲◇保育・教育課程論	Y3-1A002 ◇子どもの理解
Y1-1A003 ★■▲◇基礎英語Ⅰ	Y2-1A003 ■▲▽◇特別支援教育総論	Y3-1A003 ■▲◇教育方法
Y1-1A004 ★■▲◇基礎英語Ⅱ	Y2-1A004 ▲▽障害者教育総論(知・肢・病)	Y3-1A004 ■▲教育情報学
Y1-1A005 ★■▲◇イタリア語入門Ⅰ	Y2-2A001 ■▲◇保育者論	Y3-1A005 ▽自閉スペクトラム
Y1-1A006 ★■▲◇イタリア語入門Ⅱ	Y2-2A002 ◇保育原理	Y3-1A006 ▽自閉スペクト
Y1-1A009 聖書学特講	Y2-2B003 ▲▽重複障害・LD等教育論	Y3-2A001 ◇子ども家庭支
Y1-1A010 ドン・ボスコ研究	Y2-2A004 ◇社会福祉論	Y3-2B002 ■▲◇教育相談
Y1-1A011 心理学	Y2-2A005 ◇子ども家庭福祉	Y3-2A003 ◇子どもの保健
Y1-1A012 ■▲情報処理	Y2-2B006 ◇子ども家庭支援論	Y3-2A004 ▲▽知的障害者の
Y1-1A014 ■◇健康科学	Y2-3A001 ◇社会的養護Ⅰ	Y3-2A005 ▲肢体不自由者の
Y1-1A015 ■▲◇体育実技		Y3-2A006 ▲病弱者の心理
Y1-2B001 ☆幼児保育キャリア演習Ⅱ		Y3-2A007 ▲視覚障害者の
Y1-2B002 ☆■▲◇人間学Ⅰ		Y3-2A008 ▲聴覚言語障害者
Y1-2B003 ☆■▲◇人間学Ⅱ		Y3-3A001 ◇子どもの食と
Y1-2A004 ■▲日本国憲法		Y3-3A002 ◇子どもの食と
Y1-3C001 ☆幼児保育キャリア演習Ⅲ		
Y1-3C002 ☆人格論		
Y1-3C003 ☆卒業研究ゼミナール		
Y1-3C004 ☆卒業研究		

(注1) 各科目名称の記号について

☆：卒業必修科目

★：卒業選択必修科目

■：幼稚園教諭二種免許状必修科目

▲：特別支援学校教諭二種免許状必修科目

▽：発達障がい児保育ベーシックプログラム必修科目

◇：保育士となる資格必修科目

(注2) 科目のコードについて

Y1 - 1 A 001

① ② ③ ④

	①学問分野	②学年	③難易度	④通
Y1	社会人の基礎	1 短大1年	A 基礎	001 順
Y2	保育の目的と基礎	2 短大2年	B 発展	
Y3	子どもの理解と支援	3 専攻科	C 応用	
Y4	保育の内容と指導法			
Y5	保育の実践			
Y6	複合分野			

ナンバリングコード一覧

	保育の内容と指導法	保育の実践
学	Y4-1A001 ■▲幼児と健康Ⅰ	Y5-1C001 ■▲幼稚園教育実習（指導含）
と援助	Y4-1A002 ■▲◇幼児と言葉(国語表現を含む)	Y5-2C002 ▲特別支援学校教育実習（指導含）
論	Y4-1A003 ■▲◇幼児と表現（音楽）Ⅰ	Y5-2C003 ■▲◇保育・教職実践演習（幼稚園）
	Y4-1A004 幼児と表現（言葉）	Y5-2C004 ◇保育実習Ⅰ（保育所）
症者の心理・生理・病理	Y4-1B005 ■▲◇保育内容の指導法「表現(造形)」	Y5-2C005 ◇保育実習指導Ⅰ（保育所）
ラム症者の支援	Y4-1B006 ■▲◇保育内容の指導法「環境」	Y5-3C001 ◇保育実習Ⅰ（施設）
援の心理学	Y4-1B007 ■▲◇保育内容の指導法「表現(音楽)」Ⅰ	Y5-3C002 ◇保育実習指導Ⅰ（施設）
基礎論	Y4-1A008 音楽基礎演習Ⅰ	Y5-3C003 ◇保育実習Ⅱ（保育所）
	Y4-1A009 音楽基礎演習Ⅱ	Y5-3C004 ◇保育実習指導Ⅱ（保育所）
心理・生理・病理	Y4-2A001 ■▲幼児と健康Ⅱ	Y5-3C005 ◇保育実習Ⅲ（保育所以外）
心理・生理・病理	Y4-2A002 ■▲◇幼児と人間関係	Y5-3C006 ◇保育実習指導Ⅲ（保育所以外）
・生理・病理	Y4-2A003 ■▲◇幼児と表現（造形）Ⅰ	Y5-3C007 ▽発達障がい児指導法演習
心理・生理・病理	Y4-2A004 ■▲幼児と表現（造形）Ⅱ	
の心理・生理・病理	Y4-2A005 幼児と表現（音楽）Ⅱ	
栄養Ⅰ	Y4-2A006 幼児と表現（音楽）Ⅲ	
栄養Ⅱ	Y4-2B007 ■▲◇保育内容の指導法「健康」	複合分野
	Y4-2B008 ■▲◇保育内容の指導法「言葉」	Y6-3B001 特別演習A
	Y4-2B009 ■▲◇保育内容の指導法「表現(音楽)」Ⅱ	Y6-3B002 特別演習B
	Y4-2B010 ■▲◇保育内容の指導法「人間関係」	Y6-3B003 特別演習C
	Y4-2A011 ◇保育内容総論	Y6-3B004 特別演習D
	Y4-2B012 ◇乳児保育Ⅰ	Y6-3B005 特別演習E
	Y4-2B013 ◇乳児保育Ⅱ	Y6-3B006 特別演習F
	Y4-2B014 ◇障がい児保育Ⅰ	Y6-3B007 特別演習G
	Y4-2B015 ◇障がい児保育Ⅱ	Y6-3B008 特別演習H
	Y4-2B016 ◇子どもの健康と安全	Y6-3B009 特別演習I
	Y4-2B017 ▲知的障害者教育論	Y6-3B010 特別演習J
	Y4-2B018 ▲肢体不自由者教育論	Y6-3B011 特別演習K
	Y4-2B019 ▲病弱者教育論	Y6-3B012 特別演習L
	Y4-2B020 ▲視覚・聴覚言語障害者教育論	Y6-3B013 特別演習M
	Y4-3B001 ベビーシッター論	Y6-3B014 特別演習N
	Y4-3B002 ◇社会的養護Ⅱ	Y6-3B015 特別演習O
	Y4-3B003 ◇子育て支援	Y6-3B016 特別演習P
		Y6-3B017 特別演習Q
		Y6-3B018 特別演習R
		Y6-3B019 特別演習S
		Y6-3B020 特別演習T
		Y6-3B021 特別演習U
		Y6-3B022 特別演習V
		Y6-3B023 特別演習W
		Y6-3B024 特別演習X

し番号
次

1 幼児保育学科

2024・2023 年度入学生

幼児保育学科 ディプロマ・ポリシー

幼児保育学科では、以下に挙げる資質・能力を身につけ、所定の単位を修めた学生に学位を与える。

DP1 カトリック・教養・人間性

カトリックの価値観に基づき、幅広い視野に立って、社会人としての教養と、豊かな人間性を身につけている。

DP2 専門知識・技能

保育の基本的な知識・技術を習得するとともに、多様性を受け入れて一人ひとりの子どもに応じた保育を考えることができる。

DP3 共感性

子どもをいとおしむ心とまなざしをもち、子どもの立場に立って考えたり、共感することができる。

DP4 コミュニケーション

保育において必要とされる表現力と伝達力を身につけている。

DP5 協働性

社会の一員として貢献し、他者と連携・協働できる能力を身につけている。

幼児保育学科 カリキュラム・ポリシー

幼児保育学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針によってカリキュラムを編成している。

1. カトリックの価値観および創立者ドン・ボスコの精神を学ぶことができる。

2. 社会人としての基礎的な知識・教養が習得できる。

3. 保育の基本的な知識・技能が習得できる。
(幼稚園教諭二種免許状の取得および保育士資格の取得準備ができる)

4. 障がいの理解およびインクルーシブ保育に関わる基本的な知識、対応力・指導力が習得できる。
(特別支援学校教諭二種免許状の取得および発達障がい児保育ベーシックプログラムの取得準備ができる)

DP1 カトリック・教養・人間性

DP2 専門知識・技能

5. 子どもの理解と支援のための基礎的な知識と、子どもの視点に立って考える態度を習得できる。 } DP3 共感性
6. 保育で必要とされる表現力、伝達力が習得できる。 } DP4 コミュニケーション
7. 他者と協働し、一つの目標に取り組む実践的な学びを通して、社会性を習得できる。 } DP5 協働性

幼児保育学科の学習成果

幼児保育学科では、ディプロマ・ポリシーに対応する、以下の学習成果を定めている。

1. カトリックの価値観をふまえつつ、現代社会の諸問題を柔軟に捉えることができる思考力を習得している。 } DP1 カトリック・教養・人間性
2. 社会人として必要な基礎的な知識・教養を習得している。 }
3. 保育の基本的な知識・技術を総合的に習得し、子どもの最善の利益に向けて、子どもに寄り添った保育を計画できる。 } DP2 専門知識・技能
4. 障がい児を保育する上で必要とされる基本的な知識・技術を理解し、インクルーシブ保育に必要な思考力・判断力を習得している。 }
5. 子どもの姿を多面的に理解・判断するための知識・技術を習得し、一人ひとりの子どもに愛情をもって関わる姿勢を身につけている。 } DP3 共感性
6. 保育者として必要な表現力、伝達力として適切な言葉で話す・書く力を習得している。 } DP4 コミュニケーション
7. 集団の目標達成に向かって保育者として他者と協働しながら、自らの実践を客観的に振り返り改善する姿勢を身につけている。 } DP5 協働性

— 2024・2023・2022 入学生履修パターン —

幼児保育学科	卒業に必要な単位	64 単位	2024（令和6）・2023（令和5）・2022（令和4）年度幼児保育学科入学
専攻科幼児保育専攻	修了に必要な単位	22 単位	2026（令和8）・2025（令和7）・2024（令和6）年度専攻科入学

履修パターン **【必要単位数】**

A 幼稚園教諭二種免許

		卒業要件	1 年次	2 年次	計
幼児保育学科専門教育科目	必修科目 基礎教養	4	2	2	4
	選択必修 外国語	2	2	0	2
	選択科目 必修基礎教養	1	5 4	1	1
	選択科目	5 3		3 1	3 4
	必修科目 キャリア	4	2	2	4
短期大学卒業（2年間）修得単位	計	6 4	3 8	3 8	7 6

B 保育士資格<保育士養成3年課程 93単位以上>

		卒業要件	1 年次	2 年次	計	
幼児保育学科専門教育科目	必修科目 基礎教養	4	2	2	4	
	選択必修 外国語	2	2	0	2	
	選択科目 必修基礎教養	1	5 4	1	1	
	選択科目	5 3		3 1	4 0	7 1
	必修科目 キャリア	4	2	2	4	
短期大学卒業（2年間）修得単位	計	6 4	3 8	4 4	8 2	
		修了要件	-	-	専攻科	計
専攻科幼児保育専攻専門教育科目	修了必修	1 0	-	-	1 0	1 0
	選択科目	1 2	-	-	1 8	1 8
専攻科修了（1年間）修得単位	計	2 2	-	-	2 8	2 8
短期大学卒業+専攻科修了（3年間）[保育士養成施設卒業] 修得単位	計					1 1 0

**C 幼稚園教諭二種免許
保育士資格<保育士養成3年課程 93単位以上>
発達障がい児保育ベーシックプログラム修了**

		卒業要件	1 年次	2 年次	計	
幼児保育学科専門教育科目	必修科目 基礎教養	4	2	2	4	
	選択必修 外国語	2	2	0	2	
	選択科目 必修基礎教養	1	5 4	1	1	
	選択科目	5 3		3 1	4 5	7 6
	必修科目 キャリア	4	2	2	4	
短期大学卒業（2年間）修得単位	計	6 4	3 8	4 9	8 7	
		修了要件	-	-	専攻科	計
専攻科幼児保育専攻専門教育科目	修了必修	1 0	-	-	1 0	1 0
	選択科目	1 2	-	-	1 9	1 9
専攻科修了（1年間）修得単位	計	2 2	-	-	2 9	2 9
短期大学卒業+専攻科修了（3年間）[保育士養成施設卒業] 修得単位	計					1 1 6

**D 幼稚園教諭二種免許
特別支援学校教諭二種免許**

		卒業要件	1 年次	2 年次	計
幼児保育学科専門教育科目	必修科目 基礎教養	4	2	2	4
	選択必修 外国語	2	2	0	2
	選択科目 必修基礎教養	1	5 4	1	1
	選択科目	5 3		3 1	4 0
	必修科目 キャリア	4	2	2	4
短期大学卒業（2年間）修得単位	計	6 4	3 8	4 4	8 2

**E 幼稚園教諭二種免許
特別支援学校教諭二種免許
保育士資格<保育士養成3年課程 93単位以上>
発達障がい児保育ベーシックプログラム修了**

		卒業要件	1 年次	2 年次	計	
幼児保育学科専門教育科目	必修科目 基礎教養	4	2	2	4	
	選択必修 外国語	2	2	0	2	
	選択科目 必修基礎教養	1	5 4	1	1	
	選択科目	5 3		3 1	5 7	8 8
	必修科目 キャリア	4	2	2	4	
短期大学卒業（2年間）修得単位	計	6 4	3 8	6 1	9 9	
		修了要件	-	-	専攻科	計
専攻科幼児保育専攻専門教育科目	修了必修	1 0	-	-	1 0	1 0
	選択科目	1 2	-	-	1 9	1 9
専攻科修了（1年間）修得単位	計	2 2	-	-	2 9	2 9
短期大学卒業+専攻科修了（3年間）[保育士養成施設卒業] 修得単位	計					1 2 8

※星槎大学との教育連携により、本学在学中から「小学校教諭二種免許状」や「小学校教諭一種免許状」に必要な科目を履修することが可能です。免許状の取得に必要な単位数は、履修ガイダンスにて説明します。

A 幼稚園教諭二種免許

幼児保育学科専門教育科目

76



幼児保育学科専門教育科目				
必修	選択必修	選択		必修
基礎教養	外国語	基礎教養	基礎教養、教育、保育、心理・人間関係、言葉、福祉、環境、表現(音楽)、表現(造形)、健康、情報、教育実習、保育実習	キャリア
4	2	1	65	4
76				

B 保育士資格 <保育士養成3年課程 93単位以上>

幼児保育学科専門教育科目

専攻科幼児保育専攻
専門教育科目

82 **28**



幼児保育学科専門教育科目					専攻科幼児保育専攻専門教育科目	
必修	選択必修	選択		必修	必修	選択
基礎教養	外国語	基礎教養	基礎教養、教育、保育、心理・人間関係、言葉、福祉、環境、表現(音楽)、表現(造形)、健康、情報、教育実習、保育実習	キャリア	教養・キャリア、 幼児教育研究	幼児教育研究、保育士必修、資格必修
4	2	1	71	4	10	18
110						

C 幼稚園教諭二種免許

保育士資格 <保育士養成3年課程 93単位以上>
発達障がい児保育ベーシックプログラム修了

幼児保育学科専門教育科目

専攻科幼児保育専攻
専門教育科目

87 **29**



幼児保育学科専門教育科目					専攻科幼児保育専攻専門教育科目	
必修	選択必修	選択		必修	必修	選択
基礎教養	外国語	基礎教養	基礎教養、教育、保育、心理・人間関係、言葉、福祉、環境、表現(音楽)、表現(造形)、健康、情報、教育実習、保育実習	キャリア	教養・キャリア、 幼児教育研究	幼児教育研究、保育士必修、資格必修
4	2	1	76	4	10	19
87					29	
116						

D 幼稚園教諭二種免許

特別支援学校教諭二種免許

幼児保育学科専門教育科目

82



幼児保育学科専門教育科目				
必修	選択必修	選択		必修
基礎教養	外国語	基礎教養	基礎教養、教育、保育、心理・人間関係、言葉、福祉、環境、表現(音楽)、表現(造形)、健康、情報、教育実習、保育実習	キャリア
4	2	1	71	4
82				

E 幼稚園教諭二種免許

特別支援学校教諭二種免許
保育士資格 <保育士養成3年課程 93単位以上>
発達障がい児保育ベーシックプログラム修了

幼児保育学科専門教育科目

専攻科幼児保育専攻
専門教育科目

99 **29**



幼児保育学科専門教育科目					専攻科幼児保育専攻専門教育科目	
必修	選択必修	選択		必修	必修	選択
基礎教養	外国語	基礎教養	基礎教養、教育、保育、心理・人間関係、言葉、福祉、環境、表現(音楽)、表現(造形)、健康、情報、教育実習、保育実習	キャリア	教養・キャリア、 幼児教育研究	幼児教育研究、保育士必修、資格必修
4	2	1	88	4	10	19
99					29	
128						

履修パターンAの履修モデル 幼稚園教諭二種免許

* 社会福祉主事任用

* 准学校心理士

1年次						2年次						単位数		
幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育	B P	単位数	幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育		B P	単位数
キリスト教学	[必]					2	人間学Ⅰ	[必]					1	4
							人間学Ⅱ	[必]					1	
基礎英語Ⅰ	[外]					1								2
基礎英語Ⅱ	[外]					1								
健康科学	[必]					1								66 (卒業要件54以上)
心理学						2	日本国憲法		[幼]	[特]			2	
情報処理		[幼]	[特]			2								
体育実技		[幼]	[特]	[保]		1								
							保育者論		[幼]	[特]	[保]		2	
教育原理		[幼]	[特]	[保]		2	保育・教職実践演習(幼稚園)		[幼]	[特]	[保]		2	
教育方法論		[幼]	[特]	[保]		2	重複障害・LD等教育論			[特]		[BP]	2	
保育・教育課程論		[幼]	[特]	[保]		2	保育原理				[保]		2	
特別支援教育総論		[幼]	[特]		[BP]	2	乳児保育Ⅰ				[保]		2	
障害者教育総論(知・肢・病)			[特]		[BP]	2	乳児保育Ⅱ				[保]		1	
発達心理学		[幼]	[特]	[保]		2	障がい児保育Ⅰ				[保]		1	
子どもの理解と援助				[保]		1	障がい児保育Ⅱ				[保]		1	
自閉スペクトラム症児・者の心理・生理・病理			[特]		[BP]	1	保育内容総論		[幼]	[特]	[保]		1	
自閉スペクトラム症児・者の支援			[特]		[BP]	1	教育相談基礎論		[幼]	[特]			2	
幼児と表現(言葉)						1	幼児と人間関係		[幼]	[特]	[保]		1	
幼児と言葉(国語表現を含む)		[幼]	[特]	[保]		1	保育内容の指導法「人間関係」		[幼]	[特]	[保]		1	
保育内容の指導法「環境」		[幼]	[特]	[保]		1	知的障害者の心理・生理・病理			[特]		[BP]	1	
音楽基礎演習Ⅰ						1	保育内容の指導法「言葉」		[幼]	[特]	[保]		1	
音楽基礎演習Ⅱ						1	社会福祉論				[保]		2	
幼児と表現(音楽)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		2	保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」		[幼]	[特]	[保]		1	
保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」		[幼]	[特]	[保]		1	幼児と表現(造形)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1	
保育内容の指導法「表現(造形)」		[幼]	[特]	[保]		1	幼児と表現(造形)Ⅱ		[幼]	[特]	[保]		1	
幼児と健康Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1	幼児と健康Ⅱ		[幼]	[特]			1	
教育情報学		[幼]	[特]			1	保育内容の指導法「健康」		[幼]	[特]	[保]		1	
幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			0	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			5	
幼児保育キャリア演習Ⅰ	[必]					2	幼児保育キャリア演習Ⅱ	[必]					2	4
1年次 修得単位 計						38	2年次 修得単位 計						38	76
短期大学卒業						修得単位 計								

履修パターンBの履修モデル 保育士資格 <保育士養成3年課程 93単位以上>

- * 社会福祉主事任用
- * 准学校心理士
- * ピアヘルパー
- * 認定ベビーシッター

1年次							2年次							単位数		
幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育	B	P	単位数	幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育	B		P	単位数
キリスト教学	[必]						2	人間学Ⅰ	[必]						1	4
								人間学Ⅱ	[必]						1	
基礎英語Ⅰ	[外]						1								1	2
基礎英語Ⅱ	[外]						1								1	
健康科学	[必]						1	日本国憲法		[幼]	[特]				2	72 (卒業要件54以上)
ドン・ボスコ研究							2									
情報処理		[幼]	[特]				2									
体育実技		[幼]	[特]	[保]			1									
教育原理		[幼]	[特]	[保]			2	保育者論		[幼]	[特]	[保]			2	
教育方法論		[幼]	[特]	[保]			2	保育・教職実践演習(幼稚園)		[幼]	[特]	[保]			2	
保育・教育課程論		[幼]	[特]	[保]			2	重複障害・LD等教育論		[特]		[BP]			2	
特別支援教育総論		[幼]	[特]		[BP]		2	保育原理				[保]		2		
障害者教育総論(知・肢・病)			[特]		[BP]		2	乳児保育Ⅰ				[保]		2		
発達心理学		[幼]	[特]	[保]			2	乳児保育Ⅱ				[保]		1		
子どもの理解と援助				[保]			1	障がい児保育Ⅰ				[保]		1		
自閉スペクトラム症児・者の心理・生理・病理			[特]		[BP]		1	障がい児保育Ⅱ				[保]		1		
自閉スペクトラム症児・者の支援			[特]		[BP]		1	保育内容総論		[幼]	[特]	[保]		1		
幼児と表現(言葉)							1	教育相談基礎論		[幼]	[特]			2		
幼児と言葉(国語表現を含む)		[幼]	[特]	[保]			1	子ども家庭支援の心理学				[保]		2		
保育内容の指導法「環境」		[幼]	[特]	[保]			1	幼児と人間関係		[幼]	[特]	[保]		1		
音楽基礎演習Ⅰ							1	保育内容の指導法「人間関係」		[幼]	[特]	[保]		1		
音楽基礎演習Ⅱ							1	知的障害者の心理・生理・病理		[特]		[BP]		1		
幼児と表現(音楽)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]			2	保育内容の指導法「言葉」		[幼]	[特]	[保]		1		
保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」		[幼]	[特]	[保]			1	社会福祉論				[保]		2		
保育内容の指導法「表現(造形)」		[幼]	[特]	[保]			1	子ども家庭福祉				[保]		2		
幼児と健康Ⅰ		[幼]	[特]	[保]			1	子ども家庭支援論				[保]		2		
教育情報学		[幼]	[特]				1	保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」		[幼]	[特]	[保]		1		
								幼児と表現(造形)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1		
								幼児と表現(造形)Ⅱ		[幼]	[特]	[保]		1		
								保育内容の指導法「健康」		[幼]	[特]	[保]		1		
								子どもの保健				[保]		2		
								子どもの健康と安全				[保]		1		
幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]				0	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			0		
								保育実習Ⅰ(保育所)				[保]		2		
								保育実習指導Ⅰ(保育所)				[保]		1		
幼児保育キャリア演習Ⅰ	[必]						2	幼児保育キャリア演習Ⅱ	[必]					2	4	
1年次 修得単位 計							38	2年次 修得単位 計							44	82
短期大学卒業 (2年間) 修得単位 計																
専攻科																
専攻科幼児保育専攻専門科目								修了	幼二	特二	保育	B	P	単位数	単位数	
人格論								[必]						4	6	
幼児保育キャリア演習Ⅲ								[必]					2			
卒業研究ゼミナール								[必]					2	4		
卒業研究								[必]					2			
特別演習A													1	18 (修了要件12以上)		
特別演習B													1			
子どもの食と栄養Ⅰ											[保]		1			
子どもの食と栄養Ⅱ											[保]		1			
社会的養護Ⅰ											[保]		2			
社会的養護Ⅱ											[保]		1			
子育て支援Ⅰ(演習)											[保]		1			
保育実習Ⅰ(施設)											[保]		2			
保育実習指導Ⅰ(施設)											[保]		1			
保育実習Ⅱ(保育所)											[保]		2			
保育実習指導Ⅱ(保育所)											[保]		1			
ベビーシッター論													2			
発達障がい児指導法演習												[BP]	2			
修了 修得単位 計													28		28	
保育士養成施設卒業 (3年間) 修得単位 総計																
110																

履修パターンCの履修モデル 幼稚園教諭二種免許

保育士資格 <保育士養成3年課程 93単位以上>
発達障がい児保育ベーシックプログラム修了

- * 社会福祉主事任用
- * 准学校心理士
- * ピアヘルパー
- * 認定ベビーシッター

1年次							2年次							単位数		
幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保	B	P	単位数	幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保	B		P	単位数
キリスト教学	[必]						2	人間学Ⅰ	[必]						1	4
								人間学Ⅱ	[必]						1	
基礎英語Ⅰ	[外]						1								1	2
基礎英語Ⅱ	[外]						1								1	
健康科学	[必]						1	日本国憲法		[幼]	[特]				2	77 (卒業要件54以上)
聖書学特講							2									
情報処理		[幼]	[特]				2									
体育実技		[幼]	[特]	[保]			1									
教育原理		[幼]	[特]	[保]			2	保育者論		[幼]	[特]	[保]			2	
教育方法論		[幼]	[特]	[保]			2	保育・教職実践演習(幼稚園)		[幼]	[特]	[保]			2	
保育・教育課程論		[幼]	[特]	[保]			2	重複障害・LD等教育論		[特]			[BP]		2	
特別支援教育総論		[幼]	[特]		[BP]		2	保育原理					[保]		2	
障害者教育総論(知・肢・病)			[特]		[BP]		2	乳児保育Ⅰ					[保]		2	
発達心理学		[幼]	[特]	[保]			2	乳児保育Ⅱ					[保]		1	
子どもの理解と援助				[保]			1	障がい児保育Ⅰ					[保]		1	
自閉スペクトラム症児・者の心理・生理・病理			[特]		[BP]		1	障がい児保育Ⅱ					[保]		1	
自閉スペクトラム症児・者の支援			[特]		[BP]		1	保育内容総論		[幼]	[特]	[保]			1	
幼児と表現(言葉)							1	教育相談基礎論		[幼]	[特]				2	
幼児と言葉(国語表現を含む)		[幼]	[特]	[保]			1	子ども家庭支援の心理学					[保]		2	
保育内容の指導法「環境」		[幼]	[特]	[保]			1	幼児と人間関係		[幼]	[特]	[保]			1	
音楽基礎演習Ⅰ							1	保育内容の指導法「人間関係」		[幼]	[特]	[保]			1	
音楽基礎演習Ⅱ							1	知的障害者の心理・生理・病理		[特]			[BP]		1	
幼児と表現(音楽)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]			2	保育内容の指導法「言葉」		[幼]	[特]	[保]			1	
保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」		[幼]	[特]	[保]			1	社会福祉論					[保]		2	
保育内容の指導法「表現(造形)」		[幼]	[特]	[保]			1	子ども家庭福祉					[保]		2	
幼児と健康Ⅰ		[幼]	[特]	[保]			1	子ども家庭支援論					[保]		2	
教育情報学		[幼]	[特]				1	保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」		[幼]	[特]	[保]			1	
								幼児と表現(造形)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]			1	
								幼児と表現(造形)Ⅱ		[幼]	[特]	[保]			1	
								保育内容の指導法「健康」		[幼]	[特]	[保]			1	
								子どもの保健					[保]		2	
								子どもの健康と安全					[保]		1	
幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]				0	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]				5	
								保育実習Ⅰ(保育所)					[保]		2	
								保育実習指導Ⅰ(保育所)					[保]		1	
幼児保育キャリア演習Ⅰ	[必]						2								4	
								幼児保育キャリア演習Ⅱ	[必]							2
1年次 修得単位 計							38	2年次 修得単位 計							49	87
短期大学卒業 (2年間) 修得単位 計																
専攻科																
専攻科幼児保育専攻専門科目																
人格論	[必]						4	修了							4	6
幼児保育キャリア演習Ⅲ	[必]						2							2		
卒業研究ゼミナール	[必]						2							2	4	
卒業研究	[必]						2							2		
特別演習C							1							1	19 (修了要件12以上)	
特別演習D							1							1		
特別演習G							1							1		
子どもの食と栄養Ⅰ						[保]	1							1		
子どもの食と栄養Ⅱ						[保]	1							1		
社会的養護Ⅰ						[保]	2							2		
社会的養護Ⅱ						[保]	1							1		
子育て支援Ⅰ(演習)						[保]	1							1		
保育実習Ⅰ(施設)						[保]	2							2		
保育実習指導Ⅰ(施設)						[保]	1							1		
保育実習Ⅲ(保育所以外の施設)						[保]	2							2		
保育実習指導Ⅲ(保育所以外の施設)						[保]	1							1		
ベビーシッター論							2							2		
発達障がい児指導法演習						[BP]	2							2		
修了 修得単位 計							29							29		29
保育士養成施設卒業 (3年間) 修得単位 総計																

履修パターンDの履修モデル 幼稚園教諭二種免許
特別支援学校教諭二種免許

* 社会福祉主事任用
* 准学校心理士

1年次						2年次						単位数	
幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育	B P	単位数	幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育		B P
キリスト教学	[必]					2	人間学Ⅰ	[必]					1
							人間学Ⅱ	[必]					1
基礎英語Ⅰ	[外]					1							
基礎英語Ⅱ	[外]					1							
健康科学	[必]					1							
聖書学特講						2	日本国憲法		[幼]	[特]			2
情報処理		[幼]	[特]			2							
体育実技		[幼]	[特]	[保]		1							
教育原理		[幼]	[特]	[保]		2	保育者論		[幼]	[特]	[保]		2
教育方法論		[幼]	[特]	[保]		2	保育・教職実践演習(幼稚園)		[幼]	[特]	[保]		2
保育・教育課程論		[幼]	[特]	[保]		2	重複障害・LD等教育論			[特]	[BP]		2
特別支援教育総論		[幼]	[特]		[BP]	2	障がい児保育Ⅰ				[保]		1
障害者教育総論(知・肢・病)			[特]		[BP]	2	障がい児保育Ⅱ				[保]		1
発達心理学		[幼]	[特]	[保]		2	知的障害者教育論(指導法を含む)			[特]			1
子どもの理解と援助				[保]		1	肢体不自由者教育論(指導法を含む)			[特]			1
自閉スペクトラム症児・者の心理・生理・病理			[特]		[BP]	1	病弱者教育論(指導法を含む)			[特]			1
自閉スペクトラム症児・者の支援			[特]		[BP]	1	視覚・聴覚言語障害者教育論(指導法を含む)			[特]			1
幼児と表現(言葉)						1	保育内容総論		[幼]	[特]	[保]		1
幼児と言葉(国語表現を含む)		[幼]	[特]	[保]		1	教育相談基礎論		[幼]	[特]			2
保育内容の指導法「環境」		[幼]	[特]	[保]		1	幼児と人間関係		[幼]	[特]	[保]		1
音楽基礎演習Ⅰ						1	保育内容の指導法「人間関係」		[幼]	[特]	[保]		1
音楽基礎演習Ⅱ						1	知的障害者の心理・生理・病理			[特]	[BP]		1
幼児と表現(音楽)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		2	肢体不自由者の心理・生理・病理			[特]			1
保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」		[幼]	[特]	[保]		1	病弱者の心理・生理・病理			[特]			1
保育内容の指導法「表現(造形)Ⅰ」		[幼]	[特]	[保]		1	視覚障害者の心理・生理・病理			[特]			1
幼児と健康Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1	聴覚言語障害者の心理・生理・病理			[特]			1
教育情報学		[幼]	[特]			1	保育内容の指導法「言葉」		[幼]	[特]	[保]		1
							社会福祉論				[保]		2
							保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」		[幼]	[特]	[保]		1
							幼児と表現(造形)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1
							幼児と表現(造形)Ⅱ		[幼]	[特]	[保]		1
							幼児と健康Ⅱ		[幼]	[特]			1
							保育内容の指導法「健康」		[幼]	[特]	[保]		1
幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			0	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			5
							特別支援学校教育実習(事前事後の指導を含む)			[特]			3
幼児保育キャリア演習Ⅰ	[必]					2	幼児保育キャリア演習Ⅱ	[必]					2
1年次 修得単位 計						38	2年次 修得単位 計						44
短期大学卒業 修得単位 計													82

72 (卒業要件54以上)

履修パターンEの履修モデル 幼稚園教諭二種免許
 特別支援学校教諭二種免許
 保育士資格 <保育士養成3年課程 93単位以上>
 発達障がい児保育ベーシックプログラム修了

- * 社会福祉主事任用
- * 准学校心理士
- * ピアヘルパー
- * 認定ベビーシッター

1年次							2年次							単位数		
幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保	B P	単位数	幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保	B P	単位数			
キリスト教学	[必]					2	人間学Ⅰ	[必]					1	4		
							人間学Ⅱ	[必]					1			
基礎英語Ⅰ	[外]					1								2		
基礎英語Ⅱ	[外]					1										
健康科学	[必]					1	日本国憲法		[幼]	[特]			2	89 (卒業要件54以上)		
ドン・ボスコ研究						2										
情報処理		[幼]	[特]			2										
体育実技		[幼]	[特]	[保]		1										
教育原理		[幼]	[特]	[保]		2	保育者論		[幼]	[特]	[保]		2			
教育方法論		[幼]	[特]	[保]		2	保育・教職実践演習(幼稚園)		[幼]	[特]	[保]		2			
保育・教育課程論		[幼]	[特]	[保]		2	重複障害・LD等教育論		[特]		[BP]		2			
特別支援教育総論		[幼]	[特]		[BP]	2	保育原理				[保]		2			
障害者教育総論(知・肢・病)			[特]		[BP]	2	乳児保育Ⅰ				[保]		2			
発達心理学		[幼]	[特]	[保]		2	乳児保育Ⅱ				[保]		1			
子どもの理解と援助				[保]		1	障がい児保育Ⅰ				[保]		1			
自閉スペクトラム症児・者の心理・生理・病理			[特]		[BP]	1	障がい児保育Ⅱ				[保]		1			
自閉スペクトラム症児・者の支援			[特]		[BP]	1	保育内容総論		[幼]	[特]	[保]		1			
幼児と表現(言葉)						1	教育相談基礎論		[幼]	[特]			2			
幼児と言葉(国語表現を含む)		[幼]	[特]	[保]		1	子ども家庭支援の心理学				[保]		2			
保育内容の指導法「環境」		[幼]	[特]	[保]		1	幼児と人間関係		[幼]	[特]	[保]		1			
音楽基礎演習Ⅰ						1	保育内容の指導法「人間関係」		[幼]	[特]	[保]		1			
音楽基礎演習Ⅱ						1	知的障害者教育論(指導法を含む)			[特]			1			
幼児と表現(音楽)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		2	肢体不自由者教育論(指導法を含む)			[特]			1			
保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」		[幼]	[特]	[保]		1	病弱者教育論(指導法を含む)			[特]			1			
保育内容の指導法「表現(造形)」		[幼]	[特]	[保]		1	視覚・聴覚言語障害者教育論(指導法を含む)			[特]			1			
幼児と健康Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1	知的障害者の心理・生理・病理			[特]		[BP]	1			
教育情報学		[幼]	[特]			1	肢体不自由者の心理・生理・病理			[特]			1			
							病弱者の心理・生理・病理			[特]			1			
							視覚障害者の心理・生理・病理			[特]			1			
							聴覚言語障害者の心理・生理・病理			[特]			1			
							保育内容の指導法「言葉」		[幼]	[特]	[保]		1			
							社会福祉論				[保]		2			
							子ども家庭福祉				[保]		2			
							子ども家庭支援論				[保]		2			
							保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」		[幼]	[特]	[保]		1			
							幼児と表現(造形)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1			
							幼児と表現(造形)Ⅱ		[幼]	[特]	[保]		1			
							幼児と健康Ⅱ		[幼]	[特]			1			
							保育内容の指導法「健康」		[幼]	[特]	[保]		1			
							子どもの保健				[保]		2			
							子どもの健康と安全				[保]		1			
幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			0	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			5			
							特別支援学校教育実習(事前事後の指導を含む)			[特]			3			
							保育実習Ⅰ(保育所)				[保]		2			
							保育実習指導Ⅰ(保育所)				[保]		1			
幼児保育キャリア演習Ⅰ [必]						2							4			
							幼児保育キャリア演習Ⅱ [必]							2		
1年次 修得単位 計						38	2年次 修得単位 計						61	99		
短期大学卒業 (2年間) 修得単位 計																
							専攻科									
							専攻科幼児保育専攻専門科目									
							修了 幼二 特二 保 B P 単位数 単位数									
							人格論 [必]							4	6	
							幼児保育キャリア演習Ⅲ [必]							2		
							卒業研究ゼミナール [必]							2	4	
							卒業研究 [必]							2		
							特別演習Ⅳ							1	19 (修了要件12以上)	
							特別演習Ⅰ							1		
							特別演習Ⅱ							1		
							子どもの食と栄養Ⅰ							[保]		1
							子どもの食と栄養Ⅱ							[保]		1
							社会的養護Ⅰ							[保]		2
							社会的養護Ⅱ							[保]		1
							子育て支援Ⅰ(演習)							[保]		1
							保育実習Ⅰ(施設)							[保]		2
							保育実習指導Ⅰ(施設)							[保]		1
							保育実習Ⅲ(保育所以外の施設)							[保]		2
							保育実習指導Ⅲ(保育所以外の施設)							[保]		1
							ベビーシッター論									2
							発達障がい児指導法演習							[BP]		2
							修了 修得単位 計							29		29
保育士養成施設卒業 (3年間) 修得単位 総計														128		

[2024 (令和6) 年度入学生]

卒業に必要な単位数・・・・・・64単位

2024 (令和6) 年度 幼児保育学科 開講科目一覧

幼児保育学科専門教育科目

掲載頁	系 列	授 業 科 目	授業形態	単位数		卒業要件	開講学年		開講期	卒業	教職免許		資格 保育士	発達 BP	職 名	担 当	備 考					
				必修	選択		幼二	特二														
123	—	キリスト教学	演習	2		4	1年	通年	●	○	○	○		講師	滝口ひとみ							
—		人間学Ⅰ	演習	1			2年	前期	●	○	○	○		—	—							
—		人間学Ⅱ	演習	1			2年	後期	●	○	○	○		—	—							
124	基礎教養	基礎英語Ⅰ	演習		1	2	1年	前期	●	○	○	○		講師	吉田紀容美	「基礎英語Ⅰ」 「基礎英語Ⅱ」 又は「イタリア語入門Ⅰ」 「イタリア語入門Ⅱ」のいずれかを選択						
125		基礎英語Ⅱ	演習		1		1年	後期						講師	田中 美加							
126		イタリア語入門Ⅰ	演習		1		1年	前期						講師	工藤 恭子							
127		イタリア語入門Ⅱ	演習		1		1年	後期						講師	ピエトロニーロ・ミランジェロ							
128		聖書学特講	講義		2		1年	前期						講師	武内 裕輝							
129		ドン・ボスコ研究	講義		2		1年	前期						講師	浦田慎二郎							
130		心理学	講義		2		1年	後期						講師	吉田 望							
—		日本国憲法	講義		2			2年						後期	○		○			—	—	
131		情報処理	講義		2		1年	前期						教授	中島千恵子							
132		健康科学	講義	1			1年	前期						●	○		○			講師	佐藤 勉	
133	体育実技	実技		1		1年	後期	○	○	○			講師	遠山 健太								
134	教育	教育原理	講義		2	56以上 (次頁の科目も含む)	1年	前期	●	○	○	○		講師	齋藤 博志							
—		保育者論	講義		2			2年						前期	○	○	○			—	—	
135		教育方法論	講義		2		1年	前期						○	○	○			教授	井出麻里子		
136		保育・教育課程論	講義		2		1年	後期						○	○	○			教授	大井 美緒		
—		保育・教職実践演習(幼稚園)	演習		2			2年						後期	○	○	○			—	—	
137		特別支援教育総論	講義		2		1年	後期						○	○	○	○			専任講師	竹森 亜美	
138		障害者教育総論(知・肢・病)	講義		2		1年	後期							○		○			講師	荻野梨紗子	
—		重複障害・LD等教育論	講義		2			2年						後期		○		○		—	—	
—		知的障害者教育論(指導法を含む)	講義		1			2年						前期		○				—	—	
—		肢体不自由者教育論(指導法を含む)	講義		1			2年						前期		○				—	—	
—		病弱者教育論(指導法を含む)	講義		1			2年						前期		○				—	—	
—		視覚・聴覚言語障害者教育論(指導法を含む)	講義		1			2年						後期		○				—	—	
—		保育原理	講義		2			2年						後期			○			—	—	
—		乳児保育Ⅰ	講義		2			2年						前期			○			—	—	
—	乳児保育Ⅱ	演習		1		2年	後期			○			—	—								
—	障がい児保育Ⅰ	演習		1		2年	前期			○			—	—								
—	障がい児保育Ⅱ	演習		1		2年	後期			○			—	—								
—	保育内容総論	演習		1		2年	後期			○			—	—								
—	教育相談基礎論	講義		2		2年	後期		○	○	○		—	—								
139	発達心理学	講義		2	1年	前期	○	○	○				講師	荻野梨紗子								
140	子どもの理解と援助	演習		1	1年	後期			○				講師	藪中 征代								
—	子ども家庭支援の心理学	講義		2		2年	後期			○			—	—								
—	幼児と人間関係	演習		1		2年	前期	○	○	○			—	—								
—	保育内容の指導法「人間関係」	演習		1		2年	後期	○	○	○			—	—								
—	知的障害者の心理・生理・病理	講義		1		2年	前期		○		○		—	—								
—	肢体不自由者の心理・生理・病理	講義		1		2年	前期		○				—	—								
—	病弱者の心理・生理・病理	講義		1		2年	前期		○				—	—								
141	自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理	講義		1	1年	前期			○		○		専任講師	竹森 亜美								
142	自閉スペクトラム症者の支援	講義		1	1年	前期			○		○		専任講師	竹森 亜美								
—	視覚障害者の心理・生理・病理	講義		1		2年	後期		○				—	—								
—	聴覚言語障害者の心理・生理・病理	講義		1		2年	後期		○				—	—								
143	言葉	幼児と表現(言葉)	演習		1	1年	前期							講師	菅野 清子							
144		幼児と言葉(国語表現を含む)	演習		1	1年	後期	○	○	○				講師	古川 寿子							
—		保育内容の指導法「言葉」	演習		1		2年	前期	○	○	○			—	—							
—	福祉	社会福祉論	講義		2		2年	前期			○			—	—							
—		子ども家庭福祉	講義		2		2年	後期			○			—	—							
—		子ども家庭支援論	講義		2		2年	後期			○			—	—							
—		子育て支援	演習		1		2年	後期			○			—	—	★						
—		社会的養護Ⅰ	講義		2		2年	前期			○			—	—	★						
—	社会的養護Ⅱ	演習		1		2年	後期			○			—	—	★							

掲載頁	系 列	授 業 科 目	授業形態	単位数		卒業要件	開講学年		開講期	卒業	教職免許		資格 保育士	発達 BP	職 名	担 当	備 考
				必修	選択		幼二	特二									
145	環境	保育内容の指導法「環境」	演習		1		1年		後期		○	○	○		教授	大井 美緒	
146		音楽基礎演習Ⅰ	演習		1		1年		前期						教授	町田 治	
147		音楽基礎演習Ⅱ	演習		1		1年		後期						教授	町田 治	
148	表現 (音楽)	幼児と表現(音楽)Ⅰ	演習		2		1年		通年		○	○	○		教授 講師 講師 講師 講師	町田 治 浅賀ひろみ 武内 理恵 中野由紀子 長永 理恵 恵須川理津子	
—		幼児と表現(音楽)Ⅱ	演習		1			2年	後期						—	—	
—		幼児と表現(音楽)Ⅲ	演習		1				2年	後期						—	—
149		保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」	演習		1		1年		前期		○	○	○		講師	二木 秀幸	
—		保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」	演習		1			2年	前期		○	○	○		—	—	
—	表現 (造形)	幼児と表現(造形)Ⅰ	演習		1			2年	前期		○	○	○		—	—	
—		幼児と表現(造形)Ⅱ	演習		1			2年	後期		○	○			—	—	
150		保育内容の指導法「表現(造形)」	演習		1		1年		前期		○	○	○		准教授	藤原 明子	
151	健康	幼児と健康Ⅰ	演習		1		1年		前期		○	○			教授	打越みゆき	
—		幼児と健康Ⅱ	演習		1			2年	前期		○	○			—	—	
—		保育内容の指導法「健康」	演習		1			2年	前期		○	○	○		—	—	
—		子どもの保健	講義		2			2年	前期				○		—	—	
—		子どもの健康と安全	演習		1			2年	後期				○		—	—	
—		子どもの食と栄養Ⅰ	演習		1			2年	前期				○		—	—	★
—		子どもの食と栄養Ⅱ	演習		1			2年	後期				○		—	—	★
152	情報	教育情報学	講義		1		1年		後期		○	○			教授	中島千恵子	
153	教育実習	幼稚園教育実習 (事前事後の指導を含む)	実習		5		1年	2年	通年 前期		○	○			教授 教授 教授	中島千恵子 井出麻里子 大井 美緒	幼稚園二種 免許取得に 必要な授 業科目
—		特別支援学校教育実習 (事前事後の指導を含む)	実習		3			2年	通年			○			—	—	特別支援学 校教諭二種 (知・肢・病) 免許取得に 必要な授 業科目
—	保育実習	保育実習Ⅰ(保育所)	実習		2			2年	後期				○		—	—	保育士資 取得に必要 な授業科目
—		保育実習指導Ⅰ(保育所)	演習		1			2年	後期				○		—	—	授業科目 実習日数 (時間数)10 日(70時間) 以上
154 155	キャリア	幼児保育キャリア演習Ⅰ	演習	2		4	1年		通年	●					教授 准教授 専任講師	※ 学科専任教員	
—		幼児保育キャリア演習Ⅱ	演習	2				2年	通年	●					—	—	
小 計				9	104	64											
合 計				113		以上											

★幼児保育学科2年課程で卒業する学生には2年次でも履修を認めている科目

※学科専任教員 教授 町田 治 教授 武田 秀美 教授 中島千恵子 教授 井出麻里子 教授 打越みゆき
教授 大井 美緒 教授 服部 純一 准教授 藤原 明子 専任講師 竹森 亜美 専任講師 坂本 真季

[2026 (令和8) 年度 専攻科入学生] (2024 (令和6) 年度 幼児保育学科入学)
2026 (令和8) 年度 専攻科幼児保育専攻開講科目一覧

専攻科 幼児保育専攻専門教育科目

掲載頁	区別	授業科目	授業形態	単位数		修了要件	2024年度	2025年度	2026年度	開講期	修了	教職免許		資格		発達	職名	担当	備考	
				必修	選択必修							幼二	特二	保育士	B P					
—	教養キャリア	人格論	講義	4		6			専攻科	通年	●						—	—		
—		幼児保育キャリア演習Ⅲ	演習	2					専攻科	通年	●							—	—	
—	幼児教育研究	卒業研究ゼミナール	演習	2		4			専攻科	通年	●						—	—		
—		卒業研究	演習	2					専攻科	通年	●							—	—	
—		特別演習 A	演習		1				専攻科	前期								—	—	
—		特別演習 B	演習		1				専攻科	後期								—	—	
—		特別演習 C	演習		1				専攻科	前期								—	—	
—		特別演習 D	演習		1				専攻科	後期								—	—	
—		特別演習 E	演習		1				専攻科	前期								—	—	
—		特別演習 F	演習		1				専攻科	後期								—	—	
—		特別演習 G	演習		1				専攻科	前期								—	—	
—		特別演習 H	演習		1				専攻科	後期								—	—	
—		特別演習 I	演習		1				専攻科	前期								—	—	
—		特別演習 J	演習		1				専攻科	後期								—	—	
—		特別演習 K	演習		1				専攻科	前期								—	—	
—		特別演習 L	演習		1				専攻科	後期								—	—	
—		特別演習 M	演習		1				専攻科	前期								—	—	
—		特別演習 N	演習		1				専攻科	後期								—	—	
—		特別演習 O	演習		1				専攻科	前期								—	—	
—		特別演習 P	演習		1				専攻科	後期								—	—	
—		特別演習 Q	演習		1				専攻科	前期								—	—	
—		特別演習 R	演習		1				専攻科	後期								—	—	
—	特別演習 S	演習		1				専攻科	前期								—	—		
—	特別演習 T	演習		1		12以上			専攻科	後期							—	—		
—	特別演習 U	演習		1					専攻科	前期							—	—		
—	特別演習 V	演習		1					専攻科	後期							—	—		
—	特別演習 W	演習		1					専攻科	前期							—	—		
—	特別演習 X	演習		1					専攻科	後期							—	—		
—	保育士必修	子どもの食と栄養Ⅰ	演習		1				専攻科	前期							○	—	—	
—		子どもの食と栄養Ⅱ	演習		1				専攻科	後期							○	—	—	
—		社会的養護Ⅰ	講義		2				専攻科	前期							○	—	—	
—		社会的養護Ⅱ	演習		1				専攻科	後期							○	—	—	
—		子育て支援	演習		1				専攻科	後期							○	—	—	
—		保育実習Ⅰ(施設)	実習		2				専攻科	前期							○	—	—	
—		保育実習指導Ⅰ(施設)	演習		1				専攻科	前期							○	—	—	
—		保育実習Ⅱ(保育所)	実習		2				専攻科	後期								—	—	「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」のいずれかを選択必修実習日数(時間数)10日(70時間)以上
—		保育実習指導Ⅱ(保育所)	演習		1				専攻科	後期								—	—	
—		保育実習Ⅲ(保育所以外の施設)	実習		2				専攻科	後期								—	—	
—	保育実習指導Ⅲ(保育所以外の施設)	演習		1				専攻科	後期								—	—		
—	資格必修	ベビーシッター論	講義		2				専攻科	前期								—	—	
—		発達障がい児指導法演習	演習		2				専攻科	通年							○	—	—	
小計				10	43	22以上														
合計				53																

※学科専任教員 教授 町田 治 教授 武田 秀美 教授 中島千恵子 教授 井出麻里子 教授 打越みゆき
教授 大井 美緒 教授 服部 純一 准教授 藤原 明子 専任講師 竹森 亜美 専任講師 坂本 真季

[2023 (令和5) 年度入学生]

卒業に必要な単位数・・・・・・64単位

2024 (令和6) 年度 幼児保育学科 開講科目一覧

幼児保育学科専門教育科目

※ 2023 (令和5) 年度に開講した授業科目の担当者名・職名は、当時のものを記載している

掲載頁	系 列	授 業 科 目	授業形態	単位数		卒業要件	開講学年	開講期	卒業	教職免許		資格 保育士	発達 B P	職 名	担 当	備 考	
				必修	選択					幼二	特二						
—	基礎教養	キリスト教学	演習	2		4	1年	通年	●	○	○	○	教授 講師	田中 直美 滝口ひとみ			
156		人間学Ⅰ	演習	1			2年	前期	●	○	○	○		講師	武内 裕輝		
157		人間学Ⅱ	演習	1			2年	後期	●	○	○	○		講師	武内 裕輝		
—			基礎英語Ⅰ	演習		1	2	1年	前期	●	○	○	○	講師 講師	田中 美加 吉田紀容 工藤 恭子	「基礎英語Ⅰ」 「基礎英語Ⅱ」 又は「イタリア語入門Ⅰ」 「イタリア語入門Ⅱ」のいずれかを選択	
—			基礎英語Ⅱ	演習		1		1年	後期								
—			イタリア語入門Ⅰ	演習		1		1年	前期					講師	ピエトロニーロ・ ミクランジェロ		
—			イタリア語入門Ⅱ	演習		1		1年	後期								
—			聖書学特講	講義		2		1年	前期					講師	武内 裕輝		
—			ドン・ボスコ研究	講義		2		1年	前期					講師	浦田慎二郎		
—			心理学	講義		2		1年	後期					講師	吉田 望		
158			日本国憲法	講義		2		1年	2年 後期		○	○		講師	秋山 武吉		
—			情報処理	講義		2		1年	前期		○	○		教授	中島千恵子		
—			健康科学	講義	1			1年	前期	●	○	○		講師	佐藤 勉		
—			体育実技	実技		1		1年	後期		○	○	○	講師	遠山 健太		
—		教育	教育原理	講義		2	56 以上 (次頁の科目も含む)	1年	前期		○	○	○		講師	齋藤 博志	
159	保育者論		講義		2	2年		前期		○	○	○		講師	徳田多佳子		
—	教育方法論		講義		2	1年		前期		○	○	○		教授	井出麻里子		
—	保育・教育課程論		講義		2	1年		後期		○	○	○		准教授	大井 美緒		
160	保育・教職実践演習(幼稚園)		演習		2	2年		後期		○	○	○		教授 教授	井出麻里子 打越みゆき		
—	特別支援教育総論		講義		2	1年		後期		○	○	○	○	専任講師	竹森 亜美		
—	障害者教育総論(知・肢・病)		講義		2	1年		後期			○		○	准教授	渡邊 孝継		
161	重複障害・LD等教育論		講義		2	2年		後期			○		○	専任講師	竹森 亜美		
162	知的障害者教育論(指導法を含む)		講義		1	2年		前期				○			教授 専任講師	井出麻里子 竹森 亜美	
163	肢体不自由者教育論(指導法を含む)		講義		1	2年		前期				○			講師	渡邊 章	
164	病弱者教育論(指導法を含む)		講義		1	2年		前期				○			講師	渡邊 章	
165	視覚・聴覚言語障害者教育論(指導法を含む)		講義		1	2年		後期				○			講師	村尾 愛美	
166	保育原理		講義		2	2年		後期					○		講師	徳田多佳子	
167	乳児保育Ⅰ		講義		2	2年		前期					○		講師	清水かおり	
168	乳児保育Ⅱ		演習		1	2年		後期					○		講師	清水かおり	
169	障がい児保育Ⅰ	演習		1	2年	前期					○		講師	岡本 明博			
170	障がい児保育Ⅱ	演習		1	2年	後期					○		講師	岡本 明博			
171	保育内容総論	演習		1	2年	後期			○	○	○		講師	古川 寿子			
172	教育相談基礎論	講義		2	2年	後期			○	○	○		講師	佐藤 亜美			
—	心理・ 人間関係	発達心理学	講義		2	1年	前期		○	○	○		准教授	渡邊 孝継			
—		子どもの理解と援助	演習		1	1年	後期				○			講師	藪中 征代		
173		子ども家庭支援の心理学	講義		2	2年	後期				○			講師	上原 実貴		
174		幼児と人間関係	演習		1	2年	前期			○	○	○		専任講師	坂本 真季		
175		保育内容の指導法「人間関係」	演習		1	2年	後期			○	○	○		講師	藪中 征代		
176		知的障害者の心理・生理・病理	講義		1	2年	前期				○		○	講師	木下 愛		
177		肢体不自由者の心理・生理・病理	講義		1	2年	前期				○			講師	渡邊 章		
178		病弱者の心理・生理・病理	講義		1	2年	前期				○			講師	渡邊 章		
—		自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理	講義		1	1年	前期				○		○	専任講師	竹森 亜美		
—		自閉スペクトラム症者の支援	講義		1	1年	前期				○		○	専任講師	竹森 亜美		
179		視覚障害者の心理・生理・病理	講義		1	2年	後期				○			講師	大内 進		
180		聴覚言語障害者の心理・生理・病理	講義		1	2年	後期				○			講師	村尾 愛美		
—		言葉	幼児と表現(言葉)	演習		1	1年	前期						講師	菅野 清子		
—			幼児と言葉(国語表現を含む)	演習		1	1年	後期		○	○	○		講師	古川 寿子		
181			保育内容の指導法「言葉」	演習		1	2年	前期		○	○	○		講師	古川 寿子		
182	福祉	社会福祉論	講義		2	2年	前期				○		講師	野崎 陽弘			
183		子ども家庭福祉	講義		2	2年	後期				○		講師	野田 敦史			
184		子ども家庭支援論	講義		2	2年	後期				○		専任講師	坂本 真季			
*231		子育て支援	演習		1	2年	後期				○			講師	平田美智子	★	
*229		社会的養護Ⅰ	講義		2	2年	前期				○			講師	平野 美香	★	
*230		社会的養護Ⅱ	演習		1	2年	後期				○			講師	平野 美香	★	
—	環境	保育内容の指導法「環境」	演習		1	1年	後期		○	○	○		准教授	大井 美緒			

掲載頁	系 列	授 業 科 目	授業形態	単位数		卒業要件	開講学年		開講期	卒業	教職免許		資格 保育士	発達 B P	職 名	担 当	備 考
				必修	選択		幼二	特二									
—	表現 (音楽)	音楽基礎演習Ⅰ	演習		1		1年	前期						教授	町田 治		
—		音楽基礎演習Ⅱ	演習		1		1年	後期						教授	町田 治		
—		幼児と表現(音楽)Ⅰ	演習			2		1年	通年	○	○	○			教授 講師 講師 講師 講師	町田 治 浅賀ひろみ 武内理恵 中野由紀子 後藤京子 長永理恵 恵須川理津子	
185		幼児と表現(音楽)Ⅱ	演習			1		2年	後期						教授 講師 講師 講師 講師	町田 治 山岸智秋 武内理恵 中野由紀子 後藤京子 長永理恵 恵須川理津子 大熊理津子	
186		幼児と表現(音楽)Ⅲ	演習			1		2年	後期						講師	二木 秀幸	
—		保育内容の指導法「表現(音楽)」Ⅰ	演習			1		1年	前期	○	○	○			講師	中野由紀子	
187	保育内容の指導法「表現(音楽)」Ⅱ	演習			1		2年	前期	○	○	○			講師	藤原 明子		
188	表現 (造形)	幼児と表現(造形)Ⅰ	演習		1		2年	前期	○	○	○			准教授	藤原 明子		
189		幼児と表現(造形)Ⅱ	演習		1		2年	後期	○	○				准教授	藤原 明子		
—		保育内容の指導法「表現(造形)」	演習			1		1年	前期	○	○	○			准教授	藤原 明子	
—	健康	幼児と健康Ⅰ	演習		1		1年	前期	○	○				教授	打越みゆき		
190		幼児と健康Ⅱ	演習		1		2年	前期	○	○				講師	杉本 信		
191		保育内容の指導法「健康」	演習			1		2年	前期	○	○	○		教授	打越みゆき		
192		子どもの保健	講義			2		2年	前期			○		講師	田中 笑子		
193		子どもの健康と安全	演習			1		2年	後期			○		講師	田中 笑子		
*227		子どもの食と栄養Ⅰ	演習			1		2年	前期			○		講師	高梨 美紀	★	
*228		子どもの食と栄養Ⅱ	演習			1		2年	後期			○		講師	高梨 美紀	★	
—	情報	教育情報学	講義		1		1年	後期	○	○				教授	中島千恵子		
—	教育実習	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)	実習		5		1年	2年	通年	前期	○	○		教授 教授	中島千恵子 井出麻里子 大井 美緒	幼稚園二種免許取得に必要な授業科目	
194		特別支援学校教育実習(事前事後の指導を含む)	実習		3		2年	通年			○			専任講師 専任講師	竹森 亜美 坂本 真季	特別支援学校教諭二種(知・肢・病)免許取得に必要な授業科目	
195	保育実習	保育実習Ⅰ(保育所)	実習		2		2年	後期			○			教授	打越みゆき	保育士資格取得に必要な授業科目 実習時間 88時間以上	
196		保育実習指導Ⅰ(保育所)	演習		1		2年	後期			○			准教授	藤原 明子		
—	キャリア	幼児保育キャリア演習Ⅰ	演習		2		1年	通年	●					教授	※		
197、198		幼児保育キャリア演習Ⅱ	演習		2		2年	通年	●					准教授 専任講師	※ 学科専任教員		
小 計					9	104			64								
合 計					113				以上								

★幼児保育学科2年課程で卒業する学生には2年次でも履修を認めている科目

※学科専任教員 教授 町田 治 教授 武田 秀美 教授 中島千恵子 教授 井出麻里子 教授 打越みゆき
教授 大井 美緒 教授 服部 純一 准教授 藤原 明子 専任講師 竹森 亜美 専任講師 坂本 真季

[2025 (令和7) 年度 専攻科入学生] (2023 (令和5) 年度 幼児保育学科入学)
2025 (令和7) 年度 専攻科幼児保育専攻開講科目一覧

専攻科 幼児保育専攻専門教育科目

掲載頁	区別	授業科目	授業形態	単位数		修了要件	2023年度	2024年度	2025年度	開講期	修了	教職免許		資格		発達	職名	担当	備考	
				必修	選択必修		開講学年	開講期	開講期			幼二	特二	保育士	B P					
	キャリア	人格論	講義	4		6			専攻科	通年	●						—	—		
		幼児保育キャリア演習Ⅲ	演習	2						専攻科	通年	●						—	—	
		卒業研究ゼミナール	演習	2		4			専攻科	通年	●						—	—		
		卒業研究	演習	2						専攻科	通年	●						—	—	
	幼児教育研究	特別演習A	演習		1	12 以上			専攻科	前期							—	—		
		特別演習B	演習		1					専攻科	後期							—	—	
		特別演習C	演習		1					専攻科	前期							—	—	
		特別演習D	演習		1					専攻科	後期							—	—	
		特別演習E	演習		1					専攻科	前期							—	—	
		特別演習F	演習		1					専攻科	後期							—	—	
		特別演習G	演習		1					専攻科	前期							—	—	
		特別演習H	演習		1					専攻科	後期							—	—	
		特別演習I	演習		1					専攻科	前期							—	—	
		特別演習J	演習		1					専攻科	後期							—	—	
		特別演習K	演習		1					専攻科	前期							—	—	
		特別演習L	演習		1					専攻科	後期							—	—	
		特別演習M	演習		1					専攻科	前期							—	—	
		特別演習N	演習		1					専攻科	後期							—	—	
		特別演習O	演習		1					専攻科	前期							—	—	
		特別演習P	演習		1					専攻科	後期							—	—	
		特別演習Q	演習		1					専攻科	前期							—	—	
		特別演習R	演習		1					専攻科	後期							—	—	
		特別演習S	演習		1					専攻科	前期							—	—	
		特別演習T	演習		1					専攻科	後期							—	—	
特別演習U	演習		1				専攻科	前期							—	—				
特別演習V	演習		1				専攻科	後期							—	—				
特別演習W	演習		1				専攻科	前期							—	—				
特別演習X	演習		1				専攻科	後期							—	—				
	保育士必修	子どもの食と栄養Ⅰ	演習		1				専攻科	前期			○			—	—			
		子どもの食と栄養Ⅱ	演習		1				専攻科	後期			○			—	—			
		社会的養護Ⅰ	講義		2				専攻科	前期			○			—	—			
		社会的養護Ⅱ	演習		1				専攻科	後期			○			—	—			
		子育て支援	演習		1				専攻科	後期			○			—	—			
		保育実習Ⅰ (施設)	実習		2				専攻科	前期			○			—	—			
		保育実習指導Ⅰ (施設)	演習		1				専攻科	前期			○			—	—			
		保育実習Ⅱ (保育所)	実習		2				専攻科	後期						—	—			
		保育実習指導Ⅱ (保育所)	演習		1				専攻科	後期						—	—			
		保育実習Ⅲ (保育所以外の施設)	実習		2				専攻科	後期				○		—	—	[保育実習Ⅱ]「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」のいずれかを選択必修実習時間88時間以上		
	必修資格	ベビーシッター論	講義		2				専攻科	前期						—	—			
		発達障がい児指導法演習	演習		2				専攻科	通年				○		—	—			
小計				10	43	22														
合計				53		以上														

※学科専任教員 教授 町田 治 教授 武田 秀美 教授 中島千恵子 教授 井出麻里子 教授 打越みゆき
教授 大井 美緒 教授 服部 純一 准教授 藤原 明子 専任講師 竹森 亜美 専任講師 坂本 真季

2 専攻科幼児保育専攻

2024 年度入学生

専攻科幼児保育専攻 ディプロマ・ポリシー

本学のカリキュラムは、幼児保育学科2年を卒業し、更に専攻科1年を修了することで、高い保育技術・技能をもった保育者を育成することを目指している。

以下に挙げる資質・能力を身につけ、所定の単位を修めた学生に修了を認定する。

DP1 カトリック・教養・人間性

カトリックの価値観に基づき、広い視野に立って人間や社会について理解し、また理解を深めていく素養を身につけている。

DP2 専門知識・技能

さまざまな保育技術のうち、自ら選んだ分野に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力することができる。

DP3 共感性

さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけている。

DP4 コミュニケーション

保育や子どもにかかわる事象・諸問題を、文献や実践・現場調査から客観的な判断に基づいて説明することができる。

DP5 協働性

保育のチームティーチングを行うために、チームの一員として協議や企画に積極的に参画することができる。

専攻科幼児保育専攻 カリキュラム・ポリシー

専攻科幼児保育専攻では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針によってカリキュラムを編成している。

1. キリスト教を知り、社会人として、また保育者として日々に活かすことができる。 } DP1 カトリック・教養・人間性
2. 保育現場で必要とされる対応力・指導力を修得できる。 } DP2 専門知識・技能

- 3. 子どもの立場になって考え、子どもの理解を深めていく姿勢を育成する。 } DP3 共感性
- 4. 子どもを取り巻く環境を捉え、保護者への子育て支援の基本的な姿勢を学ぶことができる。 }
- 5. 保育や子どもにかかわる事象・諸問題から自らテーマを設定し、実証に基づく考察ができる。 } DP4 コミュニケーション
- 6. 目的に合わせた取り組みを企画・実践・反省・改善をする中で、他者と積極的に協働することができる。 } DP5 協働性
- 7. 様々な資格・修了証が取得できる。

専攻科 幼児保育専攻の学習成果

- 1. キリスト教・カトリックの価値観と教養に基づき、社会人そして保育者として愛情をもって他者と接する姿勢と自律的に学ぶ力を習得している。 } DP1 カトリック・教養・人間性
- 2. 保育現場で必要とされる知識・技術および思考力・判断力を習得している。 } DP2 専門知識・技能
- 3. 子どもの発達・情緒・障がいを含む子ども理解に基づく対応を習得している。 } DP3 共感性
- 4. 子どもを取り巻く環境を捉え、保護者への子育て支援の基本的な姿勢を習得している。 }
- 5. 保育や子どもに関する諸問題に関心を持ち、自ら課題を発見し、客観的な情報に基づいて考察できる力と説明する力を習得している。 } DP4 コミュニケーション
- 6. 他者と活動を計画・実践・省察することを通して、保育者として必要なコミュニケーション力および他者と協働する姿勢を習得している。 } DP5 協働性
- 7. 保育士資格、発達障がい児保育ベーシックプログラム修了証およびその他の認定資格を取得している。

2025年度以降入学生

専攻科幼児保育専攻 ディプロマ・ポリシー

本学のカリキュラムは、幼児保育学科2年を卒業し、更に専攻科1年を修了することで、高い保育技術・技能をもった保育者を育成することを目指している。

以下に挙げる資質・能力を身につけ、所定の単位を修めた学生に修了を認定する。

DP1 カトリック・教養・人間性

カトリックの価値観と教養に基づき、広い視野に立って物事を熟考し、自律的に学びを深めていく素養を身につけている。

DP2 専門知識・技能

基本的な保育の知識・技術に基づきながら自らの専門性を磨き、実践力を習得するとともに、向上心をもって専門性を探求することができる。

DP3 思考力・判断力

子ども、そして子どもを取り巻く環境の多様性について理解し、多角的に考察するための知識および態度を習得している。

DP4 課題探求力・表現力

保育および子どもに関わる諸問題について関心をもち、客観的に課題を整理し説明するための基本的な技術を習得している。

DP5 コミュニケーション・協働性

保育者に求められるコミュニケーション力および他者と協働して取り組む姿勢を習得している。

専攻科幼児保育専攻 カリキュラム・ポリシー

専攻科幼児保育専攻では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針によってカリキュラムを編成している。

1. カトリックの価値観と教養に基づき社会人そして保育者としての倫理観を備え、愛情をもって他者に接する姿勢と、探求心をもって自律的に学ぶ力を習得できる。 } DP1 カトリック・教養・人間性
2. 保育現場で必要とされる知識・技術および思考力・判断力を習得できる。(保育士資格、発達障がい児保育ベーシックプログラム修了証の取得を目指す) } DP2 専門知識・技能
3. 子どもの発達および障がいに関わる知識を身につけ、子ども理解に基づく対応を習得できる。 }
4. 現代の子どもを取り巻く環境について理解し、子育て支援の基本的な姿勢を習得できる。 } DP3 思考力・判断力

5. 保育および子どもに関する諸問題について探求し、客観的な情報に基づく考察力と説明力を習得できる。

DP4 課題探求力・表現力

6. 目的に合わせた取り組みを企画・実践・反省・改善をする中で、他者と積極的に協働することができる。

7. 他者とともに活動を計画・実践・省察することを通して、保育者として必要なコミュニケーション力および相手の立場を尊重し協働する力を習得できる。

DP5 コミュニケーション・協働性

専攻科 幼児保育専攻の学習成果

1. キリスト教・カトリックの価値観と教養に基づき、社会人そして保育者として愛情をもって他者と接する姿勢と自律的に学ぶ力を習得している。

DP1 カトリック・教養・人間性

2. 保育現場で必要とされる知識・技術および思考力・判断力を習得している。

DP2 専門知識・技能

3. 子どもの発達・情緒・障がいを含む子ども理解に基づく対応を習得している。

4. 子どもを取り巻く環境を捉え、保護者支援・子育て支援の基本的な姿勢を習得している。

DP3 思考力・判断力

5. 保育や子どもに関する諸問題に関心をもって探求し、客観的な情報に基づいて考察できる力と説明する力を習得している。

DP4 課題探求力・表現力

6. 他者と活動を計画・実践・省察することを通して、保育者として必要なコミュニケーション力および他者と協働する姿勢を習得している。

DP5 コミュニケーション・協働性

修了に必要な単位数・・・・・・・・・・ 22単位

履修上の注意

- 1 保育士資格取得希望者は、資格取得に必要な科目の単位を修得しなくてはならない。「4 免許・資格取得のための教育課程」の「3 保育士となる資格の取得」を参照しつつ、細心の注意をもって履修計画を立てること。
- 2 修了に必要な合計単位数は、22単位以上となる。
- 3 幼児保育学科の科目を履修することができるが、先ず専攻科の科目で22単位以上となるように履修すること。

[2024 (令和6) 年度 専攻科入学生] (2022 (令和4) 年度 幼児保育学科入学)
2024 (令和6) 年度 専攻科幼児保育専攻開講科目一覧

専攻科 幼児保育専攻専門教育科目

掲載頁	区別	授業科目	授業形態	単位数		修了要件	2022年度	2023年度	2024年度	開講期	修了	教職免許		資格		発達	職名	担当	備考			
				必修	選択必修		開講学年	開講学年	開講学年			幼二	特二	保育士	B P							
199	整養キャリア	人格論	講義	4		6			専攻科	通年	●						教授	阿部 健一				
200		幼児保育キャリア演習Ⅲ	演習	2					専攻科	通年	●											
201		卒業研究ゼミナール	演習	2		4			専攻科	通年	●							※学科専任教員				
208		卒業研究	演習	2					専攻科	通年	●											
209	幼児教育研究	特別演習 A	演習		1	12 以上			専攻科	前期	選択 12 単位 以上						教授	町田 治				
210		特別演習 B	演習		1				専攻科	後期									教授	町田 治		
211		特別演習 C	演習		1					専攻科		前期								教授	武田 秀美	
212		特別演習 D	演習		1					専攻科		後期								教授	武田 秀美	
213		特別演習 E	演習		1					専攻科		前期								教授	中島千恵子	
214		特別演習 F	演習		1					専攻科		後期								教授	中島千恵子	
215		特別演習 G	演習		1					専攻科		前期								教授	井出麻里子	
216		特別演習 H	演習		1					専攻科		後期								教授	井出麻里子	
217		特別演習 I	演習		1					専攻科		前期								教授	打越みゆき	
218		特別演習 J	演習		1					専攻科		後期								教授	打越みゆき	
219		特別演習 K	演習		1					専攻科		前期								教授	大井 美緒	
—		特別演習 L	演習		1					専攻科		後期								教授	大井 美緒	今年度閉講
220		特別演習 M	演習		1					専攻科		前期								教授	服部 純一	
221		特別演習 N	演習		1					専攻科		後期								教授	服部 純一	
222		特別演習 O	演習		1					専攻科		前期								准教授	藤原 明子	
—		特別演習 P	演習		1					専攻科		後期								准教授	藤原 明子	今年度閉講
223		特別演習 Q	演習		1					専攻科		前期								専任講師	竹森 亜美	
224		特別演習 R	演習		1					専攻科		後期								専任講師	竹森 亜美	
—		特別演習 S	演習		1					専攻科		前期								専任講師	坂本 真季	今年度閉講
—		特別演習 T	演習		1					専攻科		後期								専任講師	坂本 真季	今年度閉講
225	特別演習 U	演習		1				専攻科	前期								講師	野口 祐里				
226	特別演習 V	演習		1				専攻科	後期								講師	野口 祐里				
—	特別演習 W	演習		1				専攻科	前期								—	—				
—	特別演習 X	演習		1				専攻科	後期								—	—				
227	保育士必修	子どもの食と栄養Ⅰ	演習		1		2年	専攻科	前期			○					講師	高梨 美紀				
228		子どもの食と栄養Ⅱ	演習		1		2年	専攻科	後期			○					講師	高梨 美紀				
229		社会的養護Ⅰ	講義		2			2年	専攻科	前期			○				講師	平野 美香				
230		社会的養護Ⅱ	演習		1			2年	専攻科	後期			○				講師	平野 美香				
231		子育て支援	演習		1			2年	専攻科	後期			○				講師	平田美智子				
232		保育実習Ⅰ (施設)	実習		2				専攻科	前期			○									
233		保育実習指導Ⅰ (施設)	演習		1				専攻科	前期			○									
234		保育実習Ⅱ (保育所)	実習		2				専攻科	後期												
235		保育実習指導Ⅱ (保育所)	演習		1				専攻科	後期												
236		保育実習Ⅲ (保育所以外の施設)	実習		2				専攻科	後期												
237	保育実習指導Ⅲ (保育所以外の施設)	演習		1				専攻科	後期										「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習指導Ⅲ」のいずれかを選択必修実習時間88時間以上			
238	資格必修	ベビーシッター論	講義		2			専攻科	前期								講師	平野 美香				
239		発達障がい児指導法演習	演習		2			専攻科	通年				○				教授 専任講師 専任講師	阿部 健一 竹森 亜美 坂本 真季				
小計				10	43	22																
合計				53		以上																

※学科専任教員 教授 町田 治 教授 武田 秀美 教授 中島千恵子 教授 井出麻里子 教授 打越みゆき
教授 大井 美緒 教授 服部 純一 准教授 藤原 明子 専任講師 竹森 亜美 専任講師 坂本 真季

4 免許・資格取得のための教育課程

各種免許と資格

免許・資格の種類		免許・資格取得料及び納入時期			備考
		1年次	2年次	専攻科	
幼稚園教諭二種免許状		45,000円			1年次履修登録後、6月頃納入。
特別支援学校 教諭二種免許状	教育実習費		15,000円		2年次履修登録後、6月頃納入。専攻科で 実習を行う場合は、専攻科で6月頃納入。
	資格申請料		5,000円	*5,000円	2年次履修登録後、6月頃納入。 ※専攻科で実習を行う場合は、個人申請。
保育士資格	保育実習費		20,000円		2年次履修登録後、6月頃納入。
	資格取得料			45,000円	専攻科履修登録後、6月頃納入。
社会福祉主事任用					成績証明書及び卒業証明書をもって証明さ れる。
ピアヘルパー			9,000円		受験する年度の11月頃納入。
准学校心理士			16,500円		申請年度7月頃 資格審査手数料・事務手 続料等3,500円納入。合格者は11～12月 頃に登録事務手数料・年会費3年分・事務 手続料等として13,000円納入。
認定ベビーシッター				9,700円	専攻科、12～1月頃納入。
発達障がい児保育 ベーシックプログラム					無料。
小学校教諭免許状（一種、二種）		※星槎大学との教育連携により、本学在学中から必要な科目を履修することが 可能です。本学の学費の他に、星槎大学の科目の受講料等別途費用がかかります。免許状取得に必要な単位数は、星槎大学入学ガイダンス等にて説明し ます。			

- ・各資格の申し込みは、原則4月の履修登録時に行う。
- ・履修登録を行い、所定の単位を修得し、免許・資格取得料を納入することにより資格が得られる。
(資格によっては、試験が必要な場合もある。)
- ・申し込みの詳細については、教務・学生支援課より掲示されるので、よく確認すること。
- ・免許・資格取得料は納入後は返付されない。また、経済情勢の急激な変動などにより改訂することもある。

1 幼稚園教諭二種免許状の取得 (2019年度以降入学生)

幼稚園教諭二種免許状（以下、幼稚園教諭免許状）は、幼児保育学科に設定されている幼稚園教諭免許状取得に必要な科目の単位を修得し、幼児保育学科を卒業することにより授与されるものである。

幼稚園教諭免許状の取得条件

資格を取得するには、次頁の表に示す通り、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を8単位、「教職に関する科目」を38単位、修得しなければならない。

幼稚園教育実習

1. 幼稚園教育実習は、本学が内諾を得た幼稚園（本人が希望する幼稚園を含む。ただし、無認可幼稚園は認められない）で実施される。
2. 幼稚園教育実習は、前期（1年次11月に2週間）と後期（2年次6月に2週間）の計4週間にわたって実施される。
3. 幼稚園教育実習を行うためには、次に定める条件が求められる。条件がクリアされていない場合は個別指導を行う。個別指導を受けない場合、あるいは指導の効果が認められない場合は、実習を行うことは出来ない。

(1) 「幼稚園教育実習（事前事後の指導を含む）」の授業について

◆学習態度・意欲

- ① 授業には全回出席すること。体調不良・事故等避けられない事情によって欠席した場合は、授業前に担当教員に連絡を入れ、次の授業前に指導を受けること。体調不良で欠席する場合は、必ず病院に行き、診断書もしくは病院のレシートを提出すること。
- ② 授業中は熱心に講義を聴き、課題に取り組むこと。
- ③ 教職員からの連絡には速やかに応じること。

◆提出物

- ① 幼稚園教育実習関連の書類は正確に記入し、期限内に提出すること。
- ② 授業内に課された課題を期限内に提出すること。
- ③ 提出した課題が合格点に達していること（合格点に達するまで再提出が課される）。

(2) 取得単位について

- ① 幼稚園教育実習【前期】（1年次11月）
1年の前期が終了した時点で、「教育方法論」を取得していること。
- ② 幼稚園教育実習【後期】（2年次6月）
1年の後期が終了した時点で「保育・教育課程論」を取得し、かつ次頁の「教職に関する科目」に指定されている科目を10単位以上取得していること。

(3) 健康について

- ① 実習を行う前に健康診断を受け、その結果が実習に支障がないこと。支障がある場合は、実習前までに治療し、支障が無くなった旨の証明書を提出すること。
- ② 既往歴のある場合は事前に申告すること。

免許取得料

幼稚園教諭免許状に必要な免許取得料に関しては、「4. 免許・資格取得のための教育課程」の「各種免許と資格」の項を参照すること。なお、一旦納入された資格取得料は返付されない。

幼稚園教諭免許状の申請

幼稚園教諭免許状は、幼児保育学科卒業までに幼稚園教諭免許状取得に必要な要件を満たし、手続きを終えた者に限り、本学より東京都教育委員会に一括申請する。本科卒業後専攻科修了までに必要単位を満たした場合は、各自個人申請することによって、免許を取得することが出来る。

■ ■ ■ 幼稚園教諭二種免許状取得に必要な授業科目 (2022年度以降入学生) ■ ■ ■

基礎資格	短期大学士(幼児教育学)
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	8単位
教科及び教職に関する科目	38単位
幼稚園教諭二種免許状取得に必要な単位	46単位

・教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則に定める科目	単位数	本学が開設している授業科目	開講学年	単位数	備考(履修方法等)
日本国憲法	2	日本国憲法	2年	2	
体育	2	健康科学	1年	1	
		体育実技	1年	1	
外国語コミュニケーション	2	基礎英語Ⅰ	1年	2	「基礎英語Ⅰ」「基礎英語Ⅱ」又は「イタリア語入門Ⅰ」「イタリア語入門Ⅱ」のいずれか2単位の履修が必要である。
		基礎英語Ⅱ	1年		
		イタリア語入門Ⅰ	1年		
		イタリア語入門Ⅱ	1年		
情報機器の操作	2	情報処理	1年	2	
免許法による修得単位	8	本学の修得単位		8	

・教科及び教職に関する科目

施行規則に定める科目区分等		単位数	本学が開設している授業科目	開講学年	単位数	備考(履修方法等)		
領域及び保育内容の指導演法に関する科目	領域に関する専門的事項	12	健康	幼児と健康Ⅰ	1年	1		
			人間関係	幼児と健康Ⅱ	2年	1		
			環境	幼児と人間関係	2年	1		
			言葉	幼児と言葉(国語表現を含む)	1年	1		
			表現	幼児と表現(音楽)Ⅰ	1年	2		
	領域及び保育内容の指導演法に関する科目	保育内容の指導演法(情報機器及び教材の活用を含む。)	6	幼児と表現(造形)Ⅰ	2年	1		
				幼児と表現(造形)Ⅱ	2年	1		
				保育内容総論	2年	1		
				保育内容の指導演法「健康」	2年	1		
				保育内容の指導演法「人間関係」	2年	1		
				保育内容の指導演法「環境」	1年	1		
				保育内容の指導演法「言葉」	2年	1		
				保育内容の指導演法「表現(音楽)Ⅰ」	1年	1		
				保育内容の指導演法「表現(音楽)Ⅱ」	2年	1		
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	6	保育内容の指導演法「表現(造形)」	1年	1			
			教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	1年	2	*教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)を含む。	
			教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	保育者論	2年	2	*教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)を含む。	
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	*教育原理 *保育者論		*		
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	発達心理学	1年	2		
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育総論	1年	2		
	道徳、総合的な学習の時間等の指導演法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	4	4	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	保育・教育課程論	1年	2	
				教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	1年	2	**幼児理解の理論及び方法を含む
				幼児理解の理論及び方法	教育情報学	1年	1	
				教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	**教育方法論 **教育相談基礎論		**	
教育実践に関する科目	5	5	教育実践	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)	1年 2年	5	「幼児保育学科専門教育科目」に含まれない「教職専門科目」で、文部科学省が指定している幼稚園教諭免許状取得に必要な科目である。教育実習は1年後期、2年前期に各1回実施される。事前事後の指導は1年、2年にわたって適宜開講される。	
			教職実践演習	保育・教職実践演習(幼稚園)		2年	2	
免許法による修得単位		29	本学の修得単位		38			

2 特別支援学校教諭二種免許状 (知的障害者・肢体不自由者・病弱者)の取得

特別支援学校教諭二種免許状（以下、特別支援学校教諭免許状）は、幼稚園教諭二種免許状取得者、および取得見込者が、特別支援学校教諭免許状の取得に必要な科目の単位を修得することにより、取得できる。

特別支援学校免許状の取得条件

資格を取得するには、次頁の表に示す通り、「特別支援教育の基礎理論に関する科目」、「特別支援教育領域に関する科目」、「免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目」、「心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習」の必修科目を履修しなければならない。

特別支援学校教育実習

- 1 特別支援学校における教育実習は、本学が依頼し、承諾を得た学校にて実施される。
- 2 特別支援学校の学校数には限りがあるため、毎年20名程度が教育実習を受けることができる。
- 3 教育実習を受けることができる学生は、2月の成績認定後に希望者の中から選抜される。
- 4 選抜は、2年次において実習を予定している1年次生、専攻科において実習を予定している2年次生が対象となる。
- 5 選抜を受けようとする者は、以下の基準を満たす必要がある。
 - 〈1年次生〉
 - (1) 幼稚園教育実習（前期）に正規の実習期間で参加していること。
 - (2) 幼稚園教育実習（前期）の実習評価がB以上であること。
 - (3) 「特別支援教育総論」、「障害者教育総論（知・肢・病）」の単位を修得していること。
 - (4) その他の諸条件については、実習ハンドブック「選抜対象条件（1年次生）」を参照すること。
 - 〈2年次生〉
 - (1) 幼稚園教諭第二種免許取得見込者であること。
 - (2) 幼稚園教育実習（後期）の成績（事前事後指導含む）がB以上であること。
 - (3) 次頁の「特別支援教育の基礎理論に関する科目」、「特別支援教育領域に関する科目」、「免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目」のうち必修科目の単位を修得していること。
 - (4) その他の諸条件については、実習ハンドブック「選抜対象条件（2年次生）」を参照すること。
- 6 特別支援学校教育実習は、10月から12月の期間に2週間にわたって行われる。
- 7 特別支援学校教育実習を行うには、次の条件を満たしておくこと。
 - ① 実習を行う前に健康診断を受け、その結果が実習に支障がないこと。
 - ② 実習前に麻疹抗体証明を提出すること。
 - ③ 既往歴のある場合は、事前に申告すること。
- 8 特別支援学校教育実習に関わるガイダンスは、1年次の4月に行う。

免許取得料

特別支援学校教諭免許状に必要な免許取得料に関しては、「4. 免許・資格取得のための教育課程」の「各種免許と資格」の項を参照すること。なお、一旦納入された免許取得料は返付されない。

特別支援学校教諭免許状の申請

特別支援学校教諭免許状は、幼児保育学科卒業までに特別支援学校教諭免許状取得に必要な要件を満たし、手続きを終えた者に限り、本学より東京都教育委員会に一括申請する。そのために必要な手続き等については、その都度指示する。専攻科にて教育実習を行う場合等は、各自、居住地の都道府県教育委員会にて個人申請することによって免許を取得することができる。

■特別支援学校教諭（知的障害・肢体不自由・病弱）二種免許状取得に必要な授業科目（2023年度以降入学生）■

基礎資格	短期大学士(幼児教育学)
有する教諭の普通免許状の種類	幼稚園教諭二種免許状
特別支援学校教諭（知的障害・肢体不自由・病弱）二種免許状取得に必要な単位	20単位

・特別支援教育に関する科目

教育職員免許法施行規則に規定する科目	本学が開設している授業科目	中心となる領域	含む領域	開講学年	単位数	備考
特別支援教育の基礎理論に関する科目	特別支援教育総論			1年	2	
特別支援教育領域に関する科目	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的障害者の心理・生理・病理	知		2年	1
		肢体不自由者の心理・生理・病理	肢		2年	1
		病弱者の心理・生理・病理	病		2年	1
	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害者教育論（指導法を含む）	知		2年	1
		肢体不自由者教育論（指導法を含む）	肢		2年	1
		病弱者教育論（指導法を含む）	病		2年	1
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	障害者教育総論（知・肢・病）	知	肢・病	1年	2
	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	視覚障害者の心理・生理・病理	視		2年	1
		聴覚言語障害者の心理・生理・病理	聴		2年	1
		自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理	発達	重	1年	1
		視覚・聴覚言語障害者教育論（指導法を含む）	視	聴	2年	1
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	自閉スペクトラム症者の支援	発達	重	1年	1
	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	重複障害・LD等教育論	重		2年	2
	特別支援学校教育実習（事前事後の指導を含む）			2年	3	
					特別支援学校教諭（知・肢・病）二種免許状取得に必要な単位	20単位

3 保育士となる資格の取得 (2024年度入学生)

本学は、3年課程の指定保育士養成施設「星美学園短期大学幼児保育学科専攻科幼児保育専攻」である。
(平成15年3月27日関厚発第0327015号指定)

「保育士資格」は、幼児保育学科および専攻科幼児保育専攻に設定されている保育士資格取得に必要な科目の単位を修得し、幼児保育学科を卒業、専攻科幼児保育専攻を修了することによって授与されるものである。保育士資格取得希望者の決定は、入学後のガイダンスにおいて行われる。

保育士資格の取得条件

幼児保育学科と専攻科幼児保育専攻の通算3年間の学修により資格を取得することができる。資格を取得するには、幼児保育学科及び専攻科幼児保育専攻で必要な科目の単位を修得しなければならない。

幼児保育学科在学中に、保育士資格取得のために課せられた科目の単位を修得していなければ、専攻科に進んでも資格の取得はできないので、幼児保育学科入学時から、計画的に履修する必要がある。

- (1) 保育実習は、「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習Ⅱ（保育所）」または「保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）」の、3回を行わなければならない。
- (2) 「保育実習Ⅰ（保育所）」と「保育実習Ⅱ（保育所）」は、原則として、同じ保育所で実習を行う。
- (3) 実習施設に関しては、「保育実習Ⅰ（保育所）」・「保育実習Ⅱ（保育所）」は、本人が選んだ希望する保育所で実習を行う¹。その際、無認可保育所での実習は認められないので、注意すること。「保育実習Ⅰ（施設）」・「保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）」に関しては、本学が内諾を得ている実習施設で実習を行う²。

保育実習に行く条件

星美学園短期大学幼児保育学科、専攻科では3回の保育実習がある。この保育実習を行うためには、以下に定める条件をすべてクリアしてはならない。これらはいずれも、星美学園が目指す保育者としての資質を養うためにとても大切な事項である。

1. 健康について

- ① 実習を行う前に健康診断を受け、その結果が、実習に支障がないこと。
- ② 実習を行う前に、「麻疹・風疹に関する問診票」を提出すること。
- ③ 実習前の定められた期限に細菌検査を受け、その結果が、実習に支障がないこと。
(新型コロナウイルス感染症の抗原検査もしくはPCR検査を行う場合がある。)
- ④ 既往歴（大けが、発作、アレルギー、心身の不調など）のある場合は事前に申告し、実習に支障がないこと。

2. 保育士資格に必要な科目（「保育実習」「保育実習指導」を除く）に関して、次の事項を満たしていること。

- ① 幼児保育学科本科卒業までに、本科で開講している保育士必修科目は原則的に取得しておくこと。本科における未履修科目については、専攻科で単位の修得をしなければならない。
- ② 「保育実習Ⅰ（保育所）」については、2年生前期までの保育士必修科目について、80%以上の科目数が取得できていない場合は実習に行くことはできない。
- ③ 幼児保育学科2年前期末のGPAが1.0に届かない場合は実習に行くことはできない。また、幼児保育学科2年後期末のGPAが1.0に届かない場合は、専攻科での実習に行くことはできない。
- ④ 幼児保育学科2年前期末の履修している全科目の出席率が70%未満の場合は実習に行くことはできない。
- ⑤ 保育士必修科目の授業については全回出席していること。やむをえない場合であっても、実習前の保育士必修科目の授業を1/3以上欠席し失格になった場合、実習に行くことはできない。
- ⑥ 原則として、「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」が完了していない場合、「保育実習Ⅱ・Ⅲ」の実習

¹ 申し込みをした自治体によっては希望とは異なる保育所に配属されることがある。

² 「保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）」については自己開拓を認めることがある。

は行くことができない。

実習施設の都合により、実習の順序が入れ替わった場合、「保育実習Ⅱ・Ⅲ」が合格点を取っても、「保育実習Ⅰ」の保育所または施設のいずれかの実習が不合格の場合は、「保育実習Ⅱ・Ⅲ」の単位は取ることができない。

- ⑦ 「保育実習指導」と「保育実習」はセットで単位を取るため、どちらかが失格・不合格の場合、両方とも単位が取れなくなる。

3. 事務上の手続き・行動について

- ① 専攻科幼児保育専攻進学希望者に対しては、1年次から、「保育実習ガイダンス」が行われるので、必ず出席し、手順について、詳細を確認すること。
- ② 保育実習関連の書類等は正確に記入し、期限内に提出すること。
- ③ 保育実習関連の費用を期限内に納入すること。
- ④ 教職員の呼出・連絡にはすみやかに誠実に応じ、自らも積極的に報告・相談・連絡をすること。
- ⑤ 保育実習中の就職活動¹、および、保育実習1週間前～終了後1週間の期間のアルバイトは禁止(感染症対策など、特別に自宅待機期間が設けられている場合は、その期間を守ること)。

4. 「保育実習」「保育実習指導」の授業に関して、次の事項を満たしていること。

- ① 「保育実習」の授業、および、個別に行う事前・事後指導にすべて出席していること。
やむをえず欠席する場合は、必ず事前に保育実習担当教員全員にメールで連絡を入れ、欠席した分の補講もしくは課題を次の授業までに完了させる必要がある。
- ② 「保育実習指導」の授業、および事前事後指導における課題を期限内に提出すること。
- ③ 「保育実習指導」の授業、および事前事後指導における課題等が合格点に達すること。
- ④ 度重なる提出物の遅れ、授業への無断欠席、課題の不合格が続き、改善の様子が見られない場合は、実習担当者で審議のうえ、実習を中止とする。目安としては、提出遅れが3回続いた場合、3回目で実習担当者と個別面談の上、保護者に連絡を入れて事情の説明をし、行動改善計画を提出する。行動改善がなく、通算で5回目となった場合、実習を中止する。
- ⑤ その他、不正行為および学則に違反する行為など、学生として不適切な行為があった場合には、実習を中止する。実習担当者と個別面談の上、保護者に連絡を入れて事情の説明をし、行動改善計画を提出する。行動改善がない場合、実習を中止する。

5. 「保育実習」「保育実習指導」は、上記の1～4および、次の項目のすべてを満たした場合に合格となる。

- ① すべての実習が、それぞれ 70時間以上を満たし、完了していること。
- ② 実習終了後、遅くとも3日以内に『保育実習日誌』を実習施設に提出し、1週間以内にお礼状(封書)を送付すること。
- ③ 事後指導終了後、指定された期日までに保育実習日誌を提出し、合格点に達していること。
- ④ 授業評価、実習園評価、日誌評価、事前事後指導評価を総合した成績が、及第点(60点)に達していること。

保育士資格取得に必要な単位

保育士資格取得には、次頁以降に示した保育士の資格に関する科目を3年間で合計93単位以上修得しなければならない。

<幼稚園教育実習未経験者への補習>

幼稚園での教育実習を完了せずに保育実習に臨む場合は、保育実習担当教員の指示に従い、所定の日数、保育所等でボランティアを行い、日誌記入の練習を行う。

¹ 実習開始日より4週間前までに保育実習担当教員に届け出た場合、公務員試験(保育士)のみ受験可能とします。但し、その場合であっても実習施設の意向が優先されること、実習中の受験は1回のみ、実習の休日(1日)が試験日にあてられる可能性があることに留意して下さい。

3 保育士となる資格の取得 (2022年度・2023年度入学生)

本学は、3年課程の指定保育士養成施設「星美学園短期大学幼児保育学科専攻科幼児保育専攻」である。
(平成15年3月27日関厚発第0327015号指定)

「保育士資格」は、幼児保育学科および専攻科幼児保育専攻に設定されている保育士資格取得に必要な科目の単位を修得し、幼児保育学科を卒業、専攻科幼児保育専攻を修了することによって授与されるものである。保育士資格取得希望者の決定は、入学後のガイダンスにおいて行われる。

保育士資格の取得条件

幼児保育学科と専攻科幼児保育専攻の通算3年間の学修により資格を取得することができる。資格を取得するには、幼児保育学科及び専攻科幼児保育専攻に必要な科目の単位を修得しなければならない。

幼児保育学科在学中に、保育士資格取得のために課せられた科目の単位を修得していなければ、専攻科に進んでも資格の取得はできないので、幼児保育学科入学時から、計画的に履修する必要がある。

- (1) 保育実習は、「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習Ⅱ（保育所）」または「保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）」の、3回を行わなければならない。
- (2) 「保育実習Ⅰ（保育所）」と「保育実習Ⅱ（保育所）」は、原則として、同じ保育所で実習を行う。
- (3) 実習施設に関しては、「保育実習Ⅰ（保育所）」・「保育実習Ⅱ（保育所）」は、本人が選んだ希望する保育所で実習を行う¹。その際、無認可保育所での実習は認められないので、注意すること。「保育実習Ⅰ（施設）」・「保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）」に関しては、本学が内諾を得ている実習施設で実習を行う²。

保育実習に行く条件

星美学園短期大学幼児保育学科、専攻科では3回の保育実習がある。この保育実習を行うためには、以下に定める条件をすべてクリアしていなくてはならない。これらはいずれも、星美学園が目指す保育者としての資質を養うためにとっても大切な事項である。

1. 健康について

- ① 実習を行う前に健康診断を受け、その結果が、実習に支障がないこと。
- ② 実習を行う前に、「麻疹・風疹抗体証明書」を提出すること。抗体のない場合は予防接種を受け、抗体のある状態にすること。
- ③ 実習前の定められた期限に細菌検査を受け、その結果が、実習に支障がないこと。
(新型コロナウイルス感染症の抗原検査もしくはPCR検査を行う場合がある。)
- ④ 既往歴（大けが、発作、アレルギー、心身の不調など）のある場合は事前に申告し、実習に支障がないこと。

2. 保育士資格に必要な科目（「保育実習」「保育実習指導」を除く）に関して、次の事項を満たしていること。

- ① 幼児保育学科本科卒業までに、本科で開講している保育士必修科目は原則的に取得しておくこと。本科における未履修科目については、専攻科で単位の修得をしなければならない。
- ② 「保育実習Ⅰ（保育所）」については、2年生前期までの保育士必修科目について、80%以上の科目数が取得できていない場合は実習に行くことはできない。
- ③ 幼児保育学科2年前期末のGPAが1.0に届かない場合は実習に行くことはできない。また、2022年度入学生については、幼児保育学科2年後期末のGPAが2.0を超えることが、専攻科での実習条件となる。2023年度入学生については、幼児保育学科2年後期末のGPAが1.0に届かない場合は、専攻科での実習に行くことはできない。
- ④ 幼児保育学科2年前期末の履修している全科目の出席率が70%未満の場合は実習に行くことはできない。

¹ 申し込みをした自治体によっては希望とは異なる保育所に配属されることがある。

² 「保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）」については自己開拓を認めることがある。

- ⑤ 保育士必修科目の授業については全回出席していること。やむをえない場合であっても、実習前の保育士必修科目の授業を1／3以上欠席した場合（失格になった場合）、実習に行くことはできない。
- ⑥ 原則として、「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」が完了していない場合、「保育実習Ⅱ・Ⅲ」の実習は行くことができない。
実習施設の都合により、実習の順序が入れ替わった場合、「保育実習Ⅱ・Ⅲ」が合格点を取っても、「保育実習Ⅰ」の保育所または施設のいずれかの実習が不合格の場合は、「保育実習Ⅱ・Ⅲ」の単位は取ることができない。
- ⑦ 「保育実習指導」と「保育実習」はセットで単位を取るため、どちらかが失格・不合格の場合、両方とも単位が取れなくなる。

3. 事務上の手続き・行動について

- ① 専攻科幼児保育専攻進学希望者に対しては、1年次から、「保育実習ガイダンス」が行われるので、必ず出席し、手順について、詳細を確認すること。
- ② 保育実習関連の書類等は正確に記入し、期限内に提出すること。
- ③ 保育実習関連の費用を期限内に納入すること。
- ④ 教職員の呼出・連絡にはすみやかに誠実に応じ、自らも積極的に報告・相談・連絡をすること。
- ⑤ 保育実習中の就職活動¹、および、保育実習1週間前～終了後1週間の期間のアルバイトは禁止(感染症対策など、特別に自宅待機期間が設けられている場合は、その期間を守ること)。

4. 「保育実習」「保育実習指導」の授業に関して、次の事項を満たしていること。

- ① 「保育実習」の授業、および、個別に行う事前・事後指導にすべて出席していること。
やむをえず欠席する場合は、必ず事前に保育実習担当教員全員にメールで連絡を入れ、欠席した分の補講もしくは課題を次の授業までに完了させる必要がある。
- ② 「保育実習指導」の授業、および事前事後指導における課題を期限内に提出すること。
- ③ 「保育実習指導」の授業、および事前事後指導における課題等が合格点に達すること。
- ④ 度重なる提出物の遅れ、授業への無断欠席、課題の不合格が続き、改善の様子が見られない場合は、実習担当者で審議のうえ、実習を中止とする。目安としては、提出遅れが3回続いた場合、3回目の実習担当者と個別面談の上、保護者に連絡を入れて事情の説明をし、行動改善計画を提出する。行動改善がなく、通算で5回目となった場合、実習を中止する。
- ⑤ その他、不正行為および学則に違反する行為など、学生として不適切な行為があった場合には、実習を中止する。実習担当者と個別面談の上、保護者に連絡を入れて事情の説明をし、行動改善計画を提出する。行動改善がない場合、実習を中止する。

5. 「保育実習」「保育実習指導」は、上記の1～4および、次の項目のすべてを満たした場合に合格となる。

- ① すべての実習が、それぞれ **88時間以上を満たし、完了していること。**
- ② 実習終了後、遅くとも3日以内に『保育実習日誌』を実習施設に提出し、1週間以内にお礼状（封書）を送付すること。
- ③ 事後指導終了後、指定された期日までに保育実習日誌を提出し、合格点に達していること。
- ④ 授業評価、実習園評価、日誌評価、事前事後指導評価を総合した成績が、及第点（60点）に達していること。

保育士資格取得に必要な単位

保育士資格取得には、次頁以降に示した保育士の資格に関する科目を3年間で合計93単位以上修得しなければならない。

<幼稚園教育実習未経験者への補習>

幼稚園での教育実習を完了せずに保育実習に臨む場合は、保育実習担当教員の指示に従い、所定の日数、保育所等でボランティアを行い、日誌記入の練習を行う。

¹ 実習開始日より4週間前までに保育実習担当教員に届け出た場合、公務員試験（保育士）のみ受験可能とします。但し、その場合であっても実習施設の意向が優先されること、実習中の受験は1回のみ、実習の休日（1日）が試験日にあてられる可能性があることに留意して下さい。

■■■■保育士資格取得に必要な修業教科目■■■■

保育士養成施設卒業に必要な単位数	単位数		
	必修	選択	計
	78	15	93

【設置単位数】

教科目の種別	設置単位数	単位数		
		必修	選択	計
教養科目	10 単位以上	6	14	20
告示別表第1による教科目	51 単位以上	54	0	54
告示別表第2による教科目	18 単位以上	4	25	29
小計		64	39	103
保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目		14	31	45
合計		78	70	148

【保育士資格取得に必要な履修単位数】

教科目の種別	保育士資格取得に必要な履修単位数	単位数		
		必修	選択	計
教養科目	8 単位以上	6	4 以上	10 以上
告示別表第1による教科目	51 単位以上	54	0	54
告示別表第2による教科目	9 単位以上	4	5 以上	9 以上
計		64	9 以上	73 以上
保育士資格取得教科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目		14	6 以上	20 以上
合計		78	15 以上	93 以上

(3年間で93単位以上)

【教養科目】

厚生労働省告示による教科目				本学における教科目の開設状況等							本学における履修方法		
系列	教科目	授業形態	設置単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	設置単位数	授業時間数	対象学年					
教養科目	外国語、 体育以外の 科目	不問	6 以上	キリスト教学	演習	2	60	1 年			必修		
				人間学Ⅰ	演習	1	30		2 年		必修		
				人間学Ⅱ	演習	1	30		2 年		必修		
				聖書学特講	講義		2	30	1 年				
				ドン・ボスコ研究	講義		2	30	1 年				
				心理学	講義		2	30	1 年				
				日本国憲法	講義		2	30		2 年			
	外国語	演習	2 以上	基礎英語Ⅰ	演習		1	30	1 年			「基礎英語Ⅰ」「基礎英語Ⅱ」又は「イタリア語入門Ⅰ」「イタリア語入門Ⅱ」のいずれかを2単位選択必修	
				基礎英語Ⅱ	演習		1	30	1 年				
				イタリア語入門Ⅰ	演習		1	30	1 年				
				イタリア語入門Ⅱ	演習		1	30	1 年				
	体育	講義	1	健康科学	講義	1	15	1 年			必修		
		実技	1	体育実技	実技	1	30	1 年			必修		
	設置単位数		10 単位以上		本学における設置単位数			20 単位					
履修単位数		10 単位以上		本学における最低履修単位数			10 単位以上						

【必修科目】

厚生労働省告示別表第1による教科目				本学における教科目の開設状況等							本学における履修方法
系列	教科目	授業形態	設置単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	設置単位数 必修 選択	授業時間数	対象学年			
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2	30		2年	必修	
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2	30	1年		必修	
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	2	30		2年	必修	
	社会福祉	講義	2	社会福祉論	講義	2	30		2年	必修	
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2	30		2年	必修	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2	30		2年	専攻科 必修	
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2	30		2年	必修	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	発達心理学	講義	2	30	1年		必修	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2	30		2年	必修	
	子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助	演習	1	30	1年		必修	
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2	30		2年	必修	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養Ⅰ	演習	1	30		2年	専攻科 必修	
				子どもの食と栄養Ⅱ	演習	1	30		2年	専攻科 必修	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育・教育課程論	講義	2	30	1年		必修	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	1	30		2年	必修	
	保育内容演習	演習	5	保育内容の指導法「健康」	演習	1	30		2年	必修	
				保育内容の指導法「人間関係」		1	30		2年	必修	
				保育内容の指導法「環境」		1	30	1年		必修	
				保育内容の指導法「言葉」		1	30		2年	必修	
				保育内容の指導法「表現(造形)」		1	30	1年		必修	
				保育内容の指導法「表現(音楽)」Ⅰ		1	30	1年		必修	
				保育内容の指導法「表現(音楽)」Ⅱ		1	30		2年	必修	
	保育内容の理解と方法	演習	4	幼児と健康Ⅰ	演習	1	30	1年		必修	
				幼児と言葉(国語表現を含む)		1	30	1年		必修	
				幼児と表現(音楽)Ⅰ		2	60	1年		必修	
				幼児と表現(造形)Ⅰ		1	30		2年	必修	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2	30		2年	必修	
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	1	30		2年	必修	
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	1	30		2年	必修	
	障害児保育	演習	2	障がい児保育Ⅰ	演習	1	30		2年	必修	
障がい児保育Ⅱ				1		30		2年	必修		
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	1	30		2年	専攻科 必修		
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	1	30		2年	専攻科 必修		
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ(保育所)	実習	2	88◎		2年	必修	
				保育実習Ⅰ(施設)		2	88◎		専攻科 必修		
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ(保育所)	演習	1	30		2年	必修	
				保育実習指導Ⅰ(施設)		1	30		専攻科 必修		
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2	30		2年	必修	
設置単位数		51単位以上		本学における設置単位数		54単位					
履修単位数		51単位以上		本学における最低履修単位数		54単位					

©2024年度入学生:70

【選択必修科目】

厚生労働省告示別表第2による教科目				本学における教科目の開設状況等							本学における履修方法		
系列	教科目	授業形態	設置単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	設置単位数		授業時間数	対象学年				
						必修	選択						
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15以上	特別支援教育総論	講義		2	30	1年			このうち15単位以上を選択必修	
				障害者教育総論（知・肢・病）	講義		2	30	1年				
				重複障害・LD等教育論	講義		2	30		2年			
				教育相談基礎論	講義		2	30		2年			
				幼児と人間関係	演習	1		30		2年			必修
				幼児と健康Ⅱ	演習		1	30		2年			
				知的障害者の心理・生理・病理	講義		1	15		2年			
				肢体不自由者の心理・生理・病理	講義		1	15		2年			
				病弱者の心理・生理・病理	講義		1	15		2年			
				自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理	講義		1	15	1年				
				自閉スペクトラム症者の支援	講義		1	15	1年				
				視覚障害者の心理・生理・病理	講義		1	15		2年			
				聴覚言語障害者の心理・生理・病理	講義		1	15		2年			
				教育方法論	講義	2		30	1年				必修
保育の内容・方法に関する科目				教育情報学	講義		1	15	1年				
				幼児と表現（音楽）Ⅱ	演習		1	30		2年			
				幼児と表現（音楽）Ⅲ	演習		1	30		2年			
				幼児と表現（造形）Ⅱ	演習	1		30		2年		必修	
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ（保育所）	実習		2	88◎			専攻科	「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」の履修が必要	
				保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）	実習		2	88◎			専攻科		
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ（保育所）	演習		1	30			専攻科		
				保育実習指導Ⅲ（保育所以外の施設）	演習		1	30			専攻科		
設置単位数	18単位以上	本学における設置単位数			29単位								
履修単位数	9単位以上	本学における最低履修単位数			9単位以上								

©2024年度入学生:70

【本学独自の科目】

本学における教科目の開設状況等								本学における履修方法
左に対応して開設されている教科目	授業形態	設置単位数		授業時間数	対象学年			
		必修	選択					
人格論	講義	4		60			専攻科	必修
卒業研究ゼミナール	演習	2		60			専攻科	必修
卒業研究	演習	2		60			専攻科	必修
幼児保育キャリア演習Ⅰ	演習	2		60	1年			必修
幼児保育キャリア演習Ⅱ	演習	2		60		2年		必修
幼児保育キャリア演習Ⅲ	演習	2		60			専攻科	必修
特別演習A	演習		1	30			専攻科	
特別演習B	演習		1	30			専攻科	
特別演習C	演習		1	30			専攻科	
特別演習D	演習		1	30			専攻科	
特別演習E	演習		1	30			専攻科	
特別演習F	演習		1	30			専攻科	
特別演習G	演習		1	30			専攻科	
特別演習H	演習		1	30			専攻科	
特別演習I	演習		1	30			専攻科	
特別演習J	演習		1	30			専攻科	
特別演習K	演習		1	30			専攻科	
特別演習L	演習		1	30			専攻科	
特別演習M	演習		1	30			専攻科	
特別演習N	演習		1	30			専攻科	
特別演習O	演習		1	30			専攻科	
特別演習P	演習		1	30			専攻科	
特別演習Q	演習		1	30			専攻科	
特別演習R	演習		1	30			専攻科	
特別演習S	演習		1	30			専攻科	
特別演習T	演習		1	30			専攻科	
特別演習U	演習		1	30			専攻科	
特別演習V	演習		1	30			専攻科	
特別演習W	演習		1	30			専攻科	
特別演習X	演習		1	30			専攻科	
幼児と表現（言葉）	演習		1	30	1年			
音楽基礎演習Ⅰ	演習		1	30	1年			
音楽基礎演習Ⅱ	演習		1	30	1年			
ベビーシッター論	講義		2	30			専攻科	
発達障がい児指導法演習	演習		2	30			専攻科	
本学における設置単位数		45 単位						
本学における最低履修単位数		20 単位以上						

保育士資格取得教科目でないが、学校独自の科目として開設されたいる教科目

このうち 20 単位以上を選択必修

4 社会福祉主事任用資格の取得

社会福祉主事とは、都道府県、市および福祉事務所を置く町村に置かれる職である（社会福祉法第18条）。地方自治体の社会福祉事務所の職員（ケースワーカー）として、福祉六法（生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、老人福祉法）に基づき、保護・援助を必要とする人のために相談・指導・援助を行う。具体的には、福祉サービスを必要とする生活困窮者や母子家庭、老人、障害者の相談にのり、生活保護の適用や保育所等の福祉施設への入所のための手続きを行う。

社会福祉主事任用資格とは、社会福祉主事として任用される際に要求される資格のことである。よって、福祉事務所において社会福祉主事として採用された際、活きる資格である。ただし、社会福祉に関する基礎的な事項を学習した証明になることから、社会福祉主事任用資格を採用条件として職員募集をする民間の福祉施設もある。

履修条件

下記の科目の中から、3科目以上を履修し、卒業すると「社会福祉主事任用資格」を取得できる。

■■■社会福祉主事任用資格に関する開講科目■■■

授業科目名	単位数	指定科目 * 1
社会福祉論	2	社会福祉概論
子ども家庭福祉	2	児童福祉論
保育原理	2	保育理論
教育原理	2	教育学
心理学	2	心理学

* 1：指定科目は、社会福祉法第19条第1項に基づく「厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目」の名称である。本学では、授業科目名に記された科目が指定科目の読み替え範囲に該当する。

〔資格の証明〕

社会福祉主事任用資格は、履修済科目が記載された成績証明書および卒業証明書をもって証明される。

5 ピアヘルパー資格の取得

ピアヘルパー資格は、学生を対象とした「NPO 法人 日本教育カウンセラー協会」の認定資格である。ピアヘルパーとは、カウンセリングの素養を持ちながら仲間を援助するという意味で、具体的には仲間の話を聞きながら、心の重荷を分け持ち、相手の心を軽くするような手伝いをするることである。

取 得 条 件

ピアヘルパーの資格を取得するには、下記の条件を満たしていなければならない。

- 1 幼児保育学科生および専攻科生であること。
- 2 下記の科目を履修し、その単位を修得していること。

① 発達心理学	2 単位
② 教育相談基礎論	2 単位
③ 子ども家庭支援論	2 単位（2 年次生は単位修得見込み）

合 計 6 単位

- 3 日本教育カウンセラー協会の認定試験を受験し、合格すること。

認 定 試 験

認定試験受験手続きは10～11月上旬、認定試験は2月上旬に行われる。詳細は、教務・学生支援課の掲示により確認すること。

6 准学校心理士資格の取得

准学校心理士資格は、「一般社団法人 学校心理士認定運営機構 准学校心理士資格認定委員会」の認定資格である。准学校心理士は、学校心理士になるための資格である。従来、学校心理士取得には、大学院修了や4年制大学卒業に加え、一定期間の実務経験が必要であった。しかし、准学校心理士を取得することで、短期大学卒業者も学校心理士を取得することが可能になった。

なお、学校心理士認定運営機構によると、学校心理士とは学校生活におけるさまざまな問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングなどを通して、子ども自身、子どもを取り巻く保護者や教師、学校に対して、「学校心理学」の専門的知識と技能をもって、心理教育的援助サービスを行うことのできる者である。

准学校心理士取得条件

准学校心理士の資格を取得するには、下記の条件を満たしていなければならない。

- 1 幼児保育学科生および専攻科生であること。
- 2 幼稚園教諭2種免許状または保育士の資格を有していること（取得見込みを含む）。
- 3 下記の科目を履修し、その単位を修得していること。

① 発達心理学	2単位
② 特別支援教育総論	2単位
③ 教育相談基礎論	2単位（2年次は単位修得見込み）
合計	6単位
- 4 「一般社団法人学校心理士認定運営機構 准学校心理士資格認定委員会」の審査を受け、合格すること。

資格認定審査

資格認定審査の申請は、7～8月に行われ、審査結果は10～12月に通知される。審査に合格した場合、その後の登録手続きを行うことによって、資格認定証が授与される。

学校心理士受験資格の付与

准学校心理士の資格を有する者が学校心理士の受験資格を得ようとするには、下記の条件を満たさなければならない。なお、准学校心理士の資格有効期間は原則、3年間である。この期間のうちに、学校心理士受験資格の申請を行う必要がある。

- 1 幼稚園や特別支援学校等の1条校または保育所等の保育施設において、3年間の専門的な実務経験を有すること。
- 2 准学校心理士として学校心理士認定運営機構や学校心理士会の研修会に参加し、10ポイント以上の研修ポイントを取得すること。

7 認定ベビーシッター資格の取得

認定ベビーシッターとは、「公益社団法人 全国保育サービス協会」の認定資格である。この資格は、ベビーシッターとして必要な職業倫理を備え、専門知識・技術を有することを証明するものである。保育士養成校で取得するには、認定ベビーシッター資格取得指定校として認定された大学・短期大学にて、「在宅保育」に関する科目を修得する必要がある、本学はその指定校となっている。

取得条件

認定ベビーシッターの資格を取得するには、下記の条件を満たしていなければならない。

- 1 保育士の資格取得に必要な科目（「3 保育士となる資格の取得」参照）と専攻科科目「ベビーシッター論」を修得し、かつ専攻科幼児保育専攻を修了すること。
- 2 すでに保育士の資格を取得していて、科目等履修生として専攻科科目「ベビーシッター論」を履修し、その単位を修得すること。

8 発達障がい児保育ベーシックプログラムの修了認定資格の取得

発達障がい児保育ベーシックプログラム修了認定資格は、本学独自の認定資格である。この資格は、保育の現場で発達障がい児に適切な支援ができる基本的な知識・技術・態度を有することを証明するものである。

取得条件

「発達障がい児保育ベーシックプログラム」の修了認定資格を取得するには、下記の条件を満たしていなければならない。

1 本学幼児保育学科で幼稚園教諭2種免許状を取得しており、本学専攻科幼児保育専攻にて保育士の資格を取得見込であること。

2 幼児保育学科にて以下の科目の単位を修得すること。

①障害者教育総論（知・肢・病）	2単位
②特別支援教育総論	2単位
③自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理	1単位
④自閉スペクトラム症者の支援	1単位
⑤重複障害・LD等教育論	2単位
⑥知的障害者の心理・生理・病理	1単位

3 専攻科幼児保育専攻にて以下の科目の単位を修得すること。

発達障がい児指導法演習	2単位
-------------	-----

4 修了試験に合格すること。

※修了試験に関しては、別途ガイダンスを行う。

※修了試験にやむを得ない事情（病気・事故等）で欠席した場合は、追試験を行うことがある。【追試験の受験資格】参照

5 長期履修学生制度

長期履修学生制度とは、学則第7条第1項に定められている修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に授業科目を履修し、卒業することができる制度である。

- ・その目的は、2年の修業年限では卒業に必要な単位の修得が困難な者に、本学所定の単位を修得し、短期大学士の学位を得る機会を提供することにある。
- ・長期履修学生は、「星美学園短期大学長期履修学生規程」の定めに従う。

6 科目等履修生・聴講生制度

1 科目等履修生

科目等履修生制度とは、本学の学生以外の者（卒業生・協定書を締結している高等学校生徒を含む）が、本学の科目または課程を履修することができる制度である。

- ・その目的は、学習することを希望する社会人、または何らかの目的で本学の科目を履修することを希望する者に、その機会を提供することにある。
- ・履修資格は、高等学校を卒業した者、通常の課程による12年の学校教育を終了した者、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者である。
- ・科目等履修生は、「科目等履修生規程」の定めに従う。

※出願手続等の詳細については「教務・学生支援課」に問い合わせる。

2 聴講生

聴講生制度とは、本学の学生以外の者（卒業生を含む）が、本学の科目を聴講することができる制度である。

- ・その目的は、学習することを希望する社会人、または何らかの目的で本学の科目を聴講することを希望する者に、その機会を提供することにある。
- ・聴講資格は、高等学校を卒業した者、通常の課程による12年の学校教育を終了した者、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者である。
- ・聴講生が聴講する科目は、単位を認定しない。
- ・聴講生は、別に定める「聴講生規程」の定めに従う。

※出願手続等の詳細については「教務・学生支援課」に問い合わせる。

第3章 大学生活に関すること

1 学生生活

1 窓 口

正門

正門から入構する際には、守衛所で学生証を提示してください。

正門は18:30に施錠されます。

校舎の開閉時間

セキュリティ上、下記の時間帯を厳守してください。()内は学生の完全下校時刻です。日曜・祝日・年末年始および短大の指定の休日は原則として入れません。大学行事などにより時間が変更になる場合があります。詳細は、本学 Web ページでご確認ください。

授業期間	平日	8:30～18:30 (18:20)
	土曜日	8:30～15:30 (15:20)
長期休業期間 (夏季/冬季/春季)	平日	8:30～16:00 (15:30)
	土曜日	8:30～15:00 (14:30)

※休業日は、Web ページのカレンダー参照

事務部窓口と担当業務

部署名		担当業務	取扱時間
受付	企画管理課	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ個人利用受付 ・特別教室の鍵の貸出 ・印刷依頼・コピー機関係問い合わせ ・学割発行 ・納入金・会計・精算 	[授業期間] 平日 8:50～17:00 土曜日 8:50～15:00 [長期休業期間] 平日 8:50～15:00 土曜日 8:50～14:00
事務室	教務・学生支援課	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍・履修・授業・学生生活・大学行事 ・PCの個人利用受付・奨学金 ・保健室利用・学生保険 ・サークル関係手続・遺失物 ・学生証再発行・身上変更届・各種証明書発行・e-pa 	
	キャリアセンター	・就職・進学・アルバイト・ボランティア・インターンシップ	
	図書館	・図書館利用	
			図書館利用案内を参照のこと

※休業日は、Web ページのカレンダー参照

2 大学からの連絡方法

大学から学生への連絡・通知等は原則として掲示またはメール配信 (e-pa、Google クラウドルームなど) により行います。一度通知した事項はその当日から全学生に周知されたものとして取り扱います。通知を見なかったという理由で不利益が生じても、学生本人の責任となり、事後に異議を申し立てることはできません。毎日確認するよう心がけてください。また、通知の内容に関して、電話等での問い合わせには応じません。なお、上記以外の連絡方法として本学 Web サイトの緊急情報があります。

	掲示内容	掲示板設置場所	問い合わせ先
掲示	授業、試験、実習、免許・資格に関すること	1階事務室前	1階事務室 (教務・学生支援課)
	アッセンブリー予定、行事に関すること	1階事務室前	
	奨学金に関すること	1階事務室前	
	サークル、各種イベント、緊急・重要案件	学生玄関周辺	
	図書館	副学長室前	図書館
	みなさんの声	学長室前	1階事務室 (企画管理課)

掲示	教育プロジェクト	学長室前	教育プロジェクト委員
	アルバイト情報、ボランティア・インターンシップ募集	1階東側階段横	キャリアセンター
	公務員、編入学情報、就職活動イベント情報	キャリアセンター前	
パソコン	求人票	キャリアセンター内 PCにて確認	
e-pa (イーパ)	e-paは他人にアドレスを知られずに連絡を受け取ることのできる一斉メール送信システムです。必ず事前にシステムへメールアドレスを登録してください。メールアドレスを変更した場合は、速やかに登録更新をしてください。		
Webサイト	本学Webサイトトップページ「緊急情報」に災害時などの緊急時にお知らせしたい情報が掲載されます。		

3 各種証明書、申請書、届出

証明書の種類(名称)	手数料	申込手順
在学証明書	300円	1. 「各種証明書発行申込書」を記入、または本学Webサイトよりダウンロードしてプリントアウトし、必要事項を記入する。 2. 1階受付で手数料を支払う。 3. 1階事務室に申込書を提出する。 ※原則、発行には3日間(土日・祝日含まず)かかります。また、本学所定外の様式で発行する場合は、7～10日かかります。
健康診断証明書	300円	
推薦書	300円	
人物紹介状	400円	
幼児保育学科 成績証明書(修得単位を含む)	300円	
専攻科 成績証明書(修得単位を含む)	300円	
幼児保育学科 卒業見込証明書	300円	
幼児保育学科 卒業証明書	300円	
専攻科 修了見込証明書	300円	
幼稚園教諭免許状取得見込証明書	300円	
特別支援学校教諭免許状取得見込証明書	300円	
指定保育士養成施設卒業見込証明書 (保育士資格取得見込証明)	300円	
学力に関する証明書(幼稚園二種免許)	300円	
学力に関する証明書(特別支援学校二種免許)	300円	
人物推薦書等(本学所定外の書式)	400円	

届出名称	届出先	届出用紙の入手法
休学届・復学届・退学届	1階事務室	1階事務室
身上変更届		1階事務室または 本学Webサイトよりダウンロードしてプリントアウトする。
病気治癒証明書		
忌引き届		
海外渡航届		
印刷依頼	1階受付	1階受付
学割交付申請書		
物品借用申請書		
精算依頼書		

4 施設・設備の利用

<使用可能な教室>

※使用ルールは変更になる場合があります。

教室名称	概要
講義教室	213, 214, 215, 224, 303, 305, 306, 403, 405の各教室は講義教室です。授業などで使用していない時は使用可能です。飲食もできます。

特別教室	上記の講義教室以外の教室はすべて特別教室です。機器等の故障につながるため、原則、特別教室への <u>飲食物の持ち込みは禁止</u> されています。施錠されていますので、使用する場合は1階受付で手続きをして鍵を借りてください。
大講義室	授業のほか、大学行事や式典の際に使用します。室内は飲食厳禁です。
情報処理教室 (311室, 301室)	授業などで使用していない時間帯に、PCを利用することができます。1階事務室で手続きをしてください。詳しくは、「情報処理教室利用案内」をご覧ください。
ピアノ練習室 (228室)	電子ピアノを利用できます。1階受付で手続きをしてください。
ピアノレッスン室	408～412の5室です。1階受付で手続きをしてください。
404室	学生が自由に利用することができます。整理棚が設置されており、クラス活動などで使用する物品を保管することができます。学生の共有スペースですので、私物は放置せず、整理整頓や美化を心掛けて使用してください。
リトミック室	授業などで使用していない時間帯に使用することができます。オルガン、卓球台、各種スポーツ用具があります。ピアノは音楽担当教員の許可がなければ使用できません。
図書館	図書館棟1階です。「図書館利用カード(学生証)」で図書等の貸し出しができます。詳しくは図書館利用案内・図書館Webサイトをご覧ください。
教員研究室	専任教員にはオフィスアワーが設定されており、その時間帯は研究室に待機しています。オフィスアワーは時間割に掲載されています。
講師室 (1階 講師室・407室)	非常勤の先生方の控室です。原則として学生は入室できません。非常勤の先生に連絡のある場合は1階事務室に申し出てください。
230室	実習の事後面談、個別指導で使用します。保育関係図書、子育て支援実習関係教材などが保管されています。
更衣室	指定された教室を利用してください。時間割配布時にお知らせします。他の教室は使用しないで下さい。
各種相談室	学生相談室(212室)、学習相談室(231室) 詳しくは、「5. 学生相談(p.99)」をご覧ください。

<その他のサービス>

鍵盤楽器の使用 P:ピアノ E:電子ピアノ O:オルガン	下記に設置されています。施錠されている場合は受付で手続きをしてください。 <1階> 玄関入口ピエタ像前(P)、ステラホール(P) <2階> :ピアノ練習室(E), 213室(P), 214室(E), 215室(O), 224室(P) <3階> :ラウラルーム(P), 303室(O), 306室(P) <4階> :ML教室(P,E)、ピアノレッスン室(各P)、リトミック室(P,E)、403室(E), 405室(E)
その他楽器の使用	学校で管理している楽器を教員の許可の下、使用することができます。
ステラホール	1階にある学生食堂です。常時、利用できます。
ラウラルーム	3階にある学生ラウンジです。常時、利用できます。
ランチショップ	VIDES(ボランティア団体)によるカレーライスの出張販売やキッチンカーの運営があります。VIDESの日程については掲示で確認してください。
自動販売機	学生玄関前(屋外)、1階ステラホール内、3階ラウラルーム内に設置されています。故障などの問い合わせは1階受付へ。
給茶機・電子レンジ	1階ステラホール前廊下に給茶機と電子レンジ(3台)が設置されています。
コピー機	1階キャリアセンター前に設置されています。故障などの問い合わせは1階受付へ。(モノクロ1面10円、フルカラー1面50円。両面印刷可。)
掲示板の使用	掲示板を使用したい場合は、1階事務室に申し出てください。
OA機器等の貸し出し	1階事務室でCDデッキを借りることができます。私的な目的での利用はできません。
個人ロッカー・靴箱・傘立て	入学時に一人1つずつ貸与されます。使用上の注意については「9. 学生生活の心得とマナー(p.100)」をご覧ください。
ブーツロッカー	個人の靴箱には収まらないサイズの靴を入れるロッカーです。1階事務室で手続きをしてください。
スポーツ用品の貸出	テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、ドッチビーの用具を貸し出しています。1階受付に申し出てください。ただし学園の工事期間中は貸出できない場合があります。
無線LAN(FREE Wi-Fi)	個人の端末をインターネットツールに接続し、課題などに取り組むことができます。アクセスポイントのある教室等は、掲示で確認してください。

5 学生相談

相談機関	概要	場所
クラスアドバイザー アシスタント・ゼミ担当教員	学生生活、成績・進路、友人・人間関係、家庭に関することなど 一般的な相談に応じます。	各研究室
学生相談室	カウンセラーが相談に応じています。開室などについては、1階 事務室前、2階学生相談室前の掲示を確認してください。	2階 212 室
学習相談室	講義の受け方や勉強方法、レポートや総合研究のまとめ方、就職 試験・公務員試験対策、四大編入試験対策などの学習相談に専任 教員が対応しています。	2階 231 室
障がい学生支援	星美学園短期大学では、障がいの有無に関わらず、すべての学生 が公平・平等に修学できる多様性を尊重する学びの場をめざしま す。障がいなどの理由により継続的に日常生活、社会生活に相当 な制限を受ける状態にある学生に対して、合理的配慮を行います。 アシスタントにご相談ください。声のかけやすい教員に申し出て いただくのでも結構です。	
オフィスアワー	オフィスアワーとは、授業等（障がい者サポート含む）に関する学生 からの質問・相談に応じるため先生が設けている時間です。オフィ スアワーの時間は、時間割に掲載されていますので、先生に質問・ 相談のある学生は、オフィスアワーを利用して各研究室を訪ねて ください。（研究室の場所は『学生要覧』校舎案内図参照。）もち ろんほかの時間でも先生の都合がよければ質問・相談も差し支え ありませんが、授業や会議等で時間を確保できないこともあるた め、オフィスアワーの利用をおすすめします。なお、非常勤の先 生に対する質問・相談については、授業終了後に受け付けます。	2階各研究室ほか
教務・学生支援課	経済面（奨学金）、住居など生活面に関する相談。講師の先生方へ の窓口。免許・資格の申請に関すること。	1階事務室
キャリアセンター	就職・進路・アルバイト・ボランティア・インターンシップに関 すること。	1階キャリアセン ター
図書館	文献・資料に関すること。	図書館棟 1階
ハラスメント相談窓口	ハラスメントに関すること。 ※メールでも受け付けています。 c_hp@seibi.ac.jp	相談員につい ては、副学長室前 に掲示しています。

6 クラス運営

(1) クラスタイム

各学年のアッセンブリーの時間の中に 10 分間、設定されています。クラス運営のための諸連絡など
に活用して下さい。

(2) クラス運営委員

クラス運営や大学行事を円滑に行うために、クラスごとに下記の運営委員を選出します。

委員名	概要	担当
クラスリーダー	クラスアドバイザーと連絡をとり、クラス運営や大学行事等 を円滑に行うようクラスをリードする。	アドバイザー・学生部
学生活動委員	学年の枠を越えた学生活動を企画・運営する。	学生部
星美祭実行委員	学園祭を企画・運営する。	学生部
宗教委員	宗教行事をサポートする。	CMP
教育プロジェクト委員	教育プロジェクトを企画・運営する。	教育プロジェクト委員
防災委員	防災訓練を企画・運営する。	防災 WG
図工室環境委員	学生が利用しやすいよう図工室の環境を整備する。	学生部
放送委員	必要に応じて校内放送を行う。	学生部
災害時学生ボランティア※	災害発生時に自発的に学内外でボランティア活動を行う。	学生部・防災 WG

※ 2022 年 10 月…赤羽警察署との協定により、大規模災害発生時に学校・地域・避難所等においてボランティアとして活
動する有志

7 サークル活動

サークル活動は、学生の皆さんが主体的に行うものです。友人また先輩後輩と活動を共にすることは、教養を高めたり、相互理解や協力により人間関係を構築したりしていくことにも繋がります。これらは、本学の建学の精神・教育理念に掲げている内容です。そのため、本学では、学生の皆さんの思いで立ち上げたサークル活動が充実していくよう、大学の資源を提供し、有意義な学生生活を創り上げる応援をしています。

設立条件	3人を目安とします。メンバーが揃ったら、部長が所定の期日までに「サークル設立申請書」を教務・学生支援課へ提出してください。学生部で顧問教員を調整した後、学生部委員会での承認をもって設立されます。条件が揃えば所定の期限を過ぎても随時申請することができ、承認されると正式に活動を始めることができます。
構成メンバー	円滑に活動を行うために、部長、副部長、会計をおきます。
顧問	円滑に活動するために、顧問をおきます。原則として本学専任教員とします。部長は、企画・立案、活動において顧問の助言を受けてください。
サークル活動費	サークル活動を助成するために活動費補助(上限あり)があります。顧問に相談の上、申請してください。
サークル部長会	各サークルの代表者により部長会を組織しています。サークル部員が大学行事などに積極的に参加し、円滑に活動できるよう、サークル部長会はサークル活動全般の運営に関わります。

8 アッセンブリーと大学行事

月曜日の3限をアッセンブリーの時間とし、宗教行事、講話・講演、各種ガイダンスをはじめ、サークル活動、諸行事のためのミーティング、さらに実習指導や就職指導などの幅広い活動や集会を行います。月間予定は掲示されますので各自で確認してください。

大学行事は、学生生活を豊かにするための機会です。行事を通して、知識や経験を深め、カトリック精神に親しみ、建学の精神を理解するためのチャンスにしてください。主な行事は以下のとおりです。

入学式（4月）、聖母祭（5月）、学長講話・全体修礼（7月・1月）、星美祭（10月）、追悼セレモニー（11月）、クリスマスを迎えるミサ（12月）、卒業式・修了式（3月）

9 学生生活の心得とマナー

学生証	学生証は星美学園短期大学の学生であることを証明する正規の身分証明書です。常に携帯し、紛失したり破損したりしないよう大切に扱きましょう。有効期限は入学年度の4月1日から本科生は2年間、専攻科生は1年間です。学園に入る際など、必要なときにはいつでも提示できるようにしてください。退学・除籍などで学籍を離れる場合には直ちに本学に返却します。学生証を紛失した時は、速やかに1階事務室に申し出て、手数料（2,000円）を受付で支払い再発行の手続きをしてください。
身上書提出 身上変更届	入学時には身上書を提出します。身上書の内容に変更（住所変更等）があった場合は、速やかに「身上変更届」を1階事務室に提出してください。
通学	原則として徒歩または公共交通機関（電車・バス）を利用して通学します。駐車場がないため、本学までの車・バイクでの通学は認めていません。通学の際は、大声で談笑したり、道幅いっぱいに広がったりせず、公共のマナーを守りましょう。また、飲食しながら歩くことは適切な振る舞いではありません。犯罪や交通事故に巻き込まれないためにも注意してください。
服装 (平常・正装等)	平常の服装については、ミッションスクール総合学園の学生にふさわしい、品位ある服装で通学するよう心がけましょう。正装が指定される行事などがあります。正装とは、紺・黒・グレー等のリクルートスーツに準じた服装に、白色無地のブラウス・シャツ、男子学生はネクタイを着用のこと。黒靴（パンプス、ローファーなど）に女子学生はベージュ色のストッキングを着用のこと。ピンヒールは不可です。
上履き	本校舎、図書館棟は土足厳禁です。学生玄関で上履きに履き替えてください。上履きは靴底が白色ゴムのものに限ります。また緊急時の安全面を配慮し、サンダルは不可とします。かかとのあるものを用意して下さい。
個人ロッカー	入学後、一人に一つロッカーが貸与されます。各自で鍵を用意し、施錠して使用してください。割り当てられたロッカー以外は使用できません。シールなどは貼らないでください。卒業・修了時は期日までに中身を空にし、清掃してください。消防法で定められているため、ロッカーの上には荷物は置けません。見つけ次第、処分します。

個人傘立て	入学後、一人に一つ傘立てが貸与されます。備え付けの鍵は、各自で管理してください。割り当てられた場所以外は、使用できません。鍵は、卒業・修了時に返却してください。紛失した場合は、1階事務室で再発行することができます。
設備・備品の取扱い	教室の机や椅子、壁、その他の教具・備品には、落書きをしたり傷を付けたりしないで大切に扱いましょう。また机や椅子を移動した場合は、必ず元の状態に戻してください。使用した教室の窓は閉め、施錠を確認してください。掲示物は、原則掲示板に貼付してください。なお、掲示する際は、1階事務室にお声がけください。星美祭などのイベントの時には、あらためて設備の取扱いや掲示について、お知らせします。
美化	ゴミは、「燃えるゴミ」「燃えないゴミ」「缶・瓶・ペットボトル」に分別し、所定のゴミ箱に捨てること。消しゴムの消しカスなどは床に落とさず、各自でゴミ箱に捨ててください。
節電	各教室の照明、エアコンなどはこまめにスイッチを切り、節電に協力しましょう。
携帯電話・スマートフォン	授業時間中の利用は禁止します。マナーを守って使用しましょう。学内のコンセント、PCを利用しての充電は禁止されています。
所持品の管理	所持品には記名し、空き教室や廊下、ステラホールなどの公共の場や個人ロッカーの上などに放置しないこと。放置されている物は撤去します。
遺失物・拾得物	落し物や忘れ物をした時、また拾得した時には、1階事務室に届けてください。一定期間、保管の上、処分します。
電源・消耗品の私的使用	コンセントの私的利用は固く禁じます。見つけた場合は撤去します。また、トイレトーパーなど本学で備え付けている消耗品を持ち出して私的に使用することは固く禁じます。
エレベーターの使用	学生はエレベーターの使用を禁止します。健康上の理由などでやむを得ず使用する場合は、1階事務室に申し出てください。
飲酒・喫煙	学園敷地内は、全面禁酒禁煙です。また本学では、成年に達していても、健康上の理由と周囲への配慮から、学内および大学近辺、通学路では全面禁酒・禁煙（電子タバコ含む）としています。なお、上記の事項に違反した者は、学則第75条に則り、処罰されます。
アルバイト・課外活動	アルバイトや課外活動をする場合は、学業や実習に支障がなく、本学学生としてのモラルに反しない範囲にしてください。学校に依頼のある保育関係のアルバイトは掲示でお知らせします。
授業中のマナー	飲食禁止です。携帯電話・スマートフォンは机上に出さないこと。災害時の避難経路を確保するため、鞆類は通路ではなく、机の下に置きましょう。授業が行われている教室の近くでは、大声での会話は慎んで下さい。
インターネットに関するトラブル	学内のPCから悪質なサイトへのアクセスや書き込みは固く禁じます。ネット上への個人情報情報の公開・拡散や、違法コピー・ダウンロードは犯罪行為であり、法律で処罰されます。無断撮影はプライバシーの侵害となります。これらに違反した者は、学則第75条に則り処罰されます。詳細は情報教育ガイダンスで配布される資料を参照してください。
緊急時	火災、地震などが発生した場合については、別紙「防災マニュアル（防災マニュアルは日ごろから携帯しましょう。）」をよく読み、日ごろから備えておきましょう。
盗難	盗難の被害に遭わないため、貴重品は必ず身につけるか、ロッカーに入れて施錠しましょう。学内で被害に遭った場合は速やかに1階事務室に届け出てください。
トラブル対応	通学時にストーカー行為や痴漢などの被害に遭った場合は、すみやかに110番通報し、その後、1階事務室に連絡してください。また、学生を狙った詐欺やハラスメント、新興宗教や薬物・危険ドラッグの勧誘などには常に気を付け、トラブルに巻き込まれないよう注意してください。何かありましたら、些細なことでも1階事務室に知らせてください。

10 健康に関すること

健康診断 健康診断証明書 抗体検査（麻しん・風しん） 証明書	毎年4月初旬、学校保健安全法に基づいて「定期健康診断」を実施します。受診しない場合は実習や就職活動の際に必要な「健康診断証明書」の発行ができませんので必ず受診してください。受診の結果、再検査や健康相談の受診が必要な場合は速やかに受診し、医師による証明書を提出してください。また、教育実習および保育実習に参加する場合、麻しん・風しんの抗体を有していることの証明を提出してください。
保健室の利用	応急手当の設備（AED等）とベッド3台、車椅子が設置されています。軽い症状の怪我に対する応急手当を行います。利用したい時は1階事務室に申し出てください。利用可能時間は9:00から16:30で、原則として1回の利用は90分までとします。なお、医薬品の提供は原則として行っていませんので、各自で体調に応じて常備薬を携帯してください。※ウイルス等の感染症流行時は、感染拡大防止のため利用ができない場合もあります。
医療機関の紹介	大学周辺にあるいくつかの医療機関を紹介しています。健康保険証を持参し、受診してください。

学校感染症	学校感染症に罹患した場合は、学校保健安全法により登校できません。下記の感染症を診断された場合は、登校は控え、速やかに教務・学生支援課に電話連絡してください。出席停止の手続きについては本学 Web サイト（各種証明書申請書類）で確認してください。
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

「学校保健安全法施行規則第18条」—学校において予防すべき感染症の種類—

第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（サーズ）、急性灰白髄炎（ポリオ）、鳥インフルエンザ（H5N1）、中東呼吸器症候群（マーズ）、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症および新感染症
第二種	インフルエンザ（H5N1を除く）、百日咳、麻しん（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しん、水痘（みずぼうそう）、新型コロナウイルス感染症、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症（O157）、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

11 海外渡航に関すること

渡航先で災害・事件・事故等が生じた場合の学生の安否確認等を行うため、海外渡航する際には「海外渡航届」を渡航前に1階事務室に提出してください。届出用紙は1階事務室窓口で受け取るか、本学 web サイトよりダウンロードしてプリントアウトして下さい。

12 奨学金

(1) 専攻科特別奨学金

2年次後期に国の「高等教育の修学支援新制度（以下「新制度」）を受け、かつ引き続き専攻科においても新制度と同等の受給条件を満たす学生に対し、新制度と同等の「授業料」の減免を行います。

※本奨学金は、2024（令和6）年度以降の専攻科入学生から適用されます。

(2) 小山君子（こやまきみこ）奨学金

「専攻科特別奨学金」対象者に対し、年度予算（約300万円）を人数及び新制度上の区分によって按分し、給付します。

※上限額は、新制度における給付奨学金（各区分ごと）に準じます。

[小山君子奨学金設立の経緯]

小山君子奨学金は、故小山君子さんからの贈り物です。小山君子さんは星美学園短期大学の職員として、学生が、清潔で明るいキャンパスライフを楽しめるように環境整備に尽力されました。学校を自分の家のように感じ大切にして下さっていました。仕事を離れてからも職員の方々の訪問とおしゃべりの一時を楽しんでおられました。平成27年8月29日に帰天されましたが、それ以前から星美学園のために財産を遺贈することを小山さんは決めていたのです。星美学園はこれを学生の奨学金として使わせていただくことが、いちばん喜んでいただけることと考え、そのお名前の奨学金制度をつくりました。

(3) 日本学生支援機構（貸与型奨学金）

日本学生支援機構の奨学金は学業に励む学生に貸与されるものであり、卒業後、貸与した学生本人には一定年限内に返還する義務が生じます。返還金は後輩の奨学金として再び活用される仕組みになっています。返還時の負担などを十分考慮し、学資として必要な適切な貸与金額を選んでください。

奨学金の種類には下記のものがあります。なお、第一種の場合には、家計や成績などに一定の推薦基準が設けられています。詳細については、1階事務室に問い合わせてください。

また、連絡事項、募集に関することは、e-pa や掲示などでお知らせします。

貸与金額

貸与金額については以下の通りです。

第一種奨学金（利息の無いタイプ）

【通常の月額】

申込時の家計収入が一定額以上の方は、各区分の最高月額以外の月額から選択することになります。

	金額（単位：円）
自宅	20,000、30,000、40,000、53,000
自宅外	20,000、30,000、40,000、50,000、60,000

令和2年（2020年）から始まった下記（3）国の高等教育の修学支援新制度を併せて受ける場合、貸与を受けられる月額の上限額が調整されます。

【調整後の貸与月額】

	第1区分	第2区分	第3区分
	金額（単位：円）		
自宅	0	0	22,900（28,500）※
自宅外	0	0	17,400

※親と同居している生活保護世帯の人、児童養護施設等から通学する人は、（ ）内の金額となります。

第二種奨学金（利息が付くタイプ）

月額20,000円～120,000円（10,000円刻み）のいずれかから希望貸与金額を選択できます。

（3）国の高等教育の修学支援新制度（授業料等減免＋給付奨学金）

令和2年（2020年）4月より始まった、高等教育の修学支援新制度として入学金・授業料の減免、日本学生支援機構の給付型奨学金の2つを組み合わせた支援制度です。本制度の支援対象校として認定された大学等に在学する、住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生を対象としています（本学の幼児保育学科は、文部科学省の機関要件の確認を受け、本制度の支援対象校として認定されています）。

入学後3か月以内の、支援対象校の定めた期日までに申し込んだ場合は、授業料の他に入学金の免除または減額を受けることができます。（過去に、本制度による入学金の免除、減免を受けている場合を除く）

募集に関する情報は、学内掲示やe-pa等で発信します。ご確認ください。

支援を受けられる金額は、「世帯の収入がどのくらいか」によって決定される「支援区分（1～3）」の他、「進学先の学校の種類（大学か、短期大学か、高等専門学校か、専門学校か）」、「自宅から通うか、一人暮らしか」などによって異なります。また、年に1度適格認定（家計）が実施され、必要に応じて支援区分が変更や停止となる場合があります。

新制度の支援を受けた場合でも、日本学生支援機構貸与奨学金をあわせて利用することができます。ただし、この場合、無利子奨学金（第一種奨学金）の貸与月額には上限があります（有利子奨学金（第二種奨学金）は、利用月額に制限はありません）。

授業料等減免

授業料等減免の上限額（年額） ※私立短期大学の場合

支援区分	入学金 減免上限額	授業料 減免上限額
第1区分	25万円	62万円
第2区分	第1区分に対し2/3	第1区分に対し2/3
第3区分	第1区分に対し1/3	第1区分に対し1/3

※なお、本学の専攻科は、本制度の対象外となります。

ただし、2年次後期の本制度の支援対象者として認定を受けており、かつ専攻科においても本制度の受給条件を満たす学生に対し、専攻科特別奨学金（授業料減免）と小山君子奨学金（給付）を行います。

給付奨学金

学生生活を送るための生活費として、日本学生支援機構から、原則毎月、次の金額が学生の口座に振り込まれます。

支援区分	自宅通学	自宅外通学
第1区分	38,300円(42,500円)	75,800円
第2区分	25,600円(28,400円)	50,600円
第3区分	12,800円(14,200円)	25,300円

※生活保護世帯(受けている扶助の種類を問いません。)で自宅から通学する人及び児童養護施設等から通学する人等は、上表のカッコ内の金額となります。

〈日本学生支援機構 進学資金シミュレーター〉

日本学生支援機構のホームページで公開されている進学資金シミュレーターにて、どのくらいの支援が受けられるか、大まかに調べることができます。

<https://shogakukin-simulator.jasso.go.jp/>



(4) 保育士修学資金貸付制度

指定保育士養成施設に在学し、保育士資格を取得して、卒業後は保育士業務に従事しようとする学生に対し、各地域の社会福祉協議会が無利子で修学資金の貸付を行う制度です。

貸付金額や期間、返還免除の条件等は各地域の社会福祉協議会によって異なります。詳細は、各自治体または、各地域の社会福祉協議会ホームページをご確認ください。

13 災害傷害保険

入学時(1年次、専攻科)に、下記の「学生教育研究災害傷害保険」「学研災付帯賠償責任保険」に加入します。下記に該当する場合は、1階事務室に申し出て手続きをしてください。詳細は入学時に配布されるしおりを参照してください。

学生教育研究災害傷害保険 (略称「学研災」)	授業・大学行事・学校施設および通学途中、または活動計画書の提出されるサークル活動中に生じた事故による外傷で、医療機関の治療を受けた場合、保険金が支払われる場合があります。
学研災付帯賠償責任保険 (略称「付帯賠償」)	授業・教育実習・保育実習・大学行事およびその移動中で、他人に怪我をさせたり、他者の財産を破損したりした場合、保険金が支払われる場合があります。

また、任意で「学研災付帯学生生活総合保険(付帯学総)」にも加入することができます。制度詳細のお問い合わせやお申し込み先については、配布されるご案内にてご確認ください。

学研災付帯学生生活総合保険 (略称「付帯学総」)	学研災に加えて任意で加入できる保険です。教育研究活動中以外の日常の病気・傷害や賠償責任(ただし、主に国内での活動のみ対象)に関する保険です。加入を希望する場合は、学生による直接申込となりますので、ご案内に記載されている「取扱代理店」まで各自でお問い合わせください。
-----------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 就職／進路

キャリア支援

キャリアセンターでは、学生一人ひとりが目標を持って充実した学生生活を送り、自分の適性や希望に合った進路選択ができるよう、入学と同時に2年間または、3年間を通じて体系的、段階的なキャリア支援を提供しています。一人ひとりが、自身の未来を主体的に決定し、自信をもって社会に出ていけるよう支援します。また、多様なニーズをもつ学生へのキャリア支援については、教員および関係機関と連携して個別に対応します。

【開室時間】

月曜日～金曜日 9：00～17：00

【主な支援内容】

- ・キャリア相談＜要予約＞（就職・キャリアに関する個別相談）
- ・模擬面接＜要予約＞
- ・求人情報閲覧（必要に応じてプリント可）
- ・インターンシップ、ボランティア、アルバイト情報の掲示（校舎1階東階段横の掲示板）
就職フェア、就職説明会情報の掲示（キャリアセンター前掲示板）

資格を活かした就職先の種類

【幼稚園教諭2種免許状】

公立、私立幼稚園が主な就職先です。保育士資格を取得した場合には、認定こども園への就職も可能です。

【保育士資格】

公立、私立保育所、児童養護施設、乳児院、障がい児施設などの児童福祉施設が主な就職先です。幼稚園教諭免許とあわせれば、認定こども園への就職も可能です。

*公立の幼稚園、保育所は、都道府県または市町村の採用試験要項に従って手続きをし、受験します。地域により採用試験の実施期間、試験内容が異なりますので、希望する地域のホームページ早めに確認してください。キャリアセンターでは、毎年、「公務員採用試験対策講座」を実施しています。

【特別支援学校教諭2種免許状】

専門的な障がい児支援が必要とされる現場や、臨時的任用教員として、特別支援学校へ就職することが可能です。小学校教諭免許を取得すれば、特別支援学校の正規採用の就職に繋げていくことも可能です。

【発達障がい児保育ベーシックプログラム】

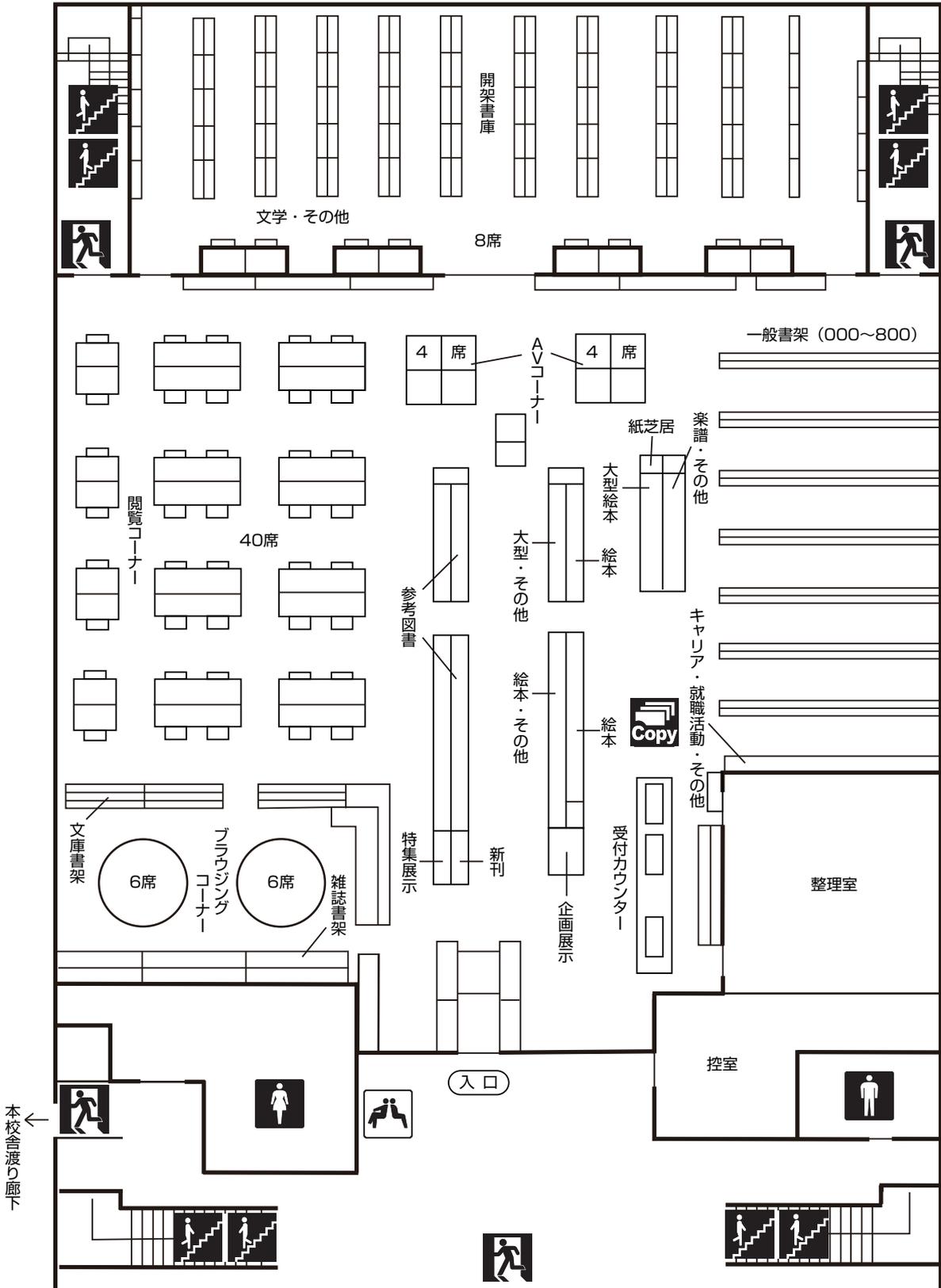
保育現場で支援のニーズの高いLD、AD／HD、自閉スペクトラム症など発達障がい児について学び、幼稚園、保育所などの保育現場への就職を助けます。保育士資格で療育など、児童発達支援を行っている現場に就職する際の強みになります。

2024年度 キャリア支援 年間計画

	1年「自分を知る」 キャリアスタート	2年「職業（適正）を知る」 キャリアステップ	専攻科「進路を選ぶ」 キャリアアップ
4月	キャリアガイダンス	キャリアガイダンス	キャリアガイダンス
5月	自己発見検査の実施 ビジネスマナー講座	公務員の仕事説明会 公務員採用試験対策講座開始 (希望者のみ)	公務員の仕事説明会 公務員試験対策講座開始 (希望者のみ) 性格検査の実施
6月			面接対策（グループ） 卒業生との懇談会① (公務員・児童養護施設) 卒業生との懇談会② (幼稚園・子ども園) 卒業生との懇談会③（保育園） 卒業生との懇談会④ (特別支援学校)
7月	自己発見検査フィードバック		性格検査フィードバック 履歴書指導 応募書類について（送付書作成） 夏休みの過ごし方 お礼状の書き方
8月		求人票の見方	
9月			
10月	園長講演会 年金講座	社会人基礎力・職業適性検査の実施 ビジネスマナー講座（2年卒業者のみ） 面接対策（2年卒業者のみ） 応募書類について（2年卒業者のみ）	
11月		社会人基礎力・職業適性検査の フィードバック 施設長講演会	
12月		履歴書の書き方（2年卒業者のみ） お礼状の書き方（2年卒業者のみ）	
1月		労働関連講座（2年卒業者のみ）	労働関連講座
		交流会（就職活動体験談）	
2月			
3月			

* 2年で卒業する場合は、専攻科生と同じ内容を個別で実施します。
* 全学年の学生の個別相談は、随時行います。

図書館内設備配置図



本校舎渡り廊下

-  非常口
-  階段
-  トイレ
-  コピー機
-  休憩スペース

4 賞

- 本学では、建学の精神を理解し、その実践において秀でた活動をした学生に対して賞を与えることがある。

- 星美学園短期大学および本学の姉妹校に幼稚園または小学校より一貫して在籍した学生には、一貫教育賞として「星美学園（サレジアン）賞」を授与する。

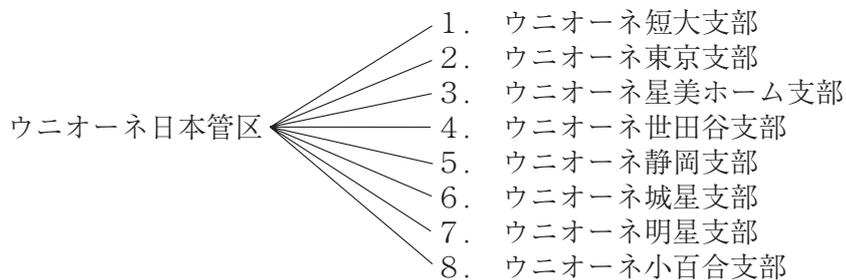
5 同窓会

星美学園短期大学同窓会は、「扶助者聖母会（FMA）同窓生世界連合モルネーゼ」に所属する。

この世界連合は、イタリア語で「一致」という意味を示す**ユニオーネ**（Unione）という名称を持ち、サレジアン・シスターズ（扶助者聖母会）が経営する学園・学校において、ドン・ボスコとマリア・マザレロの教えを学んだすべての学生・生徒等が加入する国際的な同窓会である。

ユニオーネの総本部はイタリアのローマにあり、世界 90 数か国の支部が、各国ごとに管区として本部に結ばれている。

日本管区は、赤羽に本部があり、下記の 8 つの姉妹校が支部として活動している。



本学の同窓会は＜ユニオーネ短大支部＞である。したがって、星美学園短期大学同窓会は、＜ユニオーネ短大＞と呼ばれる。

ユニオーネ短大は、会長・副会長・書記・会計・広報・会計監査等と、本部や学校との連携をはかるために、デレガータと呼ばれるサレジアン・シスターと顧問の教員とで組織されている。

同窓会は、機関誌『Respice Stellam』の発行をはじめ、大学行事等に積極的に参加し、同窓生相互の関わりを深め、母校を支援するなどの活動を行っている。

卒業前に、ユニオーネについての説明会が実施される。

卒業時には、学科より連絡員が選出され、同窓会との連絡を密にするよう心がけている。

本学内（2F）に、「UNIONE」という同窓会室がある。



unione のロゴマーク

6 年間行事予定

2024年4月～2024年6月

※日曜・祝日・休業日は、原則、校舎には入れません。

[ア]アッセンブリー
[1][2][専]学年・専攻

4月			5月			6月		
1	月	入学式	1	水		1	土	[専]保育実習Ⅰ(施設)開始
2	火	[1]ガイダンス	2	木		2	日	
3	水	[1]ガイダンス	3	金	憲法記念日 時間割遠隔授業日 学園電気設備点検	3	月	[2]幼稚園教育実習 後期開始
4	木	前期講義開始 履修登録確認訂正期間開始	4	土	みどりの日 学園電気設備点検	4	火	
5	金		5	日	こどもの日 学園電気設備点検	5	水	
6	土	学生健康診断	6	月	5/5 振替休日	6	木	
7	日		7	火		7	金	
8	月	[ア]学生生活ガイダンス	8	水		8	土	※休業日
9	火		9	木		9	日	
10	水		10	金		10	月	
11	木		11	土	遠隔補講日 ※休業日	11	火	
12	金		12	日		12	水	
13	土	遠隔補講日 ※休業日	13	月	教会歴：共創立者聖マリア・マゼレロの祭日	13	木	
14	日		14	火		14	金	[2]幼稚園教育実習 後期終了
15	月	[ア]復活祭後の祝福式	15	水		15	土	[専]保育実習Ⅰ(施設)終了
16	火		16	木		16	日	
17	水		17	金		17	月	
18	木		18	土	遠隔補講日 ※休業日	18	火	
19	金		19	日		19	水	
20	土	遠隔補講日 ※休業日	20	月	[ア]聖母祭	20	木	
21	日		21	火		21	金	
22	月	履修登録確認訂正期間終了	22	水		22	土	遠隔補講日 ※休業日
23	火		23	木		23	日	ユニオナーネ短大同窓会
24	水		24	金	創立記念日 <通常時間割授業>	24	月	授業公開ウィーク開始
25	木		25	土	創立記念日の翌日 ※休業日	25	火	
26	金		26	日		26	水	
27	土	遠隔補講日 ※休業日	27	月		27	木	
28	日		28	火		28	金	
29	月	昭和の日 時間割遠隔授業日	29	水		29	土	遠隔補講日
30	火		30	木		30	日	
			31	金				



2024年7月～2024年9月

[ア]アッセンブリー
[1][2][専]学年・専攻

7月			8月			9月		
1	月		1	木	補講・定期試験・追試験・再試験期間終了	1	日	
2	火		2	金	夏期休業開始	2	月	[専]保育実習Ⅱ(保)Ⅲ(施)開始 [2]集中稽古開始
3	水		3	土		3	火	
4	木		4	日		4	水	
5	金	授業公開ウィーク終了	5	月		5	木	
6	土	遠隔補講日	6	火		6	金	
7	日		7	水		7	土	
8	月		8	木		8	日	
9	火		9	金		9	月	
10	水		10	土	短期大学休業日	10	火	履修登録確認訂正期間開始 [1]学外研修
11	木		11	日	山の日 短期大学休業日	11	水	
12	金		12	月	8/11 振替休日 短期大学休業日	12	木	[1]幼稚園教育実習 事前実習
13	土	遠隔補講日 ※休業日	13	火	短期大学休業日	13	金	[1]幼稚園教育実習 事前実習(予備日) [2]集中稽古終了
14	日		14	水	短期大学休業日	14	土	※休業日
15	月	海の日 時間割遠隔授業日	15	木	短期大学休業日	15	日	
16	火		16	金	短期大学休業日	16	月	夏期休業終了 敬老の日
17	水		17	土	短期大学休業日	17	火	後期講義開始 [専]保育実習ⅡⅢ終了
18	木		18	日	短期大学休業日	18	水	
19	金		19	月		19	木	
20	土	遠隔補講日 [公]保育・教育特別セミナー	20	火		20	金	
21	日		21	水		21	土	
22	月	[ア]学長講話 / 全体修礼 前期講義終了	22	木		22	日	
23	火	補講・定期試験・追試験・再試験期間開始	23	金		23	月	秋分の日 時間割遠隔授業日
24	水		24	土	※休業日	24	火	
25	木		25	日		25	水	星美祭準備週間開始 履修登録確認訂正期間終了
26	金		26	月		26	木	
27	土	※休業日	27	火		27	金	
28	日		28	水		28	土	遠隔補講日 ※休業日
29	月		29	木		29	日	
30	火		30	金		30	月	
31	水		31	土				

授業公開ウィーク

実習期間(専攻科)

星美祭準備期間

2024年10月～2024年12月

[ア]アッセンブリー
[1][2][専]学年・専攻

10月			11月			12月		
1	火		1	金		1	日	
2	水		2	土	遠隔補講日 ※休業日	2	月	
3	木	星美祭準備週間終了	3	日	文化の日	3	火	
4	金	星美祭準備日 テアトロ☆SEIBI公開リハ <時間割授業なし>	4	月	11/3 振替休日 時間割遠隔授業日	4	水	
5	土	星美祭 (第1日)	5	火	[1]幼稚園教育実習 前期開始	5	木	
6	日	星美祭 (第2日)	6	水		6	金	
7	月	10/6の振替休日	7	木		7	土	遠隔補講日
8	火		8	金		8	日	
9	水		9	土	※休業日	9	月	
10	木		10	日		10	火	
11	金		11	月		11	水	
12	土	※休業日	12	火		12	木	
13	日		13	水		13	金	
14	月	スポーツの日 時間割遠隔授業日	14	木		14	土	遠隔補講日 ※休業日
15	火	授業公開ウィーク開始	15	金	[1]幼稚園教育実習 前期終了	15	日	
16	水		16	土	※休業日	16	月	
17	木		17	日		17	火	
18	金		18	月		18	水	
19	土	遠隔補講日	19	火		19	木	
20	日		20	水		20	金	
21	月	ローマ本部視察担当評議員 短大訪問	21	木		21	土	遠隔補講日 ※休業日
22	火		22	金		22	日	
23	水		23	土	勤労感謝の日	23	月	[ア]クリスマスを迎えるミサ
24	木		24	日		24	火	講義終了
25	金		25	月	[ア]追悼セレモニー	25	水	冬期休業開始 教会暦：主の降誕の祭日 ※休業日
26	土	遠隔補講日	26	火		26	木	※休業日
27	日		27	水		27	金	※休業日
28	月	[ア]学生防災訓練 授業公開ウィーク終了	28	木		28	土	※休業日
29	火		29	金		29	日	※休業日
30	水		30	土	遠隔補講日	30	月	※休業日
31	木					31	火	※休業日
		[2]特別支援学校教育実習			[2]特別支援学校教育実習			[2]特別支援学校教育実習

2025年1月～2025年3月

[ア]アッセンブリー
[1][2][専]学年・専攻

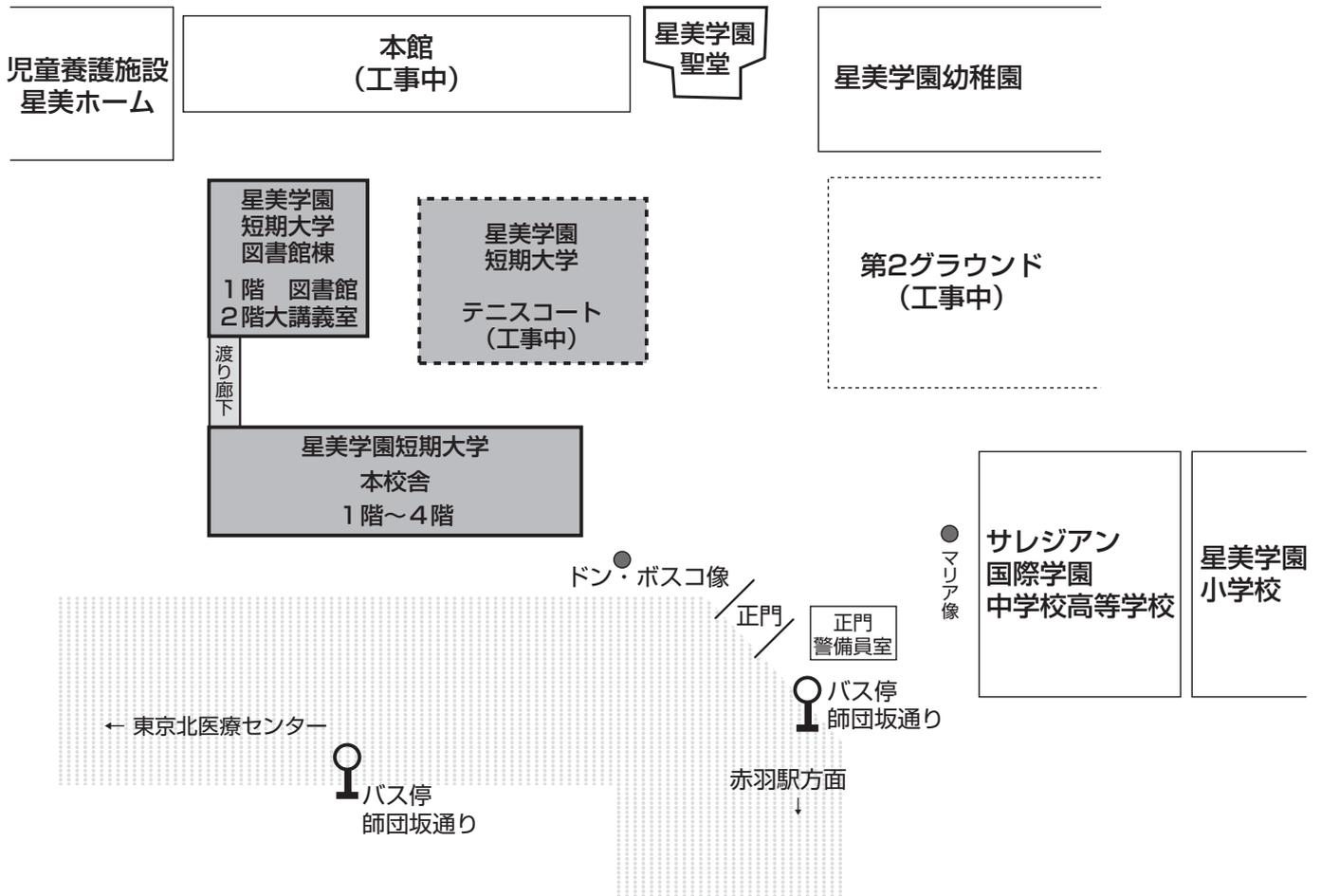
1月			2月			3月		
1	水	元日 ※休業日	1	土	AM:ピアヘルパー試験日	1	土	※休業日
2	木	※休業日	2	日		2	日	
3	金	※休業日	3	月	[2]保育実習I(保)開始	3	月	
4	土	※休業日	4	火		4	火	
5	日	冬期休業終了	5	水		5	水	
6	月	講義開始	6	木		6	木	
7	火		7	金		7	金	
8	水		8	土	※休業日	8	土	※休業日
9	木		9	日		9	日	
10	金		10	月		10	月	
11	土	遠隔補講日 ※休業日	11	火	建国記念日	11	火	
12	日		12	水		12	水	AM[2]保育実習指導補講 PM[2]新年度ガイダンス
13	月	成人の日 <時間割授業なし>	13	木		13	木	卒業式・修了式
14	火		14	金		14	金	
15	水		15	土		15	土	※休業日
16	木		16	日		16	日	
17	金		17	月	[2]保育実習I(保)終了	17	月	
18	土		18	火		18	火	
19	日		19	水		19	水	
20	月	[ア]学長講話 / 全体修礼 後期講義終了	20	木		20	木	春分の日
21	火	補講 / 定期試験 / 追試験再試験期間開始	21	金		21	金	
22	水		22	土		22	土	※休業日
23	木		23	日	天皇誕生日	23	日	
24	金		24	月	2/23 振替休日	24	月	
25	土		25	火		25	火	
26	日		26	水		26	水	
27	月		27	木		27	木	[新専]ガイダンス
28	火	補講 / 定期試験 / 追試験再試験期間終了	28	金		28	金	[新2]ガイダンス
29	水	春期休業開始				29	土	※休業日
30	木					30	日	
31	金	教会暦: 創立者聖ヨハネ・ボスコの祭日				31	月	春期休業終了
		[専]発達障がい児保育ベーシックプログラム 認定修了試験						

実習期間
(2年)

*ガイダンス日程は変更になる場合があります。掲示等で確認してください。

7 キャンパスマップ・校舎案内図

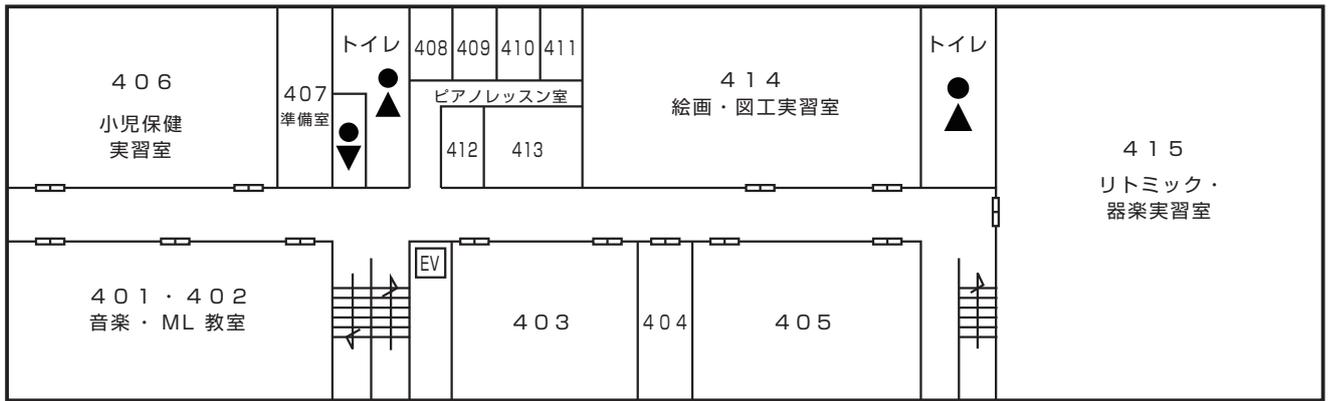
キャンパスマップ



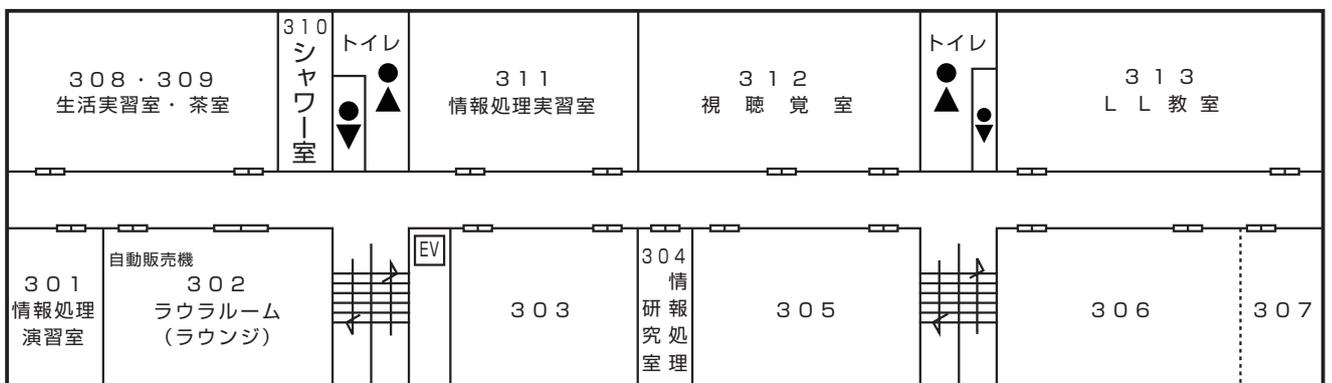
※令和8年度まで、学園工事の都合により、配置等が変更になる場合があります。

本校舎案内図

4 F



3 F



2 F

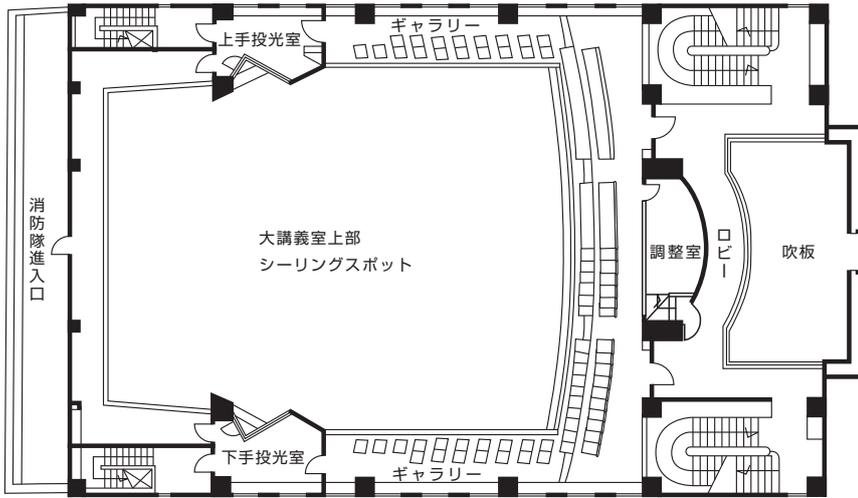


1 F

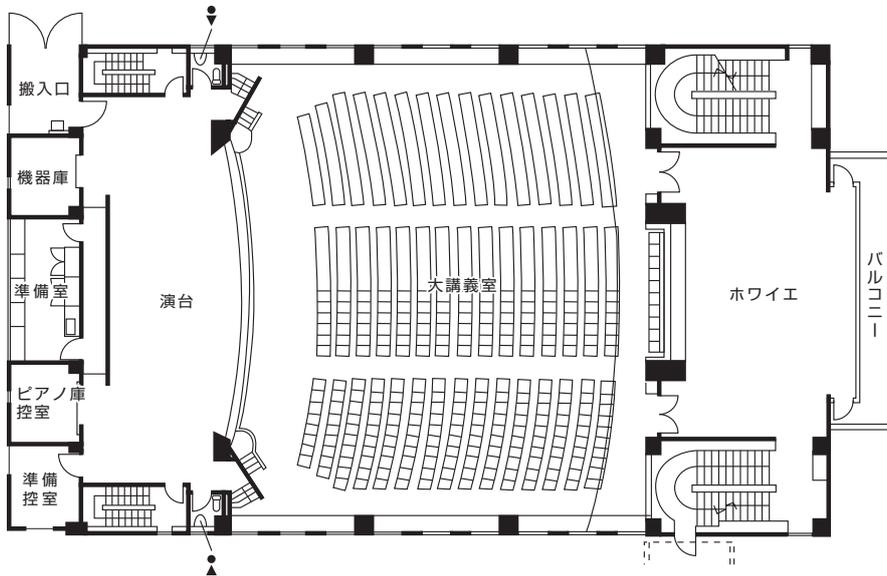


避難口

図書館棟案内図

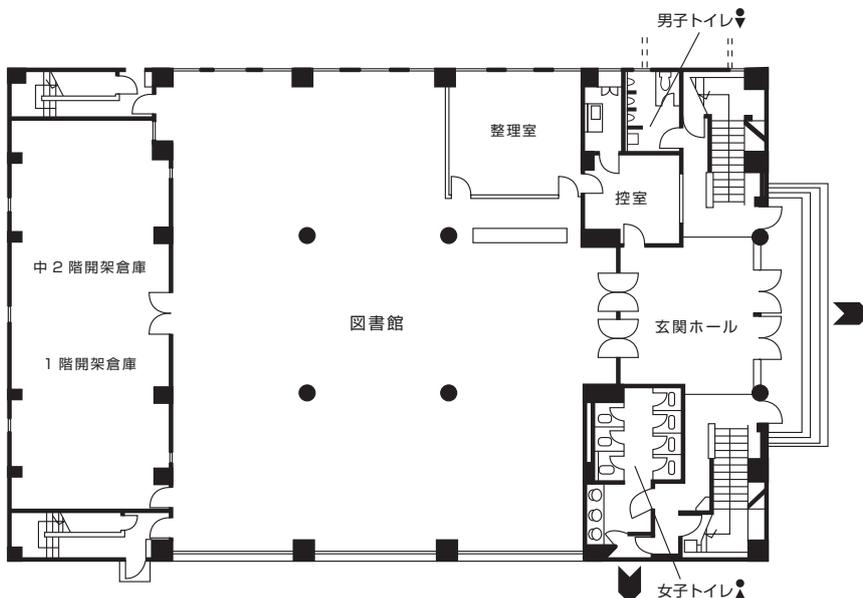


3 F



2 F

大講義室



1 F

図書館

第4章 講義要項

I 科目に関する項目									
①科目名	キリスト教学 Christology					②科目コード	Y1-1A002		
③担当教員名	滝口 ひとみ								
④実務経験	小学校教諭 大学非常勤講師					⑤担当形態	複数		
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	2単位(60)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	卒業必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程	聖書を通してイエス・キリストの生涯や教えに触れ、新しい価値観や世界観を知る。								
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示による教科目】教養科目 外国語、体育以外の科目								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	聖書を通してイエス・キリストの生涯や教えに触れ、新しい価値観や世界観を知る。								
②授業の概要	前期は建学の精神や創立者たちについて学び、キリスト教的価値観や聖書のもつ世界観などに触れ、そのような観点から現代社会の諸問題を考えてみる。適宜聖堂を訪問し、祈りの体験もする。 後期は新約聖書の箇所を参照しながら、視聴覚教材なども用い、イエス・キリストの生涯、その母マリアについて学び、その教えに触れる。宗教行事の意味について知り、それに参加する心構えを培う。								
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. カトリック学校としての建学の精神や聖母マリア、創立者たちについての知識を得る。 2. 祈りや聖歌を通してキリスト教の根底に流れているものを発見する。 3. 聖書がどのような書物であるかを知り、聖書がもつ世界観に関心をもつ。 4. 神、人、生命、世界について説明でき、キリスト教的価値観に基づいて、人権問題・環境問題などについて考えることができる。 5. イエス・キリストがどのような方かを知り、そのメッセージがどのようなものであるかを知る。 								
④ディプロマブリシール(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性	○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	グループワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○				
⑦授業の計画(授業の内容)									
第1回	祈りと聖歌について			第16回	歴史的史実としてのキリストの生涯1: イエスの誕生				
第2回	自校教育:星美を知ろう!(建学の精神とパイオニアたち)			第17回	歴史的史実としてのキリストの生涯2: イエスの幼年時代				
第3回	聖堂について			第18回	歴史的史実としてのキリストの生涯3: イエスの洗礼				
第4回	創立者たちについて1: ドン・ボスコの生涯と教育—背景にあるキリスト教精神—			第19回	歴史的史実としてのキリストの生涯4: イエスの受難と死				
第5回	創立者たちについて2: マリア・マザレロと教育			第20回	歴史的史実としてのキリストの生涯5: イエスの活動と言葉				
第6回	イエスの母マリア1: (ロザリオの祈り)(聖母祭について)			第21回	イエス・キリストの教えと保育者				
第7回	聖書に基づく捉え方1: 聖書とは			第22回	イエス・キリストの教え: ルカ福音書の4つのたとえ話から				
第8回	聖書に基づく捉え方2: 神観、人間観、世界観			第23回	追悼の祈りについて1: 死者の月・死者の日について				
第9回	キリスト教の人権観1: 国連の人権観			第24回	追悼の祈りについて2: 追悼の祈りについてカトリックとハロウィン				
第10回	キリスト教の人権観2 世界、日本の人権問題			第25回	降誕祭への準備1: 待降節・降誕祭について				
第11回	現代世界への呼びかけ: キリスト教からの呼びかけと保育と環境問題(SDGs)			第26回	降誕祭への準備2: 映画『マリア』前半視聴				
第12回	旧約聖書概要・新約聖書の概要			第27回	降誕祭への準備3: 映画『マリア』後半視聴				
第13回	四つの福音書について			第28回	イエスに会った人々1: (弟子たち)				
第14回	カトリックの典礼: ミサについて			第29回	イエスに会った人々2: (ザアカイ、サマリアの女)				
第15回	前期のふりかえりとまとめ			第30回	後期のふりかえりとまとめ				
定期試験	実施する(レポート課題)								
⑧自主学習の課題	予習: 約30分間の学習時間を要する。 シラバスに沿って事前に Google Classroom に掲載されている資料に目を通しておくこと。 復習: 約30分間の学習時間を要する。 レクチャーのあとに出された課題は次の授業までに提出すること。								
⑨テキスト	サレジオ会日本管区(原作)鈴木ぐり(作画)浦田慎二郎(監修)『コラッジョ!! ドン・ボスコの夢は続く』ドン・ボスコ社 2015年 本学聖歌集&祈り集『シング・ハレルヤ』(新学期に配布)								
⑩参考書/参考資料/準備物等	『新約聖書』(授業内では適宜印刷物で使用する聖書の箇所は配布する予定だが、個人的に聖書を持っている学生は、自分の聖書で確認して授業に参加すると良い。								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件/履修上の注意事項	必要な注意事項などは、Google Classroom のストリーム等で連絡することもあるので、コードが開示されたら速やかに入室し、随時連絡事項を確認すること。 実習関係等でやむなく授業を欠席した場合は、Google Classroom の各授業のところにある資料を参照し、そこの指示に従うこと。 事情により遠隔授業を余儀なくされる場合は、Google Classroom でオンデマンド型の授業を行う予定である。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
①学習項目	建学の精神の理解・創立者たちに関する知識	キリスト教の根底に流れるものへの理解	聖書の世界観の理解	キリスト教的価値観に基づく思考の理解	イエス・キリストの生涯とそのメッセージの理解	③配点比率			
②評価方法	1 定期試験(レポート提出)	○	○	○	○	○	40	%	
	2 ミニレポート	○	○	○	○		20	%	
	3 提出物				○		10	%	
	4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	○	20	%	
	5 受講態度	○	○				5	%	
	6 自主学習態度	○	○	○	○	○	5	%	
	7 その他						0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	毎回、レクチャーごとに課題あるいはリアクションペーパーの提出を求める。 質問等がある場合は次回の授業で対応する。 成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。								
IV その他									
卒業必修であり、通年科目のため、欠席・遅刻・早退などで受験資格を失格し、単位が取れないことがないように留意すること。									

I 科目に関する項目									
①科目名	基礎英語 I Basic English I					②科目コード	Y1-1A003		
③担当教員名	吉田 紀容美 田中 美加 工藤 恭子								
④実務経験	英語教諭 (吉田36年・田中38年・工藤33年)					⑤担当形態	複数、クラス分け		
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	前期	⑧単位 (時間数)	1単位 (30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	選択必修	特二種免許	選択必修	保育士資格	選択必修	発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目								
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示による教科目】教養科目 外国語								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	英語の基礎力養成								
②授業の概要	英語教諭としての長年の実務経験がある教員による授業である。春夏の行事を中心に、幼児教育・保育の現場で必要な英語特有の表現を習得する。基本的な文法事項を確認し、平易な英文の読み書きを訓練する。外国からの保護者や園児とコミュニケーションが取れるようにリスニングおよび会話演習も行う。								
③履修者の到達目標 (学習成果)	1. 基本的な文法を理解し、平易な英語の文章を正確に読み、内容を説明することができる。 2. 幼児教育・保育の現場で役立つ表現を身につけ、実際に英語でやりとりができる。								
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性	○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画 (授業の内容)									
第1回	ガイダンス (クラス分けテスト)								
第2回	ガイダンス Pre-Unit								
第3回	Unit 1 挨拶・自己紹介 人に何かを頼む表現								
第4回	Unit 1 保育時間 英語での自己紹介								
第5回	Unit 2 園内の案内 位置を伝える表現								
第6回	Unit 2 園の構成員 戸外での道案内								
第7回	Unit 3 登園時の会話 今日の調子を聞く・答える表現								
第8回	Unit 3 持ち物 数字 手遊び歌								
第9回	Unit 4 工作時間の会話 好きなもの / 嫌いなものを聞く								
第10回	Unit 4 工作やお絵かきで使う道具 英語で「かぐや姫」を読む								
第11回	Unit 5 園外散歩での会話 場所を表す表現								
第12回	Unit 5 集団で行う園活動 教室内のものの場所を示す								
第13回	Unit 6 園庭での会話 人に何かするよう / しないように言う表現								
第14回	Unit 6 道具の名前 英語で「桃太郎」を読む								
第15回	Unit 7 保護者からの相談 食事・手洗い・歯磨き								
定期試験	実施する								
⑧自主学習の課題	予習 テキストの該当単元の単語・熟語の意味を調べ、内容を読んでおく。約30分。 復習 授業後はテキストやノートの見直しを行い、理解しておくこと。約30分。								
⑨テキスト	土屋麻衣子著『保育のための基礎英語』金星堂 2015年								
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	辞書を持参すること。参考書は適宜指示する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件 / 履修上の注意事項									
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	読解	文法	作文	リスニング	③配点比率			
	1 定期試験	○	○	○		60	%		
2 小テスト	○	○	○		10	%			
3 提出物		○	○		10	%			
4 発表・実技・プレゼン	○		○		10	%			
5 受講態度	○	○	○	○	5	%			
6 自主学習態度	○	○	○	○	5	%			
7 その他					0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	小テスト、レポートは授業内で返却し説明する。								
IV その他									
初回授業時にクラス分けテストを行い、1クラスはチャレンジコースとなる。チャレンジコースでは基礎力を固め、さらに応用力が身につくよう進めていく。									

I 科目に関する項目									
①科目名	基礎英語Ⅱ Basic English Ⅱ					②科目コード	Y1-1A004		
③担当教員名	吉田 紀容美 田中 美加 工藤 恭子								
④実務経験	英語教諭（吉田36年・田中38年・工藤33年）				⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	選択必修	特二種免許	選択必修	保育士資格	選択必修	発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目								
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示による教科目】教養科目 外国語								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	英語の基礎力養成								
②授業の概要	英語教諭としての長年の実務経験がある教員による授業である。秋冬の行事を中心に、幼児教育・保育の現場に必要な英語特有の表現を習得する。文法事項を確認し、さらに発展的な英文の読み書きを訓練する。外国からの保護者や園児とコミュニケーションが取れるようにリスニングおよび会話演習も行う。								
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 基本的な文法を理解し、平易な英語の文章を正確に読み、内容を説明することができる。 2. 幼児教育・保育の現場で役立つ表現を身につけ、実際に英語でやりとりができる。								
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性	○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート						
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Googleクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）									
第1回	ガイダンス・Unit 8 お昼寝時間の会話 しなければならないこと・する必要があることを伝える表現								
第2回	Unit 8 お昼寝時間の会話（続き）お昼寝に関する表現 英語圏のジェスチャー 手遊び歌								
第3回	Unit 9 降園時の会話 1日の活動と様子を伝える表現								
第4回	Unit 9 クリスマスについて調べる								
第5回	Unit 10 園行事予定についての会話「もし～なら」という仮定の表現								
第6回	Unit 10 園行事の英語名 体操の名称								
第7回	Unit 11 ネイティブとの打ち合わせ Shall I/we ...? と Will you...? を用いた表現 / ハロウィン								
第8回	Unit 11 時刻を表す英語 歌								
第9回	Unit 12 体調不良の園児との会話 病気やけがの症状を伝える表現								
第10回	Unit 12 医療品の英語 身体の部位 家系図								
第11回	Unit 13 保護者との電話 電話応対に便利な表現								
第12回	Unit 13 留守番電話の英語 英語で「浦島太郎」を読む								
第13回	Unit 14 最後の日の会話 お礼の表現								
第14回	Unit 14 パースデーメッセージ、カードを作る								
第15回	乳幼児の保育に関する英語のまとめ								
定期試験	実施する								
⑧自主学習の課題	予習：テキストの該当単元の単語・熟語を調べ、内容を読んでおく。約30分。 復習：授業後はテキストやノートの見直しを行い、理解しておくこと。約30分。								
⑨テキスト	土屋麻衣子著『保育のための基礎英語』金星堂 2015年								
⑩参考書／参考資料／準備物等	辞書を持参すること。参考書は適宜指示する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件／履修上の注意事項									
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	読解	文法	作文	リスニング	③配点比率			
	1 定期試験	○	○	○		60	%		
2 小テスト	○	○	○		10	%			
3 提出物		○	○		10	%			
4 発表・実技・プレゼン			○	○	10	%			
5 受講態度	○	○	○	○	5	%			
6 自主学習態度	○	○	○		5	%			
7 その他					0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	小テスト、レポートは授業内で返却し説明する。								
IV その他									

I 科目に関する項目										
①科目名	イタリア語入門 I Introduction to Italian I					②科目コード	Y1-1A005			
③担当教員名	ピエトロニーロ・ミケランジェロ									
④実務経験	日伊協会のイタリア語講師 (6年)					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	1年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	選択必修	特二種免許	選択必修	保育士資格	選択必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示による教科目】教科目 外国語									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	イタリア語を学びながら、国際感覚を身につける									
②授業の概要	入門レベルの外国語として、イタリア語を初めて学ぶ学生を対象とするので、アルファベット、簡単な挨拶などの表現、文法の基礎、読み方、発音やアクセントなどの基礎能力を身につけ、楽しく会話ができるようにする。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. イタリア語で挨拶ができるようになる。(会話力・聴解力・文法力) 2. 数字、名詞、形容詞の形を理解できる。(文法力)									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性	○				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	グループワーク						
		プレゼンテーション	実習・フィールドワーク							
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業			グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	アルファベットとローマ字の比較									
第2回	男性名詞、女性名詞、不定冠詞									
第3回	数字とユーロ									
第4回	パールの注文									
第5回	場所を尋ねる									
第6回	レストランでの注文									
第7回	出身地、国籍を尋ねる									
第8回	役に立つ慣用句									
第9回	挨拶									
第10回	動詞の変化1(動詞の三種類、現在形)									
第11回	動詞の変化2(現在形、活用)									
第12回	スーパーでの買い物									
第13回	色と洋服や靴のサイズ									
第14回	洋服、靴などの買い物									
第15回	名詞・動詞のまとめ									
定期試験	実施する									
⑧自主学習の課題	予習:出来る限り、声を出して読む練習をすること。約30分。 復習:授業で学んだ言葉を書くこと、読むことを勧める。約30分。									
⑨テキスト	Oshiba, Tucci 『Per cominciare』 公益財団法人 日伊協会 2021年									
⑩参考書/参考資料/準備物等										
⑪教材費										
⑫履修条件/履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	会話力	聴解力	文法力				③配点比率		
1	定期試験		○	○				50	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物							0	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○	○					30	%	
6	自主学習態度	○	○	○				20	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題(試験やレポート等)の成績評価に対する問い合わせに応ずる。									
IV その他										

I 科目に関する項目									
①科目名	イタリア語入門Ⅱ Introduction to Italian Ⅱ					②科目コード	Y1-1A006		
③担当教員名	ピエトロニーロ・ミケランジェロ								
④実務経験	日伊協会のイタリア語講師（6年）					⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	選択必修	特二種免許	選択必修	保育士資格	選択必修	発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目								
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示による教科目】教養科目 外国語								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	イタリア語を学びながら、国際感覚を身につける								
②授業の概要	既に学習した基礎の上に、日常生活に必要な語彙数と会話の形を増やし、旅行先で、電車やバスなどの公共機関の乗り物の乗り方などを、ロールプレイしながら、自信をもってできるようにする。								
③履修者の到達目標（学習成果）	1. やさしいイタリア語を読んで理解できる。（文法力） 2. 簡単な日常会話ができるようになる。（会話力・聴解力・文法力）								
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性	○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート			グループワーク			
		プレゼンテーション	実習・フィールドワーク						
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）									
第1回	動詞の変化3（現在形）								
第2回	dovere と volere 動詞								
第3回	potere と sapere 動詞								
第4回	自由時間について話をする								
第5回	前置詞								
第6回	アイスクリーム屋にて								
第7回	所有形容詞								
第8回	曜日、時間、日付								
第9回	ホテル予約、チェックインなど								
第10回	近過去1（avere＋過去分詞）								
第11回	近過去2（essere＋過去分詞）								
第12回	過去の出来事の話をする								
第13回	ピザ屋にて								
第14回	お土産の買い物								
第15回	近過去のまとめ								
定期試験	実施する								
⑧自主学習の課題	予習：出来る限り、声を出して読む練習をすること。約30分。 復習：授業で学んだ言葉を書くこと、読むことを勧める。約30分。								
⑨テキスト	Oshiba, Tucci 『Percominciare』 公益財団法人日伊協会 2021年								
⑩参考書／参考資料／準備物等									
⑪教材費									
⑫履修条件／履修上の注意事項									
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	会話力	聴解力	文法力				③配点比率	
	1 定期試験		○	○				50	%
2 小テスト							0	%	
3 提出物							0	%	
4 発表・実技・プレゼン							0	%	
5 受講態度	○	○					30	%	
6 自主学習態度	○	○	○				20	%	
7 その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題（試験やレポート等）の成績評価に対する問い合わせに応ずる。								
IV その他									

I 科目に関する項目									
①科目名	聖書学特講 Special Lecture of the Bible				②科目コード	Y1-1A009			
③担当教員名	武内 裕輝								
④実務経験	小学校 宗教科主任 宗教部長 (6年)				⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	前期	⑧単位 (時間数)	2単位 (30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示による教科目】教養科目 外国語、体育以外の科目								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	聖書を読み、「神から与えられたいのちの大切さ」を学び、特に、福音書を読み、「神と私たちとの親しさ」を学ぶ。								
②授業の概要	小学校で宗教科の指導にあたってきた教員が担当する。聖書を読み「神から与えられたいのちの大切さ」を学ぶ。幼児教育を志す学生たちの豊かな感性を生かし、特に、新約聖書のルカによる福音書を読み、病人や罪人など弱者に自ら近づき、彼らを自らのもとに招くイエスの姿から、いつもともにいてくださり、ともに寄り添い、ともに歩んでくださる神と私たちとの親しさを学ぶ。毎回、聖書のメッセージと関連する現代世界の諸問題を取り上げる中で、アクティヴ・ラーニングを積極的に実施する。								
③履修者の到達目標 (学習成果)	1 [知識・理解] 聖書のメッセージの中心である「神を愛し、隣人を愛する」ことを理解できる。 2 [関心・意欲・態度] イエスの目線、すなわち、自ら弱者に近づき、彼らを招き、寄り添い、ともに歩もうとする生き方に関心を持ち、探究できる。 3 [思考・判断・表現] イエスの言動に現れている「慈しみと憐みの神」について学び、その内容を表現できる。 4 [技能] イエスや彼に倣って生きた人々から学び、そのメッセージを受け止め、分かち合うことができる。								
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性	○			
⑤アクティヴ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○			
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	○	○	○	○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			
⑦授業の計画 (授業の内容)									
第1回	聖書のメッセージをつかむために～授業や課題の進め方 (対面・Google meet・Google classroom の活用法) と評価方法～								
第2回	イエスの誕生が私たちに与えたもの～クリスマスの意味～								
第3回	イエスの目線に沿って読む「最も重要な掟」と「善いサマリア人」のたとえ								
第4回	イエスの目線に立つことを学び、彼に倣って生きた人々～北原怜子の生涯 他～								
第5回	弱者に自ら近づき、招き、寄り添い、ともに歩むイエスの「言葉と行い」、特に、「赦すこと」(1)								
第6回	弱者に自ら近づき、招き、寄り添い、ともに歩むイエスが語る「たとえ話」、特に、「赦すこと」(2)								
第7回	イエスとともに人々に寄り添って生きた人々～フローレス・ナイチンゲールとトム・ドーレイの生涯 他～								
第8回	神さまからの私たち一人ひとりへのプレゼント～「タラントン」のたとえと「ムナ」のたとえ～								
第9回	神さまがくださったお恵みを最大限に活かそうとした人々～石川正一とマリア・モンテッソーリの生涯 他～								
第10回	赦す神と赦された罪人～イエスの受難、弟子たちの離反、イエスの逮捕と裁判、十字架による最期～								
第11回	イエスの受難に倣い、友のために自らの生命を捧げた人々～殉教者聖コルベの生涯 他～								
第12回	イエスの復活、弟子たちへの出現、イエスの昇天、聖霊降臨～イースターとペンテコステの意味～								
第13回	復活したイエスに出会い、人生を変えられてしまった人々～使徒聖パウロの生涯 他～								
第14回	聖書のメッセージと現代世界の諸問題 ※ (双方向型授業) プロジェクト学習と反転授業 ICT 機器の活用								
第15回	聖書のメッセージとともに歩むために～振り返りとまとめ～ ※ (双方向型授業) プレゼンテーションとディスカッション ICT 機器の活用								
定期試験	レポート								
⑧自主学習の課題	予習：ルカによる福音書を通読していくことが勧められる。1週間あたり2章のペースで読み進め、特に、心に残った箇所を簡単にメモしておくだけでも、貴重な学びの機会となる。プロジェクト学習やプレゼンテーション (1人15分程度×3回/全15回) などの準備を含め、約90分の学習時間を要する。 復習：授業で扱った聖書箇所と配布資料を読み返しておくことが勧められる。各回のテーマについて、授業内容と自分なりの考察を簡単にまとめておくことは、毎回の提出課題や期末レポートの対策ともなる。リアクションペーパー (A4・1枚以内×全15回) の作成を含め、約90分の学習時間を要する。								
⑨テキスト	『聖書』(フランシスコ会聖書研究所)								
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	授業時に使用する教材や資料は、初回授業および各回毎に配布する。また、適宜、参考文献や映像資料等を紹介する。								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	在宅での学習が必要となる場合は Google Meet を使用する。毎回の予習・復習課題は Google classroom を使用する。万が一、遅刻・欠席する場合は、講義内容と課題を Google classroom で確認し、全体の進度から大幅に遅れが生じないように努めること。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	知識・理解	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	③配点比率			
1	定期試験					0	%		
2	小テスト					0	%		
3	提出物	○	○	○	○	20	%		
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	20	%		
5	受講態度	○	○	○	○	20	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○	20	%		
7	その他 (レポート)	○	○	○	○	20	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物とレポートは採点と講評の後に返却する。評価方法に記載されている全ての項目について個別の問い合わせに応じる。								
IV その他									
欠席・遅刻・早退・課題未提出などにより、単位が認定できなくなる事態を招かないように注意すること。 不測の事態が生じた場合は、自分だけで解決しようとはせず、至急、教職員に相談すること。 履修者の興味や関心を踏まえて、講義内容や使用する資料の一部を変更する場合もある。									

I 科目に関する項目									
①科目名	ドン・ボスコ研究 Educational Method of Don Bosco				②科目コード	Y1-1A010			
③担当教員名	浦田 慎二郎								
④実務経験	サレジオ会司祭 (20年)				⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	2単位 (30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格	発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示による教科目】教養科目 外国語、体育以外の科目								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	星美学園短期大学の源流、ドン・ボスコを知る。								
②授業の概要	星美学園の源流ともいえるドン・ボスコの生涯を知り、彼の教育法、生き方を学んでいく。まず、人としてのドン・ボスコと、彼が始めた教育環境であるオラトリオを、その生涯から知る。その上で「予防教育法」と言われる彼の独特な教育法を学ぶ。サレジオ会司祭として、ドン・ボスコ教育を長年実践してきた教員が担当する。								
③履修者の到達目標(学習成果)	1. ドン・ボスコの生涯を知る。 2. オラトリオについて知る。 3. ドン・ボスコの教育法について知る。 4. 自分の保育にどう生かすかを考える。								
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性	○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート						
	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク						
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画(授業の内容)									
第1回	ドン・ボスコとは？								
第2回	ドン・ボスコの生涯1(生誕とその環境)								
第3回	ドン・ボスコの生涯2(9歳の夢)								
第4回	ドン・ボスコの生涯3(カロツ神父との出会い)								
第5回	ドン・ボスコの生涯4(カロツ神父の死とその後)								
第6回	ドン・ボスコの生涯5(バルトロメオ・ガレツリとの出会い)								
第7回	ドン・ボスコの生涯6(オラトリオの困難)								
第8回	ドン・ボスコの生涯7(発展するオラトリオ)								
第9回	ドン・ボスコの教育法1(ローマからの手紙を読み、分析する)								
第10回	ドン・ボスコの教育法2(ローマからの手紙の解説)								
第11回	ドン・ボスコの教育法3(ドン・ボスコの教育法・まとめ)								
第12回	映画「ドン・ボスコ」鑑賞(ドン・ボスコの生涯・前半)								
第13回	映画「ドン・ボスコ」鑑賞(ドン・ボスコの生涯・後半)								
第14回	ドン・ボスコと日本(ドン・ボスコと日本の関わりを知る)								
第15回	まとめと総合的な観点による討議								
定期試験	実施する。筆記試験。								
⑧自主学習の課題	毎回の授業を振り返り、テキストである『ドン・ボスコ自叙伝』を読み親しむ。予習には、約90分の学習時間を要する。復習には、約90分の学習時間を要する。								
⑨テキスト	石川康輔訳『ドン・ボスコ自叙伝』ドン・ボスコ社								
⑩参考書/参考資料/準備物等									
⑪教材費									
⑫履修条件/履修上の注意事項									
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	ドン・ボスコの生涯	オラトリオを知る	ドン・ボスコの教育法	自分の保育にどう生かすか	③配点比率			
1	定期試験	○	○	○	○	60	%		
2	小テスト					0	%		
3	提出物	○	○	○	○	30	%		
4	発表・実技・プレゼン					0	%		
5	受講態度	○	○	○	○	10	%		
6	自主学習態度					0	%		
7	その他					0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	授業内課題とリアクションペーパーを採点し、返却する。								
IV その他									

I 科目に関する項目										
①科目名	心理学 Psychology					②科目コード	Y1-1A011			
③担当教員名	吉田 望									
④実務経験	公認心理師、臨床心理士					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	1年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	2単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示による教科目】教養科目 外国語、体育以外の科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	【厚生労働省告示による教科目】教養科目 外国語、体育以外の科目									
②授業の概要	公認心理師として勤務経験を持つ教員が担当し、心理学の基本的な考え方と基礎知識を習得する。具体的には、「感覚・知覚、認知、社会、パーソナリティ、発達、障害、学習」などの領域で得られている専門的知見を概説的に紹介する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	(1) 心理学の歴史や領域を知る。 (2) 心理学で基本とされる人名、専門用語、概念、研究を知る。 (3) 心理学的理論と日常生活とのつながりについて理解を深める。 (4) 個人差や多様性を認識する。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性	○				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク							
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Googleクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	オリエンテーション(成績評価の説明、心理学の概要)									
第2回	感覚・知覚(感覚器と視知覚について)									
第3回	認知(記憶、記憶課題・検査の実施)									
第4回	社会①(認知的不協和、社会的促進、多数へ同調、印象形成)									
第5回	パーソナリティ(類型論、特性論)									
第6回	発達①(発達段階)									
第7回	発達②(知能検査)									
第8回	健康(ストレス・ライフイベント、ストレス理論、ストレスとパーソナリティ)									
第9回	障害(自閉スペクトラム症、注意欠如・多動性障害、限局性学習障害)									
第10回	学習①(オペラント条件づけ、強化、消去、弱化)									
第11回	学習②(三項随伴性、刺激性制御、レスポナント条件づけ)									
第12回	臨床: 応用行動分析①(応用行動分析の理念、プロンプト、シェイピング、機能的アセスメント、分化強化)									
第13回	臨床: 応用行動分析②(恐怖・不安を軽減する方法、自己管理)									
第14回	動機づけ(動機づけの分類、褒めることと叱ることの影響、アンダーマイニング効果)									
第15回	心理学に関するまとめと振り返り									
定期試験	筆記試験(持ち込み可)を行う。									
⑧自主学習の課題	予習には、約60分の学習時間を要する。自主学習として授業終了後には、その内容を1時間程度を目安に復習することが望ましい。									
⑨テキスト	授業時に資料を配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	授業時に随時紹介する。									
⑪教材費	不要									
⑫履修条件/履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、Google classroomを確認するとともに、翌週の授業時に授業資料を受け取ること。 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題をGoogle classroomより配信する予定である。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	歴史や領域	知識・理解	理論と生活	個人差・多様性			③配点比率		
	1 定期試験	○	○	○	○			50	%	
2 小テスト	○	○	○	○			35	%		
3 提出物							0	%		
4 発表・実技・プレゼン							0	%		
5 受講態度	○						15	%		
6 自主学習態度							0	%		
7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・小テストの答案を採点し次回の授業開始時に誤答があった問題を解説する。 ・定期試験(期末)の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	情報処理 Informatics					②科目コード	Y1-1A012			
③担当教員名	中島 千恵子									
④実務経験						⑤担当形態	単独 クラス分け			
⑥開講対象	幼児保育学科 1年		⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	2単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格			発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示による教科目】教養科目 外国語、体育以外の科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	現代社会における ICT・データ・AI の利活用									
②授業の概要	Society5.0 の社会で AI (人工知能) により引き起こされる社会の大きな変化を認識し、デジタル社会に主体的に対応できる ICT リテラシー (情報通信技術を活用する能力) やデータリテラシー (データに基づいて判断する能力) を育成することを目的とする。具体的には、AI が活用されている領域や代表的な技術、コンピュータ及びインターネットを活用する際に必要な情報通信技術に関する知識と技術を学び、文書作成、画像編集、プレゼンテーション、表計算の各種ソフトウェアの活用技術を習得する。									
③履修者の到達目標 (学習成果)	1. コンピュータや情報通信技術の基本用語を説明できる。 2. 情報モラルを守り、インターネットを利用できる。 3. 現代社会におけるデータ・AI の利活用を理解し、留意事項を説明できる。 4. ワープロ、画像編集、プレゼンテーションの各種ソフトウェアの基本操作を習得し、活用できる。 5. 表計算ソフトウェアの基本操作を習得し、データの処理ができる。									
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
	○		○							
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画 (授業の内容)										
第 1 回	情報処理教室利用ガイダンス									
第 2 回	コンピュータ概論 (Windows OS 基礎技術)									
第 3 回	情報通信技術の基礎 (ウェブメールを活用した双方向型授業)									
第 4 回	現代社会におけるデータ・AI 利活用 (Society5.0、データの種類、人工知能)									
第 5 回	データ・AI 利活用における留意事項 (AI 倫理、情報倫理、情報セキュリティ)									
第 6 回	ICT リテラシー (ワープロソフトを用いた文書作成)									
第 7 回	ICT リテラシー (プレゼンテーション理論による企画の立案)									
第 8 回	ICT リテラシー (プレゼンテーションソフトを用いたスライドの作成)									
第 9 回	ICT リテラシー (プレゼンテーションソフトを用いた図解手法の活用)									
第 10 回	ICT リテラシー (プレゼンテーションソフトを用いたマルチメディアの活用)									
第 11 回	ICT リテラシー (画像編集ソフトを用いたデータ処理)									
第 12 回	データリテラシー (表計算ソフトを用いたデータ処理: データの集計)									
第 13 回	データリテラシー (表計算ソフトを用いたデータ処理: データの表現)									
第 14 回	データリテラシー (表計算ソフトを用いたデータ処理: データの活用)									
第 15 回	まとめ (プレゼンテーション)									
定期試験	実施しない (評価は、授業時の課題レポートおよびプレゼンテーション等で行う)									
⑧自主学習の課題	予習: 約 90 分間の学習時間を要する。 復習: 約 90 分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考書は、授業内で随時紹介する。 USB メモリは、各自で準備すること。									
⑪教材費	特になし。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	コンピュータ・情報通信技術の基本用語	情報モラル・インターネット利用	データ・AI の利活用と留意事項	ICT リテラシー	データリテラシー	③配点比率			
	1 定期試験						0	%		
2 小テスト							0	%		
3 提出物	○	○	○	○	○	○	60	%		
4 発表・実技・プレゼン					○		20	%		
5 受講態度	○	○	○	○	○	○	20	%		
6 自主学習態度							0	%		
7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れている					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	健康科学 Health Science					②科目コード	Y1-1A014			
③担当教員名	佐藤 勉									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	1年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(15)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	卒業必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示による教科目】教養科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	健康に影響を及ぼす様々な要因を理解し、健康の保持・増進法や疾病の予防法について学習する。									
②授業の概要	幼児保育に携わる者にとって、健康に影響を及ぼす様々な要因を理解することは極めて大切である。なかでも重要な要因となるのは、ヒトを取り巻く自然環境や微生物および食生活である。そこで、本講義では空気、水、温熱に代表される自然環境要因・微生物要因および食生活と健康との関わりを学習すると共に、ライフステージごとのわが国の保健施策について学ぶ。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. (関心・意欲・態度) 健康に影響を及ぼす各種要因に関心をもち、自ら健康増進に努めることができる。 2. (思考・判断・表現) 健康リスクを評価し、それらに対する予防法を提示することができる。 3. (技能) 具体的な健康の保持・増進法を検討できる。 4. (知識・理解) ライフステージごとのわが国の保健施策について説明できる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク							
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	健康の定義・予防の概念									
第2回	人口統計と疫学									
第3回	感染症の発生要因と予防方法、新型コロナウイルス感染症									
第4回	食品保健・食生活と健康									
第5回	環境要因と健康との関わり									
第6回	地域保健・母子保健・学校保健の要点と実際									
第7回	産業保健の意義・現状・課題									
第8回	精神保健の現状・課題									
定期試験	筆記試験(持ち込みなし)									
⑧自主学習の課題	予習：各回の授業内容を予め確認し、その内容に関する事前学習を行い、予習ノートにまとめておくこと。予習には各授業について約60分の学習時間を要する。 復習：各授業回において、復習事項を提示する。復習事項について、教科書等を用いて調べ、復習ノートにまとめておくこと。授業回に開始時にノートの提出を求める。復習には約60分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	『デンタルスタッフの衛生学・公衆衛生学』第2版 医歯薬出版㈱									
⑩参考書/参考資料/準備物等	厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向 Vol.70 No.9 2023/2024									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項	特になし									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率				
1	定期試験		○		○	60	%			
2	小テスト		○		○	10	%			
3	提出物	○				10	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○				10	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	10	%			
7	その他					0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・小テスト・中間テストを実施することにより、理解度を確認する。その結果は定期試験前に返却し、解説を行う。 ・定期試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	体育実技 Physical Training					②科目コード	Y1-1A015			
③担当教員名	遠山 健太									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	1年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	実技	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示による教科目】教養科目 体育									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	子どもの健康や体力に関する知識だけではなく、自身が生涯にわたって健康でい続けられる方法論を学ぶ									
②授業の概要	子どもの発育発達を考慮した健康指導やアドバイスができるように、運動実践を通じて学ぶ。子どもには個々の体力課題があり、それらを職場で共有したり、保護者対応に役立つ知識とスキルを学ぶ。また、授業を通じて自身の健康的な体を築くための方法を学び、生涯健康で生活するための基礎を学ぶ。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 柔軟性のセルフチェックと評価をできるようにする 2. 体力要素と基本的動作を理解し、運動遊びを分析することができる 3. 自身の体の課題を理解した上で、課題解決のためのエクササイズを実践し、理解できるようになる									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	○	②専門知識・技能	○	③共感性	○	④コミュニケーション	○	⑤協働性	○
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画(授業の内容)	第1回 ガイダンス、自己紹介、履修調査 (※更衣不要) 第2回 柔軟性セルフチェックと実際と評価：上肢・下肢・体幹部 第3回 測定結果から運動につなげる①「腰痛対策のためのエクササイズ / 股関節」 第4回 測定結果から運動につなげる②「腰痛対策のためのエクササイズ / 足首・胸椎」 第5回 測定結果から運動につなげる③「腰痛対策のためのエクササイズ / 肩周り」 第6回 測定結果から運動につなげる④「肩こり・首の痛みのためのエクササイズ / 肩周り」 第7回 測定結果から運動につなげる⑤「肩こり・首の痛みのためのエクササイズ / 背中周り」 第8回 全身パワーと巧緻性の測定の実際と評価 / 立ち幅跳びと立ち3段跳び 第9回 測定結果から運動につなげる⑥ / 体幹エクササイズの実際 第10回 測定結果から運動につなげる⑦ / 跳躍エクササイズの実際 第11回 全身持久力を考慮したエクササイズ / 有酸素性運動と活動量 第12回 コーディネーション運動① / 方向変換能力を養うためのエクササイズ 第13回 コーディネーション運動② / 空間認識能力を養うためのエクササイズ 第14回 コーディネーション能力③ / 操作系能力を扱うためのエクササイズ 第15回 コミュニケーションスキルと運動 / 考えながら動くためのエクササイズ 定期試験 実施しない									
⑧自主学習の課題	予習には、約15分間の学習時間を要する。復習には、約30分間の学習時間を要する。 予習：実施する運動について、それらの運動を行う方法やルールを調べる。 復習：実施する運動が、自身の健康づくりと実際の保育現場でどのように活かすことができるかを考える。									
⑨テキスト	授業時に資料配布									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	日本スポーツ協会『アクティブチャイルドプログラム』 「コツがつかめる！体育ずかん」遠山健太、ほるぷ出版(2020)									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	トレーニングウェア、ジャージ等の運動できる服装、室内用シューズ									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	セルフチェックと評価	運動遊びの実践と分析	エクササイズ の理解と実践					③配点比率		
②評価方法										
1 定期試験								0	%	
2 小テスト	○							10	%	
3 提出物		○						10	%	
4 発表・実技・プレゼン	○		○					40	%	
5 受講態度	○	○	○					30	%	
6 自主学習態度		○						10	%	
7 その他								0	%	
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題(試験やレポート等)の成績評価に対する問い合わせに応ずる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	教育原理 Principle of Upbringing					②科目コード	Y2-1A001			
③担当教員名	齋藤 博志									
④実務経験	中学校校長（14年2ヶ月）＜小中一貫校校長5年を含む＞				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免許・教育の基礎的理解に関する科目等】教育の基礎的理解に関する科目教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科目】保育の質・目的に関する科目 教育原理									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	教育の基本的概念・教育史・教育制度（教師、子ども、家庭、学校）・教育に関する社会事項・学校安全への対応									
②授業の概要	公立小中一貫校校長を務めた経験がある教員による講義である。教育実践を踏まえ、教育の意義や目的、法的な根拠、教育思想史および教育制度の変遷にも触れながら教育に携わる者としての在り様を理解し、さらに教育現場で求められている安心・安全への意識の高揚を図るために安全教育等を具体的な事例を用いて講義する。学習内容は毎回要約プリントを配布する。毎回テーマにそった課題を調べ、発表する。（事前に課題を課す）									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 教育の基本的概念および教育の目標について説明できる。 2. 教育の歴史を通して、教育の在り方や学校教育制度の成立と変遷について説明できる。 3. 教育に関する様々な思想を理解している。 4. 学びの支援者に求められる資質・能力を高めようとする態度を養う。 5. 社会状況の変化に伴う教育課題（学校教育も含む）と教育政策の動向について説明できる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	グループワーク	反転授業	プレゼンテーション	ディスカッション・ディベート	○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援	○				
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	ガイダンス、「教育」とは：講義と自己分析の作業									
第2回	教育の意義と目的について：講義とグループワーク									
第3回	教育の現状と課題について：講義とグループワーク									
第4回	乳幼児の教育と人間形成について：講義とグループワーク									
第5回	子ども親と教育の歴史について：講義とグループワーク									
第6回	教育に関する法律と制度について：講義とグループワーク									
第7回	教育史① 古代・中世から近世の教育思想家について＜学生によるプレゼンテーション＞									
第8回	教育史② 中世から近世の教育思想家について＜学生によるプレゼンテーション＞									
第9回	教育史③ 近世から近代の教育思想家について＜学生によるプレゼンテーション＞									
第10回	教育史④ 近代から現代の教育思想家について＜学生によるプレゼンテーション＞									
第11回	教育課程と学習指導要領について（幼児教育の5領域を含む）幼児教育での実践について＜学生によるプレゼンテーション＞									
第12回	生活安全と交通安全について（食育とアレルギー疾患への対応等も含む）：講義とグループワーク									
第13回	防災教育と災害安全について：講義とグループワーク									
第14回	学び続ける保育士・教師について：講義とグループワーク									
第15回	これからの教育について（中教審答申「令和の日本型学校教育」・幼稚園教育要領等から）：講義とグループワーク									
定期試験	筆記試験を実施する									
⑧自主学習の課題	予習には、約90分の学習時間を要する。復習には、約90分の学習時間を要する。 ①予習として、毎回事前課題を提示し、取り組んでくる。 ②復習として、自作ノートを作成、整理する（授業資料を活用して）。 ③課題図書を読み、レポート提出する。									
⑨テキスト	毎回プリントを配布する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	参考書：「イラストで読む！『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』はわかりBOOK」学陽書房 プリント整理用にA4サイズのファイルを用意する。									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	教育の概念・目標	教育の歴史・制度	教育の思想	教育教員・教職課程	教育の課題・政策動向	③配点比率			
1	定期試験	○	○	○	○	○	50	%		
2	小テスト	○	○	○	○	○	10	%		
3	提出物		○	○	○	○	25	%		
4	発表・実技・プレゼン		○	○	○	○	10	%		
5	受講態度	○	○	○	○	○	5	%		
6	自主学習態度						0	%		
7	その他						0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題レポートやプレゼンに対する講評をその都度行う。授業感想を取り、その都度次回の授業で指導や補足説明などを行う。									
IV その他										

I 科目に関する項目											
①科目名	教育方法論 Studies on Method of Teaching					②科目コード	Y3-1A003				
③担当教員名	井出 麻里子										
④実務経験						⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	幼児保育学科 1年		⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	2単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程	【幼二種免許・教育の基礎的理解に関する科目等】道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導・教育相談等に関する科目教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)・幼児理解の理論及び方法										
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第2による教科目】保育の内容・方法に関する科目各指定保育士養成施設において設定										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	幼児教育・保育の基本を理解し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に即した保育方法の理論と実践について学び、保育記録にふさわしい文章で説明することができる。										
②授業の概要	本講義では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示された幼児教育・保育の基本をふまえ、幼稚園や保育所で実践されている保育方法について理論と実践の両面から理解する。講義に加え、幼稚園での実践場面の映像を視聴して、幼児の育ちと教育方法について考えていく。また、レポートの作成を通して、実習で求められる保育記録の正しい書き方についても学ぶ。										
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 幼児教育・保育の基本について理解し、説明することができる。(幼児教育・保育の基本) 2. 実践場面の映像から、子どもの育ちや保育者の役割について説明することができる。(保育実践の読み取り) 3. 保育記録として適切な文章を作成することができる。(保育記録の作成)										
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性			
		○			○						
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業			ディスカッション・ディベート		○			
	グループワーク		プレゼンテーション			実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)											
第1回	オリエンテーション: 授業の進め方、評価などについて										
第2回	幼稚園の一日の流れ										
第3回	保育方法とは何か										
第4回	子ども理解に基づいた保育方法										
第5回	子どもにふさわしい園生活とは										
第6回	養護と教育が一体となった保育の方法										
第7回	環境を通じた保育の方法①: 物的環境と子どもの育ち										
第8回	環境を通じた保育の方法②: 人的環境と子どもの育ち										
第9回	遊びを通じた教育①: 遊びの意義										
第10回	遊びを通じた教育②: 保育者の役割										
第11回	低年齢児の発達に応じた保育方法										
第12回	高年齢児の発達に応じた保育方法										
第13回	小学校との接続のデザイン										
第14回	教材や情報機器を活かした保育方法										
第15回	本実習に向けたまとめ										
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	予習: テキストの該当部分を読み、演習課題を行う。約90分の学習時間を要する。 復習: 毎回の授業で学んだことをノートにまとめる。約90分の学習時間を要する。										
⑨テキスト	大豆生田啓友・渡邊英典編著『保育方法・指導法』ミネルヴァ書房 2020年 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館										
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	大学ノート(B5サイズ)を1冊用意すること。										
⑫履修条件/履修上の注意事項	・適宜、グループディスカッションにより、意見交換や情報共有する機会を設ける。 ・提出物の期限を守ること。再三の注意にもかかわらず提出期限が守られない場合は、点数がつかないことがある。										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目	幼児教育・保育の基本(理論)	保育実践の読み取り(実践)	保育記録の作成							③配点比率	
②評価方法											
1 定期試験									0	%	
2 小テスト			○						20	%	
3 提出物(ノート)	○	○	○						60	%	
4 発表・実技・プレゼン									0	%	
5 受講態度	○	○	○						10	%	
6 自主学習態度	○	○	○						10	%	
7 その他									0		
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。										
IV その他											
本科目の単位を取得していることが、「幼稚園教育実習【前期】」に参加する条件となっている。											

I 科目に関する項目										
①科目名	保育・教育課程論 Theory of Curriculum for Child Care and Education					②科目コード	Y2-1B002			
③担当教員名	大井 美緒									
④実務経験	幼稚園教諭 (15年)					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	2単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免許・教育の基礎的理解に関する科目等】教育の基礎的理解に関する科目教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科目】保育の内容・方法に関する教科目 保育内容演習									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育現場における指導計画の種類と意義を理解し、保育指導案作成を实践する。									
②授業の概要	幼稚園教諭としての勤務経験をもつ教員が本講義を担当する。保育における計画の編成について理解し、それらの計画が実際の保育の展開の中で、どのような意義を持っているかを理解する。また、指導計画書の構想や指導計画書の作成の基本を学び、保育指導案を作成する。さらに、実践やグループワークを通して構想や作成についての学びを深めていく。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. [関心・意欲・態度] 年齢別の大まかな発達等について関心をもち乳幼児の発達を踏まえた保育の計画について探求できる。 2. [思考・判断・表現] 保育の計画を捉えた保育指導案の作成の構想ができる。 3. [技能] 教材研究を行い保育指導案を作成し実践できる。 4. [知識・理解] 保育における計画の意味と考え方を理解し、具体的に説明することが出来る。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業		○	ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	オリエンテーション 保育の計画の基本									
第2回	指導計画の種類とそれぞれの意義									
第3回	保育指導案の構想									
第4回	教材研究について									
第5回	導入とは									
第6回	保育指導案の作成①基本事項の解説と書き方									
第7回	保育指導案の作成②活動の展開部分の解説と書き方									
第8回	保育指導案の作成③保育指導案を作成する									
第9回	作成した保育指導案をめぐるグループ討議									
第10回	模擬保育									
第11回	模擬保育の振り返り									
第12回	低年齢の子どものための個別の計画と実際									
第13回	保育における評価									
第14回	カリキュラム・マネジメントの意義と重要性									
第15回	保育者の専門性について									
定期試験	実施する。(筆記試験持ち込み不可)									
⑧自主学習の課題	予習:各授業において予習事項を提示する。約30分間の学習時間を要する。 復習:各授業において復習事項を提示する。約90分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	西海聡子編著『遊びが広がる保育内容のアイデア』萌文書林 2021年									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	教材研究や指導計画(指導案)を作成する際の教材費については自己負担とする。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	・やむを得ず欠席した場合は、翌週の授業の前日までに担当教員の研究室まで授業資料等を取りに来て、予習・復習に自ら取り組むこと。 ・指導案を作成していく際のグループワークでは、グループ全員が意見を出し合い、他者の意見を尊重しながら主体的に取り組むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			③配点比率		
1	定期試験	○	○	○	○			40	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物	○	○	○	○			40	%	
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			5	%	
5	受講態度	○	○	○	○			5	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			10	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	指導案は添削して返却する。 成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目									
①科目名	特別支援教育総論 Introduction to Special Needs Education					②科目コード	Y2-1A003		
③担当教員名	竹森 亜美								
④実務経験	臨床心理士（9年）・公認心理師（4年）					⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	2単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程	【幼二種免許・教育の基礎的理解に関する科目等】教育の基礎的理解に関する科目・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 【特二種免許・特別支援教育に関する科目】特別支援教育基礎論に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育理念並びに教育に関する歴史及び思想・心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育に係わる社会的、制度的又は経営的事項								
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第2による教科目】保育の本質・目的に関する科目・各指定保育士養成施設において設定								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	特別支援教育における障がい理解と支援体制								
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、障がいのある人やその家族への心理支援、特別支援教育の現場への巡回相談などの実践経験を活かし、障がい児者への支援の具体的な事例をもとに講義を行う。本授業では各障がいの学習や行動特徴を知り、その教育方法に関する基礎的な要素を取り扱う。また、特別支援教育が目指しているもの、特別支援教育を支え推進していくための制度やしくみについて理解するために、映像資料を取り入れながら学習を進める。								
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 各障がいの特徴をそれぞれ理解することができる 2. 特別支援教育に関わる教育制度、教育形態を理解することができる 3. 各障がい種別に応じた指導や支援法の基礎や概要を理解することができる 4. 障がいに関する知識や支援技術を、障がいはないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童生徒の把握や支援に活用して捉えることができる								
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性	○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート						
	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク						
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）	第1回 オリエンテーション（授業の進め方・評価方法・授業のキーワードの提示） 第2回 障がい児教育の歴史の変遷 第3回 特別支援教育とインクルージョン 第4回 身体障がいの特徴と教育Ⅰ（視覚・聴覚障害） 第5回 身体障がいの特徴と教育Ⅱ（肢体不自由・病弱） 第6回 知的障がいの特徴と教育 第7回 発達障がいの特徴と支援 第8回 自立活動の目標と指導方法 第9回 特別支援学級と通級指導教室の役割 第10回 特別支援学校のセンター的役割 第11回 通常学級における特別支援教育／障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児・児童生徒の理解 第12回 個別の指導計画と個別の教育支援計画 第13回 特別支援教育コーディネーターの役割（診断の有無にかかわらず児童理解と支援） 第14回 巡回相談と外部連携（診断の有無にかかわらず児童理解と支援） 第15回 将来の就労支援と生涯にわたる支援について								
定期試験	授業時の小テストと筆記試験								
⑧自主学習の課題	予習：約90分間の学習時間を要する。文部科学省のHPにある「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」を確認すること。 復習：約90分間の学習時間を要する。随時紹介する映像資料の視聴やテキストや資料、配布プリントを読み返して理解を深めること。								
⑨テキスト	随時紹介する映像資料の視聴やテキストや資料、配布プリントを読み返して理解を深めること。								
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）』開隆堂出版								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件／履修上の注意事項	履修条件／履修上の注意事項：特になし その他：欠席した場合、その日の小テストの得点が0点になるため、評価に大きく影響することを把握しておくこと。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
①学習項目	各障害の特徴理解	教育制度の理解	教育支援のポイント	障害はないが特別なニーズのある児童の理解					③配点比率
②評価方法									
1 定期試験	○	○	○	○				45	%
2 小テスト	○	○	○	○				50	%
3 提出物								0	%
4 発表・実技・プレゼン								0	%
5 受講態度	○	○	○	○				5	%
6 自主学習態度								0	%
7 その他								0	%
④ルーブリック評価	小テスト・定期試験ともに用語を記入する問題であるため、取り入れていない						比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。								
IV その他									

I 科目に関する項目										
①科目名	障害者教育総論（知・肢・病） Introduction to Education for Persons with Disabilities (Psychology/Physiology/Pathology)					②科目コード	Y2-1A004			
③担当教員名	荻野 梨紗子									
④実務経験	公認心理師					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	1年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	2単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育BP修了		必修	
⑫教職課程	【特別支援教育に関する科目】特別支援教育領域に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第2による教科科目】保育の本質・目的に関する科目・各指定保育士養成施設において設定									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	障害の理解と教育に関する基礎知識									
②授業の概要	発達障害児への療育や相談支援を行ってきた教員が講義を担当する。児童生徒への教育的・社会的支援を展開した経験を生かし、具体的な授業実践や教育的支援の事例を紹介する。本講義では、学習指導要領の内容を理解し、知的障害児教育、肢体不自由児教育、病弱児教育の基礎を学ぶ。また、特別支援学校における自立活動、教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方について理解と認識を深める。学生間のディスカッションを通じて障害者教育への理解を深め、適切な教育的支援ができる教員としての資質を培う。									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. (関心・意欲・態度) 障害者教育に関心をもち、教育的ニーズに応じた教育について自ら探求できる。 2. (思考・判断・表現) 知的障害児、肢体不自由児、病弱児の教育的ニーズに応じた指導の計画、評価、改善の視点を持つことができる。 3. (技能) 自立活動の指導において、個々の教育的ニーズに応じた個別の指導(支援)計画を記述できる。 4. (知識・理解) 障害者教育(知・肢・病)の基本的な知識を説明できる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○				
⑥ICT機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑦授業の計画(授業の内容)	パソコン・タブレット端末による双方向授業									
⑧自主学習の課題	Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援									
⑨テキスト	○									
⑩参考書/参考資料/準備物等	○									
⑪教材費	○									
⑫履修条件/履修上の注意事項	○									
⑬定期試験	定期試験(筆記試験:持ち込みなし)を実施する									
⑭授業の計画(授業の内容)	<p>第1回 オリエンテーション:講義の受け方と成績評価の説明、障害者教育の概要</p> <p>第2回 障害者教育の歴史と障害の概念の変化</p> <p>第3回 障害者教育の制度:特別支援教育の特徴と多様な教育の場</p> <p>第4回 一人ひとりの教育的ニーズに応じた個別指導(支援)計画</p> <p>第5回 知的障害の原因と認知面、行動面の特徴</p> <p>第6回 知的障害者特別支援学校の教育課程とカリキュラム・マネジメント:領域・教科を合わせた指導を中心に</p> <p>第7回 知的障害者特別支援学校における自立活動:コミュニケーションを中心とした指導</p> <p>第8回 肢体不自由者の原因と認知面、運動面の特徴</p> <p>第9回 肢体不自由者特別支援学校の教育課程とカリキュラム・マネジメント:多様な教育的ニーズに応じる5類型</p> <p>第10回 肢体不自由者特別支援学校における自立活動:身体の動きを中心とした指導</p> <p>第11回 病弱の原因と心理面の特徴</p> <p>第12回 病弱者特別支援学校の教育課程とカリキュラム・マネジメント:訪問教育による指導</p> <p>第13回 病弱者特別支援学校における自立活動:健康の保持を中心とした指導</p> <p>第14回 特別支援学校における指導計画の評価</p> <p>第15回 特別支援学校におけるアクティブ・ラーニング</p>									
⑮定期試験	定期試験(筆記試験:持ち込みなし)を実施する									
⑯自主学習の課題	<p>予習:各授業回において、予習シートを配布する。授業時において紹介する参考資料をもとに、調べておくこと。授業回の開始時に予習シートの提出を求める。予習には約90分の学習時間を要する。</p> <p>復習:各授業回において、復習シートを配布する。復習事項について、当日の資料や参考書等を用いて調べ、復習シートにまとめておくこと。授業回の開始時に復習ノートの提出を求める。復習には約90分の学習時間を要する。</p>									
⑰テキスト	授業時に資料を配布する。									
⑱参考書/参考資料/準備物等	宮崎英憲・横倉久『平成29年版特別支援学校小学部・中学部新学習指導要領の展開』明治図書出版、2018年 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領—平成29年4月告示』海文堂出版、2018年 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚部・小学部・中学部)』海文堂出版、2018年 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版、2018年									
⑲教材費	不要									
⑳履修条件/履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、web上からダウンロードし、復習・予習事項に自ら取り組むこと。必ず次回授業までに授業資料を入手すること。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	②評価方法	③配点比率								
④ルーブリック評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解						
⑤課題等に対するフィードバックの方法	1 定期試験	○	○	○	50	%				
	2 小テスト	○	○	○	20	%				
	3 提出物				0	%				
	4 発表・実技・プレゼン				0	%				
	5 受講態度	○			10	%				
	6 自主学習態度	○			10	%				
	7 その他	○			10	%				
	④ルーブリック評価	取り入れている			比率合計	100	%			
	⑤課題等に対するフィードバックの方法	・定期試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。								
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	発達心理学 Developmental Psychology					②科目コード	Y3-1A001			
③担当教員名	荻野 梨紗子									
④実務経験	公認心理師					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	1年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	2単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免許・教育の基礎的理解に関する科目等】教育の基礎的理解に関する科目・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科目】保育の対象の理解に関する科目 保育の心理学									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	胎児から青年期までの発達の理解									
②授業の概要	発達障害児への療育や相談支援の実務経験がある教員による講義である。受講者が発達について主体的に学修するために、実務経験をいかし、具体的な事例を紹介する。本講義では、人の発達について理解を深める。主に、乳幼児期の身体・運動、認知、言語、情動、親子関係・社会性の発達を学ぶことで、発達心理学的な視点から子どもの理解を深める。授業計画の前半では、発達心理学の概要、発達への影響因、胎児期から乳幼児期の発達を扱う。中盤では、幼児期の発達について扱う。発達段階に応じた保育における援助の基本について、理解を深める。後半では、乳幼児期以降の発達の連続性を取り上げ、主体的な学びの基盤を培う養護と教育について、理解する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. (関心・意欲・態度) 発達心理学に関心をもち、自ら探求できる。 2. (思考・判断・表現) 養護と教育の一体的観点から発達段階に即した援助の基本を考えることができる。 3. (技能) 各領域の発達段階表を書くことができる。 4. (知識・理解) 発達心理学の基本的な知識を説明できる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	○			③共感性	○		④コミュニケーション	⑤協働性	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業			○		ディスカッション・ディベート	○		
	グループワーク	○			プレゼンテーション			実習・フィールドワーク		
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	オリエンテーション：講義の受け方と成績評価の説明、発達心理学を学ぶ意義									
第2回	発達への内的要因と外的要因の影響									
第3回	胎児期・新生児期の発達									
第4回	乳児期の身体・運動発達(原始反射から随意運動までの発達)									
第5回	乳児期の認知発達(感覚運動期の特徴)									
第6回	乳児期の対人関係の発達(アタッチメント形成と対人関係の広がり)									
第7回	乳児期の情動・言語発達(感情の発達、二語文までの発達)									
第8回	幼児期の身体・運動発達(粗大運動・微細運動の発達)									
第9回	幼児期の認知・言語発達(前操作期の特徴、多語文への発達)									
第10回	幼児期の社会性の発達(遊びや他者との三者関係の発達)									
第11回	幼児期の自己発達(第一自立期の特徴)									
第12回	児童期の発達(具体的操作期の特徴)									
第13回	青年期の発達(アイデンティティ達成までの道のり)									
第14回	乳幼児段階の学びに向かう力の育成									
第15回	主体的な学習を支える発達支援									
定期試験	定期試験(筆記試験：持ち込みなし)を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：各授業回において、予習シートを配布する。授業時において紹介する参考資料をもとに、調べておくこと。授業回の開始時に予習シートの提出を求める。予習には約90分の学習時間を要する。 復習：各授業回において、復習シートを配布する。復習事項について、当日の資料や参考書等を用いて調べ、復習シートにまとめておくこと。授業回の開始時に復習シートの提出を求める。復習には約90分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に資料を配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	繁多進(監修)『新 乳幼児発達心理学—もっと子どもがわかる 好きになる』福村出版、2012年 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、2017年 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館、2017年									
⑪教材費	不要									
⑫履修条件/履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、web上からダウンロードし、復習・予習事項に自ら取り組むこと。必ず次回授業までに授業資料を入手すること。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率				
1	定期試験		○	○	○	40	%			
2	小テスト	○	○	○	○	30	%			
3	提出物	○				10	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○	○	○	○	5	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	10	%			
7	その他	○				5	%			
④ルーブリック評価	取り入れている					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・定期試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	子どもの理解と援助 Understanding and Support of Child in Early Childhood Education and Care					②科目コード	Y3-1A002			
③担当教員名	藪中 征代									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	1年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育BP修了	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科科目】保育の対象の理解に関する科目 子どもの理解と援助									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育実践において、実態に応じた子どもの育ちを理解する									
②授業の概要	「子どもを理解する」ことについて、以下に示す4点を中心に具体的事例をもとに学ぶ。 ①子ども理解の意義 ②子ども一人一人の実態に即した援助の必要性や方法 ③子どもの体験や学びの過程で子どもを理解する具体的な方法 ④保育士がもつべき倫理観、相談援助の方法と技術、特別な配慮を要する子どもと保護者への支援									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 保育実践において、子どもの実態に応じた心身の発達や学びを把握することの意義について、具体的事例を挙げて説明することができる。 2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方について、具体的事例を挙げて説明することができる。 3. 子どもを理解するための方法について、具体的に事例を挙げて説明することができる。 4. 子ども理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解することができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	オリエンテーション: 授業の概要と進め方、講義の受け方、成績評価について説明する									
第2回	保育における「子ども理解」の意義									
第3回	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり									
第4回	子どもを理解する視点(1): 子どもの生活や遊び									
第5回	子どもを理解する視点(2): 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達									
第6回	子どもを理解する視点(3): 子ども相互の関わりと関係づくり									
第7回	発達における葛藤やつまづき									
第8回	保育の環境の理解と構成									
第9回	子どもを理解する方法(1): 観察・記録									
第10回	子どもを理解する方法(2): 省察・評価									
第11回	子どもを理解する方法(3): 職員間の対話と保護者との情報の共有									
第12回	子ども理解のための保護者との情報共有									
第13回	子どもの理解に基づく発達援助: 発達課題に応じた援助と関わり									
第14回	子どもの理解に基づく発達援助: 特別な配慮を要する子どもの理解と援助									
第15回	子どもの理解に基づく発達援助: 発達の連続性と就学への支援									
定期試験	実施する(課題レポートの提出)									
⑧自主学習の課題	予習: 各授業回において予習事項を提示する。予習事項についてはノートにまとめておくこと。予習には約60分の学習時間を要する。 復習: 各授業回において復習事項を提示する。復習事項については、当日の講義内容や参考書等を用いて調べ、ノートにまとめておくこと。復習には、約60分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	藪中征代 / 玉瀬友美編著『子どもの理解と援助』萌文書林									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	不要									
⑫履修条件/履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、復習・予習事項を自ら入手し、予習・復習事項に自ら取り組むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	子どもの発達や学びの把握の意義	子ども理解の基本的考え方	子どもを理解する方法	保育士の援助や能力の基本	③配点比率					
②評価方法										
1	定期試験		○	○	○	40	%			
2	小テスト		○	○	○	20	%			
3	提出物	○	○			5	%			
4	発表・実技・プレゼン		○			5	%			
5	受講態度	○				5	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	20	%			
7	その他	○				5	%			
④ルーブリック評価	取り入れている				比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	授業内で実施する課題レポートは、添削し返却する。返却時に解答傾向について講評を行う。課題(試験やレポート等)の成績評価に対しては、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理 Psychology/Physiology/Pathology of Persons with Autism Spectrum Disorder					②科目コード	Y3-1A005			
③担当教員名	竹森 亜美									
④実務経験	臨床心理士（9年）・公認心理師（4年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（15）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育BP修了		必修		
⑫教職課程	【特別支援教育に関する科目】免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第2による教科科目】保育の対象の理解に関する科目・各指定保育士養成施設において設定									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	自閉スペクトラム症の行動特徴と認知を理解する									
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、自閉スペクトラム症児者への心理支援、保育・教育現場への巡回相談などの実務経験を活かし、具体的な支援事例をもとに講義を行う。本授業では、受講者が自閉スペクトラム症者の行動を特別視するのではなく、自分にも経験のある身近な事象と結びつけて捉えることができるように学習を進めていく。そのために、「光とともに～自閉症児を抱えて～」のドラマやマンガなどを用いて授業を進めるが、基本的な知識を得たかどうかを確認するために、毎回授業後は小テストを実施する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 自閉スペクトラム症者の基本的な行動特徴を理解し、自らの体験と重ねながら共感的に捉えることができる 2. 自閉スペクトラム症のタイプごとの特徴を整理した上で、個々に様相が異なることと情報処理の方法を理解し、説明することができる 3. 自閉スペクトラム症者やその保護者のニーズや困り感を理解し、説明することができる									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート						
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援		○				
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	イントロダクション（概要及び授業評価の説明／自閉症をめぐる歴史の変遷）									
第2回	自閉スペクトラム症の基本的行動特徴									
第3回	カナータイプの自閉スペクトラム症の理解									
第4回	アスペルガータイプの自閉スペクトラム症の理解									
第5回	自閉スペクトラム症の認知・情報処理の理解									
第6回	自閉スペクトラム症の記憶と学習									
第7回	自閉スペクトラム症児をもつ保護者の心理									
第8回	自閉スペクトラム症の行動特徴と支援ニーズに関するまとめ									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：「光とともに～自閉症児を抱えて～」の漫画やDVD、そのほか自閉症をテーマとした映像を視聴する。約90分の学習時間を要する。 復習：授業後、授業で提示した重要ワードを整理し、ノートの作成（自筆またはPC）を行う。約90分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業時、随時提示する									
⑩参考書／参考資料／準備物等	『光とともに…～自閉症児を抱えて～』1～16巻 秋田書店 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	履修上の注意事項：可能な限り「自閉スペクトラム症者の支援」を合わせて受講すること。その他：授業終了後に毎回小テストを実施する。欠席すると、小テストを受けられないために、成績に影響が生じる。よって欠席がないように努めること。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	行動特徴の理解と共感的姿勢	タイプの理解	情報処理方法の理解	保護者のニーズの理解	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験					0	%				
2 小テスト	○	○	○	○	50	%				
3 提出物	○			○	30	%				
4 発表・実技・プレゼン					0	%				
5 受講態度	○	○	○	○	10	%				
6 自主学習態度	○	○	○	○	10	%				
7 その他					0	%				
④ルーブリック評価	提出物（レポート）の評価規準にルーブリック評価を用いる				比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物（レポート等）の成績評価に対する問い合わせに応じる									
IV その他										

I 科目に関する項目									
①科目名	自閉スペクトラム症者の支援 Support of Persons with Autism Spectrum Disorder				②科目コード	Y3-1A006			
③担当教員名	竹森 亜美								
④実務経験	臨床心理士（9年）・公認心理師（4年）				⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（15）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育BP修了		必修	
⑫教職課程	【特別支援教育に関する科目】免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目								
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第2による教科科目】保育の対象の理解に関する科目各指定保育士養成施設において設定								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	環境調整と自立活動の教材作成技術の獲得								
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、自閉スペクトラム症児者への心理支援、学校現場への巡回相談などの実践経験を活かし、具体的な支援事例をもとに講義を行う。本授業では、「自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理」で学習した自閉スペクトラム症の特徴を踏まえた上で、教育課程の編成の方法とカリキュラムマネジメント、そして特性に応じた具体的な支援方法について、学びを進める。また、自ら文献や資料を調べて教材を作成するアクティブラーニングを行う。受講者は、基本的な支援のモデルを確認しながら、それらのモデルを踏まえた上で、自ら支援方法や教材を考えることが求められる。								
③履修者の到達目標（学習成果）	1 自閉スペクトラム症児の教育課程の編成の方法及びカリキュラムマネジメントについて説明することができる。 2 自閉スペクトラム症児者への支援方法として、構造化・SST・コミュニケーション支援の考え方や手続きを理解する。 3 自閉スペクトラム症児者への支援のための連携ツールの重要性を知り、それらのツールを作成することができる。 4 自閉スペクトラム症児者の机上学習で用いる様々な教材を知り、そのいくつかを作成することができる。								
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート						
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	プレゼンテーション	○	○	○	○	○	○	○
⑦授業の計画（授業の内容）	第1回 自閉スペクトラム症児の教育課程の編成の方法及びカリキュラムマネジメントの実際 第2回 自閉スペクトラム症児へのアプローチ（構造化） 第3回 自閉スペクトラム症児へのアプローチ（要求伝達） 第4回 ソーシャルスキルトレーニング（SST） 第5回 自閉スペクトラム症児者に関わる人の連携ツール 第6回 自立課題の教材作成 第7回 教材展示とディスカッション 第8回 最近の自閉スペクトラム症研究の動向 定期試験 実施しない								
⑧自主学習の課題	予習：机上学習課題や教材について、事前に参考HPを確認すること。約90分の学習時間を要する。 復習：作成した教材の評価に対して、記録にまとめること。約90分の学習時間を要する。								
⑨テキスト	授業時、随時提示する								
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	教材費用：教材作成にかかる材料費は、各自で負担すること								
⑫履修条件／履修上の注意事項	履修条件：特になし 履修上の注意事項：可能な限り「自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理」を履修していることががほしい								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
①学習項目	教育課程の編成の方法とカリキュラムマネジメント	構造化・SST・コミュニケーション支援	教材作成	連携ツール	③配点比率				
②評価方法									
1	定期試験					0	%		
2	小テスト	○	○	○	○	45	%		
3	提出物			○		45	%		
4	発表・実技・プレゼン					0	%		
5	受講態度	○	○	○	○	5	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○	5	%		
7	その他					0	%		
④ルーブリック評価	教材作成の課題についてはルーブリック評価を活用する				比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題（教材やレポート等）の成績評価に対する問い合わせに応じる。								
IV その他									

I 科目に関する項目									
①科目名	幼児と表現(言葉) Children and Expression; Language				②科目コード	Y4-1A004			
③担当教員名	菅野 清子								
④実務経験	幼稚園教諭(13年) 保育士(5年) 児童厚生員(5年)				⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	乳幼児期における、言葉の発達に必要な、言語表現活動の探求と技術を習得する。								
②授業の概要	幼稚園教諭、保育士、そして児童厚生員と、それぞれの現場での勤務経験のある教員が、本科目を担当する。子どもが成長していく中で、最も与える影響の大きい「言葉」。手遊び歌をはじめ、絵本や紙芝居・素話や人形劇・ペープサート・エプロンシアター・パネルシアター等の言葉を介した表現活動を学び、コミュニケーション力や、技術力を身につける。授業方法は、科目の主旨からも対面授業を重視し、特にグループワークを中心に行う。人前に出ることに慣れるため、プレゼンテーションを多く取り入れていく。対面授業が行われなかった場合は、双方向型や、Google classroomによる課題や資料の提供を行う。また、製作などを取り入れた表現活動もあり、授業外に、自宅での学習も取り組む。								
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 【関心・意欲・態度】幼児期の発達年齢における、言葉の表現力や特徴を説明できる。 2. 【コミュニケーション力・表現力】子ども達が、言葉へ興味関心を持ち、見たり聴いたり、話したりすることが楽しく感じられるような、魅力ある話術やコミュニケーションをとることができる。 3. 【伝える力】多様性を受け入れ、一人一人の子どもが理解できるような言葉で、伝えることができる。 4. 【研究心・向上心】常に児童文化などの教材研究に取り組み、表現力をスキルアップできる。								
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート						
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク	Googleクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				
⑦授業の計画(授業の内容)									
第1回	オリエンテーション はじめまして!こんにちは!「言葉」って楽しい! あいさつや、ことば遊びの体験								
第2回	言語表現の重要性について 子どもに与える、魅力ある声とは オノマトペの活用 手遊びの演習								
第3回	絵本と紙芝居 それぞれの特徴と表現方法「読み聞かせ」と「演じる」グループワークで、ロールプレイ実践								
第4回	素話とは(ストーリーテリング) 特色と語りの実践								
第5回	パネルシアター・エプロンシアター それぞれの特徴と実際								
第6回	パネルシアターの専用パネルボード製作 教材一式を配布 各自、自分専用の舞台を作る。								
第7回	パネルシアター絵人形製作 作り方の体験 ※課題に従って、各自期限までに仕上げる								
第8回	いろいろなシアターの体験と実践 ペープサート・人形劇など 演習①身近なもので作る								
第9回	いろいろなシアターの体験と実践 ペープサート・人形劇など 演習②違う材料で作ってみる								
第10回	実技発表に向けて、言葉の表現やコミュニケーションの取り方、パネルシアターの演じ方を演習する。								
第11回	実技発表①(実技試験) 研究成果を実演 みんなの前で発表する 約10名								
第12回	実技発表②(実技試験) 研究成果を実演 みんなの前で発表する 約10名								
第13回	実技発表③(実技試験) 研究成果を実演 みんなの前で発表する 約10名								
第14回	実技発表④(実技試験) 研究成果を実演 みんなの前で発表する 約10名								
第15回	総合演習 ふりかえり 実習対策と、各自の目標に向けて課題設定								
定期試験	定期試験は、筆記試験は行わず、実技発表及び脚本を作成し提出する。								
⑧自主学習の課題	予習: 手遊び歌など、身につけて欲しいものは、配布した資料に基づき、いつでもみんなの前でできるように練習をしておく。また、課題を提示した場合は、本で調べておくなど、表現方法などノートにまとめておくようにする。予習には、約90分間の学習時間を要する。 復習: 授業で演習した内容及び、資料をふりかえり、復習を行うこと。みんなの前で、予告なしに演じることもあるので、資料を見なくてもできるようにしておく。復習には、約90分間の学習時間を要する。これらの予習復習が、いずれも、各自の持つ、遊びネタとして宝物に繋がることになる。								
⑨テキスト	テキストは使用しない。授業時に資料配布。								
⑩参考書/参考資料/準備物等	授業で紹介する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 実習に役立つパネルシアターハンドブック 古宇田亮順著 萌文書林 保育者のための言語表現の技術 萌文書林 すずま時間あそび 阿部恵著 すずぎ出版								
⑪教材費	教材費 5,000円※パネルシアターのパネルボード製作と作品製作のための教材 個々に購入することが難しいため、一括注文とし、すべて個人持ちとする。								
⑫履修条件/履修上の注意事項	幼稚園教諭の資格を取得するためには、とても重要な、実技と演習中心の授業であるため、常に現場を意識し、やる気と熱意を持って臨むこと。他者とのコミュニケーションを大切にしながら、子ども達を意識し、楽しく授業が展開できるようにしたい。身だしなみを整え、実技をするのにふさわしい服装で取り組むことが望ましい。詳しくはオリエンテーションで説明する。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	関心・意欲・態度	コミュニケーション力	表現力	研究心・向上心	③配点比率			
1	実技試験	○	○	○	○	40	%		
2	小テスト					0	%		
3	提出物	○		○	○	20	%		
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	20	%		
5	受講態度	○	○	○	○	10	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○	5	%		
7	その他	○	○	○	○	5	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	作品については提出し、評価終了後に返却する。課題の成績評価に対する問い合わせは、個別に応ずる。質問やフィードバックについては、次週の授業で回答する。								
IV その他									
この授業は、常に現場を意識し、保育者としてふさわしい身だしなみや態度、言語などを身につけながら、取り組んでいきます。演習が中心となるため、ジャージやTシャツなどの、動きやすい服装と、運動靴で、臨んで下さい。詳細については、初回に説明します。									

I 科目に関する項目										
①科目名	幼児と言葉（国語表現を含む） Children and Language (Include Japanese Language Expression)					②科目コード	Y4-1A002			
③担当教員名	古川 寿子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	1年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項 言葉									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科科目】保育の内容・方法に関する科目 保育内容の理解と方法									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	・ 幼児保育者・社会人として必要な国語表現力の習得 ・ 幼児の言葉の発達と表現のために必要な知識の習得									
②授業の概要	幼児が豊かな言葉や理解力や表現力・思考力などを獲得できるように、幼稚園教諭・保育者として指導・援助するための国語表現能力（聞く・話す・読む・書く）と、「言葉による論理的思考力（ロジカルシンキング）」を身に付けるために、口頭発表、文章読解、文書・論文作成などの実践や日本語能力の小テストを通して学ぶ。さらに、児童文化財の意義と基本的知識、保育における採り入れ方について学ぶこととする。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 日本語のさまざまな表現技法や、場面・相手に応じた言葉・敬語・マナーなどの日本語能力を習得する。 2. 文章の読解力・理解力と思考力を身に付ける。 3. 児童文化財（言葉に関わる遊び・絵本・児童文学・紙芝居）の意義と基本的知識、保育における採り入れ方について習得する。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
		○		○		○				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業				ディスカッション・ディベート				
	グループワーク	○		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	授業の進め方と成績評価について、言葉の働きと、コミュニケーションについて									
第2回	聞く・話す①自己紹介とスピーチのテクニックについて（構成・内容・話し方のポイント）									
第3回	聞く・話す②職場での接遇・敬語表現（上司・先輩・保護者・取引先との適切な対話表現）									
第4回	聞く・話す③職場での接遇・敬語表現（お客様・同僚・幼児・児童との適切な対話表現）									
第5回	読む・書く①実用的文章の書き方実務文書（礼状・案内状・ビジネス文書等）									
第6回	読む・書く②論理的文章の読み方（説明文・論説文の構成・内容・論旨・結論の把握のポイント）									
第7回	読む・書く③要約文の書き方									
第8回	読む・書く④小論文の書き方 主題・内容・要素・展開・構成									
第9回	読む・書く⑤卒論の書き方									
第10回	児童文化財（絵本）の読み聞かせについて —読み聞かせのポイント—									
第11回	児童文化財（絵本）の読み聞かせについて —3・4・5歳児向き絵本—									
第12回	児童文化財（児童文学）の研究について（1）—教材研究の方法—									
第13回	児童文化財（児童文学）の研究について（2）—子どもへの与え方—									
第14回	児童文化財（紙芝居）の演じ方について（1）—演じ方のポイント—（DVD教材鑑賞）									
第15回	授業内容のまとめ、筆記試験の範囲と内容についての説明。 ★なお、15回のうち10回、授業の初めに漢字の小テストを実施。									
定期試験	実施する（筆記試験）									
⑧自主学習の課題	予習：宿題として提示した課題、および、日本語能力（保育漢字）の小テストの勉強（約30分の学習時間を要する）。 復習：テキストや配布資料を読み返し、理解を深めること（約30分の学習時間を要する）。									
⑨テキスト	なし									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	授業中に課された課題は、単位修得の必須条件であるため、必ず提出すること。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	語彙・文法・敬語などの知識	聞く力・話す力・文章表現力	読解力・理解力・思考力	児童文化財の基本的知識	児童文化財の子どもへの与え方	③配点比率			
	1 定期試験	○	○	○	○	○	70	%		
2 小テスト	○	○	○	○			5	%		
3 提出物	○	○	○	○			10	%		
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			5	%		
5 受講態度		○	○	○	○	○	5	%		
6 自主学習態度	○	○	○	○			5	%		
7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れている（文章表現について）					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法										
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育内容の指導法「環境」 Pedagogy of Early Childhood Education and Care; Environment					②科目コード	Y4-1B006			
③担当教員名	大井 美緒									
④実務経験	幼稚園教諭 (15年)					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	1年	⑦開講期	後期	⑧単位 (時間数)	1単位 (30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科目】保育内容・方法に関する科目 保育内容演習									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	領域「環境」の理解と指導方法									
②授業の概要	幼稚園教諭としての勤務経験を持つ教員が本講義を担当する。実務経験を活かして、具体的な事例を取り上げながら進めていく。 本授業は、乳幼児の発達にとって大切なしなければならない「環境」の領域について理解し学ぶ。園で必要とされる「環境」のあり方やその中で展開される遊びの方向性を理解し、子どもの育ちにどのように影響していくかえ、環境を構成していく意義や重要性をの理解を深めていく。									
③履修者の到達目標 (学習成果)	1. [関心・意欲・態度] 領域「環境」について理解し、乳幼児の発達に即した「環境」に関心を持ち、他領域と関連付けながら探求できる。 2. [思考・判断・表現] 子ども主体の生活を展開していくための「環境」について考察し、自分の意見を述べるができる。 3. [技能] 子どもを取り巻く遊びの環境について必要な情報を収集し、子ども達に豊かな経験をもたらすための環境の構成および指導法について検討できる。 4. [知識・理解] 身近な環境について理解をし「環境」の重要性について説明ができる。									
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	グループワーク	反転授業	プレゼンテーション	ディスカッション・ディベート	実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画 (授業の内容)										
第1回	領域「環境」のねらいと内容について									
第2回	子どもの発達と領域「環境」 幼児期にふさわしい環境と環境構成の実例									
第3回	領域「環境」の内容について1 物的環境の理解									
第4回	領域「環境」の内容について2 自然環境の意味									
第5回	領域「環境」の内容について3 人的環境の理解									
第6回	領域「環境」の内容について4 社会環境・文化的環境の理解									
第7回	子どもの生活・遊び・学びを豊かにする保育環境 (DVD 視聴)									
第8回	領域「環境」における保育者の指導1 他領域と10の姿との関連									
第9回	領域「環境」における保育者の指導2 意図的な環境									
第10回	身近な環境とは									
第11回	身近な素材や自然物を用いた指導計画1 指導計画を作成してみよう									
第12回	身近な素材や自然物を用いた指導計画2 グループ討議									
第13回	身近な素材や自然物を用いた指導計画3 模擬保育									
第14回	身近な素材や自然物を用いた指導計画4 振り返りと改善									
第15回	子どもの育ちにかかわる現代の生活環境とその課題									
定期試験	筆記試験 (持ち込みなし)									
⑧自主学習の課題	予習：各授業回に該当するテキストの箇所を事前に読んでおくこと。予習には約30分間の学習時間を要する。 復習：各授業において提示された課題に取り組む。復習には約30分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	若月 芳浩編著『保育・幼児教育シリーズ環境の指導法 (改訂第2版)』玉川大学出版社 2020年									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	製作物などの教材費については、自己負担とする。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・やむを得ず欠席した場合は、翌週の授業の前日までに担当教員の研究室まで授業資料等を取りに来て、予習・復習に自ら取り組むこと。 ・グループワークでは、グループ全員が意見を出し合い、他者の意見を尊重しながら主体的に取り組むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率				
②評価方法	1 定期試験	○	○	○	○	50	%			
	2 小テスト					0	%			
	3 提出物	○	○	○	○	20	%			
	4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	15	%			
	5 受講態度	○	○	○	○	5	%			
	6 自主学習態度	○	○	○	○	10	%			
	7 その他					0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	音楽基礎演習 I Basic Music Seminar I				②科目コード	Y4-1A008				
③担当教員名	町田 治									
④実務経験					⑤担当形態	単独 クラス分け				
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	楽譜について、原理、読み方、歌い方、鍵盤での弾き方、書き方について学ぶ。									
②授業の概要	楽譜の仕組みを知り、どのように読み歌うか、鍵盤楽器での弾き方につなげ、自ら楽譜を書く練習を行うことで楽譜に馴染み、保育での音楽の実践に必要な基礎力を身に付けていく。また保育現場で用いられる歌や音楽を教材にして、音楽を生きた音として感覚的・直感的に把握できる力を養っていく。									
③履修者の到達目標(学習成果)	[楽譜の理解] 保育に必要な楽譜を使うようになる。 [和音の理解] 長3和音について、その構造と性質を知る。 [コードネームの理解] 和音について英語ではどのような表記になっているかを知る。 [伴奏付け(伴奏作成)] 伴奏を付けるという作業を体験する。 [伴奏付け(演奏)] 自分で作った伴奏を弾いてみる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク		○					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業		○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○		
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	楽譜について：五線、音名(イタリア語、英語、日本語)									
第2回	楽譜について：五線譜、音部記号									
第3回	楽譜について：音符、休符									
第4回	楽譜について：付点音符、拍と拍子									
第5回	楽譜について：拍と小節、拍とリズム									
第6回	楽譜について：変化記号(嬰記号、変記号、本位記号)									
第7回	楽譜について：楽語(速度記号、表情記号)									
第8回	楽譜と鍵盤がどのように対応しているのか(結びついているか)									
第9回	全音と半音(鍵盤上で見分ける)									
第10回	長3和音を感覚的に知り、使ってみる。長3和音とコード・ネーム表記の仕方									
第11回	音程の教え方(度数の教え方を知る)									
第12回	長3度と短3度									
第13回	長3和音の仕組み、長3和音を作る									
第14回	長3和音を使って伴奏を作り、弾いてみる									
第15回	前期の復習とまとめ									
定期試験	実施する									
⑧自主学習の課題	予習・復習：この授業では、復習が予習となる。授業で実施した内容について完全に理解しておくことが次の授業の予習となる。内容が段階のように連続して進むからである。理解できていないところがないかを確認し、少しでも理解できないことがある場合は、次の授業で質問し、不明なことを残さぬようにすること。そのチェックのためには約20～30分は必要となる。									
⑨テキスト	小林美実編『こどもの歌200』『続こどもの歌200』(共にチャイルド本社) 中野由紀子『音楽表現 そのまま使える基礎と実践』(共同音楽出版社)2021年初版									
⑩参考書/参考資料/準備物等	テキスト等で指定した以外に出版されているこどもの歌の曲集、保育のための曲集。一般に「楽典」として出版されている理論書も参考になる。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	特に徴収しないが、五線ノートを購入すること。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	「幼児と表現(音楽) I」を補完する授業であり、幼稚園教諭免許取得、保育士資格取得を希望する学生は履修が当然のこととしてカリキュラムが組まれている。 この科目を履修する場合は、「音楽基礎演習 II」も履修登録すること。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		楽譜の理解	和音の理解	コードネームの理解	伴奏付け(伴奏作成)	伴奏付け(演奏)	③配点比率			
②評価方法										
1	定期試験	○	○	○	○		50	%		
2	小テスト						0	%		
3	提出物(授業に実施する課題)	○	○	○	○	○	35	%		
4	発表・実技・プレゼン						0	%		
5	受講態度				○	○	10	%		
6	自主学習態度				○	○	5	%		
7	その他						0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	授業の中で実施する「提出・発表・実技」のところで、確認、講評する。 定期試験は、「音楽基礎演習 II」の授業の中で行う									
IV その他										

I 科目に関する項目									
①科目名	音楽基礎演習Ⅱ Basic Music Seminar Ⅱ					②科目コード	Y4-1A009		
③担当教員名	町田 治								
④実務経験						⑤担当形態	単独 クラス分け		
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	基本的なコード・ネームを理解し、簡単な伴奏付けが出来るようになる。								
②授業の概要	「音楽基礎演習Ⅰ」で学んだ基礎を土台にして、保育現場で活かすことの出来る実践力を身に付ける。また、子どもの歌や保育で使われる音楽を扱う上で、感覚的・直感的な把握力と論理的な理解力がバランスよく生かせる力を養う。								
③履修者の到達目標(学習成果)	[楽譜の理解] 保育現場で使える楽譜を読み、書けるようになる。 [和音の理解] 長3和音をより理解し、短3和音、属7の和音、減7の和音について説明できる。 [コードネームの理解] 学んだ和音についての英語表記を説明できる。 [伴奏付け(伴奏作成)] コードネームに基づいて伴奏付けを体験する。 [伴奏付け(演奏)] 自分の作った伴奏を弾き、効果を確認する。								
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート						
	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク		○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画(授業の内容)									
第1回	長音階について(音階の特徴)								
第2回	主要3和音について(長音階上にできる長3和音、どうして主要3和音なのか)								
第3回	長調の特徴:ハ長調(主音について、調性感の習得、主要3和音のコードネームの確認)								
第4回	「聖者が街にやってくる」の伴奏付けとその演奏								
第5回	長調の特徴:ヘ長調(主音について、調性感の習得、主要3和音のコードネームの確認)								
第6回	「七夕さま」の伴奏付けとその演奏								
第7回	長調の特徴:ト長調(主音について、調性感の習得、主要3和音のコードネームの確認)								
第8回	「きらきら星」の伴奏付けとその演奏								
第9回	長調の特徴:変ロ長調(主音について、調性感の習得、主要3和音のコードネームの確認)								
第10回	「聖夜」の伴奏付けとその演奏								
第11回	長調の特徴:ニ長調(主音について、調性感の習得、主要3和音のコードネームの確認)								
第12回	「ゆびのうた」の伴奏付けとその演奏								
第13回	属7の和音について:長3和音の復習と7度音について								
第14回	減7の和音について:短3度の復習と減7の和音の特性について								
第15回	移調について、後期の復習								
定期試験	実施する								
⑧自主学習の課題	予習・復習:「音楽基礎演習Ⅰ」と同様、復習が予習となる。授業で実施した内容について完全に理解しておくことが次の授業の予習となる。内容が段階のように連続して進むからである。理解できていないところがないかをチェックし、少しでも理解できないことがある場合は、次の授業で質問し、不明なことを残さぬようにすること。そのチェックのためには約20~30分は必要となる。								
⑨テキスト	小林美実編『こどもの歌200』『続こどもの歌200』(共にチャイルド本社) 中野由紀子『音楽表現 そのまま使える基礎と実践』(共同音楽出版社)2021年初版								
⑩参考書/参考資料/準備物等	テキスト等で指定した以外に出版されているこどもの歌の曲集、保育のための曲集。一般に「楽典」として出版されている理論書も参考になる。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件/履修上の注意事項	「幼児と表現(音楽)Ⅰ」を補完する授業であり、幼稚園教諭免許取得、保育士資格取得を希望する学生は履修が当然のこととしてカリキュラムが組まれている。 この科目を履修する場合は、「音楽基礎演習Ⅰ」も履修登録すること。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
①学習項目		②評価方法						③配点比率	
		楽譜の理解	和音の理解	コードネームの理解	伴奏付け(伴奏作成)	伴奏付け(演奏)			
1	定期試験	○	○	○	○		50	%	
2	小テスト						0	%	
3	提出物(授業に実施する課題)	○	○	○	○	○	35	%	
4	発表・実技・プレゼン						0	%	
5	受講態度				○	○	10	%	
6	自主学習態度				○	○	5	%	
7	その他						0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	授業の中で実施する「提出・発表・実技」のところで、確認、講評する。 定期試験は、授業中に整理・筆記したノートで充分確認できる内容になっている。								
IV その他									

I 科目に関する項目										
①科目名	幼児と表現 (音楽) I Children and Expression; Music I					②科目コード	Y4-1A003			
③担当教員名	町田 治 浅賀 ひろみ 中野 由紀子 武内 理恵 長永 理恵 恵須川 理津子									
④実務経験	幼稚園教諭 (浅賀、中野)、保育士 (浅賀)					⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期	通年	⑧単位 (時間数)	2単位 (60)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】領域及び保育内容の指導法に関する科目領域に関する専門的事項：表現									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科目】保育内容・方法に関する科目 保育内容の理解と方法									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育に必要な音楽活動のための技術と表現力を付ける。									
②授業の概要	保育者として、また保育現場で必要なピアノ演奏技術、歌唱、弾き歌いに関する知識や技術を習得する。									
③履修者の到達目標 (学習成果)	1. [ピアノ演奏の技術] ピアノのレッスンを通じてピアノの弾き方の基本を学ぶ。 2. [ピアノ演奏の表現技術] ピアノ演奏の技術を学ぶ中で音楽的表現について意識することを学び、感性豊かな演奏技術を身につける。 3. [発声法と歌唱表現力] 声楽のレッスンを通じて発声法・歌唱表現力を身につける。 4. [弾き歌いの技術] ピアノを弾きながら歌う力を身に付ける。									
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援							
⑦授業の計画 (授業の内容)										
第1回	ピアノを演奏するに当たっての心得、練習の仕方、保育で必要な発声法と訓練方法。				第16回	ピアノ演奏法⑦指、手首、腕の脱力および柔軟性				
第2回	ピアノ演奏法①手首の使い方 (脱力、柔軟性、スタカート、敏捷性、交叉)				第17回	ピアノ演奏法⑧音のニュアンスについて (レガートとスタカートの対比)				
第3回	ピアノ演奏法②運指法 (指の独立、持続音、指ぐり、正しい運指・やっちはいけない運指、正しい運指を守る意味)				第18回	ピアノ演奏法⑨反復音の奏法 (スタカートによる奏法)				
第4回	ピアノ演奏法③音階練習、和音奏法、分散和音の練習				第19回	ピアノ演奏法⑩三和音とその転回 (運指とアルペジオの奏法)				
第5回	ピアノ演奏法④装飾音、トリル演奏、休符の扱い				第20回	ピアノ演奏法⑪重音のレガート				
第6回	ピアノ演奏法⑤音楽の表情1 (フレーズを意識して演奏する。守株のフレージング)				第21回	ピアノ演奏法⑫グリッサンド				
第7回	ピアノ演奏法⑥音楽の表情2 (調性、強弱、速さ、音のバランス)				第22回	ピアノ演奏法⑬アウフタクト、複合拍子				
第8回	発声法①腹式呼吸、共鳴、プレス、発音 (子音、母音)				第23回	ピアノ演奏法⑭ペダルの奏法 (ダンパーペダル)				
第9回	発声法②歯擦音、破裂音、摩擦音、鼻濁音、ハミング)				第24回	発声法③フェイストレーニング				
第10回	歌唱表現法 (どのように歌うとよいか)				第25回	発声法④レガート唱法、ハミング、音程練習				
第11回	弾き歌い①春の歌 (「チューリップ」「ちようちよう」「ぶんぶんぶん」)				第26回	弾き歌い⑤秋の歌 (「とんぼのめがね」「どんぐりころころ」「まつぼっくり」「たきび」)				
第12回	弾き歌い②園生活の歌 (「朝のうた」「おべんとう」「はをみがきまじょう」「さようならのうた」)				第27回	弾き歌い⑥冬の歌 (「ゆきのべんきやさん」「ゆき」「おしょうがつ」「北風小僧の寒太郎」「まめまき」)				
第13回	弾き歌い③梅雨時期の歌 (「かえるのうた」「あめふりくまのこ」)				第28回	弾き歌い⑦卒園・行事の歌 (「うれしいひなまつり」「思い出のアルバム」「さよならほくたちの幼稚園」)				
第14回	弾き歌隊④初夏～夏の歌 (「とけいのうた」「みずあそび」「七夕さま」「うみ」「ヤッホッホ夏休み」)				第29回	弾き歌い⑧種々の歌 (「とけいのうた」「パレード」「アイスクリームのうた」「きのこ」)				
第15回	前期の振り返り、夏期休業中の課題確認、休業中の課題設定				第30回	ピアノ伴奏法、弾き歌い表現法				
定期試験	実施する/毎時間の課題曲による実技総合評価と公開演奏による実技試験									
⑧自主学習の課題	予習と復習 授業で決められた課題曲の予習復習を充分に行う。毎回60分以上 (毎日30分が望ましい) の練習が必要となる。									
⑨テキスト	『バーナムピアノテクニック導入書』全音楽譜出版社、小林美実編『こどもの歌200』『続こどもの歌200』(共にチャイルド本社) 中野由紀子『音楽表現 そのまま使える基礎と実践』(共同音楽出版社) 2021年初版									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル									
⑪教材費	各自でそれぞれ異なった課題の楽譜を必要とする場合、入手する楽譜については個人が負担することになる。 『バーナムピアノテクニック導入書』が終了した場合は、『バーナムピアノテクニック 1』を購入することになる。									
⑫履修条件/履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	ピアノ演奏の技術	ピアノ演奏の表現技術	発声法と歌唱表現力	弾き歌いの技術	③配点比率				
1	定期試験	○	○	○	○	30	%			
2	毎回の課題曲の実技総合評価	○	○	○	○	60	%			
3	提出物					0	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○	○	○	○	10	%			
6	自主学習態度					0	%			
7	その他					0	%			
④ルーブリック評価	一部取り入れている					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	出された課題は次のレッスンで仕上がり状況が確認され、問題点、練習の必要がある事項についての指摘が成される。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育内容の指導法「表現（音楽）」I Pedagogy of Early Childhood Education and Care; Expression (Music) I					②科目コード	Y4-1B007			
③担当教員名	二木 秀幸									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	1年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免許・領域及び保育内容の指導法に関する科目】保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科目】保育内容・方法に関する科目 保育内容演習									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	あそびを通した表現（音楽）									
②授業の概要	子どもの発達を考えながら、保育に関わる音楽表現活動全般を取り上げる。あそびを通して「表現（音楽）することの楽しさ・喜び」を自ら感じ、体験する。そしてそれらを子どもに伝えられる保育者になるための理論と実践を演習する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 子どものうた…手あそび・歌あそび・歌い方・選び方・指導法を実施できる。 2. 音楽的表現を発展させ、更に広い表現（身体表現・演劇表現）ができる。 3. あそびの中から表現する方法を理解し、実施することができる。 4. 音楽表現活動及び指導でICTが活用できる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性			
		○		○	○					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート						
	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク						
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Googleクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	オリエンテーション 授業内容とポイントの解説・“あそび”“表現”を考える									
第2回	子どものうた（1）いろいろな歌をうたう・手あそび・歌あそび									
第3回	子どものうた（2）保育における歌を考える・子どもに歌を教えるには／まとめ									
第4回	器楽（1）楽器であそぶ									
第5回	器楽（2）保育における器楽を考える／まとめ									
第6回	様々な素材を使った音楽表現（1）“詩”を題材とした教材研究・作品づくり（ICTの活用法を含めた）の実践（グループワーク）									
第7回	様々な素材を使った音楽表現（2）“詩”を題材とした作品の発表／まとめ									
第8回	様々な素材を使った音楽表現（3）“絵本”を題材とした教材研究・作品づくり（ICTの活用法を含めた）の実践（グループワーク）									
第9回	様々な素材を使った音楽表現（4）“ミュージカル”を素材としてあそぶ									
第10回	様々な素材を使った音楽表現（5）“ミュージカル”を題材とした教材研究・作品づくり（ICTの活用法を含めた）の実践（グループワーク）									
第11回	様々な素材を使った音楽表現（6）“ミュージカル”を題材とした作品の発表／まとめ									
第12回	総合的な表現（1）劇あそび・音楽劇・オペレッタを考える									
第13回	総合的な表現（2）劇あそび・音楽劇・オペレッタの教材研究・作品づくり（ICTの活用法を含めた）の実践（グループワーク）									
第14回	総合的な表現（3）劇あそび・音楽劇・オペレッタ作品の発表／まとめ									
第15回	保育における表現の指導方法の振り返りとまとめ									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	・予習復習（練習等）あわせて1時間以上の自主学習をすること。 ・予習復習共に、授業の内容に関連付けながら、日常生活において様々な表現（演劇・ダンス・ミュージカル等々）にふれる機会を持つこと。									
⑦テキスト	6訂版『歌はともだち』教育芸術社									
⑨参考書／参考資料／準備物等	必要に応じてプリントを配布する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑩教材費	特になし									
⑪履修条件／履修上の注意事項	動きやすい服装・靴で履修のこと（必須）									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	子どものうたの表現・選び方・指導	音楽的表現の発展	あそびの中から表現する力	ICTの活用			③配点比率			
②評価方法										
1 定期試験							0	%		
2 小テスト							0	%		
3 提出物	○	○	○	○			20	%		
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			20	%		
5 受講態度		○	○	○			60	%		
6 自主学習態度			○	○			0	%		
7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	次回の授業の際にコメントする。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育内容の指導法「表現（造形）」 Pedagogy of Early Childhood Education and Care; Expression (Art)					②科目コード	Y4-1B005			
③担当教員名	藤原 明子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 1年	⑦開講期		⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科目】保育内容・方法に関する科目 保育内容演習									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児の造形表現の基礎を学び実践する。造形表現の指導法について理解する。									
②授業の概要	造形遊びや、様々な材料を用いた製作など、幼児に適した造形表現を実際に行い、幼児を対象に造形表現を行うときの配慮事項を学ぶ。領域「表現」、子どもの描画や手の巧緻性の発達について講義を通して学ぶ。児童館などでの工作指導者として経験や、保育所・放課後児童クラブにおけるゼミで工作キャラバンの経験のある教員と、保育における指導法と配慮について考える。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 基本的な表現技法を習得し、実践できる。 2. 幼児を対象として「つくる」「描く」活動を行う際の、保育者としての配慮（安全・環境等）ができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	グループワーク	反転授業	プレゼンテーション	ディスカッション・ディベート	実習・フィールドワーク				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	領域「表現」のねらい及び内容・乳幼児の生活全体と関連した表現する姿を理解する									
第2回	うずまき風（製作と遊び）回転する動きを楽しむ。体の動きを引き出す遊びを経験する（デジタルカメラの活用）									
第3回	ビニール袋でパラシュート作り（製作と遊び）・重さと落下、空気抵抗のバランスを考えながら、留意点を考える（デジタルカメラの活用を含む）									
第4回	子どもの絵の発達、手の巧緻性の発達と保育を行う上での留意点（p.21）									
第5回	絵の具を用いた技法遊び ①ころがし絵、糸引き絵、デカルコマニー（p.84）（デジタルカメラの活用を含む） 第6回絵の具を用いた技法遊び ②点描、スタピング（P42,134,135）（デジタルカメラの活用）									
第6回	クレヨンを用いた表現「スクラッチ」「フロッタージュ」・自然物（木の葉）を用いた造形（p.42）（デジタルカメラの活用を含む）									
第7回	画用紙による立体表現（ポップアップ）とパスデーカード作り ①立案									
第8回	パスデーカード作り ②製作（デジタルカメラの活用を含む）									
第9回	フィンガーペインティングと絵具による様々な表現（VTR活用および製作）・配布資料									
第10回	協働学習：フィンガーペインティング・モノプリントによる壁面装飾（前回、及びこれまでの技法遊びの製作物を用いて）									
第11回	にじみを楽しむ・染め紙製作・からくりカードづくり①（構想と形作り）・デジタルカメラの活用									
第12回	染め紙を用いたうちわ作り（作ったものを生活の中で使う）・海外の幼児教育（レジオエミリア市）とプロジェクト型学習から造形表現を考える（VTR）・生活の中での感動体験や表現を、デジタルカメラ等を用いて映像と言葉で記録し、伝え合う方法を学ぶ（ドキュメンテーションとその活用）									
第13回	造形表現の指導方法（導入から片付け・展示まで）・からくりカードづくり②（デザイン・完成）									
第14回	0-2歳児の表現 小麦粉粘土作りと、様々な粘土についての学習（VTRを含む）（p.100）									
定期試験	定期試験試験しない（提出物評価）									
⑧自主学習の課題	終わらなかった製作は各自で完成させて、スケッチブックに貼って提出する。板書やプリントもスケッチブックに整理する。 予習約20分 シラバス記載のテキストページを読む・復習約40分 時間内に終わらなかった作品を仕上げる。									
⑨テキスト	北沢昌代 畠山智宏 中村光絵『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現』開成出版 2019									
⑩参考書/参考資料/準備物等	平田智久・小野和編『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社 2020 辻泰秀『幼児造形の研究 保育内容「造形表現」』萌文書林 2014 樋口一成『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』萌文書林 2018 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	教材費 1,500円									
⑫履修条件/履修上の注意事項	B4スケッチブック（他の教科と兼ねない）を用意する（購入方法に関して初回授業時に説明する）。 スケッチブック、はさみ、のりは毎回持参する。 絵具・筆・クレヨンを各自用意し、指定された回に持参する。（初回授業時に説明する） 汚れても良い服装で参加すること。 ※小麦粉アレルギーの方は、第15回の授業内容を、小麦粉以外の材料で行う。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	表現技術の習得	活動の際の配慮					③配点比率		
1	定期試験							0	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物	○	○					90	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度		○					10	%	
6	自主学習態度							0	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	④ルーブリック評価取り入れている						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・スケッチブック・作品当提出物は採点后、返却する。 ・成績評価に対しては問い合わせがあった場合に必ず。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	幼児と健康 I Infants and Health I					②科目コード	Y4-1A001			
③担当教員名	打越 みゆき									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	1年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程	【幼二種免許・領域及び保育内容の指導法に関する科目】領域及び保育内容の指導法に関する科目領域に関する専門的事項：健康									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科科目】保育の内容・方法に関する科目 保育内容の理解と方法									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	乳幼児期における多様な動きを促す運動の理論と実践									
②授業の概要	乳幼児期の運動発達の特徴をふまえ、様々な運動遊びの楽しさを体験しながら、健康な体づくりの意義を理解する。また指導と援助の方法を学び、安全に配慮しながら、楽しい運動遊びが指導できるための基礎的な理論を学ぶ。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 保育現場で行いたい運動あそび・表現あそびを実践することができる。 2. 1で体験した種目について、指導と援助の方法を正確に記録することができる。 3. 指定された種目を正確に実施することができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク							
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	乳幼児期の運動発達の特徴(理論)(授業の進め方、Google classroomの活用法、評価方法についても説明する)									
第2回	遊具を使わないあそび①：鬼ごっこ 体の部位を覚える遊び等 グループワーク									
第3回	遊具を使わないあそび②：じゃんけんを使った運動あそび									
第4回	体の動きを知る体操①：ラジオ体操									
第5回	体の動きを知る体操②：実技小テスト ラジオ体操									
第6回	小型遊具を使ったあそび①：棒あそび グループワーク									
第7回	小型遊具を使ったあそび②：フラフープあそび グループワーク									
第8回	小型遊具を使ったあそび③：ボールあそび グループワーク									
第9回	小型遊具を使ったあそび④：なわとびあそび グループワーク									
第10回	身近なものを使ったあそび①：ゴムあそび/実技小テスト ゴムとび グループワーク									
第11回	身近なものを使ったあそび②：新聞紙あそび グループワーク									
第12回	遊具を使わないあそび③：伝承遊び グループワーク									
第13回	遊具を使わないあそび④：創作組体操 グループワーク									
第14回	総合的な運動あそび：忍者ごっこ									
第15回	乳幼児期に経験したい運動遊びに含まれる運動要素について									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：シラバスの予定の種目について、教科書を読む。時間は毎回20分程度を要する。 復習：毎時間の授業について、やり方(図も含む)、指導ポイント、授業の感想をノートにまとめてくること。時間は毎回40分程度を要する。									
⑨テキスト	岩崎洋子・編著、吉田伊津美、朴淳香、鈴木康弘・著『保育と幼児期の運動あそび』萌文書林2018年									
⑩参考書/参考資料/準備物等	提出用ノート代(B5ノート各自購入 ※ルーズリーフ不可) 文部科学省『幼稚園教育要領』フレイベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレイベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレイベル館									
⑪教材費										
⑫履修条件/履修上の注意事項	履修上の注意事項：保育者としてふさわしい服装、言動を求める。Tシャツ、ジャージ、体育館シューズ、運動靴が必要。 その他：天候により、多少内容の変更がありうる。 授業を欠席した場合には、Google classroomを確認するとともに翌週の授業時に授業資料を受け取ること。 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画および課題をGoogle classroomより配信する予定である。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	運動あそび・表現あそびの実践	運動あそびの記録	運動あそびの正確な実施							③配点比率
②評価方法										
1 定期試験										0 %
2 小テスト										0 %
3 提出物										0 %
4 発表・実技・プレゼン			○							40 %
5 受講態度	○									20 %
6 自主学習態度										0 %
7 その他(授業ノート)		○								40 %
④ルーブリック評価	一部、取り入れている						比率合計	100 %		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題提出はGoogle classroomから行き、Google classroomより評価の返却またはコメントする。 ワークシートやノートについては、現物にコメントする場合がある。									
IV その他										
Google クラスルーム使用。										

I 科目に関する項目										
①科目名	教育情報学 Educational Informatics					②科目コード	Y3-1A004			
③担当教員名	中島 千恵子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	1年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(15)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程	【幼二種免・教育の基礎的理解に関する科目等】道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導・教育相談等に関する科目・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第2による教科目】保育の内容・方法に関する科目・各指定保育養成施設において設定									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	ICT(情報通信技術)の教育への活用									
②授業の概要	本授業では、インストラクショナルデザインを通して、教材開発の手法を学ぶ。また、高度情報化社会における多様な教育環境に対応するべく、様々なICT(情報通信技術)の特質を理解し、それらを活用する技法を習得し、実践的な力量を形成することを目的とする。各授業では、デジタル教材を活用する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 情報技術を活用した教材の開発手法を説明できる。 2. ICT(情報通信技術)の特質を理解し、教育現場でどのように活用すれば良いかを説明できる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート		○			
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業			Google Classroom等による 学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	インストラクショナルデザイン(教材開発の手法)									
第2回	インストラクショナルデザイン(教材企画の立案) グループディスカッション									
第3回	教育へのICTの活用(概論)									
第4回	教育へのICTの活用(保育現場におけるICT機器の活用)									
第5回	教育へのICTの活用(ICT機器を活用した教材開発) プレゼンテーション									
第6回	教育へのICTの活用(WWWによる情報発信)									
第7回	教育へのICTの活用(メディアを活用したモラル教育)									
第8回	教育へのICTの活用(動向と課題)									
定期試験	実施しない(評価は、授業時の小テスト、課題レポート、プレゼンテーション等で行う)									
⑧自主学習の課題	予習: 約90分間の学習時間を要する。 復習: 約90分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、その他の参考書は授業内で随時紹介する。 USBメモリは、各自で準備すること。									
⑪教材費	特になし。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	教材の開発手法	教育へのICT活用					③配点比率		
1	定期試験							0	%	
2	小テスト	○	○					60	%	
3	提出物	○	○					10	%	
4	発表・実技・プレゼン	○	○					10	%	
5	受講態度	○	○					20	%	
6	自主学習態度							0	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れている					比率合計	100		%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目									
①科目名	幼稚園教育実習（事前事後の指導を含む） Kindergarten Teacher Training					②科目コード	Y5-1C001		
③担当教員名	中島 千恵子 井出 麻里子 大井 美緒								
④実務経験	幼稚園教諭（大井 15年）					⑤担当形態	複数		
⑥開講対象	幼児保育学科 1年・2年	⑦開講期	1年 前期 後期 2年 前期	⑧単位 (時間数)	5単位 (実習 160時間 指導30 時間)	⑨授業 形態	実習	⑩必選 別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種 免許	必修	特二種 免許	必修	保育士 資格	発達障がい児 保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免・教育の基礎的理解に関する科目等】教育実践に関する科目 教育実習								
⑬保育士養成課程									
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	幼稚園教育実習 事前・事後指導（事前実習を含む）								
②授業の概要	本授業では、幼稚園教諭として実務経験を持つ教員が、保育現場における具体的な事例を示す。幼稚園教育実習を通して、幼稚園教諭に要する資質を育成することを目的とする。前期の事前指導では、星美学園幼稚園での事前実習や視聴覚教材を使った保育記録演習を行った上で実習課題を設定し、有意義な実習を行うための準備を行う。事後指導では、実習を振り返って自己評価を行い、グループ討議や個人面談指導等を通して、実習課題の達成と成果・課題について省察する。後期の事前指導では、前期の振り返りから実習課題を設定したり、責任実習に向けて指導案を作成し模擬保育を行う。事後指導では、実習全体を振り返り課題を自覚すると共に、課題解決のためにどうすべきかを考え、今後の学校生活および実習等に繋げていく。								
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心・意欲・態度：実習の意義・目的・内容を理解し、意欲を持って教育実習に取り組むことができる。 2. 思考・判断・表現：実習で学んだことを保育記録にまとめたり、事前に指導計画を作成することができる。 3. 技能：対象年齢に適した保育教材を選択したり作成したり、工夫しながら実践することが出来る。 ・実習を通して、子ども達との関わり方や保育者としてのあり方について検討できる。 4. 知識・理解：実習での学びを通して、保育・幼児教育についての基礎知識を理解し、自分の意見を述べたりレポートにまとめることが出来る。 								
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○				
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク	○				
⑦授業の計画（授業の内容）	パソコン・タブレット端末による 双方向授業		○	ゲーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）	第1回 幼稚園教育実習【前期】ガイダンス（準備と心構え）		第16回 幼稚園教育実習【後期】ガイダンス（準備と心構え）						
	第2回 書類の作成／実習園への挨拶と訪問のマナー		第17回 実習課題の設定／日々のねらいの立て方／教材研究						
	第3回 園舎見学ガイダンス（反転授業）		第18回 模擬保育（製作・グループディスカッション）						
	第4回 園舎見学【事前実習①】		第19回 日誌（エピソード記録）／実習前の注意事項（お礼状など）						
	第5回 保育記録演習：時系列の記録の書き方【事前実習②】		第20回 幼稚園教育実習【後期】2週間						
	第6回 参加実習ガイダンス（反転授業）		第21回 実習後の自己評価／グループ討議／実習報告集作成						
	第7回 参加実習【事前実習③】		第22回 実習日誌提出／個人面談指導						
	第8回 実習巡回書類／オリエンテーションの指導		第23回 幼稚園教育実習の総括／【後期】振り返り						
	第9回 実習課題・日々のねらいの設定								
	第10回 模擬保育【事前実習④】								
	第11回 実習日誌（提出の流れ／評価基準）								
	第12回 実習前の注意事項（お礼状など）								
	第13回 幼稚園教育実習【前期】2週間								
	第14回 実習後の自己評価／グループ討議								
	第15回 実習日誌提出／個人面談指導／【前期】振り返り								
定期試験	実施しない								
⑧自主学習の課題	予習：約30分間の学習時間を要する。 復習：約30分間の学習時間を要する。								
⑨テキスト	大豆生田啓友他『学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規2020年『実習ハンドブック』（本学発行）								
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	実習のために個人で使用する物品・検査費用・交通費については、自己負担とする。								
⑫履修条件／履修上の注意事項	幼稚園教育実習を行うためには、本授業に関連した条件が求められる。詳しくは、学生要覧「1幼稚園教諭二種免許状の取得（2019年度以降入学生）」を参照のこと。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
①学習項目		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率			
②評価方法	1 幼稚園からの実習評価	○	○	○	○	50	%		
	2 教育実習日誌	○	○	○	○	20	%		
	3 事前実習に関する提出物・受講態度など	○	○	○	○	30	%		
						0	%		
						0	%		
						0	%		
						0	%		
④ルーブリック評価	取り入れている。					比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。								
IV その他									

I 科目に関する項目										
①科目名	幼児保育キャリア演習 I Career Exercise of Child Care and Education I					②科目コード	Y1-1A001			
③担当教員名	町田 治 中島 千恵子 井出 麻里子 打越 みゆき 大井 美緒 藤原 明子 竹森 亜美 坂本 真季									
④実務経験						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	幼児保育学科	1年	⑦開講期	通年	⑧単位 (時間数)	2単位 (60)	⑨授業 形態	演習	⑩必選 別	卒業必修
⑪関連免許資格等	幼二種 免許	必修	特二種 免許	必修	保育士 資格	必修	発達障がい児 保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	仲間作りと、保育者となる導入教育									
②授業の概要	<p>1. 各種ガイダンス</p> <p>1) 図書館ガイダンス</p> <p>2) ハラスメントについて</p> <p>3) 専攻科進学ガイダンス</p> <p>4) その他のガイダンス (学生生活等について)</p> <p>5) 授業科目アンケートの説明</p> <p>2. キャリアセンター企画講座</p> <p>1) 自己分析 (性格検査) ●未来を描く ●目標を持つ ●自分発見</p> <p>2) 年金講座、園長講話、マナー講座、交流分析</p> <p>3. 保育用語・保育漢字テスト (毎回の授業で、小テストを実施)</p> <p>4. 「テアトロ・SEIBI」準備 (プロジェクト学習)</p> <p>1) ドン・ボスコの演劇教育の考え方</p> <p>2) なぜ本学の幼児保育学科で、舞台作品を行うのか。</p> <p>3) 公演ではどのような役割があるのか。</p> <p>4) テーマ、題材の選択等、脚本作りに必要となる案やアイデアを出す。</p> <p>5) 実行委員と1年後期中に必要となる演出部員の決定。(二木秀幸:「テアトロ SEIBI」指導)</p> <p>5. 現場体験活動の体験</p>									
③履修者の到達目標 (学習成果)	<p>1. [保育者として必要な漢字] 保育者として知っておくべき言葉の漢字表記を覚え、正しく書くことができる。(★漢字テストの実施)</p> <p>2. [テアトロ・SEIBI]「テアトロ SEIBI」の準備を進める中で、舞台発表の基礎を学び、企画力、協調性を身につける。</p> <p>3. [基礎的な文章力] 社会人として必要な基礎学力 (基礎的な文章力) を身につける。</p> <p>4. [現場体験活動] 現場体験活動の大切さを知り体験する。</p>									
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	○	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション	○	⑤協働性	○
⑤アクティブ・ラーニング 実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による 授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援				○	

⑦授業の計画（授業の内容）							
第1回	幼児保育キャリア演習Ⅰ（シラバス）の説明	第16回	学外研修 ①仲間作り ②学外でのマナー				
第2回	「星美の学生として学ぶ意義」履修、学生生活、実習等について	第17回	交流分析（エコグラム）の実施とフィードバック				
第3回	遠隔授業のための準備	第18回	園長講演会				
第4回	学生としてのコミュニケーション（社会とつながる）★漢字テスト①	第19回	専攻科進学ガイダンス				
第5回	図書館ガイダンス ★漢字テスト②	第20回	「テアトロ・SEIBI」①リハーサル見学				
第6回	障がい学生支援について ★漢字テスト③	第21回	「テアトロ・SEIBI」②「テアトロ SEIBI」の歴史 ③ドン・ボスコとテアトロ保育者が舞台作品を作る意味（二木秀幸：担当）				
第7回	ビジネスマナー講座	第22回	「テアトロ・SEIBI」④講座「舞台での演技のいろいろ」（二木秀幸：担当）				
第8回	新興宗教の勧誘への対応と注意喚起について★漢字テスト④	第23回	「テアトロ・SEIBI」⑤舞台作品のジャンルのいろいろ（二木秀幸：担当）				
第9回	期末試験ガイダンス 授業科目アンケートガイダンス★漢字テスト⑤	第24回	「テアトロ・SEIBI」⑥舞台表現の方法⑦バックステージツアー（二木秀幸：担当）				
第10回	学習相談の活用 ★漢字テスト⑥	第25回	「テアトロ・SEIBI」⑧企画発表・実行委員決定 冬季課題の説明（二木秀幸：担当）				
第11回	学生相談室の活用ハラスメントとハラスメントに関する相談 ★漢字テスト⑦	第26回	「テアトロ・SEIBI」⑨冬季課題の読み合わせと発表脚本について 脚本係決定（二木秀幸：担当）				
第12回	自己発見検査の実施 ★漢字テスト⑧	第27回	年金講座 年金制度について学ぶ				
第13回	自己発見検査の結果とその見方★漢字テスト⑨	第28回	全学年交流会（就職活動体験談）				
第14回	現場体験活動について	第29回	現場体験活動の振り返り 学生部講演会 学長講話				
第15回	前期の学生生活を振り返るレポート 学長講話	第30回	1年間の学生生活の振り返り（ポートフォリオ） キャンパスライフアンケート ⑩テアトロ・SEIBI のまとめ（二木秀幸：担当）				
定期試験 実施しない							
⑧自主学習の課題	総合力、人格力、人間性が問われる科目であり、日ごろのすべての学習と日常生活の質をできるだけ高めておくことが予習となる。また授業の後で振り返った内容を日々実践し、さらに振り返ることを繰り返していくことが予習となる。 各授業に対しての予習、復習は30分～1時間程度である。						
⑨テキスト	久富陽子『保育の学びスタートブック〈第2版〉』萌文書林（入学前課題で使用）2023年 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館						
⑩参考書／参考資料／準備物等	星美学園短期大学 学生要覧・講義要項 その他授業時に随時紹介する						
⑪教材費							
⑫履修条件／履修上の注意事項	授業を欠席した場合には、Google classroomを確認するとともに翌週の授業時に授業資料を受け取ること。 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画および課題をGoogle classroomより配信する予定である。						
Ⅲ学習項目と評価方法・配点比率							
②評価方法	①学習項目	保育者として必要な漢字	テアトロ・SEIBI	基礎的な文章力	現場体験活動	③配点比率	
1	定期試験					0	%
2	小テスト	○				10	%
3	提出物	○	○	○	○	50	%
4	発表・実技・プレゼン					0	%
5	受講態度	○	○	○		40	%
6	自主学習態度					0	%
7	その他					0	%
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	Google classroomよりリアクションペーパーの返却。漢字テストの返却。						
Ⅳその他							

I 科目に関する項目									
①科目名	人間学 I Anthropology I					②科目コード	Y1-2B002		
③担当教員名	武内 裕輝								
④実務経験	小学校 宗教科主任 宗教部長 (6年)					⑤担当形態			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	前期	⑧単位 (時間数)	1単位 (30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	卒業必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程	【教養科目】(告示による教科目) 外国語・体育以外の科目								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	キリスト教、特に、聖書とカトリック教会の教えによる人間観を軸に、自分自身・他者・世界・神との関わりに関わられた人生について学ぶ。現代世界における人間を取り巻く具体的な課題について多角的に学びながら、自らの生き方を見つめ、現代世界において主体的に生きることについて、教員と他の受講者と共に探求する。								
②授業の概要	小学校で宗教科の指導にあたってきた教員が担当する。カトリック学校で共に学ぶ機会を得た者として、聖書を読み、カトリック教会の教えに照らし、キリスト教の価値観を学ぶことを通して、人間への理解を深め、人生の意味について考え、自らの生き方に活かしていくことを目標とする。幼児教育を志す本学の学生たちの瑞々しい感性を生かし、私たち一人ひとりにいのちを与え、育み、日々、生き活きと生きるように望んでおられる神のみことばから活力を得て、私たち一人ひとりが、神から与えられたいのちを大切に、日々、主体的に生きようと努めることを目指す。度々、聖書のメッセージと関連する現代世界の諸問題を取り上げる中で、アクティブ・ラーニングを積極的に実施する。講義に加えて、自己理解ワーク・ペアワーク・グループワークなどを適宜行いながら、自らの考察を深めて表現し、他者の考えにも耳を傾け、教員と他の受講者と共に人間理解を深め、人生の意味を深める。								
③履修者の到達目標 (学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1 [知識・理解] 聖書とカトリック教会の教えからキリスト教の価値観を学び、人間への理解を深めることができる。 2 [関心・意欲・態度] キリスト教の価値観から学び、人生の意味を問い、考察を深めることができる。 3 [思考・判断・表現] 現代世界の諸問題について、キリスト教の価値観に基づいて考察を深め、見解を述べるることができる。 4 [技能] 教員や他の受講者によって気づかされ学んだことを、豊かさとして受け止め、お互いに分ち合うことができる。 								
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	○	○	○	グループワーク	○	グループワーク・フィールドワーク		
⑦授業の計画 (授業の内容)									
第1回	聖書とは何か？人間学とは何か？聖書を読み、人間について学ぶことの意義。								
第2回	聖書が語る神の人間へのメッセージ								
第3回	救いを待ち望む人間：イエスの時代における人間の状況								
第4回	救いを待ち望む人間：現代世界における人間の状況								
第5回	救い主の到来と人間：主の降誕と聖母マリア								
第6回	イエスの幼年時代とナザレでの生活								
第7回	イエスの活動の始まり								
第8回	イエスの言葉：山上の説教								
第9回	イエスの言葉：たとえ話								
第10回	イエスの祈り：主の祈り								
第11回	イエスの業：癒し								
第12回	イエスの業：赦し								
第13回	イエスの弟子たち								
第14回	前期のまとめ								
第15回	期末課題のグループ発表								
定期試験	なし								
⑧自主学習の課題	<p>予習：福音書を通読していくことが勧められる。1週間あたり2章のペースで読み進め、特に、心に残った箇所を簡単にメモしておくだけでも、貴重な学びの機会となる。プロジェクト学習やプレゼンテーション (1人15分程度×3回/全15回) などの準備を含め、約60分の学習時間を要する。</p> <p>復習：授業で扱った聖書箇所と配布資料を読み返しておくことが勧められる。各回のテーマについて、授業内容と自分なりの考察を簡単にまとめておくことは、毎回の提出課題や期末レポートの対策ともなる。リアクションペーパー (A4・1枚以内×全15回) の作成を含め、約60分の学習時間を要する。</p>								
⑨テキスト	『聖書』(フランシスコ会聖書研究所)、『カトリック教会のカテキズム』(カトリック中央協議会)								
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	授業時に使用する教材や資料は、初回授業および各回毎に配布する。また、適宜、参考文献や映像資料等を紹介する。								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	在宅での学習が必要となる場合は Google Meet を使用する。毎回の予習・復習課題は Google classroom を使用する。万が一、遅刻・欠席する場合は、講義内容と課題を Google classroom で確認し、全体の進捗から大幅に遅れが生じないように努めること。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
①学習項目	知識・理解	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	③配点比率				
②評価方法									
1 定期試験						0	%		
2 小テスト						0	%		
3 提出物	○	○	○	○		20	%		
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○		20	%		
5 受講態度	○	○	○	○		20	%		
6 自主学習態度	○	○	○	○		20	%		
7 その他 (レポート)	○	○	○	○		20	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物とレポートは採点と講評の後に返却する。評価方法に記載されている全ての項目について個別の問い合わせに応じる。								
IV その他									
<p>本科目は卒業のための必修科目である。</p> <p>欠席・遅刻・早退・課題未提出などにより、単位が認定できなくなる事態を招かないように注意すること。</p> <p>不測の事態が生じた場合は、自分だけで解決しようとはせず、至急、教職員に相談すること。</p> <p>履修者の興味や関心を踏まえて、講義内容や使用する資料の一部を変更する場合もある。</p>									

I 科目に関する項目									
①科目名	人間学Ⅱ Anthropology Ⅱ					②科目コード	Y1-2B003		
③担当教員名	武内 裕輝								
④実務経験	小学校 宗教科主任 宗教部長 (6年)					⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	後期	⑧単位 (時間数)	1単位 (30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	卒業必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程	【教養科目】(告示による教科目) 外国語・体育以外の科目								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	キリスト教、特に、聖書とカトリック教会の教えによる人間観を軸に、自分自身・他者・世界・神との関わりに関わられた人生について学ぶ。現代世界における人間を取り巻く具体的な課題について多角的に学びながら、自らの生き方を見つめ、現代世界において主体的に生きることについて、教員と他の受講者と共に探求する。								
②授業の概要	小学校で宗教科の指導にあたってきた教員が担当する。カトリック学校で共に学ぶ機会を得た者として、聖書を読み、カトリック教会の教えに照らし、キリスト教の価値観を学ぶことを通して、人間への理解を深め、人生の意味について考え、自らの生き方に活かしていくことを目標とする。幼児教育を志す本学の学生たちの瑞々しい感性を生かし、私たち一人ひとりにいのちを与え、育み、日々、活き活きと生きるように望んでおられる神のみことばから活力を得て、私たち一人ひとりが、神から与えられたいのちを大切に、日々、主体的に生きようと努めることを目指す。度々、聖書のメッセージと関連する現代世界の諸問題を取り上げる中で、アクティヴ・ラーニングを積極的に実施する。講義に加えて、自己理解ワーク・ペアワーク・グループワークなどを適宜行いながら、自らの考察を深めて表現し、他者の考えにも耳を傾け、教員と他の受講者と共に人間理解を深め、人生の意味を探求する。								
③履修者の到達目標 (学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1 [知識・理解] 聖書とカトリック教会の教えからキリスト教の価値観を学び、人間への理解を深めることができる。 2 [関心・意欲・態度] キリスト教の価値観から学び、人生の意味を問い、考察を深めることができる。 3 [思考・判断・表現] 現代世界の諸問題について、キリスト教の価値観に基づいて考察を深め、見解を述べるることができる。 4 [技能] 教員や他の受講者によって気づかされ学んだことを、豊かさとして受け止め、お互いに分ち合うことができる。 								
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティヴ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	○	○	○	実習・フィールドワーク	○	ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援		
⑦授業の計画 (授業の内容)									
第1回	聖書の中の女性たち：旧約聖書編								
第2回	聖書の中の女性たち：新約聖書編								
第3回	聖書の中の食事の物語								
第4回	イエスと弟子たちの共同体								
第5回	主の晩餐と主の洗足								
第6回	天の国の共同体								
第7回	論争とイエス								
第8回	終末とイエス								
第9回	イエスの受難：逮捕、裁判								
第10回	イエスの受難：十字架の意味、人生における苦しみの意味								
第11回	イエスの復活：空の墓、弟子たちへの出現、復活の主と共に歩む弟子たち								
第12回	聖霊降臨：いのちの与え主である聖霊								
第13回	最初の弟子たちの交わりと共同体								
第14回	後期のまとめ								
第15回	期末課題のグループ発表								
定期試験	なし								
⑧自主学習の課題	<p>予習：福音書を通読していくことが勧められる。1週間あたり2章のペースで読み進め、特に、心に残った箇所を簡単にメモしておくだけでも、貴重な学びの機会となる。プロジェクト学習やプレゼンテーション (1人15分程度×3回/全15回) などの準備を含め、約60分の学習時間を要する。</p> <p>復習：授業で扱った聖書箇所と配布資料を読み返しておくことが勧められる。各回のテーマについて、授業内容と自分なりの考察を簡単にまとめておくことは、毎回の提出課題や期末レポートの対策ともなる。リアクションペーパー (A4・1枚以内×全15回) の作成を含め、約60分の学習時間を要する。</p>								
⑨テキスト	『聖書』(フランシスコ会聖書研究所)、『カトリック教会のカテキズム』(カトリック中央協議会)								
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	授業時に使用する教材や資料は、初回授業および各回毎に配布する。また、適宜、参考文献や映像資料等を紹介する。								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	在宅での学習が必要となる場合は Google Meet を使用する。毎回の予習・復習課題は Google classroom を使用する。万が一、遅刻・欠席する場合は、講義内容と課題を Google classroom で確認し、全体の進度から大幅に遅れが生じないように努めること。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	知識・理解	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能			③配点比率	
1	定期試験							0	%
2	小テスト							0	%
3	提出物	○	○	○	○			20	%
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			20	%
5	受講態度	○	○	○	○			20	%
6	自主学習態度	○	○	○	○			20	%
7	その他 (レポート)	○	○	○	○			20	%
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法									
IV その他									
<p>本科目は卒業のための必修科目である。</p> <p>欠席・遅刻・早退・課題未提出などにより、単位が認定できなくなる事態を招かないように注意すること。</p> <p>不測の事態が生じた場合は、自分だけで解決しようとはせず、至急、教職員に相談すること。</p> <p>履修者の興味や関心を踏まえて、講義内容や使用する資料の一部を変更する場合もある。</p>									

I 科目に関する項目										
①科目名	日本国憲法 The Constitution of Japan					②科目コード	Y1-2A004			
③担当教員名	秋山 武吉									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	2単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程	教職員免許法施行規則第66条の6に定める科目									
⑬保育士養成課程	【教養科目】(告示による教科目) 外国語・体育以外の科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	日本国憲法の概説									
②授業の概要	憲法は国家権力を制限し人権を保障するものであることを理解する。立憲主義、人権侵害、安全保障、憲法改正等を講義する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	憲法の立憲主義、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重、権力分立について理解し、説明できる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	○	②専門知識・技能	○	③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	立憲主義の意味(立憲的意味の憲法)									
第2回	日本国憲法史(新憲法の動き)									
第3回	国民主権(主権 国民 主権者としての国民 天皇制)									
第4回	平和主義(平和主義の原理 第9条)									
第5回	基本的人権の尊重(人権の一般原則)									
第6回	包括的基本権 幸福追求権(第13条から導きだされる権利・法益 自己決定権)									
第7回	法の下での平等(具体的事例の検討 性別 社会的身分による違憲問題)									
第8回	精神的自由権 経済的自由権(具体的事例の検討)									
第9回	人身の自由(具体的事例の検討)									
第10回	選挙制度(近代選挙制度の原則)									
第11回	社会権(具体的事例の検討 第25条)									
第12回	統治機構 国会 内閣(国会と内閣の関係)									
第13回	裁判所(裁判制度の説明を含む)									
第14回	憲法改正(具体的問題を検討 第9条)									
第15回	まとめ(憲法の諸問題・保育をめぐる法律問題)									
定期試験	実施する 筆記試験(資料、条文の参照可)									
⑧自主学習の課題	予習:講義に際して指定したページを熟読して下さい。約90分。 復習:講義の際に指摘した箇所の趣旨、意味内容を理解して下さい。約90分。									
⑨テキスト	高乗正臣著、『保育者のための法学・憲法入門』2020年1月15日発行、成文堂									
⑩参考書/参考資料/準備物等	芦部信喜『憲法』岩波書店									
⑪教材費										
⑫履修条件/履修上の注意事項	教科書・配布した資料は忘れないように用意して下さい。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	立憲主義	国民主義	平和主義	基本的人権の尊重	権力分立	③配点比率			
1	定期試験	○	○	○	○	○	70	%		
2	小テスト						0	%		
3	提出物	○	○	○	○	○	20	%		
4	発表・実技・プレゼン						0	%		
5	受講態度	○	○	○	○	○	10	%		
6	自主学習態度						0	%		
7	その他						0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	定期試験、最終成績評価についての問い合わせには対応します。									
IV その他										
自宅学習のレポート課題は提出期限を守って下さい。尚、実習・ワクチン接種の為体調不良等の場合は考慮します。										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育者論 Studies on Kindergarten Teacher				②科目コード	Y2-2A001				
③担当教員名	徳田 多佳子									
④実務経験	幼稚園教諭(7年) 家庭的保育事業者 放課後デイサービス児童指導員				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	2単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免許・教育の基礎的理解に関する科目】教育の基礎的理解に関する科目・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む)・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)。									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科目】保育の本質・目的に関する科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育者の役割 専門性									
②授業の概要	自身の保育の経験やさまざまな機会を訪れた園での経験をふまえ、実践例を示して学生の理解を促す。保育者として子どもに向き合い関わるとはどういうことなのかを理解する。また、これからの保育者に期待されることは何かを考察していく。その上で、研修を通して学ぶこと、育つことについて学ぶ。教職の意義、教員の役割、資質能力、職務内容等についても身に付け教職の在り方を理解していく。									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ul style="list-style-type: none"> 今日の幼児教育や教職の職業的特徴を理解する。 子どもと共に生活することについて学び、保育者に求められる役割や資質能力について説明ができる。 幼児への指導及び指導以外の教員の職務の全体像を、特に地域との連携について理解する。 保育者としての専門性について考察し、研修の在り方などについて知り、学び続けることの必要性やチームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解する。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	○	グループワーク	○	発表・フィールドワーク	○				
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	保育者への思い(教職の職業的特徴について)									
第2回	私の乳幼児期を振り返る(人との出会いとライフスタイルの形成)									
第3回	魅力的な保育者とは(教員の役割や資質能力について)									
第4回	保育者の1日(子どもへの指導及び教員としての職務の全体像を理解する)									
第5回	子どもの思いや育ちを理解する①(基本的な資質能力-子どもと関わるということ-)									
第6回	子どもの思いや育ちを理解する②(基本的な資質能力-子どもを読み解くということ-)									
第7回	保育者の資質とサービス									
第8回	保育者に求められる役割や基礎的な資質能力について									
第9回	保育者の役割と義務①(保育現場における子育て支援)									
第10回	保育者の役割と義務②(個人面談の実際)									
第11回	保育者の役割と義務③(地域における子育て支援)									
第12回	学び合う保育者①(グループ討議:園内研修・ビデオカンファレンス)									
第13回	学び合う保育者②(グループ活動:仲間との対話を通して、理想の幼稚園を考える)									
第14回	発表「理想の幼稚園を作ろう」(グループ発表)									
第15回	保育者の専門性とは									
定期試験	課題レポート提出									
⑧自主学習の課題	配布プリントを読み返し、理解を深めること。 予習:約90分間の学習時間を要する。 復習:約90分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	未定									
⑩参考書/参考資料/準備物等	参考資料等はその都度紹介する。必要資料はその都度配布する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレベール館 厚生労働省『保育所保育指針』フレベール館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレベール館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項	保育者の専門性に関し、現代社会がどのようなことを期待しているか、新聞やニュース等で情報を集め、その内容が“子どもの育ち”とどのように関係するか、自分なりに考えようとする姿勢をもって授業に望んでほしい。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	保育者の職務内容の理解	教職の意義の理解	保育者の役割の理解	保育者の協働の理解	保育者の専門性向上の理解	③配点比率			
1	定期試験	○	○	○	○	○	50	%		
2	小テスト							%		
3	提出物	○	○	○	○	○	20	%		
4	発表・実技・プレゼン				○		10	%		
5	受講態度	○	○	○	○	○	10	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○	○	10	%		
7	その他							%		
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	レポート試験をはじめとする成績評価に対する問い合わせに応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育・教職実践演習（幼稚園） Practical Seminar for the Teaching and Child-Care Specialist					②科目コード	Y5-2C003			
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき									
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け（一部合同あり）			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	2単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程	【幼二種免・教職に関する科目】教職実践演習									
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）総合演習 保育実践演習（演習）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育・教育の実践力を身につける									
②授業の概要	この授業は、幼稚園教諭としての学びの集大成である。講義、ワークシート、討論を通して、幼稚園教諭としての総合的な実践力を養っていく。現場での実際を知りながら子どもの姿や保育者のあり方について理解を深めていけるよう、実務経験教員は保育現場における具体的な事例を示していく。また、保育士資格を取得する上での関連も考えていく。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 保育・教育を実践していく上で必要な ICT 機器の知識を活用して、保育教材をつくることができる。 2. 保育・教育を実践していく上で、重要なポイントをまとめることができる。 3. 履修カルテを作成してこれまでの学習で修得した知識・技能についてまとめることができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	Google クラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	【合同】ガイダンス & 保育者の歩みと足跡（打越・井出）									
第2回	協同的な学びと育ち									
第3回	子ども理解の方法と実際									
第4回	保育者の専門性									
第5回	保護者および地域との関係づくり：グループごとにロールプレイ									
第6回	保育の振り返り									
第7回	園の安全管理									
第8回	教育課程および全体的な計画を考える									
第9回	幼保小の接続（ゲスト教員）									
第10回	気になる子どもの行動の理解と対応（ゲスト教員）									
第11回	保育と ICT ① レクチャー（ゲスト教員）									
第12回	保育と ICT ② プランニング									
第13回	保育と ICT ③ 実践：教材制作									
第14回	保育と ICT ④ 発表会									
第15回	学修ポートフォリオの作成									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習 テキストの該当箇所を読んでおく。予習には約 10 分の学習時間を要する。 復習 毎回課題に取り組み、次の週に提出する。復習には約 50 分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	小櫃智子・矢藤誠慈郎（編）『改訂 2 版 保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み—幼稚園保育所編』わかば社 2023 年									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	この科目は毎回の授業課題で評価するため、合格点に達しない場合、再試は行わない。 授業を欠席した場合には、Google classroom を確認するとともに翌週の授業時に授業資料を受け取る。授業で配られた資料やワークシートは紙ファイル（授業初回に配布）にファイリングすること（採点対象）。テキストがワークになっているため、再履修の者はテキストを購入しなすこと。 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画および課題を Google classroom より配信する予定である。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	ICT教材	授業のポイントのまとめ	履修カルテづくりとまとめ					③配点比率	
1	定期試験								0	%
2	小テスト								0	%
3	提出物	○	○	○					70	%
4	発表・実技・プレゼン	○							10	%
5	受講態度								0	%
6	自主学習態度								0	%
7	その他（授業ファイル・テキスト）	○							20	%
④ルーブリック評価	取り入れている。						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題を採点し、返却する。Google classroom を使用した課題については、Google classroom からフィードバックする。									
IV その他										

I 科目に関する項目									
①科目名	重複障害・LD 等教育論 Education for Persons with Learning Multiple Disabilities and Other Developmental Disorder				②科目コード	Y2-2B003			
③担当教員名	竹森 亜美								
④実務経験	臨床心理士（9年）・公認心理師（4年）				⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期		⑧単位（時間数）	2単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育BP修了		必修	
⑫教職課程	【特二種免・特別支援教育に関する科目】免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目								
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育の本質・目的の理解に関する科目								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	発達障がい・重複障がい児の理解と教育課程の編成の方法及び自立活動に関する内容								
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、発達障がいや重複障がい児者及び家族への心理支援、学校現場への巡回相談などの実戦経験を活かし、具体的な支援事例をもとに講義を行う。本授業では、LD（学習障がい）、AD/HD（注意欠如多動性障がい）、重複障がい児者の行動特徴や教育課程の編成方法、カリキュラムマネジメントの実際を知り、そのメカニズムを詳細に捉えるためのアセスメントと教育課程との関連について学習する。パワーポイントでの情報提示に加え、発達障がい教材となった映画などをを用いる他、学生が知能検査に実際に触れたり、体験する演習も用いてアクティブラーニングを実施する。								
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障がいLD、AD/HDなどの発達障がいの行動特徴をそれぞれ理解し区別することができる 2. 重複障がいの理解と支援、アセスメントのポイントをつかむ 3. LD、AD/HD 重複障がい児の教育課程の編成方法、カリキュラムマネジメントについて説明することができる 4. 知能検査を体験し、何を測定するものなのかを理解し、簡単な操作を行える 								
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）									
第1回	イントロダクション（障害特性に合わせたカリキュラム・マネジメントと自立活動）								
第2回	AD/HDの基本的行動特徴と理解								
第3回	AD/HDの疑似体験と二次障害について								
第4回	AD/HDの教育課程の編成方法とカリキュラムマネジメントの実際								
第5回	AD/HD児がもつ衝動性に対する支援と対応								
第6回	幼稚園教育実習における特別支援教育体験（事例検討）								
第7回	LDの基本的行動特徴と理解								
第8回	LDの疑似体験と二次障害について								
第9回	LDの教育課程の編成方法とカリキュラムマネジメントの実際								
第10回	LD児への学習指導法と具体的支援								
第11回	ウェクスラー式知能検査								
第12回	様々な発達検査の理解								
第13回	協調運動障がいの特徴と支援方法								
第14回	重複障がいの理解								
第15回	重複障害の教育課程の編成方法とカリキュラムマネジメントの実際								
定期試験	筆記試験 ※授業後毎回小テストを実施します								
⑧自主学習の課題	予習：約90分間の学習時間を要する。文部科学省HPにある「発達障害について」の資料を読み込むこと 復習：約90分間の学習時間を要する。小テストのキーワードについて再度配付資料の内容を読み返すこと								
⑨テキスト	授業時、随時提示する								
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件／履修上の注意事項	特になし								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	発達障害（AD/HDとLD）の理解と支援	重複障害の理解と支援	教育課程の編成方法とカリキュラムマネジメント	知能検査の理解			③配点比率	
	1 定期試験	○	○	○	○	50	%		
2 小テスト	○	○	○	○	40	%			
3 提出物					0	%			
4 発表・実技・プレゼン					0	%			
5 受講態度	○	○	○	○	5	%			
6 自主学習態度	○	○	○	○	5	%			
7 その他						%			
④ルーブリック評価	小テスト・定期試験ともに用語を記入する問題であるため取り入れていない				比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。								
IV その他									

I 科目に関する項目									
①科目名	知的障害者教育論（指導法を含む） Theory of Education for Intellectually Disabled Persons					②科目コード	Y4-2B017		
③担当教員名	井出 麻里子 竹森 亜美								
④実務経験	臨床心理士（竹森 9年）・公認心理師（竹森 4年）					⑤担当形態	複数		
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（15）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【特二種免：特別支援教育に関する科目】特別支援教育領域に関する科目・心身の障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目								
⑬保育士養成課程									
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	教育課程の理解と模擬授業の実践								
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、知的障害児・者への療育、学校現場への巡回相談・授業研究などの実践経験を活かし、具体的な支援事例を想定しながら講義を行う。また、モンテッソーリ教材の研究知見をもとに、教材研究の視点から指導を行う。知的障害特別支援学校の教育課程（自立活動含む）の編成の方法とカリキュラムマネジメントを踏まえたうえで、学習指導案の書き方を学ぶ。それらの知識を基に、仮想事例を対象にした模擬授業を構成し、グループごとに発表を行う。特別支援学校の教育実習で課題となる「研究授業」に向けての基礎力及び応用力を養う実践的な授業である。								
③履修者の到達目標（学習成果）	1 知的障害特別支援学校の教育課程の編成方法（特に幼稚部・小学部）とカリキュラムマネジメントの実際を理解する。 2 仮想事例に基づき、学習指導案を立案し、実施することができる。 3 グループで適切な役割分担をし、協力しながら模擬授業を構成することができる。								
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）									
第1回	知的障害特別支援学校の教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメント								
第2回	生活単元学習と自立活動								
第3回	学習指導案の作成／模擬授業説明								
第4回	模擬授業①（教科指導／国語・算数）								
第5回	模擬授業②（教科指導／図画工作）								
第6回	模擬授業③（教科指導／音楽）								
第7回	模擬授業④（遊びの指導）								
第8回	模擬授業⑤（生活単元学習／朝の会）								
定期試験	実施しない								
⑧自主学習の課題	予習：グループごとによく話し合い、発表に向けて学習指導案作成、教材作成に努めること。テキストを熟読し、学習指導案の「目標」が何なのかをよく検討すること。 復習：模擬授業で指摘された事項をレポートにまとめること ※予習・復習ともに約90分の時間を要する。								
⑨テキスト	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）開隆堂出版								
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	模擬授業で使用する教材費は、グループで負担を分担すること。なるべく廃材などを活用すること。								
⑫履修条件／履修上の注意事項	履修条件：特別支援学校教諭免許状の取得を希望することを前提とする。 履修上の注意事項：特別支援学校の授業に関する実技科目であるため、保育場面での支援は対象としない。 その他：発表グループは教員で決定する。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	教育課程の理解	模擬授業	学習指導案	発表グループへのコメントシート			③配点比率	
	1 定期試験							0	%
2 小テスト								0	%
3 提出物				○	○			35	%
4 発表・実技・プレゼン	○	○						50	%
5 受講態度	○	○	○	○	○			5	%
6 自主学習態度	○	○	○	○	○			10	%
7 その他								0	%
④ルーブリック評価	模擬授業の評価項目についてはルーブリック評価を活用する					比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。模擬授業の評価を講評する。								
IV その他									

I 科目に関する項目									
①科目名	肢体不自由者教育論（指導法を含む） Theory of Education for Disabled Persons				②科目コード	Y4-2B018			
③担当教員名	渡邊 章								
④実務経験					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(15)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	必修	保育士資格	発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程	【特二種免許・特別支援教育に関する科目】特別支援教育領域に関する科目・心身の障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目								
⑬保育士養成課程									
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法について学ぶ								
②授業の概要	この授業では、特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（肢体不自由）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解する。また、肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。								
③履修者の到達目標（学習成果）	1) 幼児、児童又は生徒の肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校（肢体不自由）の教育実践に即した教育課程の編成方法について理解している。 2) 個別の指導計画の作成及びカリキュラム・マネジメントの考え方について理解している。 3) 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等における配慮事項について理解している。 4) 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の学習指導案を作成することができるのと同時に、授業改善の視点を身に付けている。								
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	○					
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）	第1回 インTRODクシヨンー授業のねらいと学習の進め方ー 第2回 肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の教育課程とカリキュラム・マネジメント 第3回 肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の個別の指導計画の作成 第4回 肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の体験的な活動を通じた指導の工夫 第5回 肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の姿勢や認知の特性に応じた指導の工夫 第6回 肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の指導におけるICTや教材・教具の活用 第7回 肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の自立活動の指導 第8回 肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の学習指導案の作成と授業改善 定期試験 レポート提出								
⑧自主学習の課題	予習 次回のテーマについて各種資料を調べて概要を理解しておく。毎回の授業開始時に質疑応答により理解度を確認する。予習に約90分の学習時間を要する。 復習 毎回配布する資料から重要な点を整理し、考察を加えて提出する。復習に約90分の学習時間を要する。								
⑨テキスト	植草学園大学・短期大学特別なニーズ教育研究グループ編著『特別なニーズ教育の基礎と方法』ジヤース教育新社								
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考図書は、授業で随時紹介する。 準備物については、授業で指示する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領—平成29年4月告示』海文堂出版								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	特になし								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
①学習項目	肢体不自由者の教育の基本	肢体不自由者の指導方法の基礎	肢体不自由者の指導における配慮事項						
②評価方法									③配点比率
1 定期試験	○	○	○						
2 小テスト									0 %
3 提出物	○	○	○						
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○						
5 受講態度	○	○	○						
6 自主学習態度	○	○	○						
7 その他									0 %
④ルーブリック評価	取り入れていない								比率合計 100 %
⑤課題等に対するフィードバックの方法	毎回提出するレポートへのコメントによりフィードバックする。								
IV その他									

I 科目に関する項目										
①科目名	病弱者教育論（指導法を含む） Theory of Education for Invalids					②科目コード	Y4-2B019			
③担当教員名	渡邊 章									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（15）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【特二種免・特別支援教育に関する科目】特別支援教育領域に関する科目・心身の障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目									
⑬保育士養成課程	病弱者の教育的ニーズへの対応について学ぶ									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法について学ぶ									
②授業の概要	この授業では、特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（病弱）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解する。また、病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1) 幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校（病弱）の教育実践に即した教育課程の編成方法について理解している。 2) 個別の指導計画の作成及びカリキュラム・マネジメントの考え方について理解している。 3) 病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等における配慮事項について理解している。 4) 病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等に応じた自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の学習指導案を作成することができるとともに、授業改善の視点を身に付けている。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	イントロダクションー授業のねらいと学習の進め方ー									
第2回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の教育課程とカリキュラム・マネジメント									
第3回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の個別の指導計画の作成									
第4回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の学習環境に応じた指導の工夫									
第5回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の指導におけるICTや教材・教具の活用									
第6回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等に配慮した指導の工夫									
第7回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の自立活動の指導									
第8回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の学習指導案の作成と授業改善									
定期試験	レポート提出									
⑧自主学習の課題	予習 次回のテーマについて各種資料を調べて概要を理解しておく。毎回の授業開始時に質疑応答により理解度を確認する。予習に約90分の学習時間を要する。 復習 毎回配布する資料から重要な点を整理し、考察を加えて提出する。復習に約90分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	植草学園大学・短期大学特別なニーズ教育研究グループ編著『特別なニーズ教育の基礎と方法』ジヤース教育新社									
⑩参考書／参考資料／準備物等	参考図書は、授業で随時紹介する。 準備物については、授業で指示する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文部科学省『特別支援学校幼稚園部教育要領小学部・中学部学習指導要領ー平成29年4月告示』海文堂出版									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	特になし									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	1) 病弱者の教育の基本	2) 病弱者の指導方法の基礎	3) 病弱者の指導における配慮事項	4) 自立活動			③配点比率		
	1 定期試験	○	○	○	○			50	%	
2 小テスト								0	%	
3 提出物	○	○	○	○				20	%	
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○				10	%	
5 受講態度	○	○	○	○				10	%	
6 自主学習態度	○	○	○	○				10	%	
7 その他								0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	毎回提出するレポートへのコメントによりフィードバックする。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	視覚・聴覚言語障害者教育論（指導法を含む） Theory of Education for Intrllectually Visually Impaired Persons					②科目コード	Y4-2B020			
③担当教員名	村尾 愛美									
④実務経験	リソースルームティーチャー（1年）／児童指導員（3年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（15）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程	【特二種免・特別支援教育に関する科目】免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目									
⑬保育士養成課程										
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	視覚障害、聴覚障害、言語障害を有する幼児児童生徒に対する教育における教育課程の編成の方法及び自立活動に関する内容とその具体例について									
②授業の概要	リソースルームティーチャーとして通常の学級に在籍している発達障害等により特定の教科学習の理解に困難を示している児童に対する学習支援、また、児童指導員として児童発達支援センターにおける発達に遅れや偏りのある乳幼児に対する指導・支援などの実務経験のある教員による講義である。本授業では、視覚障害、聴覚障害、言語障害に対する指導のために必要な基礎知識および技能を身ににつけるとともに、根拠に基づいた指導・支援計画を立案できることを目指す。特に、各学校・学級における教育課程、カリキュラムマネジメント、自立活動の指導は本授業の中心的な学習事項である。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1 [知識・技能] 視覚障害、聴覚障害、言語障害を有する幼児児童生徒に対する教育について、教育課程の編成の方法とカリキュラムマネジメントに関する基礎的事項を説明することができる。また、自立活動に関する内容を中心に、指導・支援法についての基礎的事項を説明することができる。 2 [思考・判断・表現] グループワークを通して、視覚障害児、聴覚障害児、言語障害児の教育における教育課程及び自立活動に関する先行研究等から課題を抽出し、その課題に関して考察を加え、今後の在り方について自分の考えを述べるができる。 3 [関心・意欲・態度] 視覚障害、聴覚障害、言語障害教育の現状と課題に関心を持ち、自ら学習を進めることができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート	○					
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	○	○	○	○	○				
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	特別支援教育における、視覚障害教育、聴覚障害教育、言語障害教育の歴史と意義：授業のねらい、進め方を含む									
第2回	視覚障害に対する指導・支援：視覚障害特別支援学校、特別支援学級及び通級による指導の教育課程の編成とカリキュラムマネジメント									
第3回	視覚障害と自立活動：情報の入手及び移動の制限に視点を当てて									
第4回	聴覚障害に対する指導・支援：聴覚障害特別支援学校、特別支援学級及び通級による指導の教育課程の編成とカリキュラムマネジメント									
第5回	聴覚障害と自立活動：コミュニケーション方法、手話と音声言語との関係に視点を当てて									
第6回	言語障害に対する指導・支援：通級による指導の教育課程の編成とカリキュラムマネジメント									
第7回	言語障害と自立活動：構音障害、吃音、言語発達の遅れに視点を当てて									
第8回	視覚障害教育、聴覚障害教育、言語障害教育の現状と課題—いわゆる知的発達に遅れない発達障害や情緒障害との関連：グループワーク									
定期試験	筆記試験（持ち込み可）を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：各授業回において、次回の授業内容に関する資料を配布し、予習事項を提示する。配布資料を含め、参考書・参考資料などを用いて予習しておくこと。予習には約90分を要する。 復習：各授業回において、復習事項を提示する。配布資料や参考書・参考資料などを用いて、復習事項をまとめ、次回の授業時まで提出すること。復習には約90分を要する。									
⑨テキスト	必要に応じて、資料を配布する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	我妻敏博『聴覚障害児の言語指導—実践のための基礎知識 改訂版』田研出版、2011。 加藤正子・竹下圭子・大伴 潔（編著）『特別支援教育における構音障害のある子どもの理解と支援』学苑社、2012。 小林宏明・川合紀宗（編著）『特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援』学苑社、2013。 文部科学省（著）『聴覚障害教育の手引—言語に関する指導の充実を目指して—』ジヤース教育新社、2020。 大伴 潔・大井 学（編著）『特別支援教育における言語・コミュニケーション・読み書きに困難がある子どもの理解と支援』学苑社、2011。 芝田裕一（著）『視覚障害児・者の理解と支援 新版』北大路書房、2015。 全国盲学校長会（編著）『視覚障害教育入門Q&A 新訂版』ジヤース教育新社、2018。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文部科学省『特別支援学校幼稚園部教育要領小学部・中学部学習指導要領—平成29年4月告示』海文堂出版									
⑪教材費	不要									
⑫履修条件／履修上の注意事項	本授業ではGoogle Classroomを用いて課題及び授業資料の提示を行う。そのため、クラスルームに必ず参加すること（担当教員が初回授業時までに案内する）。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	知識・技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度					③配点比率	
1	定期試験	○	○					40	%	
2	小テスト	○	○					20	%	
3	提出物	○	○	○				15	%	
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○				15	%	
5	受講態度			○				5	%	
6	自主学習態度			○				5	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	授業回ごとの小テストまたは提出物に対して、講評を行う。定期試験及び最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育原理 Principle of Upbringing					②科目コード	Y2-2A002			
③担当教員名	徳田 多佳子									
④実務経験	幼稚園教諭（7年） 家庭的保育事業者 放課後デイサービス児童指導員					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	2単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育BP修了	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目） 保育の本質・目的の理解に関する科目 保育原理（講義）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育の意義と基本									
②授業の概要	自身の保育の経験やさまざまな機会を訪れた園での経験をふまえ、実践例を示して学生の理解を促す。保育所保育指針等に基づき保育の理念や役割、制度、実践について基礎的な知識を学び、保育者の仕事などがどのように位置づけられて何を期待されているかについて学習する。また保育の特性を学び、その目標、方法、計画とその評価についても学習する。それにより子どもの主体性を尊重し、環境を通して行われる保育とはどのようなものかについて理解する。さらに保育の思想や歴史の変遷、国内外の保育にふれ、より広い視野で保育の機能とその意義や課題を探る。基本的には講義形式で進めるが、学生が自身の考えや意見を述べる機会を多く取りたいと考えている。									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針等を読解し、その中で示されている保育の基本について理解し、説明することができる。 2. 保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度について理解し、説明することができる。 3. 保育の思想と歴史的変遷について理解し、説明することができる。 4. 現在の保育と子ども、子育てにおける課題を把握し、その解決方法について考察して意見を述べることができる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	保育の理念と概念									
第2回	保育の社会的役割と責任									
第3回	子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令									
第4回	保育の実施体系									
第5回	保育所保育指針に基づく保育									
第6回	保育の目標と方法									
第7回	乳児の保育									
第8回	1歳以上3歳未満児の保育									
第9回	3歳以上児の保育									
第10回	子ども理解に基づく保育の過程①理論編									
第11回	子ども理解に基づく保育の過程②実践編（ロールプレイング）									
第12回	諸外国の保育の思想と歴史									
第13回	日本の保育の思想と歴史									
第14回	諸外国の保育の現状と課題									
第15回	日本の保育の現状と課題									
定期試験	レポート提出									
⑧自主学習の課題	予習：毎回のテーマに該当するテキストの章を熟読し、内容を確認して臨む。約90分 復習：出された課題に取り組んだり、習った内容を理解して持論を展開できるようにする。約90分									
⑨テキスト	天野珠路、北野幸子（編）『新・基本保育シリーズ1保育原理』中央法規出版									
⑩参考書／参考資料／準備物等	厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	保育においては子どもの成長・発達だけを考えるのではなく、その子が生活し、育つ家庭や地域の環境に目を向けることが大切である。現代社会のさまざまな問題をニュースや新聞、インターネットなどから情報を得て、子どもの最善の利益を実現するために保育者はどのような関わりが求められるのか、どのようにして環境構成を行うべきかを、自分なりに考えようとする姿勢をもって授業に望んでほしい。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		保育の意義に関する理解	保育の基本に関する理解	保育の目標と方法に関する理解	保育の歴史や現状に関する理解	③配点比率				
②評価方法										
1	定期試験	○	○	○	○	50	%			
2	小テスト					0	%			
3	提出物	○	○	○	○	20	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○	○	○	○	25	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	5	%			
7	その他					0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	レポート試験をはじめとする成績評価に対する問い合わせに応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	乳児保育 I Infant's Upbringing I					②科目コード	Y4-2B012			
③担当教員名	清水 かおり									
④実務経験	保育士・保育教諭（5年）、幼稚園教諭（6年）、乳幼児教育分野における国際協力（2年）				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育BP修了	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育の内容・方法の理解に関する科目乳児保育（講義）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	乳児の発達理解・乳児の育ちを支える保育者の役割									
②授業の概要	保育現場に従事してきた経験から実践の面白さや難しさを共有し、学生の乳児保育へのイメージを具体化していく。 「子どもの最善の利益」を主軸とし、事例と保育理論から受容的・応答的な関わりを考え、3歳未満児の保育の基本を学ぶ。また乳児保育の意義や目的、現状と課題を踏まえた保育を実現させるための連携も学ぶ。									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び児保育の果たす役割について説明できる。 2. 保育所の他、多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について説明できる。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解し、健やかな成長を支えるための基礎知識を獲得する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について説明できる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	オリエンテーション乳児保育の意義や目的と役割									
第2回	乳児保育の基本									
第3回	0・1・2歳児の子どもの発達と特徴									
第4回	3歳未満児の身体の発達									
第5回	3歳未満児の言葉と社会性の発達									
第6回	0歳児の保育内容									
第7回	1歳以上3歳未満児の保育内容									
第8回	乳児の生活と遊びの基本的事項									
第9回	乳児の生活の基本									
第10回	乳児の遊び									
第11回	乳児保育の環境構成									
第12回	乳児保育における全体的な計画									
第13回	乳児保育における子育て支援（グループワーク）									
第14回	乳児保育における連携（グループワーク）									
第15回	「乳児保育 I」授業内のまとめと振り返り									
定期試験	筆記試験を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：予習には90分の学習時間を要する。テキストの該当箇所を読み、課題に取り組むこと。 復習：復習には90分の学習時間を要する。提示された授業テーマに関する復習事項に取り組むこと。 日常生活の中で3歳未満児に興味をもち、観察をしたりニュースを観たり聞いたりしたことを考察すること。									
⑨テキスト	小山朝子編著、亀崎美沙子、善本真弓『講義で学ぶ乳児保育』わかば社 2019年									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、授業の資料があれば担当教員まで取りにくること。 自宅学習が必要となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題を Google classroom より配信する予定である。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	乳児保育の役割の理解	乳児保育の現状と課題についての理解	乳児の発達と保育内容の基礎知識	乳児保育における連携・協働			③配点比率		
	1 定期試験	○	○	○	○			50	%	
2 小テスト	○	○	○	○			20	%		
3 提出物	○	○	○	○			30	%		
4 発表・実技・プレゼン							0	%		
5 受講態度							0	%		
6 自主学習態度							0	%		
7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・提出物は返却し、講評する。 ・定期試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	乳児保育Ⅱ Infant's Upbringing Ⅱ					②科目コード	Y4-2B013			
③担当教員名	清水 かおり									
④実務経験	保育士・保育教諭（5年）、幼稚園教諭（6年）、乳幼児教育分野における国際協力（2年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育の内容・方法の理解に関する科目乳児保育（演習）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	乳児の発達理解・乳児の育ちを支える保育者の役割									
②授業の概要	乳児保育Ⅰに続き、保育現場に従事してきた経験から3歳未満児についての専門的知識と保育技術を伝えていく。子どもの豊かな生活や遊びの実現のための援助を実践から学ぶ。また、3歳未満児クラスの指導計画の作成や相応しい環境等について学び、養護及び教育の一体性の視点からも保育の理解を深めていく。									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について説明できる。 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に説明できる。 乳児保育における配慮について説明できる。 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画を立案することができる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Googleクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	オリエンテーション、乳児保育の意義									
第2回	0～3歳までの発育と発達									
第3回	子どもの育ちと保育内容（1）睡眠／おんぶと抱っこ（グループワーク）									
第4回	子どもの育ちと保育内容（2）排泄／おむつ替え（グループワーク）									
第5回	子どもの育ちと保育内容（3）衣服と着替え（グループワーク）									
第6回	子どもの育ちと保育内容（4）清潔／沐浴（グループワーク）									
第7回	子どもの育ちと保育内容（5）授乳と食事の援助（グループワーク）									
第8回	子どもの育ちと保育内容（6）健康と安全／身体計測（グループワーク）									
第9回	0歳児の保育内容と遊び（グループワーク）									
第10回	小テスト、1歳以上3歳未満児の保育内容									
第11回	1歳以上3歳未満児の遊び（グループワーク）									
第12回	乳児保育における指導計画（1）長期的・短期的・個別指導計画									
第13回	乳児保育における指導計画（2）個別指導計画、保育の質の向上を目指した観察・記録及び自己評価									
第14回	乳児保育を支える連携									
第15回	「乳児保育Ⅱ」のまとめとふりかえり									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：予習には30分の学習時間を要する。テキストの該当箇所を読み、課題に取り組む。復習：復習には30分の学習時間を要する。提示された授業テーマに関する復習事項に取り組む。日常生活の中で3歳未満児に興味をもち、観察をしたりニュースを観たり聞いたりしたことを考察する。									
⑨テキスト	善本真弓編著小山朝子亀崎美沙子『演習で学ぶ乳児保育』わかば社2020年									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	200円									
⑫履修条件／履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、授業の資料があれば担当教員まで取りにくること。自宅学習が必要となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題をGoogle classroomより配信する予定である。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法		①学習項目	乳児の発達と保育者の援助	乳児の遊びと保育者の援助	乳児の生活の援助と配慮	指導計画の立案	③配点比率			
1	定期試験						0	%		
2	小テスト			○			20	%		
3	提出物	○	○	○	○		50	%		
4	発表・実技・プレゼン			○	○		30	%		
5	受講態度						0	%		
6	自主学習態度						0	%		
7	その他						0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> 提出物は返却し、講評する。 定期試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。 									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	障がい児保育 I Insurance for Handicapped Children I					②科目コード	Y4-2B014			
③担当教員名	岡本 明博									
④実務経験	児童指導員・臨床発達心理士・ケースワーカー・社会福祉士・精神保健福祉士〔20年〕					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の内容・方法の理解に関する科目 障害児保育(演習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	障がい児保育の実際 I									
②授業の概要	児童指導員・臨床発達心理士として、児童発達支援センター等での児童の発達支援や幼稚園・保育所・小学校・特別支援学校への発達支援相談、ケースワーカー・社会福祉士・精神保健福祉士として、児童発達支援センター及び地域の児童や家族への相談・支援の勤務経験を活かし、障がい児保育の具体的な事例をもとに講義を展開する。共生社会の実現に向けて特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する関わりが求められる。そこで、障がい児保育の意義と目的を理解し、障がいのある子どもについて理解を深め、日々の保育のあり方について学ぶ。前半では障がい児保育を支える理念や歴史の変遷を、中盤では障がいのある子どもの理解と保育における発達援助を、後半には障がい児保育の方法と形態について取り上げる。また、実践事例の検討では、少人数でディスカッションやグループワークを行い、他者との意見交換を通して学習する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. (関心・意欲・態度) 障がい児保育に関心をもち、一人ひとりにあった有効な手立てを自ら探求できる。 2. (思考・判断・表現) 障がいのある子どもの理解を深め、一人ひとりの発達課題に即した保育が説明できる。 3. (技能) 障がい児保育において、障がいに応じた支援を実行できる。 4. (知識・理解) 障がい児保育の意義と目的を理解し、自分なりに要点を説明することができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート		○					
	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク						
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	障がい児保育 I を学ぶ意義、受講上の留意点、成績評価の説明、ディスカッションを通して、保育者としての障害児保育の考え方を整理する。									
第2回	障がいの概念、障害モデル、障害観、合理的配慮									
第3回	発達と障がい									
第4回	障がい児保育の歩み									
第5回	障がい児保育の基本のまとめ 1回～4回の確認課題(小テスト)									
第6回	肢体不自由・重症心身障がい・医療的ケアの子どもの理解と援助									
第7回	視覚障がいの子どもの理解と援助									
第8回	聴覚障がい・言語障害の子どもの理解と援助									
第9回	知的障がいの子どもの理解と援助: ディスカッション									
第10回	発達障がいの子どもの理解と援助 ①自閉スペクトラム障害: グループワーク・ディスカッション									
第11回	発達障がいの子どもの理解と援助 ② ADHD・LD: グループワーク・ディスカッション									
第12回	その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助: グループワーク・ディスカッション									
第13回	障がいの種類と援助の技術と方法のまとめ 6回～12回の確認課題(小テスト)									
第14回	障がい児保育の方法と形態、職員間の連携・協働: ディスカッション									
第15回	保育課程における指導計画									
定期試験	レポート提出									
⑧自主学習の課題	予習: 各授業回において、キーワードを提示する。キーワードに関連する内容について、事前に調べ、予習用ノートにまとめる。予習は30分の学習時間を目安に取り組むこと。 復習: 各授業回において、復習事項を提示する。復習事項に関連する内容について、当日の資料や参考書等を用いて調べ、復習用ノートにまとめる。復習は30分の学習時間を目安に取り組むこと。									
⑨テキスト	野田敦史・林恵編集『学ぶ・わかる・みえるシリーズ 保育と現代社会「演習・保育と障害のある子ども第2版」』みらい、授業時に資料を配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	不要									
⑫履修条件/履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、次回授業までに復習・予習事項に自ら取り組むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率				
1	定期試験		○	○	○	30	%			
2	小テスト		○	○	○	20	%			
3	提出物					0	%			
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	10	%			
5	受講態度	○	○	○	○	10	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	10	%			
7	その他	○	○	○	○	20	%			
④ルーブリック評価	取り入れている。					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・授業内レポート(リアクションペーパー等)の内容について講評する。 ・試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目									
①科目名	障がい児保育Ⅱ Insurance for Handicapped Children Ⅱ					②科目コード	Y4-2B015		
③担当教員名	岡本 明博								
④実務経験	児童指導員・臨床発達心理士・ケースワーカー・社会福祉士・精神保健福祉士〔20年〕					⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の内容・方法の理解に関する科目 障害児保育(演習)								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	障がい児保育の実際Ⅱ								
②授業の概要	児童指導員・臨床発達心理士として、児童発達支援センター等での児童の発達支援や幼稚園・保育所・小学校・特別支援学校への発達支援相談、ケースワーカー・社会福祉士・精神保健福祉士として、児童発達支援センター及び地域の児童や家族への相談・支援の勤務経験を活かし、障がい児保育の具体的な事例をもとに講義を展開する。共生社会の実現に向けて特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する関わりが求められる。そこで、障がい児保育の意義と目的を理解し、障がいのある子どもについて理解を深め、日々の保育のあり方について学ぶ。前半では障害児保育の実践的な方法を、中盤では関係機関との連携を、後半には障がい児の事例について取り上げる。また、実践事例の検討では、少人数でディスカッションやグループワークを行い、他者との意見交換を通して学習する。								
③履修者の到達目標(学習成果)	1. (関心・意欲・態度)障がい児保育に関心をもち、一人ひとりにあった有効な手立てを自らより積極的に探究できる。 2. (思考・判断・表現)障がいのある子どもの理解を深め、一人ひとりの発達課題に即した保育が専門的に説明できる。 3. (技能)障がい児保育において、一人ひとりの障がいに応じた支援を実行できる。 4. (知識・理解)障がい児保育の意義と目的を理解し、自分なりに要点を総合的に説明することができる。								
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	グループワーク		プレゼンテーション	実習・フィールドワーク	○	
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画(授業の内容)									
第1回	オリエンテーション：障がい児保育Ⅱを学ぶ意義、受講上の留意点、成績評価の説明、個別の指導計画の作成								
第2回	個別の(教育)支援計画とは								
第3回	個別の(教育)支援計画の作成								
第4回	障がい児保育の記録と評価								
第5回	基本的な生活習慣獲得の援助：ディスカッション								
第6回	集団生活と遊びの援助、子ども同士の関わりと育ち合いの援助：ディスカッション								
第7回	保護者や家族への支援：ディスカッション								
第8回	障がい児保育の実践的な技術と方法のまとめ 1回～7回の確認課題(小テスト)								
第9回	小学校・特別支援学校との連携：ディスカッション								
第10回	障がいのある子どもの保健・医療・福祉施策と連携、現状と課題：ディスカッション								
第11回	地域の社会資源との連携、現状と課題：ディスカッション								
第12回	障がい児に関わる教育・保健・医療・福祉施策と地域連携、現状と課題のまとめ 9回～11回の確認課題(小テスト)								
第13回	障がい児保育の実践 ①ADHDの子どもの支援：グループワーク・ディスカッション								
第14回	障がい児保育の実践 ②自閉スペクトラム症の子どもの支援：グループワーク・ディスカッション								
第15回	障がい児保育の実践 ③肢体不自由のある子どもの支援：グループワーク・ディスカッション								
定期試験	レポート提出								
⑧自主学習の課題	予習：各授業回において、キーワードを提示する。キーワードに関連する内容について、事前に調べ、予習用ノートにまとめる。予習は30分の学習時間を目安に取り組むこと。 復習：各授業回において、復習事項を提示する。復習事項に関連する内容について、当日の資料や参考書等を用いて調べ、復習用ノートにまとめる。復習は30分の学習時間を目安に取り組むこと。								
⑨テキスト	野田敦史・林恵編集『学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現代社会「演習・保育と障害のある子ども第2版」』みらい、授業時に資料を配布する。								
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	不要								
⑫履修条件/履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、次回授業までに復習・予習事項に自ら取り組むこと。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率				
②評価方法									
1 定期試験		○	○	○	40	%			
2 小テスト		○	○	○	25	%			
3 提出物					5	%			
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	10	%			
5 受講態度	○				10	%			
6 自主学習態度	○	○	○	○	5	%			
7 その他	○	○	○	○	5	%			
④ルーブリック評価	取り入れている。				比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・授業内レポート(リアクションペーパー等)の内容について講評する。 ・試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。								
IV その他									

I 科目に関する項目										
①科目名	保育内容総論 Introduction to Child Care and Education					②科目コード	Y4-2A011			
③担当教員名	古川 寿子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科目】保育の本質・目的に関する科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育内容の全般（5領域）についての把握と理解、総合的な指導									
②授業の概要	幼稚園教育は、園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解していく。特に、具体的な幼児は遊びの中でどのような経験をしているのかについて学び、5領域のねらいと内容のつながりを確認し、遊びを通して育つことを理解する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の基本や各領域のねらい及び内容について理解し、遊びを通して総合的に育つことについて、具体的に説明ができる。 ・幼児が園生活の中で経験していく内容と指導上の留意点を理解している。 ・幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 ・幼児教育と小学校教育との円滑な接続について説明ができる。 ・幼児の実態に沿って、保育の構想をしていくことの重要性を理解する。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	○						
	グループワーク	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	保育とはどのような営みか（幼稚園教育の基本及び評価について）									
第2回	保育者の役割①一人ひとりの幼児に応えるとは									
第3回	保育者の役割①一人ひとりの幼児に応えるとは（ディスカッション）									
第4回	保育者の役割②指導と援助（幼児の思考を視野に入れた保育の構想の重要性について）									
第5回	保育者の役割②指導と援助（幼児の言動等も視野に入れた保育の構想の重要性について）									
第6回	領域とは何か①保育内容と領域の関係（幼稚園教育の基本）									
第7回	領域とは何か①保育内容と領域の関係（各領域のねらい及び内容について）									
第8回	領域とは何か②5領域のねらい（遊びを通して総合的に育つことを理解する）									
第9回	領域とは何か②5領域内容のつながり（遊びを通して総合的に育つことを理解する）									
第10回	子どもの遊びの分析（遊びの中でどのような経験をしているのかについて学ぶ 1 基礎）									
第11回	子どもの遊びの分析（遊びの中でどのような経験をしているのかについて学ぶ 2 発展）									
第12回	幼児期における遊びと学びの関連性について（小学校以降の教科とのつながり）									
第13回	幼児期における遊びと学びの重要性について（小学校以降の教科とのつながり）									
第14回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながり（幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点）									
第15回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についての、振り返りとまとめ									
定期試験	筆記試験									
⑧自主学習の課題	テキストや資料、配布プリントを読み返し、理解を深めること。 予習：約30分間の学習時間を要する。シラバスに沿って事前に該当するテキストの箇所を目を通しておくこと。 復習：約30分間の学習時間を要する。毎回レクチャーのあとに演習課題が出される。									
⑨テキスト										
⑩参考書／参考資料／準備物等	参考資料等はその都度紹介する。必要資料はその都度配布する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレベール館 厚生労働省『保育所保育指針』フレベール館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレベール館									
⑪教材費										
⑫履修条件／履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	保育の営みの理解	保育者の役割の理解	総合的に見ることの理解	遊びの重要性の理解					③配点比率
	1 定期試験	○	○	○	○					70 %
2 小テスト										%
3 提出物	○	○	○	○					10 %	
4 発表・実技・プレゼン										%
5 受講態度	○	○	○	○					5 %	
6 自主学習態度	○	○	○	○					5 %	
7 その他 授業シート	○	○	○	○					10 %	
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計				100 %
⑤課題等に対するフィードバックの方法										
IV その他										

I 科目に関する項目									
①科目名	教育相談基礎論 Fundamental Theories of Educational Counseling					②科目コード	Y3-2B002		
③担当教員名	佐藤 亜美								
④実務経験	公認心理師、臨床心理士					⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	2単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免・教育の基礎的理解に関する科目等】道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法・幼児理解の理論及び方法								
⑬保育士養成課程	告示別表第2による教科目【選択必修科目】保育の対象の理解に関する科目								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	幼稚園における教育相談活動の展開								
②授業の概要	公認心理師、臨床心理士として、幼児・児童への発達支援・心理支援を行ってきた教員が授業を担当する。実務経験を用い、教育相談活動の具体的な事例をもとに講義を展開する。幼児の発達や学びの過程では、様々な心理的な問題が生じることがある。本講義では、幼児の発達の状況や心理的特質とともに、幼児を取り巻く環境要因を把握し、支援するための基礎的知識や方法を身に付ける。授業計画の前半では、教育相談活動の概要や幼児理解の方法について扱う。中盤では、基礎的なカウンセリング技法や園内での体制整備および地域の専門機関との連携を取り上げる。後半では、具体的な事例を通して教育相談の進め方を扱う。								
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. (関心・意欲・態度) 教育相談活動に関心をもち、最良の実践を自ら探求できる。 2. (思考・判断・表現) 幼児の心理的問題を理解し、相談活動を計画・評価できる。 3. (技能) 教育相談活動に必要な観察技法、カウンセリングの諸技法を実行できる。 4. (知識・理解) 教育相談を展開するために必要な基本的理論や概念を説明できる。 								
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○	グループワーク			
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援	○					
⑦授業の計画(授業の内容)									
第1回	オリエンテーション：講義の受け方と成績評価の説明、幼稚園における教育相談の意義								
第2回	幼稚園における教育相談活動の役割と展開の概要								
第3回	教育相談活動におけるカウンセリング・マインド								
第4回	幼児を理解する方法(1)：観察と記録による発達の理解								
第5回	幼児を理解する方法(2)：観察と記録による精神力動的な理解								
第6回	教育相談活動を展開する環境や態度								
第7回	教育相談活動に必要な諸技法(1)：カウンセリング技法								
第8回	教育相談活動に必要な諸技法(2)：行動的アプローチ								
第9回	地域における他職種との連携による教育相談活動								
第10回	幼児期の心理的問題と相談活動の実際(1)：育児不安や児童虐待								
第11回	幼児期の心理的問題と相談活動の実際(2)：場面緘黙								
第12回	幼児期の心理的問題と相談活動の実際(3)：吃音								
第13回	幼児期の心理的問題と相談活動の実際(4)：不登園								
第14回	幼児期の心理的問題と相談活動の実際(5)：いじめ								
第15回	教師のメンタルヘルスを高める取り組み								
定期試験	定期試験(筆記試験：持ち込みなし)を実施する								
⑧自主学習の課題	予習：各授業回において、予習シートを配布する。授業時において紹介する参考資料をもとに、調べておくこと。授業回の開始時に予習シートの提出を求める。予習には約90分の学習時間を要する。 復習：各授業回において、復習シートを配布する。復習事項について、当日の資料や参考書等を用いて調べ、復習シートにまとめておくこと。授業回の開始時に復習シートの提出を求める。復習には約90分の学習時間を要する。								
⑨テキスト	授業時に資料を配布する。								
⑩参考書/参考資料/準備物等	小田豊・秋田喜代美(編)『子どもの理解と保育・教育相談』みらい、2008年 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、2017年 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館、2017年								
⑪教材費	不要								
⑫履修条件/履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、授業資料を担当教員の研究室まで取りに来るか、web上からダウンロードし、復習・予習事項に自ら取り組むこと。必ず次回授業までに授業資料を入手すること。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率				
②評価方法									
1 定期試験		○	○	○				30	%
2 小テスト		○	○	○				30	%
3 提出物	○							10	%
4 発表・実技・プレゼン								0	%
5 受講態度	○							10	%
6 自主学習態度	○	○	○	○				15	%
7 その他	○							5	%
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・定期試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。								
IV その他									
「ピアヘルパー」、「准学校心理士」の受験や申請に必修の科目である。									

I 科目に関する項目										
①科目名	子ども家庭支援の心理学 Psychology to support a Child and a Family				②科目コード	Y3-2A001				
③担当教員名	上原 実貴									
④実務経験	公認心理師（4年）森田療法心理療法士（2年）ガイドン スカウンセラー（12年）カウンセリング心理士（16年）				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講 期	後期	⑧単位 (時間数)	2単位 (30)	⑨授業 形態	講義	⑩必選 別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種 免許	特二種 免許		保育士 資格		必修	発達障がい児 保育BP修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育の対象の理解に関する科目子ども家庭支援の心理学									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	子ども及び子育て中の家庭支援に必要なとなる心理学的知識									
②授業の概要	公認心理師として子どもから高齢者までの幅広い発達の支援に携わってきた教員が授業を担当する。本講義では、生涯発達やその課題を学びつつ、子ども一人ひとりが多様な家庭背景や社会環境の中でそれらの課題に直面していることを知ることで、対象となる子ども家庭のことをより包括的に深く理解できるようにすることを目的とする。また、それらの理解を背景に、子どもの心の健康とその課題についても理解する。講義形式で授業を行うとともに、双方向型授業として、パワーポイントや個別・グループワークを用いる。関心や理解度に応じて事例を紹介するが、チームで支援する良さを知るために、部分的にプロジェクト型学習の体験をしてもらいながら授業を進めていく。									
③履修者の到達目標 (学習成果)	1. 生涯発達における各発達段階の特徴及び課題について要約して説明できる。 2. 子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し、様々な子育て家庭の事例を包括的に理解・説明できる。 3. 子どもとその家庭を取り巻く現代の社会状況を説明できる。 4. 子どもの精神保健に対する基本的な知識及びその課題を学び、要約して説明できる。									
④ディプロマポリシー (DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラー ニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業			ディスカッション・ディベート				
⑥ ICT 機器による 授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業		○	○	○	○	○	○	○	
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	オリエンテーション：科目の目的・授業の進め方、生涯発達①青年期「自分について知る」（個別のワーク）									
第2回	家族・家庭理解、子育て家庭の現状と課題①：家族の時代的変化、ジェノグラム（個別のワーク）									
第3回	家族・家庭理解、子育て家庭の現状と課題②：結婚・出産・子育てをめぐる社会的状況、性別意識（個別のワーク）、生涯発達②成人期									
第4回	家族・家庭理解、子育て家庭の現状と課題③：子育てと就業の両立、子育て不安、ライフコース、ライフコースワーク（個別のワーク）									
第5回	家族・家庭理解、子育て家庭の現状と課題④：多様な子育て家庭とその理解、ひとり親家庭と離婚、貧困家庭									
第6回	家族・家庭理解、子育て家庭の現状と課題⑤：個別のワークで得た学びの確認とグループディスカッションによる共有									
第7回	子どもの精神保健とその課題①：アタッチメントの理解。心の健康を崩しているサインについて、事例から考える。									
第8回	子どもの精神保健とその課題②：事例からアタッチメントの質、家庭環境を読み取り、チームで課題を共有するグループワーク									
第9回	生涯発達③：アタッチメントの視点から乳幼児期の発達と保育者の態度									
第10回	生涯発達④：自己調整能力の視点から乳幼児期の発達と保育者の態度									
第11回	生涯発達⑤：幼児期について事例から発達課題を読み取る。情動や自己意識の発達、自己主張について考えを深める。									
第12回	生涯発達⑥：学童期の発達を見据えた乳幼児期から小学校へつなぐ育ち									
第13回	生涯発達⑦：社会情動的スキルの形成と人生（成人期、中年期の発達）、祖父母（高齢期の発達）と孫									
第14回	生涯発達と家族、子育て家庭の現状に関するまとめ									
第15回	レジュエンス、保育者のセルフケア									
定期試験	実施する（筆記試験）									
⑧自主学習の課題	予習：各回の授業において、次回に向けた課題を指示する。テキストの該当ページに、目を通し、不明の用語はあらかじめ調べる。予習は約90分の学習時間を想定している。 復習：配布資料及びテキストの内容を整理し、講義内容を要約してまとめる。復習は約90分の学習時間を想定している。									
⑨テキスト	児童育成協会（監修）白川佳子・福丸由佳（編集）『子ども家庭支援の心理学』中央法規、2019。									
⑩参考書／参考資料 ／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上 の注意事項	特になし									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	各発達段階の 特徴と課題	子育て家庭の 事例	子どもと家庭を 取り巻く 社会状況	子どもの 精神保健の 知識と課題					③配点比率	
②評価方法										
1 定期試験	○	○	○	○				40	%	
2 小テスト								0	%	
3 提出物	○	○	○	○				40	%	
4 発表・実技・プレゼン								0	%	
5 受講態度	○	○	○	○				20	%	
6 自主学習態度								0	%	
7 その他									%	
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計				100	%
⑤課題等に対するフィード バックの方法	・授業内課題に関しては、その授業中または以降の授業の中でフィードバックを行う。 ・定期試験に関しては、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	幼児と人間関係 Children and Human Relationship					②科目コード	Y4-2A002			
③担当教員名	坂本 真季									
④実務経験	公認心理師、臨床発達心理士					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【幼二種免許・領域及び保育内容の指導法に関する科目】領域及び保育内容の指導法に関する科目・領域に関する専門的事項：人間関係									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児を取り巻く現代的課題と人間関係の発達について関係発達論的視点から理解する									
②授業の概要	本演習科目は、幼児の育つ環境の現状と課題をふまえながら乳幼児の人間関係の発達と保育者としてのかかわり方について理解を深めていく。公認心理師(臨床発達心理士)として子育て支援・保育現場に従事してきた教員が担当し、実務経験を活かして具体的な事例をもとに進めていく。毎回の授業は、双方向的授業としてパワーポイントや映像資料を用いて受講者の理解度や関心に応じて進める。また、事例に対するディスカッションやロールプレイなどのグループワークを取り入れる。反転授業および自主学習として Google classroom を活用して資料や課題を提示する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1 [関心・意欲・態度] 幼児の人間関係を取り巻く現代的な課題と幼児期の人間関係に関心をもち、自ら探求できる。 2 [思考・判断・表現] 幼児の行動を状況や発達をふまえながら、多面的に考察し、意見を述べることができる。 3 [技能] 幼児の育ちにおいて家族や地域が果たす役割について理解し、幼児への望ましい関わり方について検討することができる。 4 [知識・理解] 幼児の人間関係の発達特徴について理解し、説明することができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	○	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	グループワーク	
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	現代社会の特徴と乳幼児の人間関係 *オリエンテーションを含む									
第2回	保育における人間関係									
第3回	幼児期に育みたい資質・能力									
第4回	幼児期に育みたい資質・能力と保育者のかかわり *事例およびロールプレイを通して検討する									
第5回	乳幼児の人間関係の育ち—信頼と愛着—									
第6回	乳幼児と人間関係と保育者のかかわり *事例およびロールプレイを通して検討する									
第7回	幼児の遊びと協同性の育ち									
第8回	幼児の協同性と保育者のかかわり *事例およびロールプレイを通して検討する									
第9回	幼児の自立心の育ち									
第10回	幼児の自立心と保育者のかかわり *事例およびロールプレイを通して検討する									
第11回	幼児の道徳性・規範意識の育ち									
第12回	幼児の道徳性・規範意識と保育者のかかわり *事例およびロールプレイを通して検討する									
第13回	保育者の言葉かけ—子どもの主体性を育む観点から—									
第14回	子どもの遊びの観察方法—子どもの目線で捉える—									
第15回	子どもの人間関係と保育者の役割									
定期試験	実施する(レポート課題)									
⑧自主学習の課題	予習：次回の内容に関連する事項を調べるなど、Google classroom の課題に取り組む。約 30 分間の学習時間を要する。 復習：配布プリントと授業内容をふまえて Google classroom の課題に取り組む。約 30 分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	なし									
⑩参考書/参考資料/準備物等	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者全員が自由に意見が出し合える雰囲気をつくれるよう、他者の意見を尊重し、ポジティブなやりとりを期待します。 ・やむを得ない理由により欠席した場合には、翌週の授業時に授業資料を受け取る。 ・本科目の Classroom に必ず参加すること(クラスコードは初回の講義で伝えます)。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には、Google classroom (meet を含む)を活用しオンライン授業を行う。 									
⑪教材費										
⑫履修条件/履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験	○	○	○	○	40	%				
2 小テスト					0	%				
3 提出物	○	○	○	○	40	%				
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	0	%				
5 受講態度	○	○	○	○	10	%				
6 自主学習態度	○	○	○	○	10	%				
7 その他						%				
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育内容の指導法「人間関係」 Pedagogy of Early Childhood Education and Care; Human Relationships					②科目コード	Y4-2B010			
③担当教員名	藪中 征代									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科科目】保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	人間関係を育むための援助方法									
②授業の概要	本授業では、領域「人間関係」のねらい及び内容の理解を深める。保育内容「人間関係」は時代の流れや変化の中で非常に重視しなければならない領域であり、人間の原点である乳幼児期の人間形成の重要性について理解する。そのことを理解した上で、幼稚園・保育所・幼保連携型こども園における子どもの人間関係の形成について考える。「人間関係」の範囲は、乳幼児同士、乳幼児と保護者や保育者、保育者同士、保育者と保護者など多岐にわたる。学生にとっては未だ構築したことのない人間関係を扱うにあたり、具体的な保育現場の事例を映像教材で示し、実際の乳幼児の姿をイメージしやすいようにする。									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 領域「人間関係」のねらい及び内容の全体構造・指導上の留意点を説明できる。 保育現場における人間関係を育むための指導を計画できる。 遊びや生活の中で「人と関わる力」がどのように発達するのか、および発達に即した援助を理解し、それを説明できる。 具体的な事例を通して、人と関わる力をはぐくむための適切な援助について説明できる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	ガイダンス、領域「人間関係」の意義を理解する。									
第2回	領域「人間関係」のねらいの意味とねらいを達成するための援助を理解する。									
第3回	乳幼児を取り巻く環境、家庭生活の変化と課題を知る。									
第4回	0歳児～2歳児の人との関わりが育つ過程を理解する。また、発達に即した保育者の援助について学び、指導計画に表す。									
第5回	3歳児～5歳児の人との関わりが育つ過程を理解する。また、発達に即した保育者の援助について学び、指導計画に表す。									
第6回	愛着形成の視点から、愛着の形成過程、大人の関わりの基本姿勢について理解する。									
第7回	依存と自立の視点から依存の意味を考え、依存と自立の関係を理解する。また、自立に向けた保育者の援助について理解する。									
第8回	自我の発達、自己主張、自己抑制の関係を理解する。									
第9回	乳幼児期のコミュニケーションの特徴と重要性を理解し、コミュニケーション能力をはぐくむ保育者の援助を理解する。									
第10回	生活や遊びの中でとらえた子ども同士の関係、保育者の援助について理解し、いざこざの原因、保育者の援助についてまとめる。									
第11回	いざこざを通して成長する力を知り、いざこざへの対処、援助の方法を理解する。									
第12回	共感する気持ちや思いやりをはぐくむための援助を理解、幼児期にふさわしい道徳性、人権教育について考える。									
第13回	個と集団の関係を考え、一人一人が生きられる集団について理解し、協同性をはぐくむための適切な援助について考える。									
第14回	都市化の動向の中で地域資源を活用し、様々な人と関わる展開を考える。									
第15回	国際化の動向の中で、多文化保育を通じた多様な子どもとの関わりを考える。									
定期試験	実施する(課題レポートの提出)									
⑧自主学習の課題	復習：毎回の授業内容のキーワードや論点をもとに復習をすること。次回のキーワードを予習し、疑問点をノートにまとめておくこと。復習には約60分の学習時間を要する。 予習：各授業回において予習事項を提示する。予習事項についてはノートにまとめておくこと。予習には約60分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	藪中征代・玉瀬友美編著『保育内容・人間関係』萌文書林(2023年7月発刊予定)									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項	グループディスカッションでは、積極的に自身の考えを他者に発表すること。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	ねらい・内容	指導計画	「人と関わる力」の発達と援助	「人と関わる力」をはぐくむ援助					③配点比率	
1 定期試験	○	○	○	○					40	%
2 小テスト	○	○	○	○					30	%
3 提出物	○	○	○	○					10	%
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○					20	%
5 受講態度									0	%
6 自主学習態度									0	%
7 その他									0	%
④ルーブリック評価	取り入れている							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題に対しては以下の方でフィードバックを実施 ・個別にゲーグルクラスルーム等へのコメント付きの返却 ・集団に対しては、対面授業時に課題の解説を実施									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	知的障害者の心理・生理・病理 Pathology, Physicology, Psychology for Intellectually Disabled Persons					②科目コード	Y3-2A004			
③担当教員名	木下 愛									
④実務経験	公認心理師、臨床心理士					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(15)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育BP修了		必修	
⑫教職課程	【特二種免・特別支援教育に関する科目】特別支援教育領域に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目									
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】(告示別表第2による教科目) 保育の対象の理解に関する科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	知的障害の特性の理解									
②授業の概要	公認心理師、臨床心理士として、障害児童の心理支援を行ってきた教員が授業を担当する。児童精神科クリニックおよび療育機関において、種々のアセスメント方法を用いて、児童生徒の理解を他の専門職と協働した経験を生かし、知的障害者の具体的な事例を紹介する。講義では、知的障害者の心理的、生理的、病理的特性について学習する。個の特性に応じた適切な発達教育支援の在り方、知的障害とこれに関連する障害、合併疾患などについて学び、基礎的知識を身につける。受講生には、毎回の授業においてディスカッションに参加することが求められる。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 知的障害の定義や原因を説明できる。 2. 知的障害に関連する障害の概要を説明できる。 3. 知的障害の運動・認知特性と支援を説明できる。 4. 知的障害の言語・社会的特性と支援を説明できる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業		○	グループワーク		○	グループクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	オリエンテーション(講義の受け方と成績評価の説明)、知的障害の定義と知的機能									
第2回	知的障害の原因(生理型と病理型の理解)									
第3回	知的障害と関連する障害: ダウン症候群									
第4回	知的障害と関連する障害: てんかん									
第5回	知的障害の運動特性と支援									
第6回	知的障害の感覚・知覚・認知特性と支援									
第7回	知的障害の言語・コミュニケーション特性と支援									
第8回	知的障害のパーソナリティ・社会性と支援									
定期試験	定期試験(筆記試験: 持ち込みなし)を実施する									
⑧自主学習の課題	予習: 各授業回において、予習シートを配布する。授業時において紹介する参考資料をもとに、調べておくこと。授業回の開始時に予習シートの提出を求める。予習には約90分の学習時間を要する。 復習: 各授業回において、復習シートを配布する。復習事項について、当日の資料や参考書等を用いて調べ、復習シートにまとめておくこと。授業回の開始時に復習ノートの提出を求める。復習には約90分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に資料を配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領—平成29年4月告示』海文堂出版、2018年 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚部・小学部・中学部)』海文堂出版、2018年 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版、2018年									
⑪教材費	不要									
⑫履修条件/履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、授業資料を担当教員の研究室まで取りに来るか、web上からダウンロードし、復習・予習事項に自ら取り組むこと。必ず次回授業までに授業資料を入手すること。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	②評価方法	定義と原因	関連障害	運動・認知	言語・社会			③配点比率		
1	定期試験	○	○	○	○			40	%	
2	小テスト	○	○	○	○			40	%	
3	提出物							0	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度							0	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			20	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れている					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・定期試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理 Pathology, Physiology, Psychology for Disabled Persons					②科目コード	Y3-2A005			
③担当教員名	渡邊 章									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(15)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	必修	保育士資格	発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程	【特二種免・特別支援教育に関する科目】特別支援教育領域に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目									
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】(告示別表第2による教科目)保育の対象の理解に関する科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理について学ぶ									
②授業の概要	この授業では、肢体不自由の起因疾患となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の肢体不自由の状態や感覚機能の発達及び認知の特性を理解するとともに、家庭や関係機関との連携について理解する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1) 肢体不自由の起因疾患となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。 2) 観察や検査を通して、脳性まひのある幼児、児童又は生徒一人一人の肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達及び認知の特性を把握することを理解している。 3) 家庭や医療機関との連携の重要性について理解している。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート			○				
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○				
⑦ 授業の計画(授業の内容)	パソコン・タブレット端末による双方向授業									
⑦ 授業の計画(授業の内容)	Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援									
⑦ 授業の計画(授業の内容)	○									
⑦ 授業の計画(授業の内容)	第1回 インTRODクシヨンー授業のねらいと学習の進め方ー									
⑦ 授業の計画(授業の内容)	第2回 肢体不自由の概念									
⑦ 授業の計画(授業の内容)	第3回 肢体不自由の起因疾患									
⑦ 授業の計画(授業の内容)	第4回 肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の認知の困難と特性の把握									
⑦ 授業の計画(授業の内容)	第5回 肢体不自由のある幼児、児童又は生徒のコミュニケーションの困難と特性の把握									
⑦ 授業の計画(授業の内容)	第6回 肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の運動・動作の困難と特性の把握									
⑦ 授業の計画(授業の内容)	第7回 肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の移動介助における配慮点									
⑦ 授業の計画(授業の内容)	第8回 肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の支援における家庭や医療機関との連携									
⑧ 自主学習の課題	予習 次回のテーマについて各種資料を調べて概要を理解しておく。毎回の授業開始時に質疑応答により理解度を確認する。予習に約90分の学習時間を要する。 復習 毎回配布する資料から重要な点を整理し、考察を加えて提出する。復習に約90分の学習時間を要する。									
⑨ テキスト	植草学園大学・短期大学特別なニーズ教育研究グループ編著『特別なニーズ教育の基礎と方法』ジヤース教育新社									
⑩ 参考書/参考資料/準備物等	参考図書は、授業で随時紹介する。 準備物については、授業で指示する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領—平成29年4月告示』海文堂出版									
⑪ 教材費	なし									
⑫ 履修条件/履修上の注意事項	特になし									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	肢体不自由者の心理・生理・病理に関する基本	肢体不自由者の生活や学習における配慮点								③配点比率
②評価方法										
1 定期試験	○	○								50 %
2 小テスト										0 %
3 提出物	○	○								20 %
4 発表・実技・プレゼン	○	○								10 %
5 受講態度	○	○								10 %
6 自主学習態度	○	○								10 %
7 その他										0 %
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		100		%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	毎回提出するレポートへのコメントによりフィードバックする。									
IV その他										

I 科目に関する項目									
①科目名	病弱者の心理・生理・病理 Pathology, Physiology, Psychology for Invalids				②科目コード	Y3-2A006			
③担当教員名	渡邊 章								
④実務経験					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(15)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	必修	保育士資格	発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程	【特二種免許・特別支援教育に関する科目】特別支援教育領域に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目								
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】(告示別表第2による教科目)保育の対象の理解に関する科目								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理について学ぶ								
②授業の概要	この授業では、病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の病気等に関する病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を理解するとともに、家庭や学校間、関係機関との連携について理解する。								
③履修者の到達目標(学習成果)	1) 病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の病気(身体疾患や精神疾患)や心身の不調な状態が続く背景となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。 2) 観察や検査、医療機関からの情報提供を通して病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を把握することを理解している。 3) 家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携の重要性について理解している。								
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート		○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画(授業の内容)									
第1回	イントロダクションー授業のねらいと学習の進め方ー								
第2回	病弱(身体虚弱を含む)の概念								
第3回	病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の病気(身体疾患や精神疾患)や心身の不調な状態が続く背景となる病理面と心理面及び生理面の特徴とそれらの相互作用								
第4回	病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性の把握								
第5回	病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の支援における心理面の配慮点								
第6回	病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の支援におけるアシスティブテクノロジーの活用と配慮点								
第7回	病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の食べることの支援における配慮点								
第8回	病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の支援における家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携								
定期試験	レポート提出								
⑧自主学習の課題	予習 次のテーマについて各種資料を調べて概要を理解しておく。毎回の授業開始時に質疑応答により理解度を確認する。予習に約90分の学習時間を要する。 復習 毎回配布する資料から重要な点を整理し、考察を加えて提出する。復習に約90分の学習時間を要する。								
⑨テキスト	植草学園大学・短期大学特別なニーズ教育研究グループ編著『特別なニーズ教育の基礎と方法』ジヤース教育新社								
⑩参考書/参考資料/準備物等	参考図書は、授業で随時紹介する。 準備物については、授業で指示する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領—平成29年4月告示』海文堂出版								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件/履修上の注意事項	特になし								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	病弱者の心理・生理・病理に関する基本	病弱者の生活や学習における配慮点						③配点比率
	1 定期試験	○	○						50 %
2 小テスト									0 %
3 提出物	○	○							20 %
4 発表・実技・プレゼン	○	○							10 %
5 受講態度	○	○							10 %
6 自主学習態度	○	○							10 %
7 その他									0 %
④ルーブリック評価								比率合計	100 %
⑤課題等に対するフィードバックの方法									
IV その他									

I 科目に関する項目										
①科目名	視覚障害者の心理・生理・病理 Pathology, Physiology, Psychology for Visually Impaired Persons					②科目コード	Y3-2A007			
③担当教員名	大内 進									
④実務経験	特別支援学校教諭 (25年)					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(15)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程	【特二種免・特別支援教育に関する科目】免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理・生理及び病理に関する科目									
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】(告示別表第2による教科目) 保育の対象の理解に関する科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	視覚障害児・者の心理・生理・病理について、特別支援教育との関連においてその基本事項を学ぶ。									
②授業の概要	盲学校での実務経験やこれまでの実際の研究の成果を踏まえて、生理に関しては主に視覚及び触覚の基礎知識について、病理に関しては視覚障害と関連深い眼疾患の概要と保育や教育の場で配慮すべき事項について、心理については全盲児及び弱視児の認知特性とそれに応じた支援や指導での配慮事項について、それぞれ感覚代行の有用性と関連付けて概説する。障害理解の観点から点字や白杖歩行等の習得のメカニズムも紹介する。講義は基本的にパワーポイントを用いて双方向型の授業の推進および授業内容の理解促進に努める。ゲーグルクラスルーム (google classroom) を利用して自主学習を支援する。点字、歩行、日常動作については実習活動を取り入れる。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 眼の機能等に関連付けて視覚障害の概要を説明できる。 2. 全盲児及び弱視児の知覚・認知・概念発達等の特性を説明できる。 3. 視覚に障害がある幼児児童生徒の保育や教育場面に於ける有効な視覚や視覚以外の感覚を活用した指導や支援を行うための配慮事項を説明できる。 4. 点字、歩行および日常生活動作等に関する基本事項を学び、感覚代行の有用性と関連付けて説明できる(障害理解)。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業		○	ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援	○					
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	①視覚障害とは	②眼の構造と働き		③点字の基礎(1)点字とは						
第2回	①視覚と視機能	②点字の基礎(2)点字表記(清音)								
第3回	①視覚障害に関連する主な眼疾患	②点字の基礎(3)点字表記(濁音等)								
第4回	①触覚の生理と機能	②点字の基礎(4)点字表記(数字等)								
第5回	①視覚障害児の知覚特性と認知発達	②点字の基礎(5)点字文法の基本								
第6回	①視覚障害児の概念形成	②介添え歩行の原則								
第7回	①中途障害者と「障害の受容」の課題	②白杖歩行及び日常動作の自立の基礎								
第8回	①視覚障害者の自立と社会参加	②視覚障害者の心理・生理・病理面から保育における配慮についてまとめる。								
定期試験	筆記試験(持ち込みなし)を実施する									
⑧自主学習の課題	予習: 各授業回においてキーワード及び参考資料等を示し、事前学習を求める。予習した内容は所定のシートに記載し、授業回の開始時に提出を求める。約90分の学習時間を要する。 復習: 各学習回において、復習事項及び理解確認のための課題シートあるいはレポートを提示する。課題等は次の授業開始時に提出を求める。約90分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	毎回、プリント資料を配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	参考書 香川邦生他編『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援』教育出版、 香川邦生編、猪平真理、大内進、牟田口辰巳著『視覚障害教育に携わる方のために五訂新版』慶応義塾大学出版会 2021年 阿佐 博著『点字のレッスン』改訂新版視覚障害者支援総合センター 2020年 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版 2018年 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版 2018年									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	②評価方法	③配点比率								
	①学習項目	③配点比率	④眼の機能と視覚障害の概要	⑤知覚・認知・概念発達等の特性	⑥保育や教育場面での配慮について	⑦障害理解				
1	定期試験	50%	○	○	○	○				
2	小テスト	10%	○	○	○	○				
3	提出物	10%	○	○	○	○				
4	発表・実技・プレゼン	10%	○	○	○	○				
5	受講態度	10%	○	○	○	○				
6	自主学習態度	10%	○	○	○	○				
7	その他	%								
④ルーブリック評価	取り入れていない		比率合計			100%				
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題やレポートについては添削の上返却する。									
IV その他										

I 科目に関する項目									
①科目名	聴覚言語障害者の心理・生理・病理 Pathology, Physiology, Psychology for Hearing Impaired Persons					②科目コード	Y3-2A008		
③担当教員名	村尾 愛美								
④実務経験	リソースルームティーチャー（1年）／児童指導員（3年）					⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（15）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【特二種免・特別支援教育に関する科目】免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理・生理及び病理に関する科目								
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育の対象の理解に関する科目								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	聴覚障害及び言語障害に関する心理・生理・病理学的な基礎事項と子どもの特性								
②授業の概要	リソースルームティーチャーとして通常の学級に在籍している発達障害等により特定の教科学習の理解に困難を示している児童に対する学習支援、また、児童指導員として児童発達支援センターにおける発達に遅れや偏りのある乳幼児に対する指導・支援などの実務経験のある教員による講義である。 本授業では、聴覚障害、言語障害の心理・生理・病理に関する基礎知識及び技能を身につけることをねらいとする。また、言語・コミュニケーションの困難さと関連して、自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害や情緒障害におけるコミュニケーションの問題についても学習する。								
③履修者の到達目標（学習成果）	1 [知識・技能] 言語障害、聴覚障害の概念・定義、種類・原因を説明できる。言語障害児、聴覚障害児の特性について説明できる。言語障害及び聴覚障害の評価法を説明できる。いわゆる知的発達に遅れのない発達障害や情緒障害における言語・コミュニケーションの問題を説明できる。 2 [思考・判断・表現] 言語獲得と言語障害及び聴覚障害との関係、その他の言語・コミュニケーションの困難さに関する知見に基づき、言語・コミュニケーションの成り立ち、それを踏まえた在り方について述べるができる。 3 [関心・意欲・態度] 言語障害児、聴覚障害児を含め、言語・コミュニケーションに困難さを示す子どもの特性に関心を持ち、自ら学習を進めることができる。								
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート					
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業		○	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク	
⑦授業の計画（授業の内容）	第1回 言語獲得、言語発達について：授業のねらい、進め方を含む 第2回 言語障害の基礎知識：音声言語の困難さ、構音障害、吃音について 第3回 言語障害の基礎知識：音声言語の困難さ、特異的言語発達障害（SLI）について 第4回 言語障害の基礎知識：書記言語の困難さ、発達性ディスレクシアについて 第5回 聴覚障害の基礎知識：概念・定義、障害の種類と原因について 第6回 聴覚障害の基礎知識：きこえの評価について 第7回 聴覚障害の基礎知識：きこえの困難さと言語について 第8回 その他の言語・コミュニケーションの問題：自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害、情緒障害のある子どもの困難さ								
定期試験	筆記試験（持ち込み可）を実施する								
⑧自主学習の課題	予習：各授業回において、次回の授業内容に関する資料を配布し、予習事項を提示する。配布資料を含め、参考書・参考資料などを用いて予習しておくこと。予習には約90分を要する。 復習：各授業回において、復習事項を提示する。配布資料や参考書・参考資料などを用いて、復習事項をまとめ、次回の授業までに提出すること。復習には約90分を要する。								
⑨テキスト	必要に応じて、資料を配布する。								
⑩参考書／参考資料／準備物等	我妻敏博『聴覚障害児の言語指導－実践のための基礎知識 改訂版』田研出版、2011。 岩立志津夫・小椋たみ子（編）『よくわかる言語発達 改訂新版』ミネルヴァ書房、2017。 加藤正子・竹下圭子・大伴 潔（編著）『特別支援教育における構音障害のある子どもの理解と支援』学苑社、2012。 小林宏明・川合紀宗（編著）『特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援』学苑社、2013。 大伴 潔・大井 学（編著）『特別支援教育における言語・コミュニケーション・読み書きに困難がある子どもの理解と支援』学苑社、2011。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文部科学省『特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領—平成29年4月告示』海文堂出版								
⑪教材費	不要								
⑫履修条件／履修上の注意事項	本授業ではグループワークを用いて課題及び授業資料の提示を行う。そのため、クラスルームに必ず参加すること（担当教員が初回授業時までに案内する）。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
①学習項目	知識・技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度					③配点比率	
②評価方法									
1 定期試験	○	○						50	%
2 小テスト	○	○						20	%
3 提出物	○	○	○					20	%
4 発表・実技・プレゼン								0	%
5 受講態度			○					5	%
6 自主学習態度			○					5	%
7 その他								0	%
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	授業ごと提出物に対して、講評を行う。 定期試験及び最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。								
IV その他									

I 科目に関する項目										
①科目名	保育内容の指導法「言葉」 Pedagogy of Early Childhood Education and Care;Language					②科目コード	Y4-2B008			
③担当教員名	古川 寿子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免・教職に関する科目】教育課程及び指導法に関する科目・保育内容の指導法									
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目)保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習(演習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	乳幼児の言葉の発達を促す指導法について学ぶ									
②授業の概要	幼稚園・保育所等において、乳・幼児の言葉の発達過程や学びの過程を踏まえた適切な指導や支援のできる幼稚園教諭・保育士になるために、領域「言葉」のねらいと内容を押さえた上で、乳・幼児の年齢に応じた「言葉の発達」を促す指導案作成と口頭発表・実演を行うこととする。また、幼稚園教諭・保育士の言葉掛けや援助について理解を深める。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1.『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』等の領域「言葉」のねらいと内容について理解し、説明することができる。 2.乳・幼児の「言葉」の発達の過程を理解し、実践に活かすことができる。 3.乳・幼児の「言葉」を促す児童文化財について理解し、援助・指導の方法を学ぶとともに、指導案を作成・実演を行うことができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
⑥ICT機器による授業や支援	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク							
⑦授業の計画(授業の内容)	パソコン・タブレット端末による双方向授業 ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援									
第1回	授業の進め方・評価方法について、言葉の働きと児童文化財について学ぶ。学生による発表内容とグループの決定									
第2回	児童文化財の理解とグループで採り上げる「言葉遊び」「絵本」「紙芝居」「素話」等の検討。「0、1、2歳児用絵本」の特徴についての理解									
第3回	教材研究の方法についての説明①「3、4、5歳児用の絵本」の特徴を知る。図書館で絵本・紙芝居等を研究する。指導案の書き方を学ぶ									
第4回	乳幼児の言葉の発達の実態① 0～2歳、乳児の言葉を育てる「語りかけ」についての理解									
第5回	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「言葉」の領域の3つの視点とねらい・内容(0.1.2歳児)									
第6回	乳幼児の言葉の発達の実態② 3～6歳前後、保育現場における子どもの言葉の成長・発達についての理解(3～4歳児)									
第7回	乳幼児の言葉の発達の実態③ 3～6歳前後、保育現場における子どもの言葉の成長・発達についての理解(4～5歳児)									
第8回	乳幼児の言葉の発達の実態④ 3～6歳前後、保育現場における子どもの言葉の成長・発達についての理解(5～6歳児)									
第9回	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「言葉」の領域のねらい(3.4.5歳児)									
第10回	学生発表準備(幼稚園教育要領の内容の発表資料作成)									
第11回	学生発表①乳・幼児への言葉の指導(0・1・2歳児向き絵本による演習)と内容(1・2・3)の発表、全員による講評、教師による補説を行う。									
第12回	学生発表②幼児への言葉の指導(3・4歳児向き絵本・素話による演習)と内容(4・5・6)の発表 全員による講評、教師による補説を行う									
第13回	学生発表③幼児への言葉の指導(5歳向き絵本・素話による演習)と内容(7・8・9)の発表 全員による講評 教師による補説を行う									
第14回	学生発表④言葉を育てる児童文化財(4・5歳児向き紙芝居・素話による演習)と内容(10)の発表 全員の講評 教師による補説と文字指導についての理解									
第15回	学生発表⑤言葉を育てる児童文化財(言葉遊びによる演習)と言葉に支援の必要な幼児の指導についての理解。									
定期試験	筆記試験(持ち込みなし)を実施する。									
⑧自主学習の課題	予習:グループ発表のスケジュールに基づき、演習発表・指導案の実演で採り上げる言葉遊び・絵本・紙芝居・素話についての調査・研究・発表資料作成・実演の練習を行う。約30分の学習時間を要する。 復習:乳・幼児の言葉の発達過程と児童文化財の選定・活用について復習し、後期の「幼稚園教育実習」および専攻科の「保育実習」に役立てられるようにする。約30分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	保育内容「言葉」乳幼児期の言葉の発達と援助 ミネルヴァ書房									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項	実習の日程により、計画の順序が変わることがある。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	領域「言葉」のねらいと内容の理解	乳・幼児の言葉の発達への理解	乳・幼児への言葉掛け・援助・指導の方法	領域「言葉」における指導案の作成・実演	③配点比率				
	1 定期試験	○	○	○	○	70	%			
2 小テスト					0	%				
3 提出物	○	○	○	○	10	%				
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	10	%				
5 受講態度	○	○	○	○	5	%				
6 自主学習態度	○	○	○	○	5	%				
7 その他					0	%				
④ルーブリック評価	取り入れている(学生による演習発表について)					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	社会福祉論 Social Welfare					②科目コード	Y2-2A004			
③担当教員名	野崎 陽弘									
④実務経験	障害児者相談支援（15年） （社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育の本質・目的的理解に関する科目 社会福祉（講義）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育士のための社会福祉の基礎知識									
②授業の概要	障害児・者の相談支援事業や生活困窮者支援、ひきこもり支援などに従事してきた教員が本科目を担当する。事例や実践をふまえながら、社会福祉に関する歴史や法制度、理論などについて講義を展開する。前半では、社会福祉の意義と歴史の変遷、法制度やその動向について、後半は社会福祉の専門職としての価値・知識・技術、権利擁護のあり方や仕組みなどについて取り上げる。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1 〔関心・意欲・態度〕社会福祉の意義、歴史の変遷、法制度の動向に関心を持ち、自ら探求できる。 2 〔思考・判断・表現〕社会福祉における現代的課題について多面的に考察し、社会福祉制度や相談援助の原則をふまえて自分の意見を述べるができる。 3 〔技能〕社会福祉に関する事例について必要な情報を選択し、課題解決に向けた検討ができる。 4 〔知識・理解〕社会福祉の理念、法制度や体系、相談援助の原則について理解し説明することができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク							
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	私たちの生活と社会福祉									
第2回	社会福祉のあゆみ									
第3回	生活を守る社会保障制度									
第4回	社会福祉の制度と体系									
第5回	社会福祉の実施機関									
第6回	社会福祉の施設									
第7回	子ども家庭支援と社会福祉									
第8回	共生社会と障がい者福祉									
第9回	高齢者の福祉と介護保険									
第10回	地域福祉の意味と推進方法									
第11回	社会福祉の専門職と倫理									
第12回	相談援助の原理と方法									
第13回	福祉サービスの利用支援と第三者評価									
第14回	権利擁護と苦情解決									
第15回	社会福祉の動向と課題									
定期試験	実施する（筆記試験・持ち込みなし）									
⑧自主学習の課題	予習：各回に該当するテキストの章を事前に読み、概略を理解しておく。予習には約90分間の学習時間を要する。 復習：テキストおよび配付資料を中心に復習を行うこと。復習には約90分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	橋本好市・宮田徹（編）『保育と社会福祉（第3版）』みらい									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率				
	1 定期試験		○	○	○	70	%			
2 小テスト						0	%			
3 提出物						0	%			
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○		20	%			
5 受講態度	○					10	%			
6 自主学習態度						0	%			
7 その他						0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価についての問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	子ども家庭福祉 Child and Family Welfare					②科目コード	Y2-2A005			
③担当教員名	野田 敦史									
④実務経験	児童指導員・支援員（社会福祉士・介護福祉士）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	2単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科科目）保育の本質・目的の理解に関する科目 子ども家庭福祉（講義）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	子ども家庭福祉に関する基本的な知識・理解									
②授業の概要	児童指導員・支援員（社会福祉士・介護福祉士）として児童福祉施設等で従事してきた教員が講義を担当する。子どもを取り巻く歴史と現状を踏まえ、子ども家庭福祉の基本的理念や概念、制度等が、それらの事象とどのように結びついているのか理解を深める。授業方法は講義が中心となるが、具体的な子ども家庭福祉の制度に関連する機関・施設等のイメージを理解できるよう動画等の視聴も取り入れながら授業展開する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. [関心・意欲・態度] 子どもを取り巻く歴史や現代の社会情勢について関心と社会的課題意識を持つことができる。 2. [思考・判断・表現] 子どもの福祉・家庭に関連する社会的課題を統計データから読み取り、説明することができる。 3. [技能] 子ども家庭福祉分野の施策と支援サービスを体系的に分類し、それに対応した保育士としての役割を実行（イメージ）できる。 4. [知識理解] 子ども家庭福祉の知識を使って支援の現状と課題を説明することができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク						
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	子ども家庭福祉を学ぶにあたって									
第2回	子どもとその家族を取り巻く社会の現状									
第3回	子どもとその家族が直面している諸問題									
第4回	子どもの権利と子ども家庭福祉の理念									
第5回	子ども家庭福祉の歴史									
第6回	子ども家庭福祉に関する法制度									
第7回	子ども家庭福祉の実施体制									
第8回	少子化対策と保育施策									
第9回	子どもの健全育成・地域子育て支援に関するサービス									
第10回	児童虐待とドメスティック・バイオレンス									
第11回	社会的養護を必要とする子どもに対するサービス									
第12回	障がいのある子どもとその家庭に対するサービス									
第13回	非行問題や心理治療の必要性を抱える子どもへのサービス									
第14回	ひとり親家庭に対するサービスと子どもの貧困問題									
第15回	貧困家庭、外国へつながる子どもの家庭に対するサービス									
定期試験	筆記試験（持ち込みなし）を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：授業回のテーマに沿ったテキスト内の該当章を通読し、課題ワークシートに取り組み（約90分間の学習時間を要する）。 復習：課題ワークシートに授業の感想・質疑を記入する（約90分間の学習時間を要する）。									
⑨テキスト	比嘉真人監修、石山直樹ら編集【第2版】『輝く子どもたち・子ども家庭福祉論』みらい 2022年									
⑩参考書／参考資料／準備物等	参考書：文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 参考資料：厚生労働省 HP「子ども・子育て」 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/index.html									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	課題ワークシートは毎回、事前に配布するので記入しておくこと。 小テストは毎回、実施予定。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識理解	③配点比率				
	1 定期試験	○	○		○	50	%			
	2 小テスト	○	○		○	25	%			
	3 提出物	○	○		○	10	%			
	4 発表・実技・プレゼン					0	%			
	5 受講態度	○				5	%			
	6 自主学習態度	○	○		○	10	%			
	7 その他					0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	小テストの結果及び模範解答は、授業回ごとにフィードバックする。 成績評価に対する問い合わせは、各評価項目ごとの評価基準と素点をもとに個別に説明する。									
IV その他										
「社会福祉主事任用資格」に該当する科目である。										

I 科目に関する項目									
①科目名	子ども家庭支援論 Child and family Support Theory					②科目コード	Y2-2B006		
③担当教員名	坂本 真季								
④実務経験	公認心理師・臨床発達心理士					⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	2単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の対象の理解に関する科目 家庭支援論(講義)								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	子育て家庭の現状と支援のあり方								
②授業の概要	公認心理師(臨床発達心理士)として保育現場に従事してきた教員が本講義を担当する。実務経験を活かして、事例や映像資料を取り入れながら講義を展開する。本講義は子育て家庭を取り巻く問題や家族形態の多様化をふまえた支援のあり方および制度と保育者の役割について取り上げる。毎回の講義は双方向型授業として、パワーポイントを用いて受講者の理解度や関心に応じて進めていく。また、Google classroomを活用し課題および授業資料を提示することで学生の自主学習を支援する。また、Classroomを活用して反転授業を多く取り入れる予定である。								
③履修者の到達目標(学習成果)	1 [関心・意欲・態度] 家庭支援の意義、現状、動向に関心を持ち、自ら探求できる。 2 [思考・判断・表現] 家庭支援における現代的課題について多面的に考察し、支援制度や保育士に求められる基本的態度をふまえて自分の意見を述べるができる。 3 [技能] 家庭支援に関する事例を読んで必要な情報を選択し課題解決に向けた検討ができる。 4 [知識・理解] 子育て家庭のニーズに応じた支援展開、現状と課題について理解し説明できる。								
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○	グループワーク			
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)									
第1回	子どもと家庭を取り巻く環境①—家族と家庭の現状— * 授業の進め方を含む								
第2回	保育者による家庭支援—子ども家庭支援の基本的な考え方—								
第3回	子育て家庭への支援体制①—子育て家庭を支える社会資源—								
第4回	子育て家庭への支援体制②—子育て家庭を支える法・制度—								
第5回	保育者に求められる基本的態度								
第6回	保育者に求められる相談技術								
第7回	保育所等の家庭支援								
第8回	地域の子育て家庭への支援								
第9回	さまざまな家庭の理解と支援①—ひとり親家庭・ステップファミリー—								
第10回	さまざまな家庭の理解と支援②—里親家庭・外国にルーツのある家庭—								
第11回	不適切な養育環境の子どもと家庭への支援								
第12回	発達障害児等の理解と家庭への支援								
第13回	子どもの貧困の理解と家庭への支援								
第14回	保育におけるソーシャルワーク								
第15回	保育が子ども家庭支援に果たす役割								
定期試験 実施する(レポート試験)									
⑧自主学習の課題	予習:テキストの各回に該当する章を読み、Google Classroomの課題に取り組む。約90分間の学習時間を要する。復習:各回、配布プリントとテキストを参考に Googl Classroomの課題に取り組む。約90分間の学習時間を要する。								
⑨テキスト	石動瑞代・中西彦彦・隣谷正範編著『保育と子ども家庭支援論』みらい出版社 2020年								
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件/履修上の注意事項	・受講者全員が自由に意見が出し合える雰囲気をつくれるよう、他者の意見を尊重し、ポジティブなやりとりを期待します。 ・やむを得ない理由により欠席した場合には、翌週の授業時に授業資料を受け取る。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率			
1	定期試験		○	○	○	40	%		
2	小テスト	○	○	○	○	30	%		
3	提出物	○	○	○	○	20	%		
4	発表・実技・プレゼン					0	%		
5	受講態度	○				5	%		
6	自主学習態度	○				5	%		
7	その他					0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。								
IV その他									
・ピアヘルパー資格に該当する科目である。									

I 科目に関する項目									
①科目名	幼児と表現（音楽）Ⅱ Children and Expression; Music II					②科目コード	Y4-2A005		
③担当教員名	町田 治 山岸 智秋 中野 由紀子 武内 理恵 後藤 京子 長永 理恵 恵須川 理津子 大熊 理津子								
④実務経験	幼稚園教諭（浅賀、中野）、保育士（浅賀）					⑤担当形態	複数 クラス分け		
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程									
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	保育に必要な音楽表現活動のための知識、技術と表現力								
②授業の概要	ピアノの演奏技術、歌唱、弾き歌いに関する知識や技術を習得する中で、保育に必要な音楽とその音楽の様々な活用法について学ぶ。								
③履修者の到達目標（学習成果）	1. [ピアノの演奏技術] 保育現場に必要なピアノ演奏の技術を身につける。 2. [ピアノ演奏の表現技術] 音楽的表現を意識したピアノの演奏技術を習得する。 3. [発声法と歌唱表現力] 保育現場で使える歌唱表現力を習得する。 4. [弾き歌いの技術] できるだけ多くの課題を練習することで、弾き歌いの技術を向上させる。								
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク	○				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業		○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）									
第1回	ピアノ演奏法 指や腕の開閉練習 腕の脱力と手首の使い方								
第2回	ピアノ演奏法 手首の回転と腕の脱力 やってはいけない運指								
第3回	ピアノ演奏法 反復音の練習とスタカート オクターブの弾き方								
第4回	声楽 呼吸・発声法の習得 腹筋の活用 いろいろな発声練習 子どものための発声								
第5回	声楽 発音練習 母音と子音の発音の仕方 プレスについて								
第6回	声楽 発音練習 日本語の詩の特徴 スタカートとアクセント								
第7回	ピアノ演奏法 レガート奏法の練習 運指の工夫 親指の活用								
第8回	ピアノ演奏法 重音のレガート練習 ミスをして音楽を止めないための工夫								
第9回	ピアノ演奏法 ペダルの練習 弱音ペダルの使用方法								
第10回	声楽 表現に結びつけた発声練習 声を弾ませる								
第11回	声楽 音の高低による発声の違いと工夫 遠くまで声を響かせる工夫								
第12回	声楽 歌唱表現の工夫 レガートで歌う 顔の表情を使って								
第13回	弾き歌い 旋律を弾きながら歌う 旋律は言葉のリズムと同じように								
第14回	弾き歌い 伴奏を弾きながら歌う 声の主、ピアノは従								
第15回	弾き歌い 同じ曲を違った速さで歌う 何があっても止まらない								
定期試験	公開演奏による実技試験								
⑧自主学習の課題	予習と復習 授業で決められた課題曲の予習復習を充分に行うこと。毎回60分以上（毎日30分が望ましい）の練習が必要となる。								
⑨テキスト	『バーナムピアノテクニック導入書』（終了した場合は『バーナムピアノテクニック 1』）『こどものうた200』『続こどもの歌200』、中野由紀子『音楽表現 そのまま使える基礎と実践』（共同音楽出版社）2021年初版								
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	各自でそれぞれ異なった課題の楽譜を必要とする場合、入手する楽譜については個人が負担することになる。『バーナムピアノテクニック導入書』が終了した場合は、『バーナムピアノテクニック 1』を購入することになる。								
⑫履修条件／履修上の注意事項	この科目を履修する場合は、「幼児と表現（音楽）Ⅲ」も履修登録すること。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
①学習項目	ピアノ演奏の技術	ピアノ演奏の表現技術	発声法と歌唱表現力	弾き歌いの技術			③配点比率		
②評価方法									
1 公開演奏による定期試験	○	○	○	○			30	%	
2 毎回の課題曲の実技総合評価	○	○	○	○			60	%	
3 提出物							0	%	
4 発表・実技・プレゼン							0	%	
5 受講態度	○	○	○	○			10	%	
6 自主学習態度							0	%	
7 その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れている					比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	出された課題は次のレッスンで仕上がり状況が確認され、問題点、練習の必要がある事項についての指摘が為される。								
IV その他									
公開演奏による定期試験、及び追・再試験について、2022年度は担当していない、この科目の担当可能な教員が、採点に加わることがある。									

I 科目に関する項目									
①科目名	幼児と表現（音楽）Ⅲ Children and Expression; Music Ⅲ					②科目コード	Y4-2A006		
③担当教員名	町田 治 山岸 智秋 中野 由紀子 武内 理恵 後藤 京子 長永 理恵 恵須川 理津子 大熊 理津子								
④実務経験	幼稚園教諭（浅賀、中野）、保育士（浅賀）					⑤担当形態	複数 クラス分け		
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程									
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	保育に必要な音楽表現活動のための知識、技術と表現力								
②授業の概要	ピアノの演奏技術、歌唱、弾き歌いに関する知識や技術を習得する中で、保育に必要な音楽とその音楽の様々な活用法について学ぶ。なお、課題曲は「幼児と表現（音楽）Ⅱ」と異なる曲で実施する。								
③履修者の到達目標（学習成果）	1. [ピアノの演奏技術] 保育現場で必要なピアノ演奏の技術を身につける。 2. [ピアノ演奏の表現技術] 音楽的表現を意識したピアノの演奏技術を習得する。 3. [発声法と歌唱表現力] 保育現場で使える歌唱表現力を習得する。 4. [弾き歌いの技術] できるだけ多くの課題を練習することで、弾き歌いの技術を向上させる。								
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク	○				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○	
⑦授業の計画（授業の内容）									
第1回	音楽 呼吸・発声法の習得 腹筋の活用 いろいろな発声練習 子どものための発声								
第2回	ピアノ演奏法 手首の回転と腕の脱力 やってはいけない運指								
第3回	ピアノ演奏法 反復音の練習とスタッカート オクターブの弾き方								
第4回	音楽 呼吸・発声法の習得 腹筋の活用 いろいろな発声練習 子どものための発声								
第5回	音楽 発音練習 母音と子音の発音の仕方 プレスについて								
第6回	音楽 発音練習 日本語の詩の特徴 スタッカートとアクセント								
第7回	ピアノ演奏法 レガート奏法の練習 運指の工夫 親指の活用								
第8回	ピアノ演奏法 重音のレガート練習 ミスをして音楽を止めないための工夫								
第9回	ピアノ演奏法 ペダルの練習 弱音ペダルの使用法								
第10回	音楽 表現に結びつけた発声練習 声を弾ませる								
第11回	音楽 音の高低による発声の違いと工夫 遠くまで声を響かせる工夫								
第12回	音楽 歌唱表現の工夫 レガートで歌う 顔の表情を使って								
第13回	弾き歌い 旋律を弾きながら歌う 旋律は言葉のリズムと同じように								
第14回	弾き歌い 伴奏を弾きながら歌う 声の主、ピアノは従								
第15回	弾き歌い 同じ曲を違った速さで歌う 何があっても止まらない								
定期試験	験 公開演奏による実技試験								
⑧自主学習の課題	予習と復習 授業で決められた課題曲の予習復習を充分に行うこと。毎回60分以上（毎日30分が望ましい）の練習が必要となる。								
⑨テキスト	『バーナムピアノテクニク導入書』（終了した場合は『バーナムピアノテクニク 1』）『こどものうた200』『続こどもの歌200』、中野由紀子『音楽表現 そのまま使える基礎と実践』（共同音楽出版社）2021年初版								
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	各自でそれぞれ異なった課題の楽譜を必要とする場合、入手する楽譜については個人が負担することになる。『バーナムピアノテクニク導入書』が終了した場合は、『バーナムピアノテクニク 1』を購入することになる。								
⑫履修条件／履修上の注意事項	「幼児と表現（音楽）Ⅱ」が未履修であっても履修可。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	ピアノ演奏の技術	ピアノ演奏の表現技術	発声法と歌唱表現力	弾き歌いの技術			③配点比率	
1	定期試験	○	○	○	○			30	%
2	毎回の課題曲の実技総合評価	○	○	○	○			60	%
3	提出物							0	%
4	発表・実技・プレゼン							0	%
5	受講態度	○	○	○	○			10	%
6	自主学習態度							0	%
7	その他							0	%
④ルーブリック評価	取り入れている。					比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	出された課題は次のレッスンで仕上がり状況が確認され、問題点、練習の必要がある事項についての指摘が為される。								
IV その他									
公開演奏による定期試験、及び追・再試験について、2022年度は担当していない、この科目の担当可能な教員が、採点に加わることがある。									

I 科目に関する項目										
①科目名	保育内容の指導法「表現（音楽）」Ⅱ Pedagogy of Early Childhood Education and Care; Expression (Music) Ⅱ					②科目コード	Y4-2B009			
③担当教員名	中野 由紀子									
④実務経験	幼稚園教諭					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科科目】保育内容・方法に関する科目 保育内容演習									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	乳幼児期の音楽表現活動の知識と保育者に必要な技術を獲得する。									
②授業の概要	幼稚園教諭専修免許状と保育士資格を取得し、幼稚園教諭としての実務経験をもつ教員が授業を担当する。 1 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のわらい及び内容の理解 2 保育の現場で役立つような乳幼児期の音楽表現活動の実践力と指導法の習得									
③履修者の到達目標（学習成果）	1 乳幼児期の音楽表現活動を理解し指導できる。 2 保育現場で使用する楽器の奏法やリズムを習得し指導できる。 3 音楽関連行事（音楽会・お遊戯会など）の構成・企画・指導ができる。 4 他の領域との関連した総合的な表現活動を理解し指導できる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
⑥ICT機器による授業や支援	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク							
⑦授業の計画（授業の内容）	パソコン・タブレット端末による双方向授業									
⑧ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グループワーク			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援			
⑦授業の計画（授業の内容）	第1回 「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」の示す領域「表現」の概説・乳幼児の音楽活動と特徴									
⑦授業の計画（授業の内容）	第2回 歌唱活動① 自己紹介のうた・生活のうた・子守歌									
⑦授業の計画（授業の内容）	第3回 歌唱活動② 季節のうた									
⑦授業の計画（授業の内容）	第4回 歌唱活動③ 行事のうた									
⑦授業の計画（授業の内容）	第5回 音楽遊び① 絵本と音楽・手話と音楽									
⑦授業の計画（授業の内容）	第6回 音楽遊び② 新聞紙シアター									
⑦授業の計画（授業の内容）	第7回 リズム① ボディーパーカッション									
⑦授業の計画（授業の内容）	第8回 リズム② ドラムラインアンサンブル・鈴アンサンブル									
⑦授業の計画（授業の内容）	第9回 器楽合奏① こどもの器楽合奏について									
⑦授業の計画（授業の内容）	第10回 器楽合奏② リズム楽器の奏法と指導法									
⑦授業の計画（授業の内容）	第11回 器楽合奏③ メロディー楽器の奏法と指導法									
⑦授業の計画（授業の内容）	第12回 ミュージックベルの奏法と指導法									
⑦授業の計画（授業の内容）	第13回 グループワーク①・・・器楽合奏とミュージックベルのグループ練習（選曲と練習）									
⑦授業の計画（授業の内容）	第14回 グループワーク②・・・器楽合奏とミュージックベルのグループ練習（仕上げと発表）									
⑦授業の計画（授業の内容）	第15回 劇遊び・・・ドラムジカの制作と発表									
⑧自主学習の課題	予習：乳幼児の日常生活にある、あらゆる音楽活動に興味を持ち、情報を得る努力をする。約30分の学習時間を要する。 復習：講義内容の様々な音楽表現活動について理解し、実習や保育の現場で指導出来るよう復習する。約30分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	中野由紀子編著『幼稚園教諭・保育士養成課程「音楽表現」そのまま使える基礎と実践』（共同音楽出版社2021）									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	特になし									
⑫履修条件／履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	乳幼児の音楽表現活動の理解と指導法の習得	保育現場で使用する楽器の奏法と指導法の習得	音楽関連行事の企画と指導法の習得	他の領域との関連した総合的な表現活動の理解と指導法の習得	③配点比率				
	1 定期試験					0	%			
2 小テスト						0	%			
3 提出物			○	○		15	%			
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○		20	%			
5 受講態度	○	○	○	○		50	%			
6 自主学習態度	○	○	○	○		15	%			
7 その他						0	%			
④ルーブリック評価	取り入れている					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価の問い合わせに依る。									
IV その他										
演習科目のため、積極的に取り組むこと。 授業で取り扱った楽曲や楽器、絵本などについては、保育現場で実践できるように各自で練習をしたり、知識をさらに深めるよう努力してほしい。										

I 科目に関する項目										
①科目名	幼児と表現（造形）I Children and Expression; Art I					②科目コード	Y4-2A003			
③担当教員名	藤原 明子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【幼二種免許・領域及び保育内容の指導法に関する科目】領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項：表現									
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育の表現技術 保育の表現技術									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	材料基礎／応用、平面、立体表現、グループワーク									
②授業の概要	<p><地域愛を育む教材づくり> 保育を行う上で地域との連携が欠かせません。まずは地域文化理解を目指し、皆さんが住んでいる（または就職を目指す）地域の魅力を発見してほしいと思います。それを子どもたちに伝えるにはどうしたらよいか考えていただきます。幼児と表現（造形）Iでは地図作りを行います。</p> <p><スケッチブックシアターづくり> 手軽に作れ、持ち運びが便利な保育教材スケッチブックシアターを作ります。書籍に紹介されているものを製作してかまいません。出来れば幼稚園実習で活かしましょう。</p> <p><壁面装飾の制作> 行事に対する興味関心を喚起するための大型壁面装飾をグループで制作し、星美祭等で展示する。（展示時期は後期）</p>									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 造形に関する知識・技能を習得し、保育教材（スケッチブックシアター）を作ることができる。 2. これまでの様々な教科で学習してきた子どもの保育や発達に関する知識を活かし、子どもに分かりやすく関心が持てる教材（地図）を作ることができる。 3. 自ら考え、他者と協働しながら共同制作（地図作り・壁面装飾）をすることができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業			ディスカッション・ディベート				
	グループワーク	○	プレゼンテーション			実習・フィールドワーク				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）	第1回 授業概要の説明・自分が実習や就職をする地域理解につながる児童文化作品の制作について 第2回 自分が住む地域について調べる 参考資料：「かぞえうた」（半分グループワーク） 第3回 地図計画（自分が住む地域の、特産品・名所・歴史・昔話等）（グループワーク） 第4回 地図作成（自分が住む地域の、特産品・名所・歴史・昔話等）（グループワーク） 第5回 スケッチブックシアターづくり①書籍から学ぶ様々なスケッチブックシアター 第6回 スケッチブックシアターづくり②作りたい作品を決め構成を考える 第7回 スケッチブックシアターづくり③スケッチブックの提出の仕掛けを作る 第8回 スケッチブックシアターづくり④完成・鑑賞会 第9回 壁面装飾①幼児が興味を持ち、行事への期待が高まる壁面の構想 第10回 壁面装飾②制作計画・準備 第11回 壁面装飾③分担制作：各パーツの大きさを決める・下絵（個人制作も可） 第12回 壁面装飾④分担制作：各素材にあった方法で裁断・加工をする 第13回 壁面装飾⑤分担制作：全体の色・大きさのバランスを確認しながらパーツ制作 第14回 壁面装飾⑥分担制作：全体の色・大きさのバランスを確認し、パーツの修正を行う 第15回 壁面装飾⑦（全体のバランスを確認し、仕上げる）壁面装飾のまとめ（鑑賞しと振り返り） 定期試験 定期試験実施しない（作品評価）									
⑧自主学習の課題	予習：前半は自分が住む地域に関する調べ学修を予習として行う。後半は各自構想をまとめ授業時に伝達できるようにする。予習には約30分の学習時間を要する。 復習：期日までに質の高い作品が完成するよう授業時間外にも制作を進める。復習には約30分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	なし									
⑩参考書／参考資料／準備物等	準備物：B4スケッチブック／画材 参考書： 北沢昌代 畠山智宏 中村光絵『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現』開成出版 2016 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	1500円									
⑫履修条件／履修上の注意事項	B4スケッチブックを各自購入すること。やむを得ず授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。グループワーク時は、他メンバーと連携を図り協力して進めること。汚れても良い服装で参加すること。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	造形に関する知識技能の習得	保育の知識を活かした教材作り	他者との協働による共同制作				③配点比率			
②評価方法										
1 定期試験							0	%		
2 小テスト							0	%		
3 提出物	○	○	○				65	%		
4 発表・実技・プレゼン							0	%		
5 受講態度	○	○	○				25	%		
6 自主学習態度	○	○					10	%		
7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・作品に対する講評を全体に対し行う。課題の成績評価に対する問い合わせに応ずる。									
IV その他										

I 科目に関する項目									
①科目名	幼児と表現（造形）Ⅱ Children and Expression; Art Ⅱ					②科目コード	Y4-2A004		
③担当教員名	藤原 明子								
④実務経験						⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程	【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項：表現								
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育の表現技術 保育の表現技術								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	低年齢児の造形 季節の行事と造形 作品を活かした教材作り								
②授業の概要	<低年齢児の造形> 1年次に保育内容の授業で習得した技法遊びを活かした1～3歳児の造形表現を、立案・実践する。（グループワーク） <季節の行事と造形> 1年次は使わなかった様々な道具や塗料を用い、保育現場・児童館での行事等に活用できる「作る活動」を、下準備から経験する。 <作品を活かした教材作り> 1人1人が作った作品をもとに、グループで話し合って絵本作りをおこなう。絵本の製本方法を身につける。								
③履修者の到達目標（学習成果）	【低年齢児の表現活動の実践力】絵具の技法遊びを、1～3歳児が楽しむ造形表現として立案・実践する力を身につける 【造形表現の知識・技法の習得】子どもが行う造形表現に加え、保育者として活動の準備に必要な知識・技術を身につける。 【教材制作手法の習得】絵本作りの方法を身につける。								
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート				
	グループワーク		プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）									
第1回	授業の進め方								
第2回	行事の環境作り（学園祭看板・テアトロ壁面）								
第3回	パステルステンシル・フロッタージュ（画像提出）								
第4回	○で描く絵本作り 絵本の製本方法を知る								
第5回	①低年齢児の造形表現を計画する（1年次の授業：モダンテクニックの応用）								
第6回	牛乳パックでバベットを作ろう								
第7回	②低年齢児の造形表現を準備する								
第8回	③低年齢児の造形表現を実践する								
第9回	④低年齢児の造形表現を発表する								
第10回	クリスマスリース下準備								
第11回	クリスマスリース作り								
第12回	松ぼっくりのクリスマスツリーづくり（5歳～小学校低学年の活動を想定）								
第13回	体の動きを表現しよう								
第14回	新聞紙を使って遊ぼう～キャッチボールとけん玉								
第15回	小さなスノードーム								
定期試験	実施しない								
⑧自主学習の課題	予習：授業で配る授業計画に示す持ち物を各自準備する。廃材については、学年を超えて提供を呼びかけるなど、材料準備を含めて授業準備である。予習には約30分の学習時間を要する。 復習：期日までに質の高い作品が完成するよう授業時間外にも制作を進める。復習には約30分の学習時間を要する。								
⑨テキスト	なし								
⑩参考書／参考資料／準備物等	各自の準備物：はさみ・のり（毎回）配布プリントに示す材料（牛乳パック1Lは集めておく） 参考書： 北沢昌代 畠山智宏 中村光絵『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現』開成出版 2016 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	1000円								
⑫履修条件／履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合は、課題に自ら取り組むこと。 グループワーク時は、他メンバーと連携を図り協力して進めること。 汚れても良い服装で参加すること。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
①学習項目	低年齢児の表現活動の実践力	造形表現の知識・技法の習得	教材制作方法の習得					③配点比率	
②評価方法									
1 定期試験								0	%
2 小テスト								0	%
3 提出物	○	○	○					65	%
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○					10	%
5 受講態度	○	○	○					15	%
6 自主学習態度	○	○	○					10	%
7 その他								0	%
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・作品・提出物に対する講評を全体に対し行う。 ・課題の成績評価に対する問い合わせに応ずる。								
IV その他									

I 科目に関する項目										
①科目名	幼児と健康Ⅱ Infants and Health Ⅱ					②科目コード	Y4-2A001			
③担当教員名	杉本 信									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格			発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程	【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項：健康									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科目】保育の内容・方法に関する科目 保育内容の理解と方法									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	乳幼児の健康									
②授業の概要	乳幼児が健康な心と体を育み、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うために必要な運動、栄養、休息（睡眠）、基本的な生活習慣、生活リズムについての知識を身につける。具体的には、明るく伸び伸びと行動し、充実感を子どもに味わわせたり、自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする意欲を高めたり、健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につけ、見通しをもって行動できるようにするための知識を身につける。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1【関心・意欲・態度】乳幼児の運動、栄養、休息、基本的な生活習慣、生活リズムの重要性に関心をもち、自ら探求できる。 2【思考・判断・表現】乳幼児が健康で安全な生活をつくり出す力を養うための運動や食育の意義、安全教育について説明できる。 3【技能】幼児と健康に関する事例について自ら検討することができる。 4【知識・理解】乳幼児の健康について基本的な内容を理解し説明できる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業		○		グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	
⑦授業の計画(授業の内容)	第1回 乳幼児期の健康に関する現代的課題 第2回 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「健康」 第3回 ねらい及び内容、内容の取扱い、幼児期において育成すべき資質・能力と領域「健康」 第4回 乳幼児期の心の健康 第5回 乳幼児期の体の発育と発達 第6回 乳幼児期の体力と運動能力 第7回 乳幼児期の運動発達の特性－運動の多様性とバリエーション－ 第8回 運動意欲を育む重要性①－運動発達と心理的側面の発達－ 第9回 運動意欲を育む重要性②－遊びとしての運動の重要性と内発的動機づけ－ 第10回 乳幼児期の基本的な生活習慣の形成と生活リズムの獲得(グループでの検討) 第11回 食育のねらい及び内容(グループでの検討) 第12回 食育を通じた望ましい食習慣の形成(グループでの検討) 第13回 安全教育(安全指導と安全学習)と安全管理 第14回 事故防止－リスクとハザード－ 第15回 理解度の確認 定期試験 筆記試験を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：テキストを読み、次回の授業の概要を理解する。予習には約30分の学習時間を要する。 復習：授業の最後に前回授業の学習ペーパーを配布する。テキストや資料、配布プリント、ノートを読み返し、学習ペーパーに記入する。復習には約30分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	吉田伊津美・砂上史子・松寄洋子編著『保育内容 健康』光生館、2018									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項	遅刻・欠席・早退をしないように努める。無断で教室から退席することを禁ずる。やむを得ない事情がある場合には、必ず退室前に退室理由を担当教員に述べる。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			③配点比率		
1	定期試験	○	○	○	○			80	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物	○	○	○	○			5	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○	○	○	○			10	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			5	%	
7	その他								%	
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	希望があれば、学習ペーパーを添削し、返却する。									
IV その他										
希望があれば、学習ペーパーを添削し、返却する。										

I 科目に関する項目									
①科目名	保育内容の指導法「健康」 Pedagogy of Early Childhood Education and Care; Health					②科目コード	Y4-2B007		
③担当教員名	打越 みゆき								
④実務経験						⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程	【幼二種免・教職に関する科目】教育課程及び指導法に関する科目・保育内容の指導法								
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習(演習)								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	幼児の健康で安全な生活をつくりだすための運動の実践と指導法								
②授業の概要	「幼児と健康I」で学んだ内容を活かして「健康」領域の模擬授業に取り組む。模擬授業では、指導案を立案し、安全に配慮しながら、子どもたち一人ひとりに応じた楽しい運動遊びを実施する。また、幼児体操をグループで創作し、発表する。								
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 領域「健康」のねらい・内容を踏まえた題材を選び、指導案を作成することができる。 2. 指導上の留意点、安全に配慮した模擬授業が実施できる。 3. 体験した種目について、指導と援助の方法を振り返り、記録することができる。 4. 幼児の発達を促す体操を自ら創って実演することができる。								
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	Googleクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○	
⑦授業の計画(授業の内容)									
第1回	模擬授業の計画と指導案の書き方(授業の進め方、Google classroomの活用法、評価方法についても説明します)								
第2回	模擬授業体験・実習で行いたい遊びの体験								
第3回	模擬授業の実施 番号順1番目～6番目								
第4回	模擬授業の実施 番号順7番目～12番目								
第5回	模擬授業の実施 番号順13番目～19番目								
第6回	模擬授業の実施 番号順20番目～26番目								
第7回	模擬授業の実施 番号順27番目～40番目								
第8回	模擬授業の振り返り 保育現場で留意したい指導上のポイントと安全管理、自己課題の確認								
第9回	幼児体操を創ろう(理論)								
第10回	幼児体操を創ろう(各パートの創作)・作品をできたところまで動画撮影し、振付を記録する。								
第11回	幼児体操を創ろう(始まり方、終わり方の創作)・作品をできたところまで動画撮影し、振付を記録する。								
第12回	幼児体操を創ろう(動きの確認と仕上げ練習)・作品をできたところまで動画撮影し、振付を記録する。								
第13回	幼児体操の発表								
第14回	水遊びの計画方法(演習)								
第15回	水遊びの危険(演習) まとめ								
定期試験	実施しない								
⑧自主学習の課題	予習 模擬授業の担当回に向けて準備を進める。30分程度を要する。なお、練習の際は自分の様子を動画で撮影し、実践のための準備をすること。 復習 毎時間の授業についてノートにまとめてくること。毎回30分ほど要する。								
⑨テキスト	高野牧子編著『うきうきわくわく身体表現あそび』同文書院2015年								
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 指導案を綴るための紙ファイル(A4)を購入しておくこと。								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件/履修上の注意事項	履修上の注意事項: 保育者としてふさわしい服装、言動を求める。Tシャツ、ジャージ、体育館シューズ、運動靴が必要。 その他: 天候により、多少内容の変更がありうる。 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画および課題を Google classroom より配信する予定である。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
①学習項目	指導案の作成	模擬授業の実践と振り返り	運動遊びの記録	幼児体操の実演と記録		③配点比率			
②評価方法									
1 定期試験						0	%		
2 小テスト						0	%		
3 提出物	○	○		○		10	%		
4 発表・実技・プレゼン		○		○		30	%		
5 受講態度			○			20	%		
6 自主学習態度						0	%		
7 その他(授業ノート・ファイル)			○			40	%		
④ルーブリック評価	取り入れている(模擬授業評価)					100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題提出は Google classroom から行い、Google classroom より評価の返却またはコメントする。 ワークシートやノートについては、現物にコメントする場合がある。								
IV その他									
Google classroom 使用。ノートは「幼児と健康I」の続きを使用してもよい。									

I 科目に関する項目										
①科目名	子どもの保健 Child Health					②科目コード	Y3-2A003			
③担当教員名	田中 笑子									
④実務経験	看護師					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	2単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の対象の理解に関する科目 子どもの保健(講義)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	子どもの心身の健康状態を評価し、子ども特有の疾病・事故を予防するための根拠に基づく支援方法、環境調整を理解する。									
②授業の概要	子どもの心身の健康状態と身体的発育・発達を理解し、子どもに多い疾病と対応方法、および、子どもの生活を理解し、生活環境を整える理論と方法を教科書、配布資料、グループワークなどを通して学ぶ。									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康状態を把握する意味と方法を理解できる。 2. 疾病などを早期に発見し、対応できる。 3. 子ども期に特有の事故の特徴と予防方法について理解できる。 4. 子どもに大切な環境を整えることができる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	オリエンテーション 授業の進め方									
第2回	子どもの心身の健康と保健の意義									
第3回	子どもの統計と年齢別にみた事故・けが・病気予防									
第4回	子どもの心身の発達の評価の概要									
第5回	子どもの精神発達									
第6回	子どもの心身の健康状態とその把握									
第7回	子どもの生理機能の発達									
第8回	子どもの睡眠と発達									
第9回	子どもの脳神経の発達									
第10回	子どもの運動機能の発達とその評価									
第11回	子どもの感覚の発達とその評価									
第12回	子どもの歯の発達とケア									
第13回	子どもの病気と予防、手当(I)(発熱、けいれん、咳)									
第14回	子どもの病気と予防、手当(II)(嘔吐、下痢)									
第15回	子どもの複合的な発達と支援									
定期試験	実施する									
⑧自主学習の課題	予習：教科書の該当箇所に目を通し、要点を整理する。約90分。 復習：講義で学んだ内容を中心に復習を行うこと。約90分。									
⑨テキスト	高内正子編著『子どもの保健と安全』教育情報出版 第3版									
⑩参考書/参考資料/準備物等	母子手帳 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	特になし									
⑫履修条件/履修上の注意事項	特になし									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	健康状態	疾病予防	疾病予防 事故予防	環境調整			③配点比率		
	1 定期試験	○	○	○	○			50	%	
	2 小テスト	○	○	○	○			10	%	
	3 提出物	○	○	○	○			10	%	
	4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			10	%	
	5 受講態度	○	○	○	○			10	%	
	6 自主学習態度	○	○	○	○			10	%	
	7 その他								%	
④ルーブリック評価	取り入れている				比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物について、講評する。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	子どもの健康と安全 Child Health and Safety					②科目コード	Y4-2B016			
③担当教員名	田中 笑子									
④実務経験	看護師					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の内容・方法に関する科目 子どもの健康と安全 (演習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	子どもの心身の健康と安全を守るための根拠に基づく評価と計画、実践について、知識と基本技術を組み合わせ実践力を養う。									
②授業の概要	保健活動のために必要な技術を準備から片付けまで一連の流れを演習する。また、健康教育を施行する。その際、知識を応用し、論理的な思考技術を用いて、テーマの選定、方法の決定、内容の準備、発表を行う。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 子どもの観察と日常生活援助ができる。(子ども理解と価値) 2. 科学的根拠に基づく評価を行い、問題の早期発見ができる。(健康と安全の管理) 3. 応急手当や受診行動、記録、関係機関との連携と保護者対応など、健康と安全を守るための適切な対応ができる。(個別的な対応) 4. 基本的な知識と技術を論理的思考により整理し、健康教育などの保健活動の実施計画を立てることができる。 5. 実施計画に基づき、健康教育などの保健活動を実施できる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	オリエンテーション 授業の進め方									
第2回	保健的観点をふまえた子ども理解と評価Ⅰ 子どもの発達とかわり、保育環境の基礎									
第3回	保健的観点をふまえた子ども理解と評価Ⅱ 事例の展開									
第4回	保健的観点をふまえた子ども理解と評価Ⅲ 子どもの衛生管理と安全対策									
第5回	保育における健康と安全の管理Ⅰ 子どもの危機管理と災害への備え、体調不良・けがへの対応、救急処置の基礎									
第6回	保育における健康と安全の管理Ⅱ 演習									
第7回	保育における健康と安全の管理Ⅲ まとめ、根拠に基づく支援計画と実践									
第8回	「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づく予防と対処									
第9回	個別的な配慮を要する子どもと保護者への対応Ⅰ 3歳未満、アレルギーや慢性疾患、障がいや医療的ケア									
第10回	個別的な配慮を要する子どもと保護者への対応Ⅱ 演習									
第11回	個別的な配慮を要する子どもと保護者への対応Ⅲ まとめ：根拠に基づく計画づくりと実践									
第12回	子どもと保健指導Ⅰ 保健活動の考え方 根拠と計画作成									
第13回	子どもと保健指導Ⅱ グループワーク									
第14回	子どもと保健指導Ⅲ 発表									
第15回	子どもの健康と安全管理の実施体制と技術：連携とエンパワメント									
定期試験	実施しない(ただしレポート課題あり)									
⑧自主学習の課題	予習：翌週行う実技をすぐに開始できるように予習を行うこと。それぞれ30分の時間を要する。 復習：行った実技を実践で用いる際の留意点および工夫点について復習を行うこと。									
⑨テキスト	安梅勲江：田中裕編著『保育パワーアップ講座 実践編』保育パワーアップ研究会(オンライン配布)									
⑩参考書/参考資料/準備物等	高内正子編著『子どもの保健と安全』教育情報出版 第2版 母子手帳 ※状況により、PCまたはスマートフォンなどの端末を用いたオンライン演習を行う可能性があります。									
⑪教材費	特になし									
⑫履修条件/履修上の注意事項	特になし									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	子ども理解と評価	健康と安全の管理	個別的な対応	論理的思考と環境調整	健康教育(保健指導)	③配点比率				
②評価方法										
1 定期試験	○	○	○	○	○	50	%			
2 小テスト	○	○	○	○	○	10	%			
3 提出物	○	○	○	○	○	10	%			
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	○	10	%			
5 受講態度	○	○	○	○	○	10	%			
6 自主学習態度	○	○	○	○	○	10	%			
7 その他							%			
④ルーブリック評価	取り入れている					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	実演や提出物について、講評する。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別支援教育実習（事前事後の指導を含む） Practical Training and Study at Special Needs Education School					②科目コード	Y5-2C002			
③担当教員名	竹森 亜美 坂本 真季									
④実務経験	臨床発達心理士（坂本）・臨床心理士（竹森）・公認心理士（竹森・坂本）					⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	3単位	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程	【特二種免・特別支援教育に関する科目】心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習									
⑬保育士養成課程										
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	特別支援学校教育実習の事前・事後指導									
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師・臨床発達心理士として、特別支援学校の特別非常勤講師の勤務経験と、現場との協働研究の実践経験を活かし、具体的な支援事例をもとに講義を行う。事前指導では、実習校の事前調査、見学・参加実習の実施を行い、それらで得た情報を基に、個別指導の形式で研究授業の準備を行う。事後指導では、実習評価を基に自分の教員としての強みや課題を確認し、特別支援教育に自らが貢献できることについて自覚していく。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 見学・参加実習を通して、実習校や実習クラスに所属する児童の個別の特徴を捉え記述できる。 2. 教員とのチームティーチングを意識しながら、児童生徒一人ひとりのニーズをふまえた学習指導案を作成することができる。 3. 教育実習を通して教員としての自らの強みや課題点を自覚し、実習日誌や振り返りを通じて言葉で表現することができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク	○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Googleクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援		○				
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	特別支援学校・教育実習の特徴／実習事前事後指導のスケジュール確認									
第2回	実習校の下調べ・情報収集									
第3回	個々の児童生徒の実態把握（課題分析と指導方法）									
第4回	特別支援学校の授業とは									
第5回	学習指導案の書式・仕組みの理解（PCによる学習指導案作成の練習）									
第6回	前年度実習生による体験報告及び情報収集									
第7回	特別支援学校における指導案の構成①（児童の実態・指導の展開）									
第8回	特別支援学校における指導案の構成②（児童観・教材観・指導観）									
第9回	見学・参加実習の実践									
第10回	実習日誌の記録方法									
第11回	研究授業準備（個別面談）									
第12回	実習事後振り返りバズセッション									
第13回	個別面談による事後指導									
第14回	教育実習体験報告集の作成準備									
第15回	教育実習体験報告集の作成									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：見学・参加実習を中心に、研究授業の学習指導案作成において、実習校のHPや教科書・参考書などを見て自主的に教材研究を行うこと。 復習：実習後、研究授業に関する現場からの指摘を記録にまとめること。 ※予習・復習ともに約45分の時間を要する。									
⑨テキスト	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）開隆堂出版									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	年度初めに教育実習費を支払うこと。また、実習中の給食費や教材費は各自負担する。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	特別支援教育実習に参加希望を出した学生のうち、選抜された学生のみ履修できる。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	②評価方法	③配点比率								
	見学・参加実習	指導案作成	教育実習	実習日誌による振り返り						
1	定期試験				0	%				
2	小テスト				0	%				
3	提出物	○	○	○	20	%				
4	発表・実技・プレゼン				0	%				
5	受講態度	○	○	○	10	%				
6	自主学習態度	○	○	○	5	%				
7	その他	○	○	○	65	%				
④ルーブリック評価	実習日誌の記述については、ルーブリック評価を活用する			比率合計	100	%				
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										
評価方法の「その他」は、実習評価と担当教員との面談の得点である。										

I 科目に関する項目									
①科目名	保育実習 I (保育所) Training of Childcare I				②科目コード	Y5-2C004			
③担当教員名	打越 みゆき 藤原 明子								
④実務経験	保育士 (藤原明子)				⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	後期	⑧単位 (時間数)	2単位 (88)	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育実習 保育実習 I (実習)								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	保育所における実習								
②授業の概要	保育所での実習を通して、保育所の役割・機能、子どもの生活、保育士の職務や職業倫理について具体的に理解を深めるとともに、既習の教科目の内容を踏まえた子ども・利用者への支援について総合的に理解する。また、実習日誌等の記録を通して自己省察を行う。								
③履修者の到達目標 (学習成果)	1. 実習課題：実習課題に基づいて実習に臨み、施設理解を深めることができる。 2. 実習日誌：日々の実践を振り返り、実習日誌にエピソードおよび気づきを記録できる。 3. 保育所理解・利用者支援：観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深め、子どもへの直接的・間接的援助を実践できる。 4. 実習の振り返り・自己評価：実習後に自らの学びを振り返り、自己課題を発見するとともに、これらを記述することができる。								
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク	○				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援		○			
⑦授業の計画 (授業の内容)									
第1回	【事前】実習施設におけるオリエンテーション								
第2回	1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所の生活と一日の流れ								
第3回	1. (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開								
第4回	2. 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解								
第5回	2. (2) 子どもの発達過程の理解								
第6回	2. (3) 子どもへの援助やかかわり								
第7回	3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容								
第8回	3 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容								
第9回	3 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境								
第10回	3 (4) 子どもの健康と安全								
第11回	4. 保育の計画、観察、記録 (1) 保育課程と指導計画の理解と活用								
第12回	4 (2) 記録に基づく省察・自己評価								
第13回	5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理								
第14回	【事後】実習体験の振り返り及び自己評価								
第15回	【事後】実習日誌の振り返り								
定期試験	実施しない								
⑧自主学習の課題	予習：翌日の実習の準備 復習：実習日誌の記入								
⑨テキスト	大豆生田啓友 (編著) 「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規出版								
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている								
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・保育所からの総合評価が D (不合格) 評価の場合は、その評価が妥当か総合的に検討した上で不合格となる。 ・総合考察を含めた最終日誌提出は、実習終了後3日以内に実習施設に提出する。 ・保育所から日誌が戻り次第、教務学生支援課に提出する。 ・「保育実習指導 I (保育所)」が不合格だった場合、この「保育実習 I (保育所)」も不合格となる。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	実習課題	実習日誌	保育所理解 利用者支援	実習の振り返り 自己評価	③配点比率			
1	定期試験					0	%		
2	小テスト					0	%		
3	提出物	○	○	○	○	20	%		
4	発表・実技・プレゼン					0	%		
5	受講態度	○	○	○	○	10	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○	30	%		
7	その他	○	○	○	○	40	%		
④ルーブリック評価	取り入れている (実習日誌)				比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	実習日誌の採点と実習保育所からの評価をふまえて個別指導を行う。								
IV その他									

I 科目に関する項目										
①科目名	保育実習指導 I (保育所) Practical Training of Childcare I					②科目コード	Y5-2C005			
③担当教員名	打越 みゆき 藤原 明子									
④実務経験	保育士 (藤原明子)					⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	後期	⑧単位 (時間数)	1単位 (30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育 BP 修了	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】 (告示別表1による教科目) 保育実習 保育実習指導 I (演習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育所の役割・機能、子どもの支援、職務および職業倫理を具体的実践から学ぶための事前事後指導									
②授業の概要	保育所の役割・機能、子どもの生活、保育所における保育士等の専門職の役割・職業倫理について理解を深める。これらの学びをふまえて、実習課題を立案し、実習の目的を明確にするとともに、実習に対する心構えを身につける。保育士資格を有する教員が担当し、事例や映像資料をふまえた施設および利用者理解と保育士の職責について解説する。 反転授業および自主学習課題として、Google classroom を活用し授業資料や課題を提示する。									
③履修者の到達目標 (学習成果)	1. 施設理解：保育所の役割・機能と利用者、保育士の職務と職業倫理の基本を理解できる。 2. 実習課題・日誌：事前学習や調べ学習をふまえて、実習課題を立てるとともに、実習日誌の記録方法を習得する。 3. 心構えとマナー：実習に対する心構えやマナーについて理解し、実践に結びつけることができる。 4. 自己課題の発見：実習前後に自己課題について具体的に振り返ることができる。									
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	グループワーク	反転授業	プレゼンテーション	ディスカッション・ディベート	実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				Google Classroom 等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画 (授業の内容)	第1回 保育実習全体の意義・目的・内容理解。 第2回 保育所・幼稚園・認定こども園の特色を理解する 第3回 保育所の役割の理解・保育所保育指針 第4回 保育所における子どもたちの生活 第5回 保育園園長先生による講話 第6回 講話の振り返り・実習日誌の書き方①1日の流れを記録する 第7回 実習日誌の書き方②エピソード記録と考察の書き方を理解する 第8回 実習する保育所について調べる (実習施設の確認) 第9回 0~2歳児の発達についての調べ学習・オリエンテーションについて・日誌の取り扱い 第10回 保育の計画と指導案の立案 第11回 実習課題の設定 (個別指導) 第12回 指導案の書き方を練習する 第13回 専攻科生による保育所実習体験談 第14回 保育所実習に向けての授業のまとめ 第15回 保育所実習後のまとめ ※グループディスカッション 定期試験 実施しない									
⑧自主学習の課題	予習 毎回の内容に該当するテキストの章を読む (30分程度の学習時間を要する)。 復習 毎回の課題に取り組む (30分程度の学習時間を要する)。									
⑨テキスト	大豆生田啓友 (編著) 「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」 中央法規出版 守巧 (他著) 『施設実習パーフェクトガイド』 わかば社									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』 フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』 フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館									
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・実習ハンドブックを持参すること。 ・履修上の注意事項：「保育実習 I (保育所)」が不合格・失格の場合、本科目も失格となる。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には Google classroom および meet を活用しオンデマンドまたは双方向型授業を実施する。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	保育所理解	実習課題・日誌	心構えとマナー	自己課題の発見			③配点比率		
1	定期試験							0	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物	○	○	○	○			60	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○	○	○	○			40	%	
6	自主学習態度							0	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない。						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物は随時返却する。									
IV その他										
学生要覧「保育士となる資格の取得」に関するページを熟読すること。2年次後期に専攻科前期の保育実習 I (施設) について、施設実習ガイダンスがある。詳細は授業で説明する。										

I 科目に関する項目										
①科目名	幼児保育キャリア演習Ⅱ Career Exercise of Child Care and Education Ⅱ					②科目コード	Y1-2B001			
③担当教員名	町田 治 中島 千恵子 井出 麻里子 打越 みゆき 大井 美緒 藤原 明子 竹森 亜美 坂本 真季									
④実務経験						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	2単位(60)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	卒業必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了		必修	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	企画運営・実践、様々な環境に対応する基礎知識と技術の習得、及び就職に向けてのキャリア教育									
②授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 「テアトロ・SEIBI（以下「テS」とする）」の準備 <ol style="list-style-type: none"> 配役決定、脚本読み合わせ、立ち稽古 係の準備活動（音響、音楽、衣装、大道具小道具製作、広報、おもてなし計画と準備等） 1、2の活動のための計画及び場所、時間の設定・確保 「テS」公演 <ol style="list-style-type: none"> 公演と撤収 反省と振り返り（振り返りアンケート） 引き継ぎ キャリアセンター企画講座 <ol style="list-style-type: none"> 施設長講話 社会人基礎力・職業適性検査 ジョブカードの作成 就職活動報告会 現場体験活動を体験する 									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> [本学の理念] 本学の教育理念を「テアトロ・SEIBI」の実践を通して理解する。 [舞台発表の基礎・企画力・協調性] 「テアトロ・SEIBI」の公演を通して、達成感を得る。 [舞台発表の基礎・企画力・協調性] 様々な人の意見、能力を認め合い、集約し、協力ができる。 [社会人基礎力] 社会人として必要な基礎学力を身に付ける。 [社会人基礎力] 保育者として必要な礼儀やマナーを身に付ける。 [現場体験活動] 現場体験活動を体験する。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	○	②専門知識・技能	○	③共感性		④コミュニケーション	○	⑤協働性	○
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業				ディスカッション・ディベート		○	
	グループワーク	○	プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク			
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業					グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○	

⑦授業の計画（授業の内容）								
第1回	テSのスケジュール発表、脚本配布・本読み（二木秀幸：担当） キャリア支援ガイダンス（進路登録票、ボランティア） 現場体験活動について	第16回	集中練習（大講義室にて後半部分の練習・係活動）（二木秀幸：担当）					
第2回	本読み（前回より入念に）、係決定（活動計画立案）（二木秀幸：担当）	第17回	集中練習（大講義室にて場面のつなぎの練習・係活動）（二木秀幸：担当）					
第3回	配役オーディション準備（二木秀幸：担当）	第18回	集中練習（演劇を完成させる・全体リハーサル）（二木秀幸：担当）					
第4回	配役候補発表、オーディション開催第1回（二木秀幸：担当）	第19回	舞台稽古（衣装・舞台美術最終チェック）					
第5回	オーディション開催第2回（二木秀幸：担当）	第20回	舞台稽古（作品完成）（二木秀幸：担当）					
第6回	係活動の詳細の確認（二木秀幸：担当）	第21回	テS 公開リハーサル（二木秀幸：担当）					
第7回	係活動（内容に沿ったそれぞれの活動の実施）（二木秀幸：担当）	第22回	テS 第1回公演（二木秀幸：担当）					
第8回	係活動（他の係との関連確認）（二木秀幸：担当）	第23回	テS 第2回公演（第1回目の振り返りを活かす）（二木秀幸：担当）					
第9回	シーン別稽古、並行して係活動も実施（二木秀幸：担当）	第24回	振り返りとレポート					
第10回	シーン別稽古（前半シーン）、並行して係活動も実施（二木秀幸：担当）	第25回	社会人基礎力、職業適性検査の実施					
第11回	シーン別稽古（後半シーン）、並行して係活動も実施（二木秀幸：担当）	第26回	社会人基礎力、職業適性検査のフィードバック、 ジョブカード作成					
第12回	荒通し（全体を通してみた作品を、今後どのように仕上げていくかについて考える）（二木秀幸：担当）	第27回	施設長講話					
第13回	集中練習（大講義室にて前半部分の練習・係活動）（二木秀幸：担当）	第28回	同窓会説明会、 就職活動報告会（全学年交流会）					
第14回	集中練習（大講義室にて中盤部分の練習・係活動）（二木秀幸：担当）	第29回	学生部主催講演会					
第15回	学長講話 夏期休暇中の現場体験活動について	第30回	学長講話 現場体験活動の振り返り					
定期試験 実施しない								
⑧自主学習の課題	<p>予習：テSについては、台本をよく読んでおくこと、それによりイメージを膨らませておくこと、稽古が進む中では各自の担当する役、係の振り返りから浮かび上がる課題への対処を考えておくこと。後期は、保育を中心とした社会事情に関する情報に目を向けておくことが予習となる。</p> <p>復習：テSについては、役、役割について常に振り返りを行うこと。後期は、それぞれで受けた授業の内容を記録したり、資料をファイルして今後役に立てられるように工夫しておく。また学生生活の中で常に振り返りをする。</p> <p>各授業の予習、復習に要する時間は20分～1時間程度</p>							
⑨テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館							
⑩参考書／参考資料／準備物等	・現場体験活動の実施については、ボランティア活動や研修会など随時紹介をしていく。							
⑪教材費	現場体験活動を実施する際の交通費および研修会参加費等は各自の負担となる。							
⑫履修条件／履修上の注意事項	9月の前半10日間に自主稽古（学生の自主的な活動）5日間と、教員が指導する集中稽古（授業扱い・リアクションペーパーあり）5日間ある。特別支援学校教育実習関連以外は、この10日間すべてに参加して作品を仕上げていくことになる。重要な10日間のため、9月前半は予定を空けておくこと。							
Ⅲ学習項目と評価方法・配点比率								
①学習項目		②評価方法	③配点比率					
		①学習項目 ②評価方法 ③配点比率		本学の理念 舞台発表の基礎・企画力・協調性 社会人基礎力 現場体験活動				
1	定期試験					0	%	
2	小テスト					0	%	
3	提出物（課題レポート、振り返りシート）	○	○	○	○	40	%	
4	発表・実技・プレゼン	○	○			30	%	
5	受講態度	○	○	○		27	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○	3	%	
7	その他					0	%	
④	ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%
⑤	課題等に対するフィードバックの方法	アドバイザー、テSでの係担当教員、キャリアセンター職員、アシスタント等、内容にかかわりの深い担当が必要に応じて対応、フィードバックを行う。						
Ⅳその他								

I 科目に関する項目											
①科目名	人格論 Personality theory					②科目コード	Y1-3C002				
③担当教員名	阿部 健一										
④実務経験						⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	4単位(60)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	卒業必修	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育BP修了		必修		
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	キリスト教的な生き方の理解										
②授業の概要	トルストイの民話とマザー・テレサの言葉を通して、キリスト教的な生き方について理解する。各授業ごとに、予習表に基づいてグループワークを行い、理解を深める。										
③履修者の到達目標(学習成果)	1. (関心・意欲・態度) マザー・テレサの言動に関心を持ち、それを表明できる。 2. (思考・判断・表現) トルストイの民話、マザー・テレサの言動について考え、自分の意見を表明できる。 3. (知識・理解) キリスト教的な価値観について、正しく表明できる。										
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
	○										
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○					
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク						
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援		○					
⑦授業の計画(授業の内容)											
第1回	オリエンテーション			第16回	洗礼の子①悪を悪で取り除こうとする						
第2回	愛のあるところに神あり①人生への絶望			第17回	洗礼の子②玉座から見えたもの						
第3回	愛のあるところに神あり②絶望を癒やすもの			第18回	洗礼の子③洗礼の子が犯した罪						
第4回	愛のあるところに神あり③誰の中にもイエス様が			第19回	洗礼の子④洗礼の子が学んだもの						
第5回	人にはどれほどの土地があるか①自分の土地を持つ喜び			第20回	洗礼の子⑤追剥の回心						
第6回	人にはどれほどの土地があるか②広い土地への欲望			第21回	火を粗末にすると消せなくなる①事の起こり						
第7回	人にはどれほどの土地があるか③広い自分の土地の欲望			第22回	火を粗末にすると消せなくなる②悪に悪で対した結末						
第8回	人にはどれほどの土地があるか④必要だった土地の広さ			第23回	火を粗末にすると消せなくなる③平和のために						
第9回	ろうそく①悪にどう立ち向かうか			第24回	人はなんで生きるか①不思議な青年との出会い						
第10回	ろうそく②悪に勝利するもの			第25回	人はなんで生きるか②人は、与える愛を持っている						
第11回	イワンのばか①悪魔の手口			第26回	人はなんで生きるか③人は自分の未来を知らない						
第12回	イワンのばか②イワンと兄たち			第27回	人はなんで生きるか④地に落とされた天使						
第13回	イワンのばか③イワン王が治める			第28回	人はなんで生きるか⑤人は何によって生きているか						
第14回	イワンのばか④対大悪魔イワンの勝利			第29回	クリスマス・ミサを学ぶ。クリスマス絵本鑑賞						
第15回	イワンのばか⑤まとめ			第30回	死刑：被害者家族の日々						
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	予習：予習表により事前学習を行う。90分程度を要する。 復習：約90分間の学習時間を要する。										
⑨テキスト	トルストイ著『トルストイ民話集イワンのばか』岩波文庫 1932年 トルストイ著『トルストイ民話集人は何で生きるか』岩波文庫 1932年 M・K・ポール著『コロコタの聖なるマザー・テレサ』サンパウロ 2007年										
⑩参考書/参考資料/準備物等	必要な資料は、各授業で随時配布する。										
⑪教材費	なし										
⑫履修条件/履修上の注意事項											
III 学習項目と評価方法・配点比率											
②評価方法	①学習項目	関・意・態	思・判・表	知識・理解					③配点比率		
	1 定期試験								0	%	
2 小テスト	○	○	○					30	%		
3 提出物	○	○	○					30	%		
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○					40	%		
5 受講態度								0	%		
6 自主学習態度								0	%		
7 その他								0	%		
④ルーブリック評価								比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	①予習表については、グループワークを経て、学生の解答状況・質問を踏まえ、解答を例示し、解説する。 ②小テストについては、回収後、その場で解答を例示し、解説する。 それ以外の時点でも、成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。										
IV その他											

I 科目に関する項目										
①科目名	幼児保育キャリア演習Ⅲ Career Exercise of Child Care and Education Ⅲ					②科目コード	Y1-3C001			
③担当教員名	町田 治 中島 千恵子 井出 麻里子 打越 みゆき 大井 美緒 藤原 明子 竹森 亜美 坂本 真季									
④実務経験						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	2単位(60)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育BP修了		必修	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	社会人になる上での総仕上げ									
②授業の概要	<p>本授業は、主に4つの内容から構成される。</p> <p>1つ目は、社会人に向けて自己の特性を理解する「キャリアアップ講座」である。教育・保育関連の職業の特性について理解し、自己分析を通して必要な資質、能力を振り返る。</p> <p>2つ目は、社会人に必要な技能を身に付ける「キャリアセンター企画講座」である。就職活動に必要な求人票の閲覧方法や履歴書作成、面接練習を実施する。さらに、園長講話やOG懇談会を通して、就職活動に必要な準備を明確にする。</p> <p>3つ目は、他学年との交流を通して最上級学年の学生として今まで育んできた共感、協働性を発揮し、更にそれぞれに深めることである。これらは本学の教育理念に裏打ちされて行われるものであり、3年間の学習を俯瞰しつつ社会の入口に立つ準備を行うこととなる。</p> <p>4つ目は、本科から積み重ねてきた現場体験活動の体験をより広げ深めることである。</p>									
③履修者の到達目標(学習成果)	<p>1. [キャリアアップ] 自己の特性を理解し、自己分析を通して自身の資質・能力を振り返りつつ将来を考えることができる。</p> <p>2. [キャリアセンター講座] 社会人に必要な技能が身についている。</p> <p>3. [共感・協働性] 周りの人の考え・思いを大切にしつつ自分自身を保ちながら共に活動することができる。</p> <p>4. [現場体験活動] 現場体験活動を通して実際の仕事に触れる。</p>									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援	○				
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	ガイダンス(キャリア演習Ⅲの1年間の概要とフィールドワーク)		第16回	就職活動(個別相談・見学・面接・研修等)						
第2回	ガイダンス(クラス委員の選出・現場体験活動記録の説明)		第17回	2年生の「テアトロ SEIBI」の鑑賞						
第3回	キャリアガイダンス 就職活動スケジュールの説明		第18回	面接対策(グループ・Web面接)						
第4回	公務員の仕事説明		第19回	卒業生との懇談会①(公務員・児童養護)						
第5回	就職活動に必要な知識・技能 ①進路について		第20回	卒業生との懇談会②(幼稚園・こども園)						
第6回	就職活動に必要な知識・技能 ②進路希望調査		第21回	卒業生との懇談会③(保育園)						
第7回	履歴書の作成		第22回	卒業生との懇談会④(特別支援学校)						
第8回	性格検査の実施		第23回	就職活動の振り返り						
第9回	性格検査のフィードバック		第24回	労働関連講話「社会人として働き出したら」						
第10回	就職活動①(個別相談・見学・面接・研修等)		第25回	現場体験活動の振り返り						
第11回	就職活動②(個別相談・見学・面接・研修等)		第26回	就職活動報告会の準備						
第12回	就職活動③(個別相談・見学・面接・研修等)		第27回	就職活動報告会(全学年交流会)						
第13回	就職活動④(個別相談・見学・面接・研修等)		第28回	同窓生としてのアイデンティティ						
第14回	学長講話		第29回	学生部主催講演会						
第15回	夏期休暇中の過ごし方		第30回	学長講話 まとめ 3年間を振り返って						
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	<p>予習：保育を中心とした社会事情、又政治・社会面に関するニュース・情報に日頃から目を向けておくことが予習となる。</p> <p>復習：授業内容について、学生生活や卒業後の社会人生活において活かせるよう必要と思われる内容について各自でファイリングや記録にまとめて保管する。</p> <p>課題を行うための時間は60分程度。</p>									
⑨テキスト	適宜プリントを配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	キャリアアップ	キャリアセンター講座	共感・協働性	現場体験活動(フィールドワーク)			③配点比率		
1	定期試験							0	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物	○	○	○	○			80	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○	○	○				20	%	
6	自主学習態度							0	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価						比率合計	100 %			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	アドバイザー、キャリアセンター職員、アシスタント等、内容に関わりの深い担当者が必要に応じて対応、フィードバックを行う。									
IV その他										
専攻科修了必修科目である。										

I 科目に関する項目											
①科目名	卒業研究ゼミナール（町田） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003				
③担当教員名	町田 治										
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修	
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	音楽に関する研究または音楽作品創作を行う。										
②授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 各自で設定したテーマに基づく研究、創作を行い、論文または作品（研究小論文を含む）にまとめる。 研究についての論述の仕方、論点の整理の仕方、書式、音楽研究発表に必要な方法・知識を学ぶ。 研究倫理について知る。 										
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 【テーマの設定】【目次の設定】【修了研究提出後のレジュメ作成】文章を構成し、まとめることができる。 【創作・研究への取組】音楽に関する文章の表現、文書上での提示の仕方を知る。（作品の場合）楽譜の基本的な書き方が分かる。 【創作・研究への取組】研究資料の読み方を知る。 【創作・研究への取組】研究発表をする上で、倫理上やってはならないことが分かるようになる。 										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性						
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート								
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク								
⑦授業の計画（授業の内容）	パソコン・タブレット端末による双方向授業					グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）											
第1回	ガイダンス（ゼミでのスケジュール及び実施内容の確認）				第16回	夏期課題進捗状況報告と後期スケジュールの確認					
第2回	各自の研究計画の立案				第17回	文章作成①目次から章、節へ（実際の組み立て）					
第3回	各自の研究計画の立案第17回文章作成①目次から章、節へ（実際の組み立て） 第3回研究する上での資料の調べ方、扱い方① 図書館の利用				第18回	文章作成②第1章第1節					
第4回	研究する上での資料の調べ方、扱い方② ネットの利用				第19回	文章作成③第1章第2節					
第5回	研究する上での資料の調べ方、扱い方③『参考資料』という意識				第20回	文章作成④第2章第1節					
第6回	卒業研究では何をするのか、（論文とは、作品創作の場合）				第21回	文章作成⑤第2章第2節					
第7回	テーマの選定①選べるテーマ、テーマにならないもの				第22回	文章作成⑥第3章第1節					
第8回	テーマの選定②テーマにたどり着くために				第23回	文章作成⑧第3章第2節					
第9回	テーマの選定③各自のテーマ探し				第24回	文章全体の見直し					
第10回	テーマの仮決定				第25回	論文用ファイルの配布と提出のための確認					
第11回	各テーマに沿った資料探し、創作計画立案				第26回	文章作成⑨序論・研究目的、結論、終わりに、の確認					
第12回	資料整理の仕方、研究の場合の資料の扱い方				第27回	文章作成⑩参考資料一覧の確認					
第13回	目次の立て方				第28回	修論・作品提出のための最終確認					
第14回	文章を書く 1節に当たる文章を書いてみる				第29回	各自の論文・創作に関するレジュメの作成					
第15回	テーマの決定と目次の提出				第30回	ゼミ内での修了研究発表					
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	<p>予習：各自が課題を決めて資料を読み、必要な文章をまとめ、作品ならスケッチを描いておく。</p> <p>復習：授業でのコメントや指摘を受けて、修正したり先を進めたりしていく。</p> <p>1日30分から3時間と、各自の進捗、内容、また時期によってかかる時間は幅が出てくる。</p>										
⑨テキスト	授業の中で、適宜資料を配布する。										
⑩参考書／参考資料／準備物等	必要な資料は、各授業で随時配布する。										
⑪教材費	なし										
⑫履修条件／履修上の注意事項											
III 学習項目と評価方法・配点比率											
②評価方法	①学習項目	テーマの設定	目次の設定	創作・研究への取り組み	修了研究提出後のレジュメ作成			③配点比率			
	1 定期試験							0	%		
2 小テスト								0	%		
3 提出物	○	○			○			30	%		
4 発表・実技・プレゼン				○				20	%		
5 受講態度	○	○	○		○			25	%		
6 自主学習態度	○	○	○	○	○			25	%		
7 その他								0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題が提出されたところで、問題点、改善点を指摘し、次の課題を提示する。										
IV その他											

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール（中島） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	中島 千恵子									
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	①情報教育：情報通信技術の教育への活用に関わること。②教材開発：幼児保育に役立つ教材開発に関わること。									
②授業の概要	各自が興味・関心のある研究テーマを選定し、教材開発に関する研究手法を身につけることを目的とする。具体的には、教材の仕様（対象者、学習目標など）を検討し、教材を制作し、得られた結果の考察を行い、論文を執筆する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 研究テーマを選定し、研究計画を立案することができる。 2. 教材の仕様（対象者、学習目標など）を設定し、実際に教材を製作することができる。 3. 研究成果を論文にまとめることができる。 4. パワーポイントを活用したプレゼンテーションができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	ガイダンス（研究計画の立案）			第16回	演習（試作の改善点の検討）					
第2回	テーマ選定（研究の動機）			第17回	演習（教材の改善）					
第3回	テーマ選定（現状の把握）			第18回	演習（教材の試用とグループディスカッション）					
第4回	研究の目的			第19回	演習（教材の改善）					
第5回	研究の方法			第20回	演習（教材の試用とグループディスカッション）					
第6回	教材の仕様（対象者、学習目標の設定）			第21回	演習（教材の改善）					
第7回	教材の仕様（情報構造・構成の検討）			第22回	考察（教材の利用方法など）					
第8回	教材の仕様（デザイン・配色の検討）			第23回	考察（教材の特徴、先行研究との比較など）					
第9回	教材の仕様（素材の検討）			第24回	考察（問題点と今後の課題など）					
第10回	教材の仕様（利用方法の検討）			第25回	結論の検討					
第11回	教材の仕様（先行研究との比較）			第26回	論文の推敲、提出					
第12回	教材の仕様（教材の特徴）			第27回	プレゼンテーション準備（スライドの作成方法）					
第13回	演習（教材の素材収集）			第28回	プレゼンテーション準備（スライドの作成）					
第14回	演習（教材の試作）			第29回	プレゼンテーションリハーサル					
第15回	中間発表会（グループディスカッション）			第30回	最終発表会（プレゼンテーション、ディスカッション）					
定期試験	実施しない（評価は、授業時の課題およびプレゼンテーション等で行う）									
⑧自主学習の課題	予習：約30分間の学習時間を要する。予習事項は、各授業で提示する。 復習：約30分間の学習時間を要する。復習事項は、各授業で提示する。									
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	参考書は、授業内で随時紹介する。 USBメモリは、各自で準備すること。									
⑪教材費	個人で使用する物品費は、自己負担とする。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	研究テーマの選定	教材の制作	論文の記述	プレゼンテーション					③配点比率	
②評価方法										
1	定期試験								0	%
2	小テスト								0	%
3	提出物	○	○	○	○				60	%
4	発表・実技・プレゼン				○				20	%
5	受講態度	○	○	○	○				20	%
6	自主学習態度								0	%
7	その他								0	%
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題の成績評価に対する問い合わせに応ずる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール（井出） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	井出 麻里子									
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	各自の設定したテーマについて研究成果をまとめる									
②授業の概要	自分の興味のある分野からテーマを設定し、個別指導を受けながら論文を執筆もしくは作品を制作し、3年間の集大成としてまとめ上げる。随時、学術研究における倫理規程や執筆上のルールについても解説する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 研究テーマ、研究方法について設定できる。（研究テーマ・研究方法） 2. 研究テーマに関する情報を収集し、必要に応じたデータを作成することができる。（データ収集・データ作成） 3. 収集した情報・データを整理、分析し、論理的に構成することができる。（論理構成） 4. 自分自身の言葉で考えを論述するとともに、第三者に分かりやすく表現し、発表することができる。（文章表現・発表） 5. 研究倫理について理解し、研究のプロセスおよび「幼児教育研究」の執筆に活かすことができる。（研究倫理）									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
	○	○	○	○	○					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク		プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google クラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、評価				第16回	論文作成に必要なWord機能について				
第2回	研究とは何か・研究倫理について				第17回	論文の書き方②：引用・要約の仕方				
第3回	研究の進め方①：研究ノートの使い方				第18回	データ作成①：事例の書き方				
第4回	研究の進め方②：文献研究				第19回	データ作成②：表のまとめ方				
第5回	研究の進め方③：フィールドワーク				第20回	データ作成③：写真画像の扱い				
第6回	研究テーマの設定①：文献の利用				第21回	個別指導③：データの扱い方				
第7回	研究テーマの設定②：インターネットの利用				第22回	個別指導④：本章				
第8回	先行研究の調べ方				第23回	個別指導⑤：終章				
第9回	個別指導①：テーマ設定と研究方法				第24回	タイトルの最終決定と表紙、目次の書き方				
第10回	ゼミ内発表会①：テーマ設定と研究方法				第25回	参考文献一覧、謝辞の書き方				
第11回	研究計画の立案				第26回	個別指導⑥：タイトルの決定				
第12回	論文の書き方①：序章の書き方				第27回	提出後の振り返りと研究発表会について				
第13回	論文構成について				第28回	個別指導⑦：研究発表会資料				
第14回	個別指導②：序章				第29回	ゼミ内発表会③：研究発表会（プレゼンテーション）				
第15回	ゼミ内発表会②：序章				第30回	卒業研究のまとめと自己評価				
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：卒業研究の進捗状況に合わせて、毎回、個別に設定する。約30分の学習時間を要する。 復習：卒業研究の進捗状況に合わせて、毎回、個別に設定する。約30分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に資料を配付する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	必要に応じて紹介する。									
⑪教材費	<ul style="list-style-type: none"> 作品制作を行う場合の材料費、実践現場での検証を行う場合の交通費などは各自で負担する。 大学ノート（B5サイズ）を1冊用意すること。 									
⑫履修条件／履修上の注意事項	オンデマンド授業の課題は Google classroom 経由で提出するため、本科目の Classroom に必ず参加すること（クラスコードは初回授業で伝える）									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	研究テーマ・研究方法	データ収集・データ作成	論理構成	文章表現・発表	研究倫理	③配点比率			
	1 定期試験						0	%		
2 小テスト							0	%		
3 提出物		○	○	○	○		75	%		
4 発表・実技・プレゼン		○	○	○	○		10	%		
5 受講態度		○	○	○	○		10	%		
6 自主学習態度		○	○	○	○		5	%		
7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール（大井） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	大井 美緒									
④実務経験	幼稚園教諭（15年）					⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児教育に関するテーマを設定し、卒業研究としてまとめる。									
②授業の概要	幼稚園教諭としての勤務経験をもつ教員が担当する。前期は、保育に関する事例等を提示し、子ども理解や保育者の援助など視点を定めて討論を行い考察をしていく。これらを通して幼児教育について関心のあるテーマを設定していく。後期は、目的を定めてテーマに関する研究に取り組み、卒業研究としてまとめあげ、ゼミ内発表会においてプレゼンテーションする。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. [関心・意欲・態度] 自分の興味や関心をもとに探求できる研究テーマを設定できる。 2. [思考・判断・表現] 研究テーマに関連する文献や資料等情報を収集できる。 3. [技能] 収集した情報を整理、分析、考察し、自分の考えを論述し卒業研究としてまとめ上げる。 4. [知識・理解] 研究内容について、パワーポイントを用いたプレゼンテーションができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク		プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業			グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	オリエンテーション卒業研究の進め方			第16回	研究進捗状況の報告					
第2回	研究テーマの設定について			第17回	結果の整理方法					
第3回	研究テーマを探す①（先行研究の探し方）			第18回	結果の図の作成について					
第4回	研究テーマを探す②（文献の探し方）			第19回	結果の表の作成について					
第5回	先行研究の整理の仕方			第20回	結果の記述					
第6回	研究の動機・目的について			第21回	考察の書き方					
第7回	発表①研究テーマと構想			第22回	考察の作成					
第8回	卒業研究の書き方（基本的なルール）			第23回	結論の作成					
第9回	研究を進めるにあたっての倫理規定について			第24回	引用参考文献、謝辞の書き方について					
第10回	目次の作成			第25回	卒業研究全体の確認					
第11回	序論の書き方と作成			第26回	研究協力者への報告について					
第12回	研究方法の書き方			第27回	研究発表に向けて①（プレゼンテーションの作成）					
第13回	発表②（研究テーマ・序論・方法）前半グループ			第28回	研究発表に向けて②（資料の作成）					
第14回	発表②（研究テーマ・序論・方法）後半グループ			第29回	発表リハーサル					
第15回	夏休みの課題と今後の研究計画について			第30回	ゼミ内卒業研究発表会					
定期試験	なし									
⑧自主学習の課題	予習：テーマに関する文献を調べ要約する。指導内容を踏まえて研究を進めていくこと。予習には30分の学習時間を要する。 復習：助言や指導を受けた事項を確認し、加筆・修正をし、研究をまとめていく。復習には30分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	必要な資料は、随時は配布する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	必要に応じて紹介する。									
⑪教材費	研究に必要な教材やフィールドワーク等にかかる費用は個人負担とする。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	「特別演習M」を履修すること。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率				
②評価方法										
1	定期試験									%
2	小テスト									%
3	提出物	○	○	○	○			50		%
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			30		%
5	受講態度	○	○	○	○			10		%
6	自主学習態度	○	○	○	○			10		%
7	その他									%
④ルーブリック評価	取り入れている							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物は、添削をし個別指導をして返却する。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール（藤原） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	藤原 明子									
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	子どもの造形表現（地域におけるグループ実践）・作品製作									
②授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> ゼミ生全員で地域の保育施設で実践活動（工作キャラバン）を行う。工作キャラバンで何を行うかはゼミ生で計画し、保育施設の担当者と適切な活動である相談の上行う。活動を振り返り、また各自関連する文献研究を加え、論文にまとめる。 作品製作を卒業研究としたい学生は、それも可能である。ただしその場合も「1」の工作キャラバンには原則として参加する。 									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 保育施設とゼミのメンバーと【協働】して造形活動の計画と実践が出来る 様々な子どもへの対応や、保育施設の環境に応じた【実践】を行うことができる。また、計画・実践及びデータの取り扱いにおいて、適切な【倫理的配慮】ができる 実践後は活動を振り返り（【省察】）、【論理的な分析】を行うことができる 研究成果を、今後の保育実践に役立つ論文としてまとめることができる【卒業研究執筆】 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業		○	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク	○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	卒業研究の進め方・スケジュールの検討			第16回	これまでの実践研究の結果をまとめる					
第2回	研究方法（実践研究・文献研究・作品制作）と研究倫理			第17回	第3回実践（ミニ実践）の計画と準備					
第3回	保育現場で行いたい実践研究と実践希望施設を決める			第18回	第3回実践（ミニ実践）					
第4回	第1回実践活動の予行練習・指導案と活動説明資料の作成			第19回	第3回実践の振り返り					
第5回	第1回実践研究の目的と方法の執筆			第20回	論文全体の文章構成を考える					
第6回	第1回実践する保育施設との打ち合わせ			第21回	序論・先行研究（文献研究）・実践研究の流れを整える					
第7回	第1回実践に向けての最終準備			第22回	考察の書き方と執筆					
第8回	第1回実践（工作キャラバン）			第23回	考察と結論の作成					
第9回	第1回振り返り・第2回の実践準備			第24回	引用文献・資料・謝辞の書き方					
第10回	第2回の実践準備・指導案の作成			第25回	卒研プレゼン資料の構成を考える					
第11回	第2回実践する保育施設との打ち合わせ			第26回	卒研プレゼン資料の作成					
第12回	第2回実践に向けての最終準備			第27回	プレゼン資料を基に研究協力施設への報告資料を作成					
第13回	第2回実践（工作キャラバン）			第28回	卒研発表練習					
第14回	第2回実践の振り返り			第29回	ゼミ内卒研発表会					
第15回	文献検索の方法と文献研究・夏休みの課題について			第30回	研究協力施設への研究報告（訪問）					
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：各授業回において課題（調べ活動等）を提示する。予習には約90分の学習時間を要する。 復習：授業での実践やグループ活動を文章にまとめる。復習には約90分の時間を要する。									
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	教材費：1人700円（キャラバンにかかる経費） 個人の制作に係る経費は原則個人負担とする。 また、フィールドワークにおける交通費は個人負担とする。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	ゼミナールで企画する工作キャラバンへ参加する									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	ゼミにおける協働	実践・倫理的配慮	省察・倫理的分析	論文執筆	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験						0	%			
2 小テスト						0	%			
3 提出物			○	○		40	%			
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○			40	%			
5 受講態度	○		○			10	%			
6 自主学習態度	○		○			10	%			
7 その他						0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	ゼミのディスカッションの総括を行う。指導案や論文等の提出物については添削及びコメントを記入し返却する。									
IV その他										
キャラバンを行う保育施設は、保育所、幼稚園、児童館、放課後児童クラブ等を想定している。										

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール（竹森） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	竹森 亜美									
④実務経験	臨床心理士・公認心理師					⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了	必修		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	特別支援教育におけるアセスメントの理解／障がい児心理学の実践研究									
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、発達障がい児・者とその家族の心理支援、学校現場への巡回相談などの実践経験を活かし、実践現場へのフィールドワークを推奨し、授業を展開する。本授業では、特別支援教育や障がい児心理学の先行研究や実践報告等を購読し、研究テーマとなる問題を設定する。さらに、現場での実践研究または調査研究を計画、実行、評価する力を養う。前期では、実践研究を進めるための必須技術であるインタビュー調査・介入研究についての理解を深める。また、研究を実施する上での倫理的配慮を学びながら、フィールドワーク先で実施可能な研究計画を立案する。後期には、収集したデータを分析・整理した上で結果をまとめ、そこから考察できる事象をまとめる。研究によって得られた成果を現場に報告する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育及び障がい児心理学の実践研究の手法（アセスメントを含む）と研究倫理に関する知識を習得する。 2. 現在のフィールドワークから、実践研究を計画し、実行する。 3. 実践報告や調査研究により収集したデータを分析・整理し、論理的に考察することができる。 4. 研究成果をまとめ、保育・教育の実践現場にわかりやすく報告する。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業	ディスカッション・ディベート						
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク		プレゼンテーション	実習・フィールドワーク	○					
⑦授業の計画（授業の内容）	パソコン・タブレット端末による 双方向授業					グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援				
⑧自主学習の課題	<p>予習：引用文献となる文献を調べ、入手しておくこと。 復習：研究に関わる資料や授業での配布資料を整理し、研究論文執筆たえの手順と進捗を各自で確認すること。 ※予習・復習含め、60分程度の時間を要する。</p>									
⑨テキスト	授業時に資料を配布する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	一般社団法人日本保育学会倫理綱領ガイドブック編集委員『改訂 保育学研究倫理ガイドブック：子どもの幸せを願うすべての保育者と研究者のために』フレーベル館、2012年									
⑪教材費	研究実施に必要な図書費、フィールドワークにかかる交通費、教材費は個人の負担とするが、相談を受け付ける。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	特記事項なし。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	アセスメント	研究遂行力	論文執筆	研究倫理の理解	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験										%
2 小テスト										%
3 提出物	○	○	○	○				40		%
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○				30		%
5 受講態度										%
6 自主学習態度	○	○	○	○				10		%
7 その他								20		%
④ルーブリック評価	研究論文の作成において、一部ルーブリック評価を活用する。						比率合計	100		%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題（研究論文やレポート等）の成績評価に対する個別の問い合わせに応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール（坂本） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	坂本 真季									
④実務経験	公認心理師・臨床発達心理士					⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	子育て支援領域において研究テーマを設定し、卒業研究としてまとめ上げる。									
②授業の概要	公認心理師（臨床発達心理士）として子育て支援に従事してきた教員が担当する。保育・子育て支援において問題意識やテーマを絞り込み、フィールドワークから事象を客観的に捉え整理し、文献に基づきながら評価・考察する。これらの経過を記録し、卒業研究としてまとめ上げる。卒業研究は、ゼミ内発表会においてプレゼンテーションする。Google classroomにより課題・資料を提示し、必要に応じて meet やメールによるオンライン個別指導を行う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1 [関心・意欲・態度] 子育て支援に関する先行研究を概観し、探求したいテーマを設定できる。 2 [思考・判断・表現] 研究テーマについて多面的に考察し、先行研究や他者の意見をふまえて自分の意見を述べるができる。 3 [技能] 心理学的研究手法に基づき、目的に沿った研究の実施、結果の整理、考察ができる。 4 [知識・理解] 文献検索、論文作成の基本的事項と研究テーマに関する基礎知識を理解し卒業研究を作成できる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○				
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	卒業研究の進め方				第16回	研究実施の準備				
第2回	子育て支援領域における研究テーマ				第17回	結果の整理方法				
第3回	研究テーマを探す① インターネットの検索方法				第18回	結果の表作成				
第4回	研究テーマを探す② 図書館における文献検索				第19回	結果の図作成				
第5回	先行研究の整理方法				第20回	結果の記述				
第6回	研究動機・構想の作成				第21回	考察の書き方				
第7回	個人発表①（研究テーマと構想発表）				第22回	考察の作成				
第8回	個人発表①（研究テーマと構想発表）				第23回	考察・結論の作成				
第9回	論文の書き方（基本ルールと目次の作成）				第24回	引用文献・資料・謝辞の書き方				
第10回	序論の書き方と作成				第25回	卒論最終チェック *ゼミ内卒論提出				
第11回	研究方法と方法の書き方				第26回	卒論の振り返りとまとめの作成				
第12回	個人発表②（目次、序論、方法）				第27回	研究協力者への報告書作成				
第13回	個人発表②（目次、序論、方法）				第28回	発表パワーポイントの作成				
第14回	研究実施に関する倫理				第29回	発表リハーサル				
第15回	研究の実実施計画				第30回	ゼミ卒業研究発表会				
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関連する書籍・論文を検索し、その内容について要約すること。 指導内容をふまえて、論文の執筆を進めていくこと。 授業外の時間に研究の実施を行うこと。 自主学習時間は、本授業の前後に各 90 分間を要する。									
⑨テキスト	なし *必要な資料は、随時配布する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考書：白井利明・高橋一郎（著）「よくわかる卒論の書き方第2版」ミネルヴァ書房 その他、参考資料などは随時紹介する。									
⑪教材費	フィールドワークおよび卒業研究に関わる経費は、個人負担とする。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークをもとに卒業研究を行う。 受講者全員が自由に意見が出し合える雰囲気をつくれるよう、他者の意見を尊重し、ポジティブなやりとりを期待する。 やむを得ない理由により欠席した場合には、翌週の授業時に授業資料を受け取る。 本科目の Classroom に必ず参加すること（クラスコードは初回の講義で伝えます）。 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題を Google classroom より配信する予定である。 									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験							0		%	
2 小テスト							0		%	
3 提出物	○	○	○	○			50		%	
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			30		%	
5 受講態度	○	○	○	○			10		%	
6 自主学習態度	○	○	○	○			10		%	
7 その他							0		%	
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計	100		%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物については、添削し返却するとともに講評する。発表については、内容・態度・技能について講評する。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究 Graduation Research					②科目コード	Y1-3C004			
③担当教員名	町田 治 中島 千恵子 井出 麻里子 大井 美緒 藤原 明子 竹森 亜美 坂本真季									
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	2単位	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	各自の設定したテーマについての研究成果をまとめる。									
②授業の概要	自分の興味・関心のあるテーマを設定し、指導教員のもと研究を進めて報告書の執筆や作品制作を行ない、3年間の集大成としてまとめる。(作品制作の場合でも報告書は付きねばならない。)									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを設定できる。 2. 研究テーマに関する情報収集ができる。 3. 集めた情報を整理し、分析することができる。 4. 自分の考えを論述できる(自分の表現したいものを制作物・作品として形にできる)。 5. 公に文書を発表、公表する際の倫理、研究倫理に基づき、研究発表ができる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
		○		○						
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回	各自行った研究に基づいて、担当教員の指導を受けながら報告書としてまとめる。制作物の場合も報告書は必須であり、担当教員の指導に従ってまとめる。									
第6回	・提出分量(文字数、ページ数等)、書式、提出方法、提出日時、提出場所については、各担当教員の指示に従う。									
第7回	・報告書、制作物の審査・評価後、研究発表を行うことがある。									
第8回	・提出した報告書、制作物は、専攻科修了までに本人に返却される。									
第9回	・担当教員から、保存資料として報告書のコピーの指定を受けることがある。コピーは図書館にて閲覧可能な資料として保存される。									
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
定期試験	報告書、制作物そのものが評価対象となる。									
⑧自主学習の課題	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
⑨テキスト	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
⑪教材費	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目								③配点比率		
②評価方法		各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。								
1 定期試験									%	
2 小テスト									%	
3 提出物									%	
4 発表・実技・プレゼン									%	
5 受講態度									%	
6 自主学習態度									%	
7 その他			%							
④ルーブリック評価	取り入れていない	比率合計				0	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 A Special Seminar and Research A					②科目コード	Y6-3B001			
③担当教員名	町田 治									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育で必要とされる音楽技術を総合的に高める。									
②授業の概要	レッスンを通して、ピアノ演奏、歌唱、弾き歌い、伴奏の弾き方・付け方、コード・ネームの読み方を学ぶ。 就職試験での音楽課題にも対応する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. [ピアノ演奏技術] ピアノ演奏、歌唱力が上達する。 2. [弾き歌いの技術] 弾き歌いがより上達する。 3. [コードネームの理解] コード・ネームによる伴奏付けができるようになる。 4. [音楽的総合力] レッスンで課題曲を最低5曲は仕上げる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについての復習(英語音名)。									
第2回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音~臨時記号が付かない和音)。									
第3回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音~臨時記号が付く和音)。									
第4回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音のみによるハ長調の課題の実施)。									
第5回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音のみによるヘ長調の課題の実施)。									
第6回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音のみによる変ロ長調の課題の実施)。									
第7回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音~臨時記号が付かない和音)。									
第8回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音~臨時記号が付く和音)。									
第9回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入ったハ長調の課題の実施)。									
第10回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入ったヘ長調の課題の実施)。									
第11回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入ったニ長調の課題の実施)。									
第12回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入った変ロ長調の課題の実施)。									
第13回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入った変ロ長調の課題の実施)。									
第14回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短調:短音階、短調の曲想)									
第15回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短調:イ短調の課題の実施)									
定期試験	実施しない レッスンでの課題実施を持って評価する。									
⑧自主学習の課題	予習:各自の課題曲の練習(要30分)。 復習:レッスンで受けた指摘、テクニックが身につくまで練習する。(要30分)。コード・ネームの理解と使用法について(要30分)。保育現場での総合的に使える音楽技術を身に付ける(要30分)。									
⑨テキスト	全体に必要な課題、説明資料は、授業時に配布する									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	各自の課題曲の楽譜入手にかかる費用は、各自で負担する。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	各自で入手した楽譜は、ファイルして授業に持ち込むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		ピアノ演奏技術	弾き歌いの技術	コード・ネームの理解	音楽的総合力	③配点比率				
②評価方法										
1	定期試験							0	%	
2	授業で実施する課題の採点	○	○	○	○			80	%	
3	提出物							0	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○	○	○	○			10	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			10	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 B Special Seminar and Research B					②科目コード	Y6-3B002			
③担当教員名	町田 治									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育で必要とされる音楽技術を総合的に高める。									
②授業の概要	レッスンを通して、ピアノ演奏、歌唱、弾き歌い、伴奏の弾き方・付け方、コード・ネームの読み方を学ぶ。就職試験での音楽課題にも対応する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. [ピアノ演奏技術] ピアノ演奏、歌唱力が上達する。 2. [弾き歌いの技術] 弾き歌いがより上達する。 3. [コードネームの理解] コード・ネームによる伴奏付けができるようになる。 4. [音楽的総合力] レッスンで課題曲を最低5曲は仕上げる。 ([特別演習 A]と同じ授業概要、学習成果となっているが、レッスン課題は A とは異なる課題にて行うことになる)									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業			ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	プレゼンテーション			実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属7の和音:ハ長調の課題)									
第2回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属7の和音:ト長調の課題)									
第3回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属7の和音:ヘ長調の課題)									
第4回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(減7の和音:ハ長調の課題)									
第5回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(減7の和音:二長調の課題)									
第6回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(減7の和音:変ロ長調の課題)									
第7回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(付加6の和音:ハ長調の課題)									
第8回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(増3和音:ヘ長調の課題)									
第9回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短7の和音:ト長調の課題)									
第10回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(長7の和音:ハ長調の課題)									
第11回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(掛留和音:ハ長調の課題)									
第12回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属9の和音:ヘ長調の課題)									
第13回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(種々の和音を取り混ぜた課題:ト長調の課題)									
第14回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(種々の和音を取り混ぜた課題:変ロ長調の課題)									
第15回	各自の課題曲のレッスン。日本の旋法とコードについて									
定期試験	実施しない レッスンでの課題実施を持って評価する。									
⑧自主学習の課題	予習:各自の課題曲の練習(要30分)。 復習:レッスンで受けた指摘、テクニックが身につくまで練習する。(要30分)。コード・ネームの理解と使用方法について(要30分)。保育現場での総合的に使える音楽技術を身に付ける(要30分)。									
⑨テキスト	全体に必要な課題、説明資料は、授業時に配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	各自の課題曲の楽譜入手にかかる費用は、各自で負担する。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	各自で入手した楽譜は、ファイルして授業に持ち込むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	ピアノ演奏技術	弾き歌いの技術	コード・ネームの理解	音楽的総合力			③配点比率		
1	定期試験							0	%	
2	授業で実施する課題の採点	○	○	○	○			80	%	
3	提出物							0	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○	○	○	○			10	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			10	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 C Special Seminar and Research C					②科目コード	Y6-3B003			
③担当教員名	武田 秀美									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格			発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児保育のための児童文学（絵本）の研究									
②授業の概要	幼児や児童の言葉と心を豊かに育む、日本と外国の児童文学（絵本）の研究を通して、児童文学の意義や魅力について探求する。 また、幼児保育における読み聞かせに役立つ児童文学作品の解釈と鑑賞の方法と、幼児や児童の発達年齢・発達状況に応じた児童文学の提供の方法と技術を学ぶ。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 幼児保育に必要な、児童文学に関する基礎的、基本的な知識や情報を身に付け、説明することができる。 2. 児童文学作品の解釈と鑑賞の能力を身に付け、自らの考察を適切に文章でまとめるとともに、口頭で述べるることができる。 3. 幼児・児童の発達年齢や発達状況にふさわしい児童文学作品の選定・与え方の知識と方法と技術を身に付け、実践できる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○					
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	授業の進め方、演習発表、成績評価、演習発表で採り上げる絵本の選定について									
第2回	児童文学の概要（童話・昔話・民話・物語・絵本等）と演習発表について									
第3回	児童文学の研究手法と発表資料の作成方法について（『ももたろう』を例に）									
第4回	演習発表で採り上げる絵本の研究①（各自選定した作品の分析研究）									
第5回	演習発表で採り上げる絵本の研究②（作品を読み聞かせる幼児・児童の年齢や発達段階、読み聞かせにおける配慮、保育のねらい等の研究）									
第6回	学生による絵本についての発表（第1回目）と質疑応答および教員による補説									
第7回	名作絵本の研究（1）『ねずみくんのチョコッキ』「作品研究シート」の記入と作品についてのグループディスカッション									
第8回	『ねずみくんのチョコッキ』についての教員の解説									
第9回	学生による絵本についての発表（第2回目）と質疑応答および教員による補説									
第10回	名作絵本の研究（2）『こすずめのぼうけん』「作品研究シート」の記入と作品についてのグループディスカッション									
第11回	『こすずめのぼうけん』についての教員の解説									
第12回	学生による絵本についての発表（第3回目）と質疑応答および教員による補説									
第13回	名作絵本の研究（3）『スイミー』「作品研究シート」の記入と作品についてのグループディスカッション									
第14回	『スイミー』についての教員の解説									
第15回	学生による絵本についての発表（第4回目）と質疑応答および教員による補説									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：各自発表する作品について分析・研究し、発表資料を作成する。また、授業で採り上げる作品についても必ず読み、研究・考察し、授業でのグループ学習（ディスカッション）に参加できるように準備する。 復習：授業で採り上げた作品や参考文献・資料・配布プリントなどを読み返し、理解を深めること。予習・復習ともに、約45分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	プリント教材を使用する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 他の参考文献は、授業中に紹介する。									
⑪教材費										
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	定員15名。 採り上げる絵本の内容や数は、受講者の人数や状況により変更となる場合がある。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	児童文学に関する基礎的 基本的知識・ 情報	作品の解釈と 鑑賞の能力と 言語表現力	保育における 作品選定 および 実演の能力							③配点比率
②評価方法										
1 定期試験										0 %
2 小テスト										0 %
3 提出物	○	○	○							30 %
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○							50 %
5 受講態度	○	○	○							10 %
6 自主学習態度	○	○	○							10 %
7 その他										%
④ルーブリック評価	学生の演習発表の評価において用いている。						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物は返却し、授業中に解説・指導を行う。 また、成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 D Special Seminar and Research D					②科目コード	Y6-3B004			
③担当教員名	武田 秀美									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児保育のための児童文学(童話・昔話・民話・物語・絵本)の研究									
②授業の概要	幼児や児童の言葉と心を豊かに育む、日本と外国の「児童文学」(童話・民話・昔話・物語・絵本)の研究を通して、児童文学の意義や魅力について探求する。また、幼児保育における読み聞かせに役立つ児童文学作品の解釈と鑑賞の方法と、幼児や児童の発達年齢に応じた児童文学の提供の方法を学ぶ。 具体的には、作品についての各自の作品研究、学生グループでの意見交換、各グループごとの意見の発表、教員による作品についての解説を行う。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 幼児保育に必要な、児童文学に関する基礎的、基本的な知識や情報を身に付け、説明することができる。 2. 児童文学作品の解釈と鑑賞の能力を身に付け、自らの考察を適切に文章でまとめるとともに、口頭で述べるることができる。 3. 幼児・児童の発達年齢や発達状況にふさわしい児童文学作品の選定・与え方の知識と方法について説明することができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	授業の進め方、成績評価について									
第2回	児童文学の概要(童話・民話・昔話・物語・絵本等)について									
第3回	児童文学の研究の方法について(絵本『ぐりとぐらのかいすいよく』を例に)									
第4回	アンデルセン「おやゆび姫」の研究(1)時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在について									
第5回	アンデルセン「おやゆび姫」の研究(2)作品のテーマ、表現の特色について									
第6回	アンデルセン「おやゆび姫」の研究(3)幼児向け絵本版『おやゆび姫』の種類と内容について									
第7回	グリム童話「小人の贈物」と日本の昔話「こぶとりじいさん」の研究(1)時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在について									
第8回	グリム童話「小人の贈物」と日本の昔話「こぶとりじいさん」の研究(2)作品のテーマ、表現の特色について									
第9回	グリム童話「小人の贈物」と日本の昔話「こぶとりじいさん」の研究(3)幼児向け絵本版「こぶとりじいさん」の種類と内容について									
第10回	新美南吉「ごんぎつね」の研究(1)時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在									
第11回	新美南吉「ごんぎつね」の研究(2)作品のテーマ、表現の特色について									
第12回	新美南吉「ごんぎつね」の研究(3)幼児向け絵本版『ごんぎつね』について									
第13回	ルース・エインズワース『黒ねこのおきゃくさま』の研究(1)時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在									
第14回	ルース・エインズワース『黒ねこのおきゃくさま』の研究(2)作品のテーマ、表現の特色について									
第15回	保育・児童教育における児童文学の意義と役割について									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：授業で採り上げる作品については必ず読み、研究・考察し、授業でのグループ学習(ディスカッション)に参加できるように準備する。 復習：授業で採り上げた作品や参考文献・資料・配布プリントなどを読み返し、理解を深める。予習・復習ともに、約45分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	プリント教材を使用する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 他の参考文献は、授業中に紹介する。									
⑪教材費										
⑫履修条件/履修上の注意事項	定員15名。 授業中に採り上げる作品は必ず読み、「作品研究シート」を提出するとともに、グループ学習・口頭発表を行うことが履修の条件となる。 なお、採り上げる児童文学は、受講者の人数や状況により変更となる場合がある。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		児童文学に関する基礎的 基本的知識・ 情報	作品の解釈と 鑑賞の能力と 言語表現力	保育における 作品の選定と 与え方の知識						③配点比率
②評価方法	1	定期試験								%
	2	小テスト								%
	3	提出物	○	○	○				40	%
	4	発表・実技・プレゼン	○	○	○				40	%
	5	受講態度	○	○	○				10	%
	6	自主学習態度	○	○	○				10	%
	7	その他								%
④ルーブリック評価	なし					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物は返却し、授業中に解説・指導を行う。 また、成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 E Special Seminar and Research E					②科目コード	Y6-3B005			
③担当教員名	中島 千恵子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	Web 技術の教育への活用(基礎)									
②授業の概要	本授業では、高度情報化社会における多様な教育環境に対応するべく、Web による情報発信のプロセスと手法を総括的に学ぶ。また、ユニバーサルな情報の共有・発信という観点から、HTML によるコーディング技法を習得し、実践的な力量を形成することを目的とする。各授業では、デジタル教材を活用する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. HTML によるコーディング技法を説明できる。 2. テキストエディタを使って、Web をコーディングできる。 3. Web による情報発信のプロセスと手法を説明できる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
		○			○				○	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業				ディスカッション・ディベート		○	
	グループワーク	○	プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				Google Classroom 等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	イントロダクション									
第2回	文書の基本構造を表す HTML									
第3回	演習(コーディング: 分かりやすい情報表現)									
第4回	分散管理のためのリンク技術									
第5回	演習(コーディング: ハイパーリンク)									
第6回	表現を分離するスタイルシート									
第7回	演習(コーディング: スタイルシート)									
第8回	テーブル									
第9回	演習(コーディング: テーブル)									
第10回	マルチメディアオブジェクトの扱い									
第11回	演習(コーディング: マルチメディアオブジェクト)									
第12回	Web プロジェクトのワークフロー									
第13回	企画の立案									
第14回	演習(企画の立案: 動機、目的、対象者) グループディスカッション・プレゼンテーション									
第15回	演習(企画の立案: 期待効果、発信内容) グループディスカッション・プレゼンテーション									
定期試験	実施しない(評価は、授業時の小テスト、課題レポート、プレゼンテーション等で行う)									
⑧自主学習の課題	予習: 約 30 分間の学習時間を要する。予習事項は、各授業で提示する。 復習: 約 30 分間の学習時間を要する。復習事項は、各授業で提示する。									
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	参考書は、授業内で随時紹介する。 USB メモリは、各自で準備すること。									
⑪教材費	特になし。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。 定員 24 名まで。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	HTML の基礎	コーディング	情報発信のプロセスと手法					③配点比率	
	1 定期試験								0	%
2 小テスト		○							20	%
3 提出物			○	○					50	%
4 発表・実技・プレゼン			○						20	%
5 受講態度			○	○					10	%
6 自主学習態度			○	○					0	%
7 その他									0	%
④ルーブリック評価	取り入れている							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 F Special Seminar and Research F					②科目コード	Y6-3B006			
③担当教員名	中島 千恵子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	Web 技術の教育への活用（応用）									
②授業の概要	本授業では、各自が興味・関心のあるテーマを選定し、Web サイトの情報構造を設計する手法を学ぶ。また、ユニバーサルな情報の共有・発信という観点から、HTML によるコーディング技法を習得し、実践的な力量を形成することを目的とする。各授業では、デジタル教材を活用する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. Web サイトの企画立案の手法を説明できる。 2. Web サイトの情報構造を設計できる。 3. HTML によるコーディング技法を習得し、基礎的な Web を製作できるようになる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性		
		○			○			○		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート		○			
	グループワーク		プレゼンテーション		○	実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	イントロダクション（特別演習 C の復習）									
第2回	Web サイト情報構造の設計									
第3回	演習（Web サイト情報構造の設計）									
第4回	ページ情報構造の設計									
第5回	演習（ページ情報構造の設計）									
第6回	デザイン・ガイドラインの設計									
第7回	演習（デザインガイドラインの設計）									
第8回	オブジェクト指向ベースのクライアントサイドスクリプト（JavaScript）									
第9回	演習（JavaScript）									
第10回	キャッチコピーの設定									
第11回	演習（キャッチコピー）									
第12回	演習（コーディング：基本構造）									
第13回	演習（コーディング：スタイルシート）									
第14回	演習（プレゼンテーション準備）									
第15回	まとめ（プレゼンテーション、ディスカッション）									
定期試験	実施しない（評価は、授業時の課題レポートおよびプレゼンテーション等で行う）									
⑧自主学習の課題	予習：約 30 分間の学習時間を要する。予習事項は、各授業で提示する。 復習：約 30 分間の学習時間を要する。復習事項は、各授業で提示する。									
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考書は、授業内で随時紹介する。 USB メモリは、各自で準備すること。									
⑪教材費	特になし									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	本講義を受講するためには、「特別演習 C」を事前に受講することが求められる。 授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。 定員 24 名まで。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	企画立案の手法	情報構造の設計	コーディング					③配点比率	
	1 定期試験							0	%	
2 小テスト								0	%	
3 提出物	○	○	○					60	%	
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○					30	%	
5 受講態度	○	○	○					10	%	
6 自主学習態度								0	%	
7 その他								0	%	
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 G (モンテッソーリ教育の理論) Special Seminar and Research G					②科目コード	Y6-3B007			
③担当教員名	井出 麻里子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	モンテッソーリ教育の理論について理解する。									
②授業の概要	テキスト・配付資料や、視聴覚教材、モンテッソーリ教具を提示しながら、モンテッソーリ教育の理論について解説をしていく。授業内容をノートにまとめ、適宜、提出することで理解度を確認する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. モンテッソーリ教育の基本原理について説明できる。(教育原理) 2. モンテッソーリ教具のカリキュラムや教具の意図について説明できる。(教具論) 3. モンテッソーリ教師および大人の役割について説明できる。(教師論)									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	オリエンテーション：授業の概要と進め方、評価についてなど / モンテッソーリ教育とは									
第2回	モンテッソーリ教育の成立過程と基本原理①「ハン脰をあさる障がい児」のエピソード									
第3回	モンテッソーリ教育の成立過程と基本原理②「円柱差しの女兒」のエピソード									
第4回	モンテッソーリ教育の成立過程と基本原理③「敏感期」について									
第5回	モンテッソーリ教具について(モンテッソーリ教具の5分野)									
第6回	「日常生活の練習」① 目的									
第7回	「日常生活の練習」② 教具の紹介と教具体験									
第8回	「感覚教具」① 目的									
第9回	「感覚教具」② 教具の紹介と教具体験									
第10回	「算数教具」① 目的とカリキュラム									
第11回	「算数教具」② 教具の紹介と教具体験									
第12回	「言語教具」① 目的とカリキュラム									
第13回	「言語教具」② 教具の紹介と教具体験									
第14回	モンテッソーリ教師の役割									
第15回	まとめ：モンテッソーリ教育における大人の役割									
定期試験	実施する(レポート)									
⑧自主学習の課題	予習：テキストや配付資料を読み、疑問点をノートにまとめる。約30分の学習時間を要する。 復習：授業内容をノートにまとめ、考察を書く。約30分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	田中昌子著『マンガでやさしくわかるモンテッソーリ教育』日本能率協会マネジメントセンター2018年									
⑩参考書/参考資料/準備物等	授業内で随時紹介する。									
⑪教材費	大学ノート(B5サイズ)を1冊用意すること。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	・教具体験はグループワークの形式で行う。 ・オンデマンド課題は Google classroom 経由で提出するため、本科目の Classroom に必ず参加すること(クラスコードは初回授業で伝える)									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	教育原理	教具論	教師論						③配点比率	
②評価方法										
1 定期試験(レポート)			○						30	%
2 小テスト									0	%
3 提出物(ノート)	○	○	○						60	%
4 発表・実技・プレゼン									0	%
5 受講態度	○	○	○						5	%
6 自主学習態度	○	○	○						5	%
7 その他									0	%
④ルーブリック評価	取り入れている							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 H (モンテッソーリ教育の実践) Special Seminar and Research H					②科目コード	Y6-3B008			
③担当教員名	井出 麻里子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	モンテッソーリ教育の実践について知る。									
②授業の概要	画像・DVDなどの視聴覚教材や実際のモンテッソーリ教具を提示しながら、モンテッソーリ教育の実践について解説をしていく。授業内容をノートにまとめ、適宜、提出することで理解度を確認する。また、モンテッソーリ教育を実践している現場でのフィールドワークを行い、モンテッソーリ教育の実際を知る。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 各発達段階の特徴と、その時期にふさわしい養育・保育環境について説明できる。(発達と環境) 2. モンテッソーリ教育の実践事例を知り、その特徴を説明できる。(実践事例の理解) 3. モンテッソーリ教育の実践現場を体験し、レポートにまとめる。(実践現場体験)									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク	○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援		○				
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	オリエンテーション：授業の概要と進め方、フィールドワーク、評価についてなど									
第2回	モンテッソーリ教育の理論と実践(モンテッソーリ園の環境)									
第3回	モンテッソーリ・メソッドの実践① DVD 視聴と解説『モンテッソーリ教育0歳児の家庭環境 出産～5ヶ月』									
第4回	モンテッソーリ・メソッドの実践② DVD 視聴と解説『ニド モンテッソーリ教育 0歳児の発達と環境』									
第5回	0歳児クラスの保育環境① スペースと家具の配置									
第6回	0歳児クラスの保育環境② モンテッソーリ教具と教師の役割									
第7回	モンテッソーリ・メソッドの実践③ DVD 視聴と解説『インファントコミュニティ モンテッソーリ教育 1～3歳児の生活教育』									
第8回	1～3歳児クラスの保育環境									
第9回	モンテッソーリ・メソッドの実践③ DVD 視聴と解説『子どもの家 モンテッソーリ教育 3～6歳児の感覚教育』									
第10回	家庭におけるモンテッソーリ教育の実践									
第11回	幼稚園におけるモンテッソーリ教育の実践									
第12回	フィールドワーク① 概要説明									
第13回	フィールドワーク② 事前学習									
第14回	フィールドワーク③ 園見学									
第15回	フィールドワーク④ フィールドワークの振り返りとモンテッソーリ教育の実践に関するまとめ									
定期試験	実施する(レポート課題)									
⑧自主学習の課題	予習：テキストや配付資料を読み、疑問点をノートにまとめる。約30分の学習時間を要する。 復習：授業内容をノートにまとめ、考察を書く。約30分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	随時、資料を配付する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	授業内で随時紹介する。									
⑪教材費	・大学ノート(B5サイズ)1冊を用意すること。・フィールドワークにかかる費用は各自の負担となる。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	・前期に開講している「幼児教育研究G(モンテッソーリ教育の理論)」を履修していること。 ・オンデマンド課題はGoogle classroom経由で提出するため、本科目のClassroomに必ず参加すること。(クラスコードは初回授業で伝える)									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	発達と環境	実践事例の理解	実践現場体験						③配点比率	
②評価方法										
1 定期試験(レポート)			○						30	%
2 小テスト									0	%
3 提出物(ノート)	○	○							60	%
4 発表・実技・プレゼン									0	%
5 受講態度	○	○	○						5	%
6 自主学習態度	○	○	○						5	%
7 その他									0	%
④ルーブリック評価	取り入れている							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目											
①科目名	特別演習Ⅰ（保育時事問題演習） Special Seminar and ResearchⅠ					②科目コード	Y6-3B009				
③担当教員名	打越 みゆき										
④実務経験	国家公務員（2年）					⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格			発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	公務員採用試験に向けての面接・小論文対策										
②授業の概要	この授業では、公務員採用試験を受験希望の人を対象に、保育時事問題を取り上げ、試験で必要とされる小論文・面接・グループ討議等の力を身につける。保育士資格に必要な知識や自らの体験を総合的に捉え、自分の意見として人にわかりやすく伝えられるようにする。										
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 保育時事問題について、自分の意見を文章にまとめることができる。 2. 保育時事問題について、自分の意見を人にわかりやすく伝えることができる。 3. 保育時事問題について、他者の意見を受け止めながら、自分の意見を伝えることができる。										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性						
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート	○						
	グループワーク	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク							
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業		○	Googleクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援		○					
⑦授業の計画（授業の内容）											
第1回	ガイダンス・目標の設定										
第2回	小論文の基本的な考え方										
第3回	小論文の基本 実践① 公務員とは										
第4回	小論文の基本 実践①の振り返り										
第5回	保育に関する時事問題を調べる										
第6回	保育に関する時事問題を発表する										
第7回	小論文の基本 実践② 保育とは										
第8回	小論文の基本 実践②の振り返り										
第9回	保育時事問題・グループ討議の基本										
第10回	保育時事問題・グループ討議の実践										
第11回	保育時事問題・個人面接の基本										
第12回	保育時事問題・模擬面接										
第13回	保育時事問題・自己PRの基本										
第14回	保育時事問題・自己PRの実践										
第15回	総合問題（これまでの授業をふまえて、小論文としてまとめる）										
定期試験	なし										
⑧自主学習の課題	予習：約10分間の学習時間を要する。（新聞などを読み、時事問題について情報収集をする） 復習：約60分間の学習時間を要する。（授業での課題を復習、または解き直しをする）										
⑨テキスト	鈴木鋭智・著『改訂版 何を書けばいいかわからない人のための小論文のオキテ55』KADOKAWA 2020年										
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 ※汐見稔幸・監修『保育所保育指針ハンドブック 2017年告示版』学研教育みらい ※近喰晴子・監修／コンデックス情報研究所編著『保育士採用試験重要ポイント＋問題集'24年度版』										
⑪教材費	なし										
⑫履修条件／履修上の注意事項	公務員採用試験を受験する人は必ず受講すること。受験する可能性のある人もできれば受講すること。受講者の中で希望があれば、試験前に面接の個別練習を受けることができる。 ※受け身にならず、自分から進んで調べたり、質問することができる人を望む。 授業を欠席した場合には、Google classroomを確認するとともに翌週の授業時に授業資料を受け取る。自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の課題をGoogle classroomより配信する予定である。										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
②評価方法	①学習項目	小論文	面接練習スピーチ	グループディスカッション					③配点比率		
	1 定期試験	○						20	%		
2 小テスト								0	%		
3 提出物	○							20	%		
4 発表・実技・プレゼン			○	○				20	%		
5 受講態度			○	○				10	%		
6 自主学習態度	○							30	%		
7 その他								0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	小論文については添削して返却。面接練習スピーチ、グループディスカッションは授業時に随時コメントする。成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。										
IV その他											
参考図書の※は購入すると試験に役立つ。Google クラスルームを使用する。											

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 J (乳幼児のあそびと健康教育) Special Seminar and Research J					②科目コード	Y6-3B010			
③担当教員名	打越 みゆき									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	乳幼児のあそびと健康教育									
②授業の概要	本科で触れることのできなかった乳幼児のあそびと健康教育を中心にしながら、自然観察や伝統あそび・民俗舞踊の技能の習得、学外での学習も取り入れていく。また、子ども自身があそびの面白さや健康・安全を意識できるようなポイントをノートにまとめていく。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 乳幼児の様々な遊びを実践できるようになる。 2. 文献資料や DVD 資料などから、乳幼児のあそびと健康教育の重要ポイントをまとめることができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	○			③共感性	○		④コミュニケーション	⑤協働性	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業					ディスカッション・ディベート			
	グループワーク	プレゼンテーション					実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						Google クラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	ガイダンス・自然観察あそび(学内)		実践(授業の進め方、Google classroom の活用法、評価方法についても説明します)							
第2回	乳幼児のあそび 発表									
第3回	園外保育を想定した自然観察あそび		実践							
第4回	表現あそび(布を使った表現)									
第5回	運動会の表現(民俗舞踊)		映像による学習と体験							
第6回	伝承あそびの良さ		理論							
第7回	伝承あそびの習得・けん玉		練習							
第8回	伝承あそびの習得・けん玉		検定							
第9回	伝承あそびの習得・お手玉		練習							
第10回	伝承あそびの習得・お手玉		検定							
第11回	伝承あそびの習得・あやとり		検定							
第12回	伝承あそびの習得・コマ		練習							
第13回	伝承あそびの習得・コマ		検定							
第14回	季節のあそび(クリスマス・正月のあそび)									
第15回	発達に即した巧技台のあそび(学外)									
定期試験	実施しない(授業課題のみ)									
⑧自主学習の課題	予習: 約 10 分間の学習時間を要する。(興味を持ったことについて調べる) 復習: 約 30 分間の学習時間を要する。(ノートまとめ、課題練習)									
⑨テキスト	適宜プリントを使用									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項	たくさん体を動かすので、運動しやすい格好で出席すること(ミニスカート、ショートパンツ、肌の露出が大きい服は不可)。 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画および課題を Google classroom より配信する予定である。 巧技台は外部のイベントに参加予定(交通費は自己負担)。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	様々なあそびの実践	様々な遊びのまとめ						③配点比率	
1	定期試験								0	%
2	小テスト・中間テスト								0	%
3	提出物		○						40	%
4	発表・実技・プレゼン	○							50	%
5	受講態度	○							5	%
6	自主学習態度	○	○						5	%
7	その他									%
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	随時、Google classroom よりコメントする。 検定については、その場でコメントする。									
IV その他										
<ul style="list-style-type: none"> ・ノートは「保育内容の指導法・健康」の続きを使用してもよい。ルーズリーフ不可。 ・Google classroom を使用する。 ・(科目等履修生の状況も含め)受講者数、天候等によって内容の変更がある。 										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 K Special Seminar and Research K					②科目コード	Y6-3B011			
③担当教員名	大井 美緒									
④実務経験	幼稚園教諭 (15年)					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位 (時間数)	1単位 (30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	子ども主体の保育の理解と振り返りの方法									
②授業の概要	幼稚園教諭としての勤務経験を持つ教員が担当する。子ども理解や援助、造形表現や遊び等、子ども主体の保育を展開していくための知識や技術について、事例検討および実践を通して学ぶ。									
③履修者の到達目標 (学習成果)	1 [関心・意欲・態度] 子ども主体の保育に関心を持ち、保育のあり方について探求することができる。 2 [思考・判断・表現] 子ども主体の保育の展開の仕方について考察し、設定保育の中ではどのような配慮等が必要か自分の意見を述べるすることができる。 3 [技能] 保育指導案の作成や振り返りに必要な情報を選択し可視化することができる。 4 [知識・理解] 子ども主体の保育を展開することの重要性について理解し、説明することができる。									
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート		○			
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画 (授業の内容)										
第1回	授業の概要と進め方について									
第2回	保育者の意図的な環境について									
第3回	園外保育について①グループ討議									
第4回	園外保育について②立案									
第5回	園外保育について③役割と準備									
第6回	園外保育の実際									
第7回	園外保育の振り返り									
第8回	保育の振り返りについて①ドキュメンテーションとは									
第9回	保育の振り返りについて②ドキュメンテーション作成									
第10回	保育の振り返りについて③ドキュメンテーション発表									
第11回	幼児の遊び①夢中になることとは									
第12回	幼児の遊び②集団での遊び									
第13回	行事と遊びの関係									
第14回	遊びの環境と援助について									
第15回	子ども主体の保育とは									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：各授業回のテーマについて、保育雑誌等で実際に現場でどのようなことが行われているのか調べる。予習には約30分の時間を要する。 復習：各授業回において、提示された課題に取り組む。復習には約30分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に資料を随時提示する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	製作物や見学等に関する費用については、各自の負担とする。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・やむを得ず欠席した場合は、翌週の授業の前日までに担当教員の研究室まで授業資料等を取りに来て、予習・復習に取り組むこと。 ・グループワークでは、主体的に参加し自分の意見を述べることを。また、他者の意見を尊重し対話をしながら進めていくこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法		①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			③配点比率	
1	定期試験									%
2	小テスト									%
3	提出物	○	○	○	○	○			50	%
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	○			30	%
5	受講態度	○	○	○	○	○			10	%
6	自主学習態度	○	○	○	○	○			10	%
7	その他									%
④ルーブリック評価		取り入れている				比率合計		100		%
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。								
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 M Special Seminar and Research M				②科目コード	Y6-3B013				
③担当教員名	服部 純一									
④実務経験	特別支援学校・特別支援学級教諭(16年)、越谷市立教育相談室長(6年)、特別支援学級設置小学校教頭・校長(14年)				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格			発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	教育臨床(幼稚園・保育園・学校における特別な教育支援)									
②授業の概要	1980年代にノースカロライナ大学 TEACCH で学んだ「自閉症・発達障がい児教育診断検査日本版」を共同研究者と共に開発し、その後特別支援学校・学級の教員、教育相談室長、特別支援学級設置小学校の校長経験を活かし、具体的な発達支援と特別支援教育で必要とされる実践的な支援法を臨床研究として展開する。特に、特別支援教育や障がい児保育、療育について、教育相談として来学するケースに対し、個別の支援計画を立てながら、臨床的に発達支援を実施する方法をアクティブラーニング形式で学ぶ。また、特別な教育支援に必要とされる、個別の支援計画の立案や具体的な学習支援・発達支援のための教材・教具の作成、支援の方法と評価、支援計画の修正などを実践的に学び、特別支援教育や療育に携わる支援者としての基礎的な能力を養う。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 特別支援教育や発達支援などの療育活動に対する支援者としての基本的な知識が理解できる。 2. 教育相談として定期的に来学する数名の発達障がい児に対し、担当教員の指導の下で学習支援や療育活動ができるようになる。 3. 特別な支援計画を立てるポイントを把握し、数名の発達障がい児への臨床活動を通して適切な支援や評価が行えるようになる。 4. 特別な教育支援計画に沿った支援を展開するための、合理的な教材・教具の工夫ができるようになる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
	グループワーク	プレゼンテーション	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom 等による学習状況の把握と自主学習支援			〇			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	初回ガイダンス(特別演習を通して学ぶ内容と発達支援・特別教育支援の基本的な考え方の説明)									
第2回	臨床研究に関する打ち合わせ(来学するケースの紹介と臨床担当者の調整。バックアップする学生の役割の説明と教材づくりについて)									
第3回	ケース研究 A(発達障がいによる学習障がいの特性のある小学生)への学習支援セッション。									
第4回	ケース研究 B(極小未熟児後遺症による保育園児)への療育セッション。									
第5回	オンデマンドによる基礎学習:乳幼児期から学齢期の児童の発達のプロセスと発達支援をするべき内容									
第6回	ケース研究 C(ADHD と診断された小学生)への特別支援セッション。									
第7回	ケース研究 A:特別な教育支援ニーズの把握									
第8回	ケース研究 B:特別な教育支援ニーズの把握									
第9回	ケース研究 C:特別な教育支援ニーズの把握									
第10回	オンデマンドによる基礎学習:特別な教育支援ニーズへの課題把握と支援方法の検討。									
第11回	オンデマンドによる基礎学習:特別な教育支援計画の立案のポイント									
第12回	ケース研究 A:特別支援計画に基づいた支援実践									
第13回	ケース研究 B:特別支援計画に基づいた支援実践									
第14回	ケース研究 C:特別支援計画に基づいた支援実践									
第15回	3回のセッションを通じた評価:支援の効果とケースの変化の検証。									
定期試験	レポート課題:特別な教育支援のありかたについて									
⑧自主学習の課題	予習:各授業回において、文献や資料を配布する。ケースの発達特性を分析し、発達を支援するための方策や教材を考えて、何をどのように支援するかを考えて授業(臨床研究)に臨む。予習には約90分の学習時間を要する。 復習:各授業回において、復習事項を提示する。復習事項について、当日の資料や実践記録からノートにまとめておく。 復習には約90分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業の開始時に参考文献の一覧を配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	参考書や資料は随時紹介する。臨床研究には、教材や教具の工夫を指導するので、次回実践までにその準備をする。									
⑪教材費	なし。但し、自作の教材への材料費は自己負担。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	臨床研究はケース1名につき1~2名で担当する。当日の担当にならない学生は観察・記録・援助者となる。定員は8名まで。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	特別な教育支援の理解	個別の療育的支援	子どもへの支援と評価	教材・教具の工夫	③配点比率				
1	定期試験	〇	〇	〇	〇	20	%			
2	小テスト					0	%			
3	提出物	〇	〇	〇	〇	50	%			
4	発表・実技・プレゼン	〇	〇	〇	〇	20	%			
5	受講態度	〇	〇	〇	〇	10	%			
6	自主学習態度					0	%			
7	その他						%			
④ルーブリック評価	取り入れている				比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・提出物(個別の支援計画や教材・教具の工夫)については授業内で講評を行う。 ・定期試験および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 N Special Seminar and Research N				②科目コード	Y6-3B014				
③担当教員名	服部 純一									
④実務経験	特別支援学校・特別支援学級教諭(16年)、越谷市立教育相談室長(6年)、特別支援学級設置小学校教頭・校長(14年)				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格			発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	教育臨床(インクルーシブな保育・教育現場での特別な支援)									
②授業の概要	特別支援学校・学級の教員、教育相談室長、特別支援学級設置小学校の校長経験を活かし、具体的な発達支援と特別支援教育が必要とされる実践的な支援法を臨床研究として展開する。本授業では、特別支援教育や障がい児保育、療育について、教育相談として来学するケースに対し、個別の支援計画を立てながら、臨床的に発達支援を実施する方法をアクティブラーニング形式で学ぶ。特に、発達障がいを中心とする特性から必要とされる特別な教育ニーズを把握し、通常学級での生活・学習支援の計画を立てて、学校生活がよりスムーズにいくような支援を検討し、仮説に基づいた学習支援や発達支援を数名の幼児・児童への臨床研究を通して学ぶ。また、学校や保育園との連携、医療機関との連携をケースを通して具体的に試みる。ケースへの個別支援だけでなく、保護者の気持ちの寄り添った支援や子どもを取り巻く支援資源を把握した総合的な支援計画を検討し、インクルーシブな保育・教育現場での特別な支援の実践のしかたについて、具体的に学べる体験的な授業にしていく。									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. インクルーシブな保育・教育環境をつくるための特別な支援の方法や知識が理解できる。 2. 発達障がいの児童や幼児に必要な保育・教育環境が理解でき、子どもにとって必要な個別支援計画を作成し中間修正が考えられる。 3. 担当教員の指導の下での学習支援や療育活動の中で、適切な教材・教具の工夫ができる。 4. 療育活動を通して、子どもを取り巻く関係者への連携の取り方が工夫でき、インクルーシブな保育・教育が行えるようになる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	グループワーク	反転授業	ディスカッション・ディベート	実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	初回ガイダンス(後期の授業におけるケースへの臨床研究と連携先とのかかわり方についての基礎知識)									
第2回	ケース研究 A(発達障がいによる学習障がいの特性のある小学生)への学習支援セッションと小学校への中間レポートの検討。									
第3回	ケース研究 B(極小未熟児後遺症による保育園児)への発達支援セッションと保育園への中間レポートの検討。									
第4回	ケース研究 C(ADHDと診断された小学生)への特別支援セッションと小学校への中間レポートの検討。									
第5回	ケース研究 A: 学習支援セッションと小学校への中間レポートの提供。									
第6回	ケース研究 B: 発達支援セッションと保育園への中間レポートの提供。									
第7回	ケース研究 C: 特別支援セッションと小学校への中間レポートの提供。									
第8回	ケース研究 A: 学習支援セッションと学校生活に対する保護者支援の検討。									
第9回	ケース研究 B: 発達支援セッションと進路支援のための保護者支援の検討。									
第10回	ケース研究 C: 特別支援セッションと医療機関との連携の検討。									
第11回	各ケース毎の連携先との連携の状況の報告と経験の共有									
第12回	ケース研究 A: 学校との連携についての成果と課題の確認。									
第13回	ケース研究 B: 発達支援セッションと保育園との連携についての成果と課題の確認。									
第14回	ケース研究 C: 特別支援セッションと小学校と医療機関との連携についての成果と課題の確認。									
第15回	まとめ: インクルーシブな保育・教育に向けた教育・保育現場の特徴と連携を拡げる支援のあり方について									
定期試験	レポート課題									
⑧自主学習の課題	予習: 各授業回において、文献や資料を配布する。ケースの発達特性を分析し、発達を支援するための方策や教材を考え、インクルーシブな学校・幼稚園・保育園での支援環境を整えるため、何をどのように支援するかを考えて授業(臨床研究)に臨むこと。予習には約90分の学習時間を要する。 復習: 各授業回において、復習事項を提示する。復習事項について、当日の資料や実践記録からノートにまとめておくこと。復習には約90分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業の開始時に参考文献の一覧を配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	参考書や資料は随時紹介する。臨床研究には、教材や教具の工夫を指導するので、次回実践までにその準備をする。									
⑪教材費	なし。但し、自作の教材への材料費は自己負担。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	臨床研究はケース1名につき1~2名で担当する。定員は8名まで。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	インクルーシブ教育への理解	個別の支援計画の中間修正	教材・教具の工夫	連携への知識	③配点比率				
1	定期試験	○	○	○	○	20	%			
2	小テスト					0	%			
3	提出物	○	○	○	○	50	%			
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	20	%			
5	受講態度	○	○	○	○	10	%			
6	自主学習態度					0	%			
7	その他						%			
④ルーブリック評価	取り入れている				比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・提出物(個別の支援計画や教材・教具の工夫)については授業内で講評を行う。 ・定期試験および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 O Special Seminar and Research O					②科目コード	Y6-3B015			
③担当教員名	藤原 明子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格			発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	地域・自然の中での造形 発見と発展を伴う造形									
②授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 造形活動からそれを用いた遊びへの発展を体験する。 土や植物などの自然物を用いた造形活動を体験する。 科学的な変化や、身体の動きに気づく造形表現を体験する。 体験した造形活動を画像で記録し、その展開や自分の考えをスライド資料にまとめる。 									
③履修者の到達目標(学習成果)	①地域の中にある土や葉、実などの【自然物を活用】して、子どもと活動する力が身につく ②【科学的な遊び】のおもしろさを知り、自分なりに工夫して実践することができる ②体験と学びを ICT を活用して【まとめる】ことができる									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	○						
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク	○					
⑦授業の計画(授業の内容)	第1回 本科目の到達目標と活動概要 写真を用いた記録の残し方について 第2回 アサガオを植える・栽培計画を立てる 第3回 フィールドワーク「北区生物マップ(赤羽・浮間エリア)」を参考にお散歩計画 春の植物での制作・植物マップ 第4回 春の植物での制作(押し花)・植物マップ 第5回 地域にある素材を活かす～土プロジェクト①(自宅周辺の土探し、土粉絵の具作り) 第6回 土プロジェクト②土バステル制作 土絵の具で描く 第7回 土プロジェクト③土で描く(パステル・絵の具) 活動を振り返る・保育での活かし方(PPTでまとめる) 第8回 土絵具でいろんなものに描いてみる 第9回 ポートフォリオ表紙作り 第10回 スライムづくり(グループごとにどんなスライムがあるか調べておく) 第11回 にじみ絵による表現と応用(魚釣り・さお作り) 第12回 アサガオで染める・染めたもので作る(染紙) 第13回 アサガオで染める・染めたもので作る(布染め) 第14回 自分の活動をポートフォリオにまとめる 第15回 地域の子どもたちとの実践活動(受け入れ可能であれば実施)もしくは絵具工場見学(クサカベ 場所:朝霞市)									
定期試験	定期試験試験をしない(提出物及びポートフォリオで評価)									
⑧自主学習の課題	毎回の活動を自分で撮影する。授業後にその写真を持ちいてPPTにまとめる(活動の過程と学び) 約60分									
⑨テキスト	指定しない(授業時に資料を提示)									
⑩参考書/参考資料/準備物等	辻泰秀『幼児造形の研究 保育内容「造形表現」』萌文書林 2014 樋口一成『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』萌文書林 2018									
⑪教材費	1500円 (別途、工場見学(朝霞市)のための交通費がかかる場合がある)									
⑫履修条件/履修上の注意事項	汚れても良い服装で参加すること。はさみ、のり、その他必要な材料を持参する。第15回の活動は、保育施設の都合や時間割に合わせて実施できるか判断する。工場見学については、時間割の関係で実施が困難な場合は行わない。また、履修者が10人以下の場合、40人を超えた場合も、工場見学は実施できない。絵具の製造過程を見ることができる。希望者は有料で絵具制作ができる。団体見学は無料。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	自然物の活用	科学的な遊びの実践力	まとめ(ポートフォリオ)						③配点比率
1	定期試験									%
2	小テスト									%
3	提出物	○	○	○						80 %
4	発表・実技・プレゼン	○	○							5 %
5	受講態度	○	○							10 %
6	自主学習態度			○						5 %
7	その他									%
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計			100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	授業内で提出作品に対するフィードバックを口頭で行う。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 Q Special Seminar and Research Q					②科目コード	Y6-3B017			
③担当教員名	竹森 亜美									
④実務経験	臨床心理士（9年）・公認心理師（4年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児期・学齢期における療育プログラムの計画と実施									
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、発達障がい・知的障がい児への療育や心理臨床の実践経験を活かし、具体的な支援事例を想定した実践的な授業を展開する。模擬療育を実施しながら、障がいを持つ子どもに行う療育支援プログラムについてアクティブラーニング形式で学ぶ。特に、自立活動を踏まえた療育指導及び教材作成を行い、実践する技術を養う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 特別支援教育における自立活動の概念について知り、療育プログラムに反映することができる。 2. 療育プログラムの遂行を共有する計画書を作成し、これに従って模擬療育を実施することができる。 3. 他者が行っている療育を見て、専門的見地から評価・コメントし、それらを療育ノートにまとめることができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	○						
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク						
⑦授業の計画（授業の内容）	パソコン・タブレット端末による双方向授業 グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援									
⑧自主学習の課題	予習：模擬療育で担当する教材について事前に調べる。 復習：実施した模擬療育のまとめノートを作成すること。 ※予習・復習ともに各30分程度の時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に随時提示する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	実習費、教材費用：模擬療育で使用する教材費は、各自捻出すること。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	上の注意事項 履修条件：特になし 履修上の注意事項：特になし その他：模擬療育では、参加者全員の前で発表を行うため、そうしたことに過度な心理的負担が生じる場合には受講しないことがのぞましい。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	自立活動の理解	療育プログラム計画書の作成	模擬療育の実施	療育ノート	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験									%	
2 小テスト									%	
3 提出物	○	○		○				50	%	
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○					40	%	
5 受講態度	○	○	○					5	%	
6 自主学習態度	○	○	○	○				5	%	
7 その他									%	
④ルーブリック評価	発表（実技）における評価についてはルーブリック評価を活用する。				比率合計	100 %				
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 R Special Seminar and Research R					②科目コード	Y6-3B018			
③担当教員名	竹森 亜美									
④実務経験	臨床心理士（9年）・公認心理師（4年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保護者支援									
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、保護者との教育相談や巡回相談の実践経験を活かし、具体的な実践を想定した授業を展開する。保護者が抱える悩み・不安、期待について理解し、保護者理解の観点をアクティブラーニング形式で学ぶ。 また、対人援助を行う上で支援者がどのように保護者と関わるといふか、ペアワーク等の実践を通して体験的に理解し、保護者と良好な関係を構築するための基礎的な力を養う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者が抱えるさまざまな感情・悩みを知り、保護者に寄り添った対応をすることができる。 2. 保護者を理解するための観点を知り、どのような行動に着目すべきか表現することができる。 3. 保護者の様子を見立てる視点を知り、所見や記録に反映することができる。 4. 自己理解を深め、対人援助サービスを実施する上での自身の強みと課題を理解し、言葉で表現することができる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
		○			○				○	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート			
	グループワーク		プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク			
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	発達臨床領域における保護者支援									
第2回	保護者が抱えるさまざまな悩み：講義									
第3回	保護者が抱えるさまざまな悩み：発表									
第4回	ペアレント・トレーニング①：「行動」を捉える									
第5回	ペアレント・トレーニング②：よいところを褒める									
第6回	ストレスマネジメント①：基本的な考え方									
第7回	ストレスマネジメント②：ワークを用いた実践									
第8回	保護者相談①：相談の枠組みを作る									
第9回	保護者相談②：相手を労う									
第10回	保護者相談③：相手の話を傾聴する									
第11回	保護者相談④：相手に伝わりやすい工夫									
第12回	保護者相談⑤：わからない時にどうするか									
第13回	保護者相談⑥：困難事例への対処									
第14回	対人援助職に求められるセルフケア									
第15回	まとめ									
定期試験	授業内の実践・実技にて評価する									
⑧自主学習の課題	予習：授業時に配布する参考資料等に目を通しておくこと。 復習：保護者を支援するために必要な工夫について記録すること。 ※予習・復習それぞれに各30分の時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に随時提示する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	特に必要なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	履修条件：特になし 履修上の注意事項：特になし その他：保護者対応を習得するために、多くの回でペアワーク（模擬面接等）を行う。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法		①学習項目						③配点比率		
1	定期試験	保護者の理解	行動観察	観察記録	自己理解					%
2	小テスト									%
3	提出物			○	○			50		%
4	発表・実技・プレゼン		○	○				40		%
5	受講態度		○	○	○			5		%
6	自主学習態度	○	○	○				5		%
7	その他									%
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 U Special Seminar and Research U					②科目コード	Y6-3B021			
③担当教員名	野口 祐里									
④実務経験	保育士（10年）、幼稚園教諭、特別支援学校教諭、ナチュラル・アプローチによる手話教育の技法を習得					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	日本手話の表現を学び簡単な会話を楽しむ。手話やろう者についての知識・理解を深めていく。（基礎）									
②授業の概要	保育士、またろう学校の乳幼児教育相談の相談員として保育現場に従事、また手話指導に携わってきた教師が本講座を担当する。本講義では、日本手話・初級編の語学講義。パワーポイントや映像資料など視覚的教材も使用しながら、手話を通して、コミュニケーションを図る双方向的やりとりを進める。豊かな表現力を持ち合わせた手話を通して、コミュニケーション能力を磨き、基本的な自己紹介、日常会話を表現できる力を身につける。また、保育の実践場面を想定し、保育に纏わる手話表現や、取り組み、支援方法なども含めたらう者の社会的背景などを学ぶ。その他、関連分野のゲストスピーカーを招き、習得した知識の幅を広げる。（予定）									
③履修者の到達目標（学習成果）	【関心・意欲・態度】手話学習に対し、講義内の参加・態度・手話による発言（表出）など、積極的に取り組むことができる。 【思考・判断・表現】ろう者・難聴者を取り巻く環境を学び、様々なコミュニケーション方法や支援についての知識を身につける。ろう者に会った時の適切な対応方法や配慮について、実践することができる。 【技能】自己紹介や日常生活に関する表現を身につけ、手話での簡単な会話ができる。 【知識・理解】日本手話の構造、ろう文化と聴文化の違いを学び、簡単な説明ができる。									
④ディプロマブリシシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク						
⑦授業の計画（授業の内容）	パソコン・タブレット端末による双方向授業 グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援									
第1回	自己紹介とガイダンス（手話通訳あり）									
第2回	名前を手話で表現する									
第3回	家族に関する手話表現を学ぶ									
第4回	手話で自己紹介をする									
第5回	略歴を手話で表現する									
第6回	ゲストスピーカーによる講演①									
第7回	動物に関する手話表現を学び会話をする									
第8回	一日のタイムテーブルに関する表現を学び会話をする									
第9回	通学・通勤に関する表現を学び会話をする									
第10回	食べ物に関する表現を学び会話をする									
第11回	ゲストスピーカーによる講演②									
第12回	病気・怪我に関する手話表現を学び会話をする									
第13回	乳幼児の生活に因んだ手話表現を学び会話をする									
第14回	保育園などのタイムテーブルに関する手話表現を学び会話をする									
第15回	まとめと振り返り									
定期試験	実施する（実技試験・レポート）									
⑧自主学習の課題	予習：次回の内容に関連する事項を調べたり、テキストを用いて課題に取り組む。約30分間の時間を要する。 復習：講義内容に踏まえてグーグルクラスルームにて、復習用、自主学習用の動画を見て復習を行う。また、グーグルクラスルームからの課題に取り組むこと。約30分間の時間を要する。									
⑨テキスト	前川和美・下谷奈津子・平英司、「仕組みが身につく手話1」（DVD付き）、白水社、2022年									
⑩参考書／参考資料／準備物等	【参考書】松岡和美、「わくわく！納得！手話トーク」、くろしお出版、2021年 バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター、「聞こえなくても大丈夫！人工内耳の手話も」、ココ出版、2022年 【準備物】透明マスク（推奨：ルカミィ／栄商会、顔がみえマスク／ユニチャーム） 手話は手のみではなく表情、口形にとっても大切な役割があります。そのため、表情が見えるようこの講義の中では毎回透明マスクを持参し、使用してください。									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	・受講は15名以内に人数を制限する（希望者多数の場合は、GPA上位者が優先される）。 ・本科目のグーグルクラスルームに参加すること。 ・やむを得ず欠席した場合は、グーグルクラスルームで課題を確認し、復習・予習事項に自ら取り組むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率				
1	定期試験		○	○	○	20	%			
2	小テスト			○		10	%			
3	提出物	○	○		○	15	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○		○		40	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	15	%			
7	その他					0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・リアクションペーパーを用いて、講義内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点にコメントする。 ・定期試験に関しては、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 V Special Seminar and Research V					②科目コード	Y6-3B021			
③担当教員名	野口 祐里									
④実務経験	保育士（10年）、幼稚園教諭、特別支援学校教諭、ナチュラル・アプローチによる手話教育の技法を習得					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	日本手話の表現を学び簡単な会話を楽しむ。手話やろう者に関する知識・理解を深めていく。（応用）									
②授業の概要	保育士、またろう学校の乳幼児教育相談の相談員として保育現場に従事、また手話指導に携わってきた教師が本講座を担当する。本講義では、日本手話・初級編の語学講義。パワーポイントや映像資料など視覚的教材も使用しながら、手話を通して、コミュニケーションを図る双方向のやりとりを進める。豊かな表現力を持ち合わせた手話を通して、コミュニケーション能力を磨き、基本的な自己紹介、日常会話を表現できる力を身につける。また、保育の実践場面を想定し、保育に纏わる手話表現や、取り組み、支援方法なども含めたろう者の社会的背景などを学ぶ。その他、関連分野のゲストスピーカーを招き、習得した知識の幅を広げる。（予定）									
③履修者の到達目標（学習成果）	【関心・意欲・態度】手話学習に対し、講義内の参加・態度・手話による発言（表出）など、積極的に取り組むことができる。 【思考・判断・表現】ろう者・難聴者を取り巻く環境を学び、様々なコミュニケーション方法や支援に関する知識を身につける。ろう者に会った時の適切な対応方法や配慮について、実践することができる。 【技能】自己紹介や日常生活に関する表現を身につけ、手話での簡単な会話ができる。 【知識・理解】日本手話の構造、ろう文化と聴文化の違いを学び、簡単な説明ができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク						
⑦ 授業の計画（授業の内容）	パソコン・タブレット端末による双方向授業									
⑧ 授業の計画（授業の内容）	ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援									
⑧ 授業の計画（授業の内容）	○									
第1回	前期の復習・後期ガイダンス（手話通訳あり）									
第2回	夏休みの日の過ごし方などを手話で表現する									
第3回	電車や駅場所に関する手話表現を学ぶ									
第4回	手話で自己紹介をする（応用）									
第5回	ゲストスピーカーによる講演①									
第6回	手話の質問文の表現を学ぶ									
第7回	手話の質問文を用いた会話を練習する									
第8回	手話の疑問文の表現を学ぶ									
第9回	手話の疑問文を用いた会話を練習する									
第10回	ゲストスピーカーによる講演②									
第11回	イベントに関する手話を学ぶ									
第12回	手話イベントの計画をする・手話での出し物の練習をする									
第13回	手話のイベントの実施									
第14回	後期の復習									
第15回	まとめと振り返り									
定期試験	実施する（実技試験・レポート）									
⑧ 自主学習の課題	予習：次回の内容に関連する事項を調べたり、テキストを用いて課題に取り組む。約30分間の時間を要する。 復習：講義内容に踏まえてゲーグルクラスルームにて、復習用、自主学習用の動画を見て復習を行う。また、ゲーグルクラスルームからの課題に取り組むこと。約30分間の時間を要する。									
⑨テキスト	前川和美・下谷奈津子・平英司、「仕組みが身につく手話1」（DVD付き）、白水社、2022年									
⑩参考書／参考資料／準備物等	【参考書】 松岡和美、「わくわく！納得！手話トーク」、くろしお出版、2021年 バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター、「聞こえなくても大丈夫！人工内耳の手話も」、ココ出版、2022年 【準備物】 透明マスク（推奨：ルカミィ／栄商会、顔がみえマスク／ユニチャーム） 手話は手のみではなく表情、口形にとっても大切な役割があります。そのため、表情が見えるようこの講義の中では毎回透明マスクを持参し、使用してください									
⑪教材費										
⑫履修条件／履修上の注意事項	・受講は15名以内に人数を制限する（希望者多数の場合は、GPA上位者が優先される）。 ・特別演習Wを履修していること。 ・本科目のゲーグルクラスルームに参加すること。 ・やむを得ず欠席した場合は、ゲーグルクラスルームで課題を確認し、復習・予習事項に自ら取り組むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率				
1	定期試験		○	○	○	20	%			
2	小テスト			○		10	%			
3	提出物	○	○		○	15	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○		○		40	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	15	%			
7	その他					0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・リアクションペーパーを用いて、講義内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点にコメントする。 ・定期試験に関しては、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	子どもの食と栄養 I Food and Nutrition for Children I					②科目コード	Y3-3A001			
③担当教員名	高梨 美紀									
④実務経験	保育士（35年） 保育園園長（5年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育の対象の理解に関する科目 子どもの食と栄養（演習）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	栄養に関する基本的知識と乳児期の食生活									
②授業の概要	保育所勤務の実務経験をもつ教員が担当する。保育者を目指す者として適切な食生活を送る大切さを理解し、自分自身の食生活について考える。また、子どもの食生活の現状と課題を各種データ等と関連させて考察する。これらを踏まえて、乳児期の発育と発達の特徴に基づいた適切な栄養摂取法や食生活のあり方を理解し、乳児や保護者を支援するための実践力を養う。毎回の授業はパワーポイントを用いて行う。また、Google Classroom上に授業資料及び課題を提示することで学生の自主学習を支援する。遠隔授業を実施する必要がある場合は、Google Classroom上でオンデマンド型授業を行う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 栄養に関する基本的知識を正確に理解し、適切な食生活を送ることができる。 2. 子どもの食生活の現状と課題を多角的な視点で考察することができる。 3. 乳児期の発育・発達状況に適した、栄養摂取方法や食生活のあり方を理解し、説明することができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	プレゼンテーション	○
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	子どもの健康と食生活の意義① なぜ子どもの食と栄養を学ぶのか									
第2回	子どもの健康と食生活の意義② 子どもの心身の健康と食生活									
第3回	子どもの健康と食生活の意義③ 子どもの食生活をめぐる現状1									
第4回	子どもの健康と食生活の意義④ 子どもの食生活をめぐる現状2									
第5回	子どもの健康と食生活の意義⑤ 保護者に向けて 子どもの朝食作りを考えよう									
第6回	子どもの健康と食生活の意義⑥ 保護者に向けて 子どもの朝食を作ってみよう									
第7回	栄養に関する基本的知識 調理の基本									
第8回	栄養に関する基本的知識 日本人の食事摂取基準									
第9回	栄養に関する基本的知識 調理の基本									
第10回	子どもの発育・発達と食生活① 妊娠・授乳期の食生活									
第11回	子どもの発育・発達と食生活② 乳児期の栄養									
第12回	子どもの発育・発達と食生活③④ 離乳とは 離乳の進め方									
第13回	子どもの発育・発達と食生活⑤ 離乳食で困ったこと 調理実習の内容を考える									
第14回	子どもの発育・発達と食生活⑥ 離乳食の調理実習（調乳・初期・中期）									
第15回	乳児期の食生活⑦ 離乳食の調理実習（後期・完了期）									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：授業内容に該当する教科書の部分を事前に読むこと。単元が連続している場合は、既に学んだ内容との関連を考えること。予習には約30分間の学習時間を要する。 復習：テキスト、配布資料を中心に復習を行い、授業内容に関する課題に取り組むこと。「栄養に関する基本的知識」と「乳児期の食生活」の単元においては、単元終了後に小テストを実施する。復習には、約30分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	子どもの食と栄養 演習ブック [第2版] 松本峰雄監修 ミネルヴァ書房 2021年									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	・ 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 ・ 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 ・ 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 ・ その他、適宜授業で紹介する									
⑪教材費	教材費、材料費として1,500円									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・ 調理実習の際はエプロン、三角巾またはバンダナ、タオルを準備し、身だしなみを整える（不適切なアクセサリを外し、髪の毛を1つに束ね、爪を短く切りマニキュアは必ずとる）。繰り返し指導をしても身だしなみが整えられない場合、受講態度に問題ありとみなす場合がある。 ・ 課題を提出する際は、提出前に必ずコピー等の控えをとること。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		栄養に関する基本知識	子どもの健康と食生活の意義	胎児期（妊娠期）の食生活	乳児期の食生活	③配点比率				
②評価方法										
1	定期試験							0		%
2	小テスト						○	0		%
3	提出物	○	○	○	○			60		%
4	発表・実技・プレゼン		○					20		%
5	受講態度	○	○	○	○			10		%
6	自主学習態度	○	○	○	○			10		%
7	その他									%
④ルーブリック評価		取り入れていない				比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		採点した課題等を授業内で返却、講評する。								
IV その他										
状況により、授業内容や授業計画の進行方法を変更する場合がある。										

I 科目に関する項目										
①科目名	子どもの食と栄養Ⅱ Food and Nutrition for Children Ⅱ					②科目コード	Y3-3A002			
③担当教員名	高梨 美紀									
④実務経験	保育士（35年） 保育園園長（5年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育専攻 ★2年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目） 保育の対象の理解に関する科目 子どもの食と栄養（演習）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児期以降の食生活と食育の実践									
②授業の概要	<p>保育所勤務の実務経験をもつ教員が担当する。保育所における食事の提供に関するガイドラインやデータ等を踏まえ、幼児や保護者に対して食に関する支援をするための実践力を養う。</p> <p>また、保育現場を想定した食育の実践にグループワークを取り入れ、食を通じた保育や健康支援について考える。毎回の授業はパワーポイントを用いて行う。また、Google Classroom上に授業資料及び課題を提示することで学生の自主学習を支援する。</p> <p>遠隔授業を実施する必要がある場合は、Google Classroom上でオンデマンド型授業を行う。</p>									
③履修者の到達目標（学習成果）	<p>1. 幼児期の発育・発達状況に適した、栄養摂取方法や食生活のあり方を理解し、説明することができる。</p> <p>2. 特別な配慮を要する子どもに適した栄養摂取法を理解した上で、具体的な支援方法を説明することができる。</p> <p>3. 小児を対象とした食育計画の立案、実践、評価をし、一連の食育実践を行うことができる。</p>									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	子どもの発育・発達と食生活 幼児期の食生活① 身体発育と食生活の特徴 保育者の対応									
第2回	子どもの発育・発達と食生活 幼児期の食生活② 間食と弁当									
第3回	子どもの発育・発達と食生活 幼児期の食生活③ 幼児食のお弁当作り									
第4回	子どもの発達・発育と食生活 学齢期の食生活 / 生涯発達と食生活									
第5回	子どもの発達・発育と食生活 幼児食の調理実習 味噌汁から離乳食と幼児食をつくる									
第6回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良の子ども、障がいのある子どもの食事									
第7回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良の子どもの食事づくり									
第8回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギー児への対応と配慮									
第9回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギー児への対応の実際									
第10回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 / 緊急時・災害時への対応									
第11回	食育の基本と内容①保育における食育の意義・目的と基本的考え方									
第12回	食育の基本と内容② みんなで食育計画をたてよう									
第13回	食育の基本と内容③ 食育計画の準備									
第14回	食育の基本と内容④ 食育計画に基づく調理実習									
第15回	食育の基本と内容⑤ 食育計画のまとめ 発表 評価									
定期試験	筆記試験を実施しない									
⑧自主学習の課題	<p>予習：授業内容に該当する教科書の部分を事前に読むこと。単元が連続している場合は、既に学んだ内容との関連を考えること。予習には約30分間の学習時間を要する。</p> <p>復習：テキスト、配布資料を中心に復習を行い、授業内容に関する課題に取り組むこと。「幼児期の食生活」と「食物アレルギー」の単元においては、単元終了後に小テストを実施する。復習には、約30分間の学習時間を要する。</p>									
⑨テキスト	子どもの食と栄養 演習ブック [第2版] ミネルヴァ書房 2021年									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 ・厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 ・その他、適宜授業で紹介する 									
⑪教材費	教材費、材料費として2,000円									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の際は 割烹着（長袖）、三角巾またはバンダナ、タオルを準備し、身だしなみを整える（アクセサリを外し、髪の毛を1つに束ね、爪を短く切りマニキュアは必ずとる）。繰り返し指導をしても身だしなみが整えられない場合、受講態度に問題ありとみなす場合がある。 ・課題を提出する際は、提出前に必ずコピー等の控えをとること。 									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	幼児期の食生活	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食育の基本と内容	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	学童期の食生活生涯発達と食生活	③配点比率				
②評価方法										
1 定期試験									%	
2 小テスト									%	
3 提出物	○	○	○	○	○	60			%	
4 発表・実技・プレゼン			○			20			%	
5 受講態度	○	○	○	○	○	10			%	
6 自主学習態度	○	○	○	○	○	10			%	
7 その他						0			%	
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100			%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	採点した課題、小テスト等を授業内で返却、講評する。									
IV その他										
状況により、授業内容や授業計画の進行方法を変更する場合がある。										

I 科目に関する項目										
①科目名	社会的養護 I Theory of Social Care for Children I					②科目コード	Y2-3A001			
③担当教員名	平野 美香									
④実務経験	臨床心理士（17年）、公認心理師（4年）					⑤担当形態				
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻 ★幼児保育学科 ★2年		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2単位 (30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種 免許	特二種 免許	保育士 資格		必修	発達障がい児 保育 BP 修了				
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育の本質・目的の管理に関する科目 社会的養護 I（講義）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	子ども虐待と社会的養護の現状と基本理念、代替養育（施設養護 / 家庭的養護）について学ぶ									
②授業の概要	<p>臨床心理士（公認心理師）として、社会的養護分野で子ども・家庭支援を行ってきた教員が担当する。虐待を受けるなど、家庭で養育されることが適当ではない子どもを社会で養育する仕組みを社会的養護と言う。本講では、社会的養護の現状と課題、家庭に代わる代替養育の場である施設養護と家庭養護（里親・養子縁組）等について学ぶ。また、事例検討で子ども虐待の実態と対応について学びを深め、支援方法を考えられるようになることを目的とする。子どもの支援者としての自覚を持ち、常日頃から、子ども家庭福祉に関する時事問題に関心を寄せてほしい。</p> <p>授業はパワーポイントとレジュメを用いて行い、事例検討ではグループワークを実施する。また、Google classroom を活用し、授業資料や課題を提示することで、学生の自主学習を支援する。遠隔授業が必要な場合は、Google classroom を利用し、オンデマンド型の学習を行う。</p>									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 【社会的養護の現状と課題・原理の理解】社会的養護の現状と課題・原理を理解し、説明できる。 【虐待と対応】子ども虐待について知り、子どもや養育者に対する支援を考えることができる。 【施設養護・家庭養護の現状と課題】施設養護と家庭養護について、現状と課題を述べることができる。 【関心と意見】子ども家庭福祉に関する問題に関心を持ち、自分なりの考えを述べることができる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	○						
	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク						
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業			グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	子ども・家庭を取り巻く現状と社会的養護									
第2回	社会的養護の現状と基本理念、子どもの権利擁護									
第3回	子ども虐待と児童相談所の機能									
第4回	子ども虐待の現状—さまざまな事例を知る									
第5回	子ども虐待の対応—①事例検討の基礎知識と方法									
第6回	子ども虐待の対応—②事例検討									
第7回	施設養護—①乳児院・母子生活支援施設									
第8回	施設養護—②児童養護施設									
第9回	施設養護—③障がい児施設									
第10回	施設養護—④児童自立支援施設									
第11回	施設養護—⑤児童心理治療施設									
第12回	社会的養護の原理とケアワーカーの役割									
第13回	家庭的養護—①日本の社会的養護システムの課題と家庭的養護の推進									
第14回	家庭的養護—②里親、ファミリーホーム、養子縁組制度									
第15回	地域の中の福祉施設・子ども家庭支援センター（事例検討）									
定期試験	筆記試験（レジュメ持ち込み可）を実施する									
⑧自主学習の課題	<p>予習には、約90分の学習時間を要する。復習には、約90分の学習時間を要する。 予習：常に社会的養護や子育てにかかわるニュースを敏感に取り入れ、自分なりに考える。意見や疑問点を授業で質問できるとよい。 復習：配布レジュメと Classroom にアップしたパワポ資料を読み返す。実習やボランティアでの経験や時事ニュースと結び付けて考え、具体的なイメージを持つよう努める。</p>									
⑨テキスト	不要。講師が準備したパワーポイントとレジュメを用いる。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	授業時に随時紹介する 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> Google classroom に毎回の授業資料や課題をアップする。学生は本科目の classroom に必ず参加し（クラスコードは授業開始前に e-pa で送信し、初回授業時に紙媒体でも伝える）、Classroom を利用して、授業後の復習や授業を欠席した場合の学習を行うこと。 やむを得ず授業を欠席した場合は、翌週の授業時に授業資料を受け取るか、Classroom にアップされた資料を各自印刷すること。 数回提出を予定している事例検討レポートは必ず自分なりに考えて作成し、提出すること。 									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	社会的養護の現状と課題	虐待と対応	施設養護・家庭養護の現状と課題	関心と意見	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験	○	○	○	○			75	%		
2 小テスト							0	%		
3 提出物		○	○	○			15	%		
4 発表・実技・プレゼン							0	%		
5 受講態度	○	○	○	○			5	%		
6 自主学習態度	○	○	○	○			5	%		
7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出レポートは添削し、返却したうえで解説する。成績評価についての問い合わせには個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目									
①科目名	社会的養護Ⅱ Theory of Social Care for Children II					②科目コード	Y4-3B002		
③担当教員名	平野 美香								
④実務経験	臨床心理士（17年）、公認心理師（4年）					⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻 ★幼児保育学科 ★2年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程									
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	社会的養護における子どもの理解と実践的ケアを学ぶ								
②授業の概要	臨床心理士（公認心理師）として、社会的養護分野で子ども家庭支援を行ってきた教員が担当する。前期、社会的養護の授業を通して学んだ現状や制度の知識を基に、子ども理解のためのアセスメントの基礎知識、虐待の影響と対応、自立への支援等を学び、社会的養護を必要とする子どもたちへの実践的な理解と対応力を身に付けることを目的とする。また、子ども虐待や施設での子ども対応に関する事例検討を通して、子どもや家族の状態をアセスメントし、支援方法を自分なりに考える力を培う。 授業はパワーポイントとレジュメ、テキストを用いて行い、事例検討ではグループワークを実施する。 また、Google classroomを活用し、授業資料や課題を提示することで学生の自主学習を支援する。 遠隔授業が必要な場合は classroom を利用し、オンデマンド型の学習を行う。								
③履修者の到達目標（学習成果）	1【子どもの理解】子どもや家庭の状態を理解するための基礎知識を身につけ、ある程度アセスメントできる。 2【虐待の影響と対応の理解】虐待を受けた子どもの状態とそのケアについて、説明できる。 3【支援方法】子どもや家庭の状態の理解に基づいて、支援方法を複数述べるができる。 4【考え伝える】知識と情報をもとに自分なりに考え、相手に伝えることができる。								
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	○					
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○			
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）									
第1回	子ども虐待の死亡事例と保育所の対応								
第2回	虐待死亡事例検討								
第3回	子どもの理解－アセスメントの基礎知識 ①アセスメントとは ②愛着障害								
第4回	子どもの理解－アセスメントの基礎知識 ③トラウマ								
第5回	子どもの理解－アセスメントの基礎知識 ④その他のこころの障害								
第6回	子どもを迎えるとき ①児童票の読み方と見立て ー事例検討								
第7回	子どもを迎えるとき ②子どもを迎える準備とケア								
第8回	施設での集団生活を支える								
第9回	子ども同士のトラブルを話し合う ー事例検討								
第10回	虐待の影響と対応 ①身体的虐待・心理的虐待・ネグレクト								
第11回	虐待の影響と対応 ②性的虐待								
第12回	家族関係への支援 ①家族再統合に向けて								
第13回	家族関係への支援 ②生い立ちの整理								
第14回	自立に向けて一措置解除後の問題と支援の実践								
第15回	職員の働き方チームワークと代替養育者による虐待の防止								
定期試験	筆記試験（レジュメ・テキスト持ち込み可）を実施する								
⑧自主学習の課題	予習には、約90分の学習時間を要する。復習には、約30分の学習時間を要する。 予習：常に社会的養護や子育てにかかわるニュースに敏感になって取り入れ、自分なりに考える。疑問や意見を授業時に言えることよ。 復習：Classroom にアップしたパワポ資料と、書き込んだ配布レジュメを読み返す。 学んだことを、実習やボランティアでの経験や時事ニュースと結び付けて考え、具体的なイメージを持つよう努める。								
⑨テキスト	中山正雄編著『実践から学ぶ社会的養護の内容』保育出版社（教育情報出版）第1版（2019.2）								
⑩参考書／参考資料／準備物等	授業時に随時紹介する 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件／履修上の注意事項	・ Google classroom に毎回の授業資料や課題をアップする。学生は本科目の classroom に必ず参加し（クラスコードは初回授業で伝える）、Classroom を利用して、授業後の復習や授業を欠席した場合の学習を行うこと。 ・ やむを得ず授業を欠席した場合は、翌週の授業時に授業資料を受け取るか、Classroom にアップされた資料を各自印刷すること。 ・ 数回提出を予定している事例検討レポートは、必ず自分なりに考えて作成し提出すること。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
	①学習項目	子どもの理解	虐待の影響と対応の理解	支援方法	考え伝える	③配点比率			
②評価方法									
1	定期試験	○	○	○	○	75	%		
2	小テスト					0	%		
3	提出物	○	○	○	○	15	%		
4	発表・実技・プレゼン			○	○	2	%		
5	受講態度	○	○	○	○	5	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○	3	%		
7	その他					0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出レポートは添削し、返却したうえで解説する。 成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。								
IV その他									

I 科目に関する項目										
①科目名	子育て支援 Childcare Support (Exercises)					②科目コード	Y4-3B003			
③担当教員名	平田 美智子									
④実務経験	社会福祉士					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻 ★幼児保育学科 ★2年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の内容・方法の理解に関する科目 子育て支援(演習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育現場における子育て支援の在り方について学ぶ									
②授業の概要	子育て支援の現状と課題について学んだ上で、子育て支援の実際について多様な事例から支援の必要性と意義について理解を深めることを目的とする。また、講師の児童相談所や福祉事務所勤務における実務経験に基づき、相談支援の基本を踏まえながら、保育者の実践について演習方式で学ぶ。さらに、地域資源の活用と専門機関との連携を視野に入れた支援に関する知識を養う。									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援の意義や原則、援助・支援方法の具体的内容を述べるができる。 2. 保護者を支援するための基本姿勢を理解し、グループ・ディスカッションを通して仮想事例に基づいた支援計画を立案・検討することができる。 3. 地域資源や専門機関等について調べ、グループワークを通して子育て支援に必要な連携について考えることができる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート	○					
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	ガイダンス(授業のねらい・進め方・成績評価の説明)と子育て支援の意義を知る									
第2回	保育と子育てに関する概要を学ぶ									
第3回	子どもの権利と子育て支援を学ぶ									
第4回	保育の専門性と子育て支援を学ぶ									
第5回	子育て支援の展開過程									
第6回	(ディスカッションを含む演習方式) 子育て支援における計画・記録・評価									
第7回	(ディスカッションを含む演習方式) 保護者との信頼関係の構築									
第8回	(ディスカッションを含む演習方式) 保護者の理解とかかわり方									
第9回	(ディスカッションを含む演習方式) 地域資源の活用と関係機関との連携・協力									
第10回	(ディスカッションを含む演習方式) 保育所の特性を生かした保護者への支援									
第11回	(ディスカッションを含む演習方式) 特別な支援を必要とする保護者への支援 児童虐待									
第12回	(ディスカッションを含む演習方式) 特別な支援を必要とする保護者への支援 ひとり親									
第13回	(ディスカッションを含む演習方式) 問題・課題のある保護者への支援 苦情									
第14回	(ディスカッションを含む演習方式) 児童発達支援センターにおける子育て支援									
第15回	子育て支援の課題についてのまとめ、振り返り授業内レポート									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習: 約30分間の学習時間を要する。 復習: 約30分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	小原敏郎・橋本好市・三浦主博編集『学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現在社会『演習・保育と子育て支援』2022 未来』									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項	毎回の授業では、他の教科や実習で学習した知識・経験を基に、積極的にディスカッションに参画し、発表を行って下さい。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	保護者支援の意義や原則等	支援の基本的理解と支援計画	支援方法の考案					③配点比率	
	1 定期試験								0	%
2 小テスト	○	○	○						50	%
3 提出物	○	○	○						20	%
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○						20	%
5 受講態度	○	○	○						10	%
6 自主学習態度									0	%
7 その他									0	%
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育実習 I (施設) Training of Childcare I					②科目コード	Y5-3C001			
③担当教員名	打越 みゆき 藤原 明子									
④実務経験	保育士 (藤原明子)					⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位 (時間数)	2 単位 (88)	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育実習 保育実習 I (実習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育所以外の児童福祉施設・社会福祉施設における実習									
②授業の概要	施設実習を通して、施設の役割・機能、子ども・利用者の理解と対応、施設の子どもの生活と環境、健康管理・安全対策の理解、保育士の職務や職業倫理について具体的に理解する。日々の実践について実習日誌に記録し、自己省察を行うとともに自己評価する。									
③履修者の到達目標 (学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習課題：実習課題に基づいて実習に臨み、施設理解を深めることができる。 2. 実習日誌：日々の実践を振り返り、実習日誌にエピソードおよび気づきを記録できる。 3. 施設理解・利用者支援：施設の子どもの生活について理解し、子ども・利用者への直接的・間接的援助を実践できる。 4. 実習の振り返り・自己評価：実習後に自らの学びを振り返り、自己課題を発見するとともに、これらを記述することができる。 									
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク							
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom 等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画 (授業の内容)										
第1回	【事前】実習施設におけるオリエンテーション									
第2回	1. 施設の役割と機能 (1) 施設の生活と一日の流れ									
第3回	1. (2) 施設の役割と機能									
第4回	2. 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録									
第5回	2. (2) 個々の状態に応じた援助やかかわり									
第6回	3. 養護内容・生活環境 (1) 計画に基づく活動や援助									
第7回	3. (2) 子どもの心身の状態に応じた対応									
第8回	3. (3) 子どもの活動と生活の環境									
第9回	3. (4) 健康管理、安全対策の理解									
第10回	4. 計画と記録 (1) 支援計画の理解と活用									
第11回	4. (2) 記録に基づく省察・自己評価									
第12回	5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 保育士の業務内容									
第13回	【事後】実習の振り返りおよび自己評価									
第14回	【事後】実習体験の分かち合い									
第15回	【事後】実習日誌の振り返り									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	翌日の実習の準備および実習日誌の記入									
⑨テキスト	守巧 (他著)『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友 (編著)『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・施設からの総合評価が D (不合格) 評価の場合は、その評価が妥当か総合的に検討した上で不合格となる。 ・総合考察を含めた最終日誌提出は、実習終了後3日以内に実習施設に提出する。 ・施設から日誌が戻り次第、教務学生支援課に提出する。 									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	実習課題	実習日誌	施設理解 利用者支援	実習の振り返り 自己評価	③配点比率				
	1 定期試験					0	%			
2 小テスト						0	%			
3 提出物	○	○	○	○	○	20	%			
4 発表・実技・プレゼン						0	%			
5 受講態度	○	○	○	○	○	10	%			
6 自主学習態度	○	○	○	○	○	30	%			
7 実習施設からの評価	○	○	○	○	○	40	%			
④ルーブリック評価	取り入れている (実習日誌)					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	実習日誌の採点と実習施設からの評価をふまえて個別指導を行う。									
IV その他										

I 科目に関する項目											
①科目名	保育実習指導 I (施設) Practical Training of Childcare I						②科目コード	Y5-3C002			
③担当教員名	打越 みゆき 藤原 明子										
④実務経験	保育士 (藤原明子)						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位 (時間数)	1 単位 (30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育実習 保育実習指導 I (演習)										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	保育所以外の児童福祉施設・社会福祉施設の役割・機能、利用者の支援、職務および職業倫理を実習から修得するための事前事後指導										
②授業の概要	保育所以外の施設の役割・機能、子ども・利用者の生活、施設における保育士等の専門職の役割・職業倫理について理解を深める。 これらの学びをふまえて、実習課題を立案し、実習の目的を明確にするとともに、実習に対する心構えを身につける。事後指導により、施設保育士の役割や職務および実習課題の達成度を振り返り、自己課題を明確にする。 公認心理師(臨床発達心理士)および保育士資格を有する教員が担当し、事例や映像資料をふまえた施設および利用者理解と施設保育士の職責について解説する。 反転授業および自主学習課題として、Google classroom を活用し授業資料や課題を提示する。										
③履修者の到達目標 (学習成果)	1. 施設理解：保育所以外の児童福祉施設・社会福祉施設の役割・機能と利用者、保育士の職務と職業倫理の基本を理解できる。 2. 実習課題・日誌：これまでの実習経験や事前学習をふまえて、実習課題を立てるとともに、実習日誌の記録方法を習得する。 3. 心構えとマナー：実習に対する心構えやマナーについて理解し、実践に結びつけることができる。 4. 自己課題の発見：実習前後に自己課題について具体的に振り返ることができる。										
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性						
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート								
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク							
⑦授業の計画 (授業の内容)	パソコン・タブレット端末による双方向授業 ○ グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援 ○										
第1回	施設実習の目的と先輩との情報交換										
第2回	保育所以外の施設の概要										
第3回	施設実習の1日の流れ・実習生調書の作成										
第4回	施設実習のオリエンテーション準備										
第5回	施設理解と実習内容—実習施設についての調べ学習—										
第6回	施設理解と実習課題の準備										
第7回	施設職員の講話										
第8回	実習課題の設定										
第9回	実習施設の理解と対応 *グループワーク										
第10回	実習施設の子ども・利用者への関わり *グループディスカッション										
第11回	日誌分析—施設実習の日誌の書き方—										
第12回	事前指導 (グループ)										
第13回	実習直前指導—実習の心構えと倫理—										
第14回	事後指導 *グループディスカッション										
第15回	事後指導 (個別)										
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	予習：毎回の内容に該当するテキストの章を読む (30分程度の学習時間を要する)。 復習：毎回の課題に取り組む (30分程度の学習時間を要する)。										
⑨テキスト	守巧 (他著)『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友 (編著)『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版										
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている										
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・実習ハンドブックを持参すること。 ・履修上の注意事項：「保育実習 I (施設)」が不合格・失格の場合、本科目も失格となる。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には Google classroom および meet を活用しオンデマンドまたは双方向型授業を実施する。										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
②評価方法	①学習項目	施設理解	実習課題・日誌	心構えとマナー	自己課題の発見	③配点比率					
1	定期試験					0	%				
2	小テスト					0	%				
3	提出物	○	○	○	○	60	%				
4	発表・実技・プレゼン					0	%				
5	受講態度	○	○	○	○	40	%				
6	自主学習態度					0	%				
7	その他					0	%				
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物は随時返却する。										
IV その他											
学生要覧「保育士となる資格の取得」に関するページを熟読すること。											

I 科目に関する項目										
①科目名	保育実習Ⅱ（保育所）Training of Childcare Ⅱ					②科目コード	Y5-3C003			
③担当教員名	打越 みゆき 藤原 明子									
④実務経験	保育士（藤原明子）					⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2単位（88）	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	選択必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育実習 保育実習Ⅱ（実習）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育士として必要な資質・能力・技術の習得、指導計画の立案・実践・振り返り、保護者への対応方法・子育て支援の方法の習得									
②授業の概要	「保育実習Ⅰ（保育所）」における実習での課題を踏まえ、保育全般に参加し、保育士の職務の理解、子どもの個人差・発達の違いによる対応方法、保護者への対応の方法、子育て支援のニーズと地域の社会資源との連携について学ぶ。また、一日の保育あるいは保育の一部分を担当する指導計画を立案・実践し、振り返りを行い、今後の自己の学習課題とその具体的方法について明確にする。									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習課題：実習課題に基づいて実習に臨み、保育所理解を深めることができる。 2. 実習日誌：日々の実践を振り返り、実習日誌にエピソードおよび気づきを記録できる。 3. 施設理解・利用者支援：保育所の子ども・利用者の生活について理解し、子ども・利用者への直接的・間接的援助を実践できる。 4. 実習の振り返り・自己評価：実習後に自らの学びを振り返り、自己課題を発見するとともに、これらを記述することができる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート						
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	実習施設におけるオリエンテーション									
第2回	1. 保育所の役割や機能の具体的な展開（1）養護と教育が一体となって行われる保育									
第3回	1.（2）保育所の社会的役割と責任									
第4回	2. 観察に基づく保育理解（1）子どもの心身の状態や活動の観察									
第5回	2.（2）保育士等の動きや実践の観察									
第6回	2.（3）保育所の生活の流れや展開の把握									
第7回	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携（1）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解									
第8回	3.（2）入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援									
第9回	3.（3）地域社会との連携									
第10回	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価（1）保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解									
第11回	4.（2）作成した指導計画に基づく保育実践と評価									
第12回	5. 保育士の業務と職業倫理（1）多様な保育の展開と保育士の業務									
第13回	5.（2）多様な保育の展開と保育士の職業倫理									
第14回	【事後】実習の振り返りおよび自己評価									
第15回	【事後】実習日誌の振り返り									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	翌日の実習の準備および実習日誌の記入									
⑨テキスト	大豆生田啓友（編著）「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規出版									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所からの総合評価がD（不合格）評価の場合は、その評価が妥当か総合的に検討した上で不合格となる。 ・総合考察を含めた最終日誌は、実習終了後3日以内に実習保育所に提出する。 ・保育所から日誌が戻り次第、教務・学生支援課に提出する。 									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	実習課題	実習日誌	施設理解 利用者支援	実習の振り返り 自己評価	③配点比率				
1	定期試験					0	%			
2	小テスト					0	%			
3	提出物	○	○	○	○	20	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○	○	○	○	10	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	30	%			
7	実習施設からの評価	○	○	○	○	40	%			
④ルーブリック評価	取り入れている（実習日誌）					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	実習日誌の採点と実習施設からの評価をふまえて個別指導を行う。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所） Practical Training of Childcare II					②科目コード	Y5-3C004			
③担当教員名	打越 みゆき 藤原 明子									
④実務経験	保育士（藤原明子）					⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	選択必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育実習 保育実習指導Ⅱ（演習）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育所における子どもの最善の利益を考慮した保育を実習により修得するための事前事後指導									
②授業の概要	保育所保育士としての実践力を習得するための事前準備を行う。事前指導では、既習の科目や保育実習の経験と関連づけながら、保育所の役割や機能、保育の実践力、保育士の専門性と職業倫理などについて理解を深める、実習課題を立てる。また責任実習に向けた準備を行う。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。保育士・公認心理師（臨床発達心理士）を有する教員により、事例などを通して子ども理解および保育士の役割・職責などについて解説する。反転授業および自主学習課題として Google classroom を活用し資料や課題を提示する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所・保育士の理解：保育所の役割・機能と保育士の職務を理解できる。 2. 実習課題：既習の科目やこれまでの実習の学びと関連つけた実習課題を立て、実践を記録することができる。 3. 保育実践・計画：子どもの発達や実態をふまえて責任実習に向けた準備をすることができる。 4. 実習の総括：実習を自己評価し自己課題を明確にする。実習で得られた学びを整理し報告書にまとめることができる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	保育実習Ⅱの意義と目的									
第2回	実習Ⅰをふまえた自己課題の発見と実習課題の作成									
第3回	保育実習Ⅰ 日誌分析									
第4回	保育実習Ⅱの日誌の書き方									
第5回	子どもの発達の理解と保育技術									
第6回	責任実習・指導案の準備									
第7回	実習直前指導—実習の心構えと職業倫理—									
第8回	事前指導（個別）									
第9回	実習後の振り返りと自己評価									
第10回	保育士の職務と保育技術についてのグループディスカッション									
第11回	事後指導（個別）および事後指導をふまえた自己課題の発見									
第12回	保育所保育指針を踏まえた保育の在り方を省察する（外部講師・日本保育士研修センター）※グループワーク									
第13回	保育士として働くための心構え（外部講師・園長）									
第14回	保育士として働くための心構え（外部講師・新人保育士）									
第15回	保育実習のまとめとその共有 ※グループワーク									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：毎回の内容に該当するテキストの章を読む（約30分の学習時間を要する）。 復習：毎回の課題に取り組む（約30分の学習時間を要する）。									
⑨テキスト	大豆生田啓友（編著）「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規出版									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ハンドブックを持参すること。 ・「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習指導Ⅰ（施設）」の4科目すべて合格していること。「保育実習Ⅱ」が不合格・失格の場合、この科目も失格となる。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題を Google classroom より配信する予定である。 									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
	①学習項目	保育所・保育士の理解	実習課題	保育実践・計画	実習の総括			③配点比率		
1	定期試験							0	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物	○	○	○	○			60	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○	○	○	○			40	%	
6	自主学習態度							0	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れている					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物等は随時、返却する									
IV その他										
* 学生要覧の保育実習に関するページを熟読すること										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育実習Ⅲ（保育所以外の施設） Training of Childcare Ⅲ					②科目コード	Y5-3C005			
③担当教員名	打越 みゆき 藤原 明子									
④実務経験	保育士（藤原明子）					⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2単位（88）	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	選択必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育実習 保育実習Ⅲ（実習）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育所以外の児童厚生施設等における実習									
②授業の概要	児童厚生施設等において、その役割や機能、保育士の業務や職業倫理、子どもの保育及び保護者への支援について、実践的、かつ総合的に理解する。また、援助計画を立案し、実践するとともに、実習の振り返りを行い、今後の学習課題と課題実現の具体的方法を明確にする。									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習課題：実習課題に基づいて実習に臨み、施設理解を深めることができる。 2. 実習日誌：日々の実践を振り返り、実習日誌にエピソードおよび気づきを記録できる。 3. 施設理解・利用者支援：施設の子ども・利用者の生活について理解し、子ども・利用者への直接的・間接的援助を実践できる。 4. 実習の振り返り・自己評価：実習後に自らの学びを振り返り、自己課題を発見するとともに、これらを記述することができる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート						
	グループワーク	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク	○					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	【事前】実習施設におけるオリエンテーション									
第2回	1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能									
第3回	2. 施設における支援の実際									
第4回	2（1）受容し、共感する態度									
第5回	2（2）個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解									
第6回	2（3）個別支援計画の作成と実践									
第7回	2（4）子どもの家族への支援と対応									
第8回	2（5）多様な専門職との連携									
第9回	2（6）地域社会との連携									
第10回	3. 保育士の多様な業務と職業倫理									
第11回	4. 保育士としての自己課題の明確化									
第12回	【事後】学生による実習終了報告									
第13回	【事後】実習の振り返りおよび自己評価									
第14回	【事後】実習体験の分かち合い									
第15回	【事後】実習日誌の振り返り									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	翌日の実習の準備および実習日誌の記入									
⑨テキスト	守巧（他著）『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友（編著）『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・施設からの総合評価が D（不合格）評価の場合は、その評価が妥当か総合的に検討した上で不合格となる。 ・総合考察を含めた最終日誌提出は、実習終了後3日以内に実習施設に提出する。 ・施設から日誌が戻り次第、教務学生支援課に提出する。 									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	実習課題	実習日誌	施設理解 利用者支援	実習の振り返り 自己評価			③配点比率		
1	定期試験							0	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物	○	○	○	○			20	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○	○	○	○			10	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			30	%	
7	実習施設からの評価	○	○	○	○			40	%	
④ルーブリック評価	取り入れている（実習日誌）					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	実習日誌の採点と実習施設からの評価をふまえて個別指導を行う。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育実習指導Ⅲ（保育所以外の施設） Practical Training of Childcare Ⅲ					②科目コード	Y5-3C006			
③担当教員名	打越 みゆき 藤原 明子									
④実務経験	保育士（藤原明子）					⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格	選択必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	〔選択必修科目〕（告示別表第2による教科目）保育実習 保育実習指導Ⅲ（演習）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	児童厚生施設等の役割、保育・支援の実践、職員の職務・職業倫理を実習により修得するための事前事後指導									
②授業の概要	児童厚生施設等の児童福祉施設の役割、利用者への支援、職員の職務および職業倫理について理解を深める。事前指導では、既習の科目や保育実習の経験と関連づけながら児童福祉施設の役割や機能について理解を深め、実習課題を立てる。 また、児童厚生施設等における子ども、保護者への対応や保育実践の基本について修得する。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。保育士および公認心理師（臨床発達心理士）を有する教員により、子どもの保育および保護者支援、職業倫理等について事例やグループワークなどを用いて解説する。反転授業および自主課題として Google classroom を活用し資料や課題を提示する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 施設・保育士の理解：児童厚生施設の役割・機能と職員の職務・職業倫理を理解できる。健全育成につながる遊びについて考えたり、児童館が行う子育て支援の内容と重要性について理解したりできる。 実習課題：既習の科目や実習を関連づけた実習課題を立て、実践を記録することができる。 保育実践・計画：利用者の理解・対応を修得するとともに部分実習の準備をすることができる。 実習の総括：実習を自己評価し自己課題を明確にする。実習で得られた学びを整理し報告書にまとめることができる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	保育実習Ⅲの意義と目的									
第2回	保育実習Ⅰをふまえた自己課題の発見と実習課題の作成									
第3回	保育実習Ⅰ 日誌分析									
第4回	保育実習Ⅲの日誌の書き方									
第5回	児童厚生施設の役割・機能および職員の職務・職業倫理									
第6回	部分実習・指導案の準備									
第7回	実習直前指導—実習の心構えと職業倫理—									
第8回	事前指導（個別）									
第9回	実習後の振り返りと自己評価									
第10回	保育士の職務と保育技術についてのグループディスカッション									
第11回	事後指導（個別）および事後指導をふまえた自己課題の発見									
第12回	保育の在り方を省察する（外部講師・日本保育士研修センター）※グループワーク									
第13回	保育士として働くための心構え（外部講師・園長）									
第14回	保育士として働くための心構え（外部講師・新人保育士）									
第15回	児童福祉施設の機能と保育士の職務の理解 まとめとその共有 ※グループワーク									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：教科書の実習に関する部分を読んでおく（約30分の学習時間を要する）。 復習：毎回の課題に取り組む（約30分の学習時間を要する）。									
⑨テキスト	守巧（他著）『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友（編著）『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ハンドブックを持ってくる。 ・「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習指導Ⅰ（施設）」の4科目すべて合格していること。「保育実習Ⅱ」が不合格・失格の場合、この科目も失格となる。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題を Google classroom より配信する予定である。 									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	施設・保育士の理解	実習課題	保育実践・計画	実習の総括						③配点比率
②評価方法										
1 定期試験									0	%
2 小テスト									0	%
3 提出物	○	○	○	○					60	%
4 発表・実技・プレゼン									0	%
5 受講態度	○	○	○	○					40	%
6 自主学習態度									0	%
7 その他									0	%
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物等は随時、返却する。									
IV その他										
* 学生要覧の保育実習に関するページを熟読すること										

I 科目に関する項目										
①科目名	ベビーシッター論 Theory of Home Visit Child Care				②科目コード	Y4-3B001				
③担当教員名	平野 美香									
④実務経験	臨床心理士（17年）、公認心理師（4年）				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	家庭訪問保育について学び、居宅訪問型保育の家庭的保育者や、認定ベビーシッターとして働くための知識を身につける									
②授業の概要	臨床心理士（公認心理師）として、子ども家庭支援に関わってきた教員が担当する。家庭訪問保育は従来、細やかで柔軟性を持った保育サービスとして子育て家庭を支えてきたが、近年、国の子育て支援制度の中に居宅訪問型保育として正式に位置づけられ、その重要性を増している。 本講では、家庭訪問保育者の役割と責務、発達に即した保育内容、子育てアドバイス等、家庭における子ども・親への支援を学び、制度上の居宅訪問型保育の家庭的保育者や、認定ベビーシッターとして働く基礎知識を身に付けることを目指す。 授業はパワーポイントとレジュメ、テキストを用いて行う。また Google classroom を活用し、授業資料や課題を提示することで学生の自主学習を支援する。遠隔授業が必要な場合は classroom を利用し、オンデマンド型の学習を行う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1【家庭訪問保育の理解】国の子育て支援制度である居宅訪問型保育と一般型の家庭訪問保育について説明できる 2【安全と健康の理解】子どもの安全と健康を守る知識を持つ 3【家庭保育の実践】発達に即した家庭での保育や、親への支援を考えることができる 4【現場の対応と連携】現場の問題に対し、同僚や他職種・機関と連携して支援に臨む姿勢を持つことができる									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク							
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	家庭訪問保育の体系									
第2回	居宅訪問型保育の概要									
第3回	居宅訪問型保育の保育内容									
第4回	居宅訪問型保育における環境整備									
第5回	居宅訪問型保育の運営									
第6回	保育者の姿勢と子どもの「育ち」の理解									
第7回	新生児の発達とケア									
第8回	乳児の発達とケア									
第9回	幼児の発達とケア									
第10回	子どもの遊び・感覚									
第11回	子どもの健康管理と病気への対応									
第12回	安全の確保とリスクマネジメント、子どもの事故対応									
第13回	特別に配慮を要する子どもへの対応									
第14回	子育てアドバイスと保育現場での対応									
第15回	一般型家庭訪問保育、産後ケア									
定期試験	筆記試験（テキスト、レジュメ持ち込み可）を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：各授業回に次回授業の学習箇所について知らせるので、その範囲のテキストを読んでくること。約90分の学習時間を要する。 復習：各自で書き込んだ配布レジュメとテキスト、classroom にアップしたパワポ資料を再読し、気が付いた点をレジュメに書き込むこと。約90分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	全国保育サービス協会監修『家庭訪問保育の理論と実際』中央法規（第3版・2022）									
⑩参考書／参考資料／準備物等	授業で紹介する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	Google classroom に毎回の授業資料や課題をアップする。学生は本科目の classroom に必ず参加し（クラスコードは授業開始前に e-pa で送信し、初回授業時に紙媒体でも提示する）、Classroom を利用して授業後の復習や授業を欠席した場合の学習を行うこと。 ・やむを得ず授業を欠席した場合は、翌週の授業時に授業資料を受け取るか、Classroom にアップされた資料を各自印刷すること。 ・数回提出を予定している事例検討レポートは、必ず自分なりに考えて作成し、提出すること。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		家庭訪問保育の理解	安全と健康の理解	家庭保育の実践	現場の対応と連携	③配点比率				
②評価方法										
1	定期試験	○	○	○	○	75	%			
2	小テスト					0	%			
3	提出物			○	○	15	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○	○	○	○	5	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	5	%			
7	その他						%			
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	小レポートは添削し、返却したうえで解説する。 成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。									
IV その他										
「認定ベビーシッター」資格取得に該当する科目である。										

I 科目に関する項目										
①科目名	発達障がい児指導法演習 Practice in Developmental Disorders Guidance					②科目コード	Y5-3C007			
③担当教員名	阿部 健一 竹森 亜美 坂本 真季									
④実務経験	臨床心理士 / 臨床発達心理士 / 公認心理師					⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位 (時間数)	2 単位 (60)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了		必修	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	インクルーシブ保育現場での発達障がい児支援に関する基礎実践									
②授業の概要	臨床心理士・臨床発達心理士・公認心理師として、発達障害児への療育指導、保育・教育現場への巡回相談、発達障害児をもつ家族への支援に関する実務経験を有する教員による授業である。本授業では、発達障がいの基本的な行動特徴について確認した上で、保育現場で発達障がい児に適切にかかわれるよう、①行動問題について見立てを行う事例検討、②子どもおよび保護者のニーズを踏まえた個別の保育・指導計画の立案、③行動問題が生じた際の支援方法について模擬保育場面を設定して練習するシミュレーション・トレーニングを実施する。受講者が自ら考えて実践するアクティブラーニングの形式で授業を展開する。									
③履修者の到達目標 (学習成果)	1. 発達障がい児の基本的な行動特徴を踏まえ、行動問題の原因を予測し、いくつかの支援方法を提案することができる。 2. 発達障がい児と保護者のニーズを踏まえ、個別の保育・指導計画を立案することができる。 3. インクルーシブ保育の環境づくりの知識を習得する。									
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom 等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画 (授業の内容)										
第 1 回	イントロダクション (インクルーシブ保育とは)			第 16 回	インクルーシブ保育実践・振り返り					
第 2 回	子どものアセスメントとインクルーシブ保育現場での実践			第 17 回	インクルーシブ保育教材 (宿題) に関する情報交換会					
第 3 回	発達障がいの特性を理解する			第 18 回	ロールプレイの意義と効果について					
第 4 回	保育現場における事例検討とは			第 19 回	シミュレーション・トレーニング事前説明					
第 5 回	事例検討①: (感覚障害をもつ子ども)			第 20 回	シミュレーション・トレーニング① ※事例検討と同様の題材にて実施					
第 6 回	事例検討②: (行動調節が困難な子ども)			第 21 回	シミュレーション・トレーニング②					
第 7 回	事例検討③: (衝動性の高い子ども)			第 22 回	シミュレーション・トレーニング③					
第 8 回	個別の保育・指導計画とは			第 23 回	シミュレーション・トレーニング・まとめ					
第 9 回	個別の保育・指導計画の作成方法			第 24 回	園内支援体制と現職者研修					
第 10 回	実践事例: 個別の保育・指導計画の実施と修正			第 25 回	保護者の心理と早期支援					
第 11 回	個別の保育・指導計画と園内支援体制づくり			第 26 回	発達に偏りのある子どもの保護者への支援 (虐待防止)					
第 12 回	行動問題を理解する枠組み (FBA の視点)			第 27 回	保育及び教育的ニーズとは何か					
第 13 回	発達の視点からの子ども理解			第 28 回	保育・教育現場における合理的配慮					
第 14 回	インクルーシブ保育教材の紹介 / 夏休み宿題の提示			第 29 回	個別の保育・教育支援計画と移行支援					
第 15 回	インクルーシブ実践・事前指導			第 30 回	インクルーシブ保育実践に関するまとめ					
定期試験	前期・後期それぞれ実施する。									
⑧自主学習の課題	予習: 事前に配られた事例理解シートを読み込むこと。 復習: 事例検討やシミュレーション・トレーニングで学んだ技術をノートに記入し、記載した事項や情報を復習すること。 ※予習・復習にそれぞれ約 30 分間の時間を要する。									
⑨テキスト	大石幸二監修 遠藤愛・太田研著「カンファレンスで深まる・作れる 配慮を要する子どものための個別の保育・指導計画」学苑社									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	インクルーシブ教材作成費用は自己負担									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	履修条件: 特になし 履修上の注意事項: 発達障害児保育ベーシックプログラムの必修科目であるが、本資格取得を希望しない者も履修可能である。 その他: シミュレーション・トレーニングには、原則、全て出席すること。詳細は、授業時に説明する。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	発達障がいの理解	行動問題の理解と対応	個別の保育・指導計画の作成	インクルーシブ保育の環境づくり	③配点比率				
	1 定期試験	○	○	○	○	70	%			
2 小テスト					0	%				
3 提出物					10	%				
4 発表・実技・プレゼン		○	○		20	%				
5 受講態度					0	%				
6 自主学習態度					0	%				
7 その他					0	%				
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題 (試験やレポート等) の成績評価に対する問い合わせに応ずる。									
IV その他										

星美学園短期大学 学生要覧・講義要項

発 行 者 星美学園短期大学
〒115-8524
東京都北区赤羽台 4-2-14
Tel. (03) 3906-0056
Fax. (03) 5993-1600
発行年月日 2024年4月1日
(250部)
印 刷 上毛印刷株式会社
Tel. (03) 3984-8576

2024
Seibi Gakuen College



学籍
番号

氏
名